

Atrust P2Tシンククライアント

基本及び詳細編

Atrust

Version 2.09

© 2012-2020 Atrust Computer Corp.

著作権および商標に関する声明

© 2012-2020 Atrust Computer Corp. All rights reserved.

This document contains proprietary information that is protected by copyright. No part of this document may be photocopied, reproduced, or translated to another language without the prior written consent of Atrust Computer Corp.

免責事項

Atrust Computer Corp. (“Atrust”) makes no representations or warranties with respect to the contents or use of this document, and specifically disclaims any express or implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Atrust is not liable for technical or editorial errors or omissions contained herein. The information in this document is subject to change without notice.

商標に関する声明

Atrust is a trademark of Atrust Computer Corp.

Microsoft, Windows, Windows Server, RemoteFX, and MultiPoint are trademarks or registered trademarks of the Microsoft group of companies.

Citrix, ICA, XenApp, XenDesktop, and VDI-in-a-Box are trademarks of Citrix Systems, Inc. and/or one or more of its subsidiaries, and may be registered in the United States Patent and Trademark Office and in other countries.

VMware, VMware View, and VMware Horizon View are trademarks or registered trademarks of the VMware, Inc.

PCoIP is a registered trademark of Teradici Corporation in the United States and/or other countries.

The Parallels and 2X are registered trademarks of Parallels International GmbH.

Cendio and ThinLinc are registered trademarks of Cendio AB.

Other product names mentioned herein are used for identification purposes only and may be trademarks and/or registered trademarks of their respective companies.

このユーザーズマニュアルについて

このマニュアルでは、P2Tシンクライアントの使用方法和メンテナンス方法について詳しく説明します。

マニュアルの構造と主題

章	件名
1	Atrust P2Tシンクライアントの基本的な使用方法を説明します。
2	クライアント設定を構成し、Atrust Client SetupコンソールでAtrust P2Tシンクライアントをカスタマイズする方法について説明します。
付録	Atrust P2Tシンクライアントの詳細設定、メンテナンス、およびアップグレードに関する補足説明を提供します。

注意、ヒント、警告

このマニュアルでは、次の形式の注記、ヒント、および警告を使用して、重要な情報、有用なアドバイスを提供し、怪我、デバイスの損傷、またはシステム上のデータの損失を防ぎます。



注意

- 注記は、特定の状況に関する重要な情報を提供します。



ヒント

- ヒントは、タスクをより効率的に実行するための便利なアドバイスを提供します。



警告

- 警告は、怪我、デバイスの損傷、またはシステム上のデータの損失を防ぐために従わなければならない重要な情報を提供します。

スタイル規約

このマニュアルでは、入力デバイス、ハードウェアパネル、またはアプリケーションインターフェイスの操作項目を参照しながら、次のスタイルを使用しています。

項目	スタイル	例
キーボードのキー	太字	Ctrl + F2, Alt + F9, Alt + Tab
アプリケーションウィンドウまたはエントリリスト	頭大文字	確認ダイアログウィンドウ、RDP接続リスト、ICA接続リスト、接続リストの表示
ウィンドウ、ツールバー、タスクバー、またはメニューのボタンまたはタブ	太字	OK、次、保存、アプリケーションタブ
ウィンドウ、画面、リスト、またはメニューのオプション	太字	追加、ドメイン、接続タイプ、高品質
一連のオプションを選択する	太字	アプリケーション > Citrix ICA、アプリケーション > リモートデスクトップ、アプリケーション > VMware View、ネットワーク > ワイヤレス、デバイス > プリンター、システム > タイムゾーン

目次

著作権および商標に関する声明	i
免責事項	i
商標に関する声明	i
このユーザーズマニュアルについて	ii
マニュアルの構造と主題	ii
注意、ヒント、警告	ii
スタイル規約	iii
1 入門	7
1.1 基本を学ぶ	9
2 クライアント設定の構成	33
2.1 Atrustクライアントのセットアップ	35
2.1.1 インターフェイスの概要	35
2.1.2 クライアント設定の概要	36
2.2 システム設定の構成	37
2.2.1 システムタブの概要	37
2.2.2 設定一覧	38
2.2.3 タイムゾーンとタイムサーバーの構成	39
2.2.4 Atrust Client Setupのアクセス権限とパスワードの構成	40
2.2.5 Atrust Linux OSのログインパスワードの設定	44
2.2.6 リモートアシスタンスのシャドウ設定の構成	45
2.2.7 管理コンピューターからのファームウェアの更新	47
2.2.8 アプライアンスモードの有効化または無効化	49
2.2.9 オートセットアップの有効化または無効化	53
2.2.10 クイック接続モードの構成	54
2.2.11 クイック接続の詳細設定	56
2.2.12 コマンドライン機能の有効化または無効化	61
2.2.13 イベントログの収集と関連画面のキャプチャ	62
2.2.14 エラー報告のためのファイルのアップロード	64
2.2.15 リモートコンピューターの証明書のインポート	65
2.2.16 自動登録の有効化または無効化	69
2.2.17 システムおよびネットワーク情報の表示	70
2.2.18 ライセンス情報の表示	71
2.3 ユーザーインターフェイス設定の構成	72
2.3.1 [ユーザーインターフェイス]タブの概要	72
2.3.2 設定一覧	73
2.3.3 表示設定の構成	74
2.3.4 デスクトップとシステムの言語設定のカスタマイズ	76
2.3.5 表示ショートカットを使用した表示設定の構成	79
2.3.6 画面アイコンのドラッグによる実際の表示配置の反映	81
2.3.7 クイックアクセスショートカットの非表示または表示	82
2.3.8 カスタム壁紙の使用	83
2.3.9 キーボード設定の調整	84
2.3.10 マウス設定の構成	86
2.3.11 スクリーンセーバー設定の構成	87
2.4 外部デバイス設定の構成	89
2.4.1 [デバイス]タブの概要	89
2.4.2 設定一覧	90
2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成	90
2.4.4 接続されたUSBストレージデバイスを手動でマウントおよびイジェクトする	91
2.4.5 接続されたオーディオデバイスの無効化または有効化	92
2.4.6 サウンドをミュートまたはミュート解除する	93

2.4.7	ローカルプリンターの追加	94
2.4.8	ネットワークプリンターの追加	97
2.5	ネットワーク設定の構成	98
2.5.1	[ネットワーク]タブの概要	98
2.5.2	設定一覧	99
2.5.3	有線ネットワーク設定の構成	100
2.5.4	Wake On LANの有効化または無効化	103
2.5.5	IEEE 802.1X認証の構成	104
2.5.6	VPN接続の確立と停止	105
2.5.7	仮想プライベートネットワーク設定の構成	109
2.5.8	ホスト名へのIPアドレスのマッピングの作成	110
2.5.9	フェールオーバークラスターリストの構成	112
2.5.10	シンクライアントのホスト名の変更	114
2.5.11	ワイヤレスインターフェイスの有効化または無効化	115
2.5.12	ローミングのトリガーしきい値の構成	116
2.5.13	ワイヤレス接続の確立と停止	117
2.5.14	ワイヤレス接続設定の構成	120
2.5.15	サービスへのWebベースのアクセスのプロキシ設定の構成	121
2.6	サービスアクセス設定の構成	123
2.6.1	[アプリケーション]タブの概要	123
2.6.2	設定一覧	124
2.6.3	基本的なRDP接続設定の構成	125
2.6.4	リモートデスクトップサービスへのアクセス	134
2.6.5	詳細なRDP接続設定の構成	140
2.6.6	基本的なICA接続設定の構成	156
2.6.7	Citrix Receiverバージョンの切り替え	169
2.6.8	Escを有効または無効にしてWebログオン画面で終了する	170
2.6.9	Citrix ICAセッションのキーボードレイアウトとタイプの設定	171
2.6.10	Citrixサービスへのアクセス	172
2.6.11	ICA接続の詳細設定	179
2.6.12	基本的なVMware View接続設定の構成	209
2.6.13	VMware ViewまたはHorizon Viewサービスへのアクセス	211
2.6.14	詳細ビュー接続設定の構成	213
2.6.15	SSH接続設定の構成	218
2.6.16	SSHおよびTelnetセッションの起動	220
2.6.17	ブラウザセッションの基本設定の構成	221
2.6.18	ブラウザセッションの起動	223
2.6.19	ブラウザセッションの詳細設定	224
2.6.20	基本的なRAS / RDP接続設定の構成	225
2.6.21	リモートデスクトップまたはアプリケーションへのアクセス	230
2.6.22	高度なRAS / RDP接続設定の構成	232
2.6.23	基本的なThinLinc接続設定の構成	244
2.6.24	リモートデスクトップおよびアプリケーションへのアクセス	246
2.6.25	ThinLinc接続の詳細設定	247

付録 251

A.1	P2Tシンクライアントのリセット	253
A.2	P2Tシンクライアントのファームウェアの更新	255
A.3	VMware接続でのSECUREMATRIX認証の使用	257

1

入門

この章では、P2Tシンククライアントの基本的な使用方法について説明します。

1.1 基本を学ぶ

トピック 1: クイック接続画面	10
トピック 2: タイムゾーンの構成	11
トピック 3: クイック接続画面に戻る	12
トピック 4: デスクトップまたはアプリケーションへのアクセス	13

1.1 基本を学ぶ

次のトピックでは、P2Tシンクライアントの基本的な使用方法について説明します。

トピック 1: クイック接続画面

トピック 2: タイムゾーンの構成

トピック 3: クイック接続画面に戻る (必要に応じて)

トピック 4: デスクトップまたはアプリケーションへのアクセス

- Microsoftリモートデスクトップサービス (RDPセッション)
- Citrix仮想サービス (ICAセッション)
- VMware ViewまたはHorizon Viewサービス (Viewセッション)
- Cendio ThinLincサービス (ThinLincセッション)



注意

- P2Tシンクライアントでは、3つのクライアントモードを使用できます。

No.	モード	説明文
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Webブラウザ / 2X / ThinLincセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいセッションを再開する • シンクライアントの再起動 • シンクライアントをオフにする
2	オートスタート	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Webブラウザ / 2X / ThinLincセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>使用可能なアクションは次のとおりです (Webブラウザには該当しません) :</p> <ul style="list-style-type: none"> • ローカルデスクトップに戻る • 新しいセッションを再開する • シンクライアントの再起動 • シンクライアントをオフにする
3	クイック接続	<p>デフォルト有効。 システムの起動後はAtrustクイック接続画面に入ります。</p>

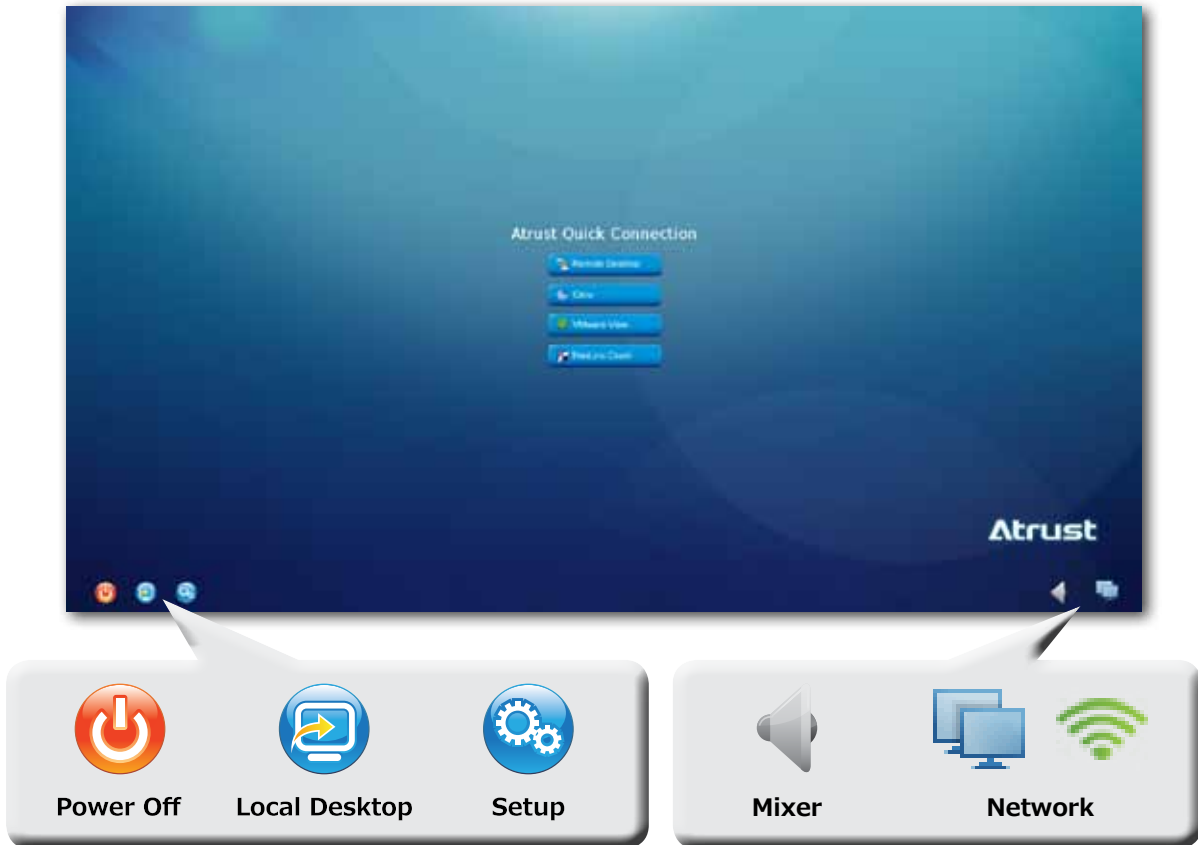
- クイック接続モードでは、クライアント構成をあまり必要とせずに、Microsoftリモートデスクトップ / Citrix / VMware ViewまたはHorizon View / ThinLincサービスにすばやくアクセスできます。この章の主な目的は、クイック接続モードでP2Tシンクライアントを使用する方法を説明することです。
- 他のモードを理解し、詳細設定を構成し、P2Tシンクライアントをカスタマイズするには、第2章 “クライアント設定の構成 (P.33)”を参照してください。

トピック 1: クイック接続画面

P2Tシンクライアントの使用を開始するには、次の手順を実行してください。

1. (a) **トピック2** に移動して、**初めて**使用するタイムゾーンを設定します。
(b) タイムゾーンが設定されている場合は、**トピック4**に進みます。

Atrustクイック接続画面



Power Off	アイコンをクリックして、システムを一時停止、シャットダウン、または再起動します。
Local Desktop	アイコンをクリックして、ローカルLinuxデスクトップに入ります。 ローカルLinuxデスクトップからこの画面に戻るには、 トピック3 を参照してください。
Setup	アイコンをクリックして、Atrust Client Setupを起動します。
Mixer	アイコンをクリックして、オーディオ設定を構成します。
Network	ネットワークタイプ（有線または無線）とステータスを示します。 アイコンをクリックして、ネットワーク設定を構成します。

トピック 2: タイムゾーンの構成

P2Tシンクライアントのタイムゾーンを設定するには、次の手順を実行してください。

1. **Setup**  アイコンをクリックして、Atrustクライアントのセットアップを起動します。

Atrustクライアントのセットアップ

ナビゲーションエリア
をクリックして選択
設定項目またはエン
トリ。



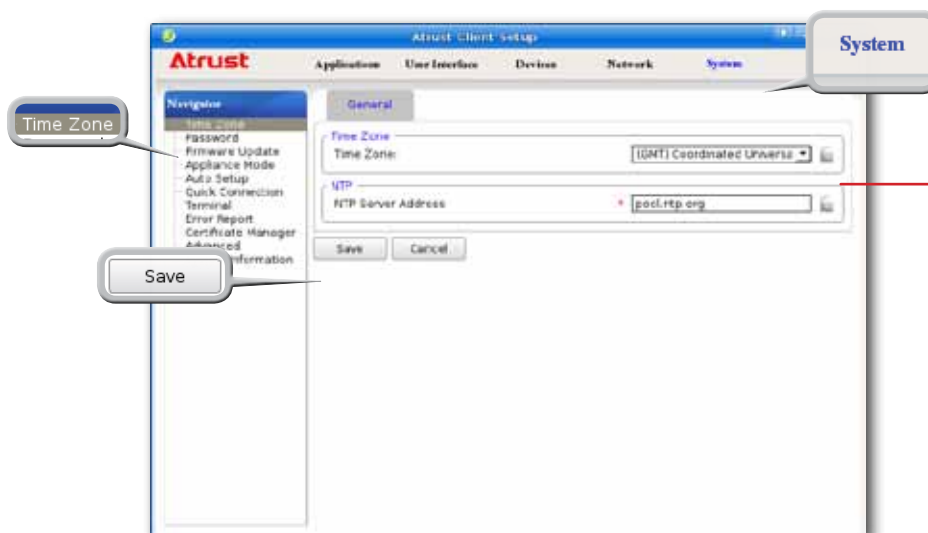
カテゴリータブ
をクリックして設定カテゴリー
を選択します。



注意

- Atrustクライアントのセットアップを使用してクライアント設定を構成し、P2Tシンクライアントをカスタマイズする方法の詳細については、第2章“クライアント設定の構成 (P.33)”を参照してください。

2. Atrustクライアントのセットアップで、**システム>タイムゾーン**をクリックします。



タイムゾーン
ドロップダウン
メニュー

3. [タイムゾーン]ドロップダウンメニューをクリックして、目的のタイムゾーンを選択します。
4. **[保存]**をクリックして適用し、Atrust Client Setupを閉じます。

トピック 3: クイック接続画面に戻る

ローカルLinuxデスクトップで**Atrustクイック接続画面**に戻るには、そのデスクトップで**Atrustクイック接続**をダブルクリックしてください。

ローカルLinuxデスクトップ



トピック 4: デスクトップまたはアプリケーションへのアクセス

Atrustクイック接続画面を介して、リモートデスクトップ、Citrix、VMware View、ThinLincクライアントの4種類の仮想化サービスにアクセスできます。


Atrustクイック接続画面



アイコン	説明文	ページ
リモートデスクトップ	クリックして、Microsoftリモートデスクトップサービスにアクセスします。	14
Citrix	クリックしてCitrixサービスにアクセスします。	15
VMware View	クリックして、VMware ViewまたはHorizon Viewサービスにアクセスします。	27
ThinLincクライアント	クリックしてCendio ThinLincサービスにアクセスします。	30

Microsoftリモートデスクトップサービスへのアクセス


Microsoftリモートデスクトップサービスにアクセスするには、次の操作を行います。

1. Atrustクイック接続画面で  をクリックします（トピック4の画面を参照）。
2. 表示されたウィンドウで、サーバーのコンピューター名またはIPアドレス、ユーザー名、パスワード、およびドメイン（ある場合）を入力し、**[接続]**をクリックします。



注意

- ネットワークを介して利用可能なWindows MultiPoint Serverシステムを検出するには、以下を行ってください：

1. Computerフィールドの左側にある  をクリックします。
2. 完了すると、検索結果を示すウィンドウが表示されます。




3. ドロップダウンメニューをクリックして目的のシステムを選択し、**[OK]**をクリックします。
4. 選択したシステムのIPアドレスが[コンピュータ]フィールドに表示されます。
5. **Atrustクイック接続画面**（トピック4の画面を参照）に戻るには、**Esc**キーを押します。

3. リモートデスクトップが画面に表示されます。

Citrixサービスへのアクセス

サーバーへの接続

Citrixサービスにアクセスできるサーバーに接続するには、次の操作を行います。

1. Atrustクイック接続画面で  をクリックします（トピック4の画面を参照）。
2. 表示される**Atrust Citrix接続画面**で、サーバーの適切なIPアドレス/ URL / FQDNを入力し、**[ログイン]**をクリックします。

Atrust Citrix接続画面



注意

- XenDesktopおよびXenAppの新しいバージョンでは、サーバーのサブパスをさらに指定する必要がある場合があります。詳細については、次の表を参照してください。

Citrix 製品	接続するコンポーネント	接続アドレス
XenApp 6.5以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN
XenDesktop 5.6以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN
仮想アプリとデスクトップ (XenAppおよび XenDesktop 7.5以降)	StoreFront	IP / URL / FQDN plus sub-path 例えば - FQDN : X75.CTX.poc サブパス : / Citrix / StoreWeb (デフォルト) 接続アドレス : X75.CTX.poc / Citrix / StoreWeb

- FQDNは絶対ドメイン名の略です。
- **Atrustクイック接続画面**（トピック4の画面を参照）に戻るには、**Esc**キーを押します。

Citrixサービスへのログイン

サーバーに接続すると、**Citrixログイン画面**が表示されます。表示される画面とCitrixサービスに必要な認証情報は、サービスの種類とバージョンによって異なる場合があります。



注意

- 「この接続は信頼できません」という警告メッセージが表示される場合があります。詳細についてはIT管理者に相談し、接続が**最初**に安全であることを確認してください。セキュリティ証明書をインポートするには、「2.2.15 リモートコンピューターの証明書のインポート (P.65)」を参照してください。バイパスするには、**[リスクを理解する]> [例外を追加]> [セキュリティ例外の確認]**をクリックします。

Citrixログイン画面の例を以下に示します。

XenDesktop 5.6 Platinum:

Citrixログイン画面

必要なユーザー名とパスワードを入力し、**[ログイン]**をクリックして仮想デスクトップにアクセスします。



注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。

XenApp 6.0の基礎 :

Citrixログオン画面

必要なユーザー名、パスワード、ドメインを入力し、**[ログオン]**をクリックして仮想アプリケーションにアクセスします。



注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。
- XenAppサーバーがどのドメインにも属していない場合は、サーバーのコンピューター名を「ドメイン」フィールドに入力します。

XenApp 6.5 Platinum:

Citrixログオン画面

必要なユーザー名、パスワード、ドメインを入力し、**[ログオン]**をクリックして仮想アプリケーションにアクセスします。



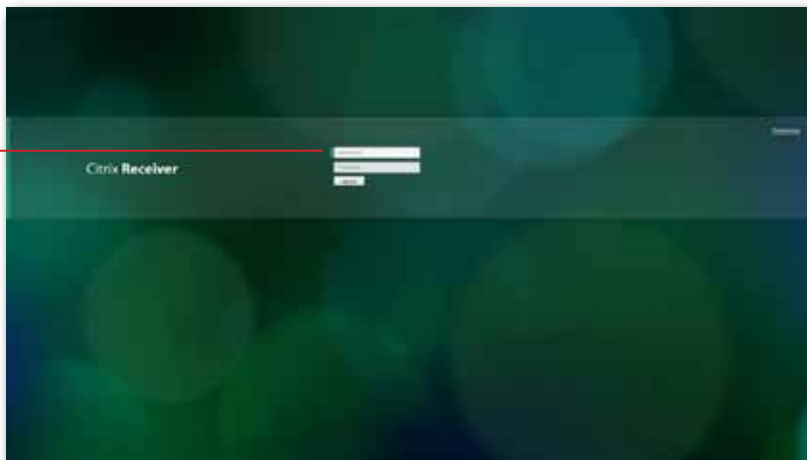
注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。
- XenAppサーバーがどのドメインにも属していない場合は、サーバーのコンピューター名を「ドメイン」フィールドに入力します。

VDI-in-a-Box:

Citrixログオン画面

必要なユーザー名とパスワードを入力し、**[ログオン]**をクリックして仮想デスクトップにアクセスします。



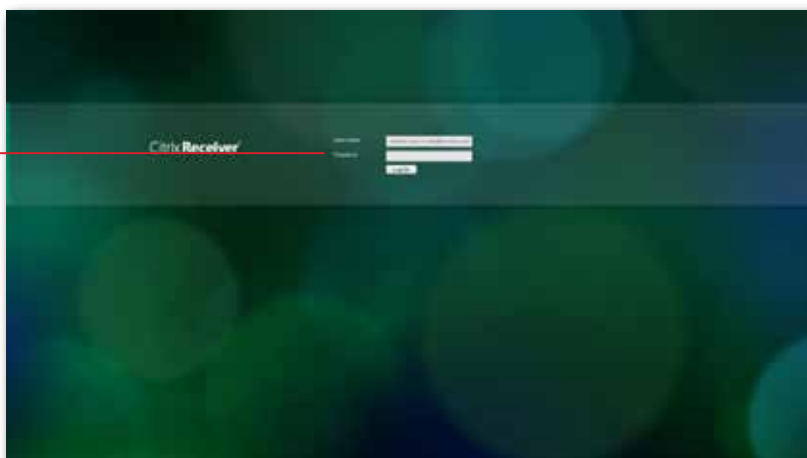
注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。

XenAppおよびXenDesktop 7.5 Platinum :

Citrixログオン画面

必要なユーザー名とパスワードを入力し、**[ログオン]**をクリックして仮想デスクトップにアクセスします。



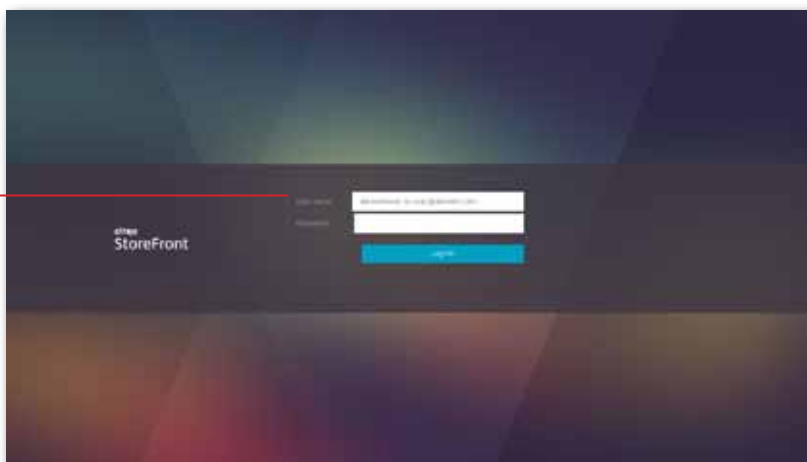
注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。

仮想アプリとデスクトップ7 1808.2 :

Citrixログオン画面

必要なユーザー名とパスワードを入力し、**[ログオン]**をクリックして仮想アプリケーションとデスクトップにアクセスします。



注意

- クイック接続画面に戻るには、**Esc**キーを押します。

仮想デスクトップとアプリケーションへのアクセス

ログオン後、**デスクトップの選択画面**または**アプリケーションの選択画面**に入ります。画面で、目的のデスクトップまたはアプリケーションをクリックして選択できます。



注意

- 提供された資格情報に割り当てられている仮想デスクトップのタイプが1つだけの場合は、仮想デスクトップを直接入力できます。



ヒント

- **Alt + Tab**を使用して、非表示または最小化されたアプリケーションまたはデスクトップを選択して復元します。

以下は、選択画面と提供されるデスクトップおよびアプリケーションの例です。

XenDesktop 5.6 Platinum:

1. ログオン後、**デスクトップの選択画面**が表示されます。

デスクトップ選択画面



2. 目的のデスクトップをクリックして選択します。
3. 選択した仮想デスクトップが画面に表示されます。

仮想デスクトップの例 : Windows 7 Ultimate



XenApp 6.5 Platinum:

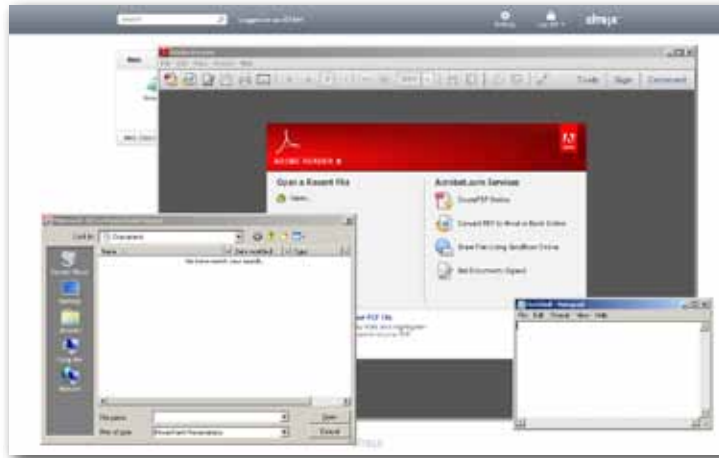
1. ログオン後、**アプリケーションの選択画面**が表示されます。

アプリケーション選択画面



2. 目的のアプリケーションをクリックして選択します。
3. 選択したアプリケーションが画面に表示されます。

仮想アプリケーションの例 PowerPoint Viewer, Adobe Reader, and Notepad



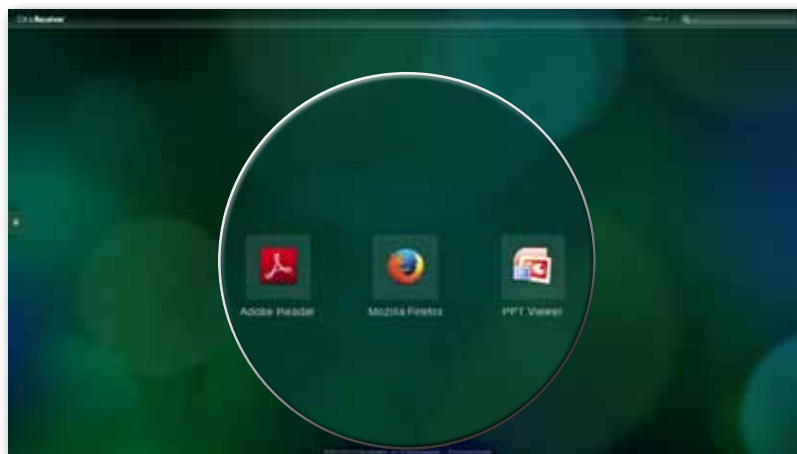
注意

- アプリケーション選択画面をクリックすると、画面が前面に表示され、起動されたすべてのアプリケーションウィンドウが非表示のままになります。 **Alt + Tab**を使用して、非表示または最小化されたアプリケーションウィンドウを選択して復元します。
- 仮想デスクトップまたはアプリケーションを終了すると、**デスクトップの選択**または**アプリケーションの選択画面**に戻ります。画面では、次のことができます。
 - クリックして別の仮想デスクトップを起動するか、他のアプリケーションを起動します。
 - 画面上部の[ログオフ]をクリックして、**Citrixログオン画面**に戻ります。
 - **Esc**を押して、**Atrustクイック接続画面**に直接戻ります。

XenAppおよびXenDesktop 7.5 Platinum :

1. ログオン後、**アプリケーションの選択/デスクトップの選択画面**が表示されます。

アプリケーション選択画面

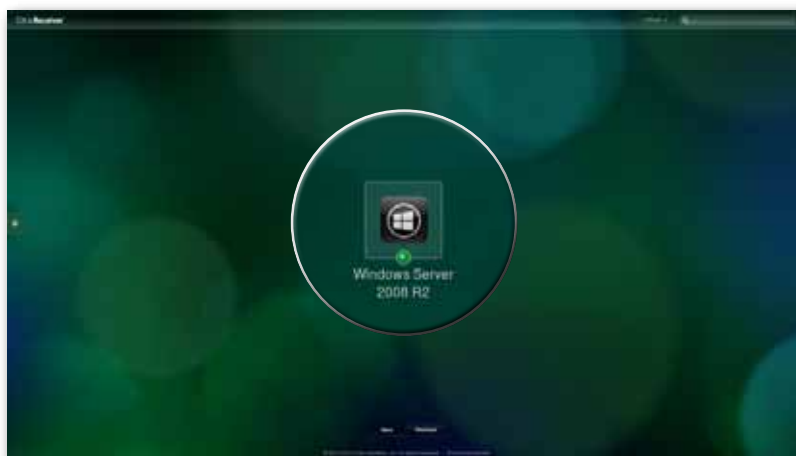


XenApp 7.5に初めてログインすると、この画面が表示される場合があります。クリックするだけで、リストからお気に入りのアプリを追加できます。



サーバー側の展開によっては、**アプリケーションとデスクトップの選択画面**を切り替えるために2つのボタンが使用できる場合があります。

デスクトップ選択画面



2. 目的のアプリケーションまたはデスクトップをクリックして選択します。
3. 選択したアプリケーションまたはデスクトップが画面に表示されます。

仮想デスクトップの例 : Windows Server 2008 R2



仮想アプリケーションの例

Adobe Reader, Mozilla Firefox, and PowerPoint Viewer



注意

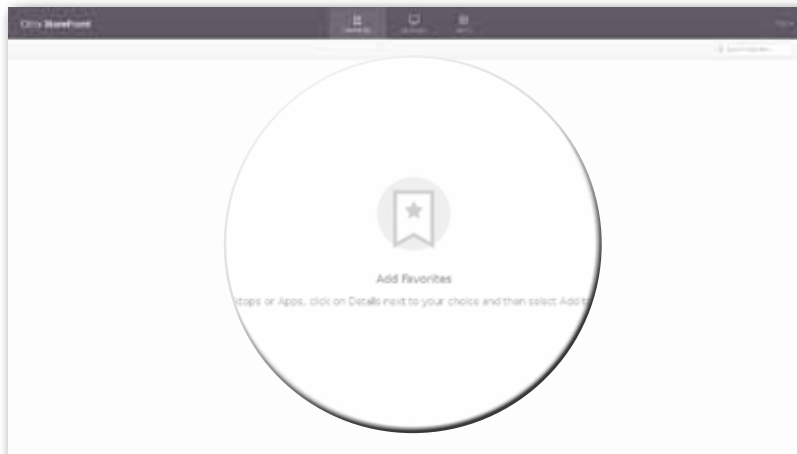
- アプリケーション選択画面をクリックすると、画面が前面に表示され、起動されたすべてのアプリケーションウィンドウが非表示のままになります。 **Alt + Tab**を使用して、非表示または最小化されたアプリケーションウィンドウを選択して復元します。
- 仮想デスクトップまたはアプリケーションを終了すると、**デスクトップの選択**または**アプリケーションの選択画面**に戻ります。画面では、次のことができます。
 - クリックして別の仮想デスクトップを起動するか、他のアプリケーションを起動します。
 - 画面上部の[ログオフ]をクリックして、**Citrixログオン画面**に戻ります。
 - **Esc**を押して、**Atrustクイック接続画面**に直接戻ります。

仮想アプリとデスクトップ7 1808.2 :

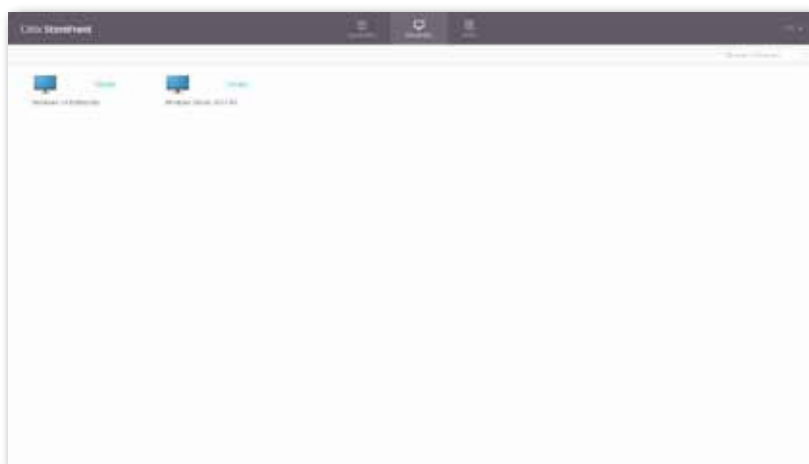
1. ログオン後、**お気に入り/アプリケーションの選択/デスクトップ**の選択画面が表示されます

お気に入り画面

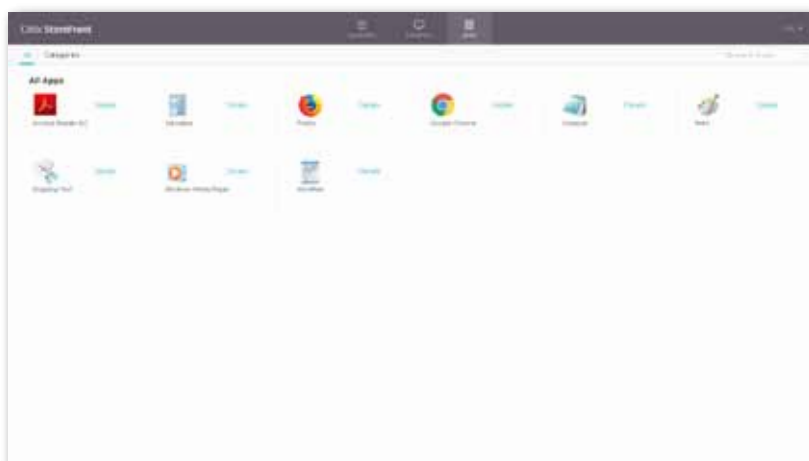
ログインすると、この画面が表示される場合があります。お気に入りを追加するには、画面の指示に従ってください。



デスクトップ選択画面

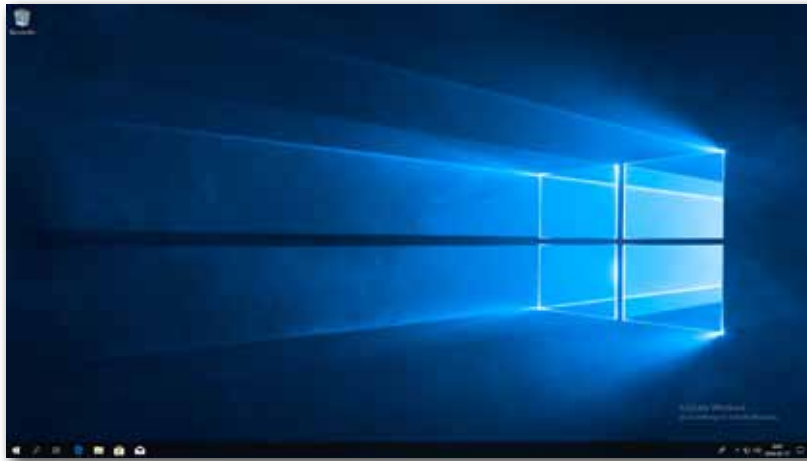


アプリケーション選択画面



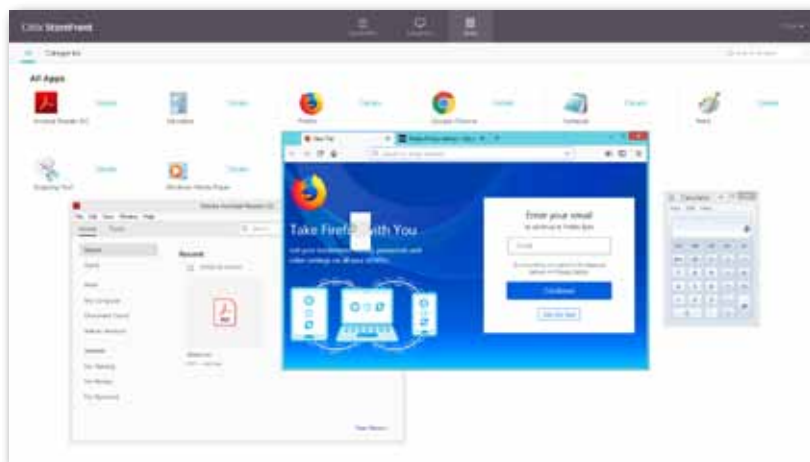
2. 目的のアプリケーションまたはデスクトップをクリックして選択します。
3. 選択したアプリケーションまたはデスクトップが画面に表示されます。

仮想デスクトップの例 : Windows 10 Enterprise



仮想アプリケーションの例

Adobe Reader DC、Mozilla Firefox、および電卓をリリース



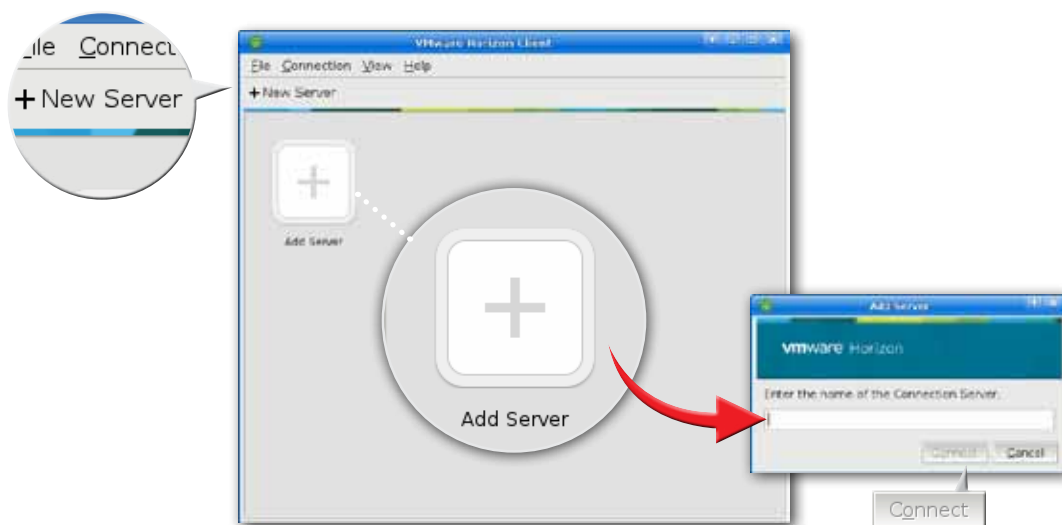
注意

- アプリケーション選択画面をクリックすると、画面が前面に表示され、起動されたすべてのアプリケーションウィンドウが非表示のままになります。 **Alt + Tab**を使用して、非表示または最小化されたアプリケーションウィンドウを選択して復元します。
- 仮想デスクトップまたはアプリケーションを終了すると、**お気に入り/デスクトップの選択/アプリケーション**の選択画面に戻ります。画面では、次のことができます。
 - クリックして別の仮想デスクトップを起動するか、他のアプリケーションを起動します。
 - 画面上部の[ログオフ]をクリックして、**Citrixログオン画面**に戻ります。
 - **Esc**キーを押して、**クイック接続画面**に直接戻ります。

VMware ViewまたはHorizon Viewサービスへのアクセス

VMware ViewまたはHorizon Viewサービスにアクセスするには、以下を実行してください。

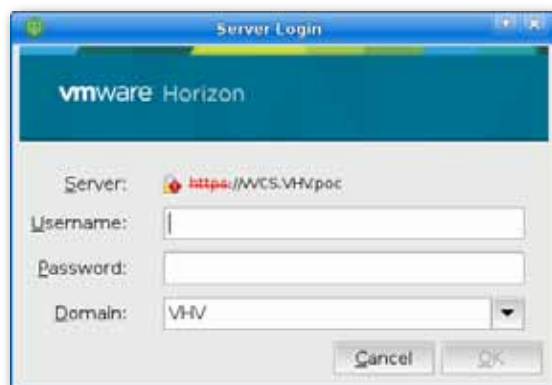
1. Atrustクイック接続画面で **VMware View** をクリックします（**トピック4**の画面を参照）。
2. 開いたウィンドウで、**[サーバーの追加]**アイコンをダブルクリックするか、左上隅の**[新しいサーバー]**をクリックします。VMware View接続サーバーの名前またはIPアドレスの入力を求めるウィンドウが表示されます。
3. 必要な情報を入力し、**[接続]**をクリックします。



注意

- Atrustクイック接続画面（**トピック4**の画面を参照）に戻るには、開いているウィンドウを閉じます。

4. ようこそ画面が表示される場合があります。**[OK]**をクリックして続行します。
5. 資格情報の入力を求めるウィンドウが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力し、**[ドメイン]**ドロップダウンメニューをクリックしてドメインを選択し、**[OK]**をクリックします。

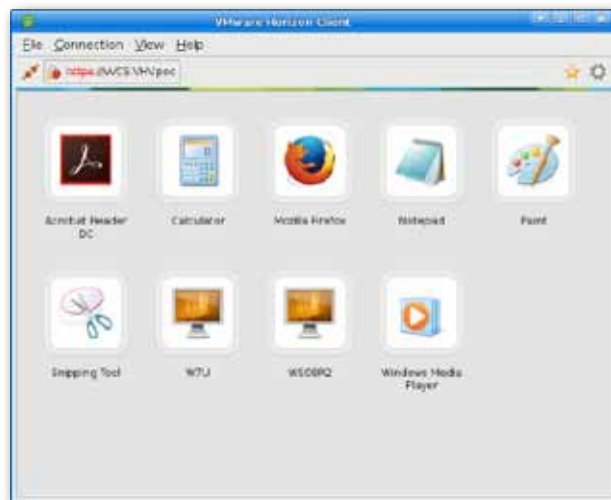




注意

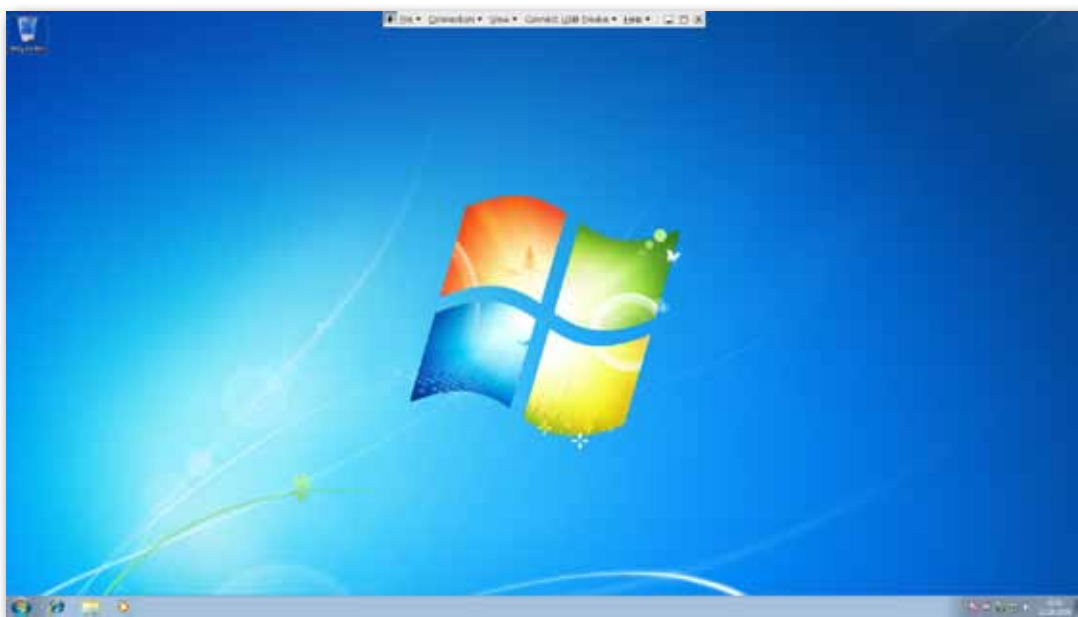
- リモートサーバーに関する証明書メッセージがウィンドウに表示される場合があります。詳細についてはIT管理者に相談し、接続が**最初に**安全であることを確認してください。セキュリティ証明書をインポートするには、“2.2.15 リモートコンピューターの証明書のインポート (P.65)”を参照してください。バイパスするには、**[安全でない接続]**をクリックします。

6. デスクトップとアプリケーションのリストが表示され、提供された資格情報で使用可能なデスクトップやアプリケーションが表示されます。ダブルクリックして、目的のデスクトップまたはアプリケーションを選択します。

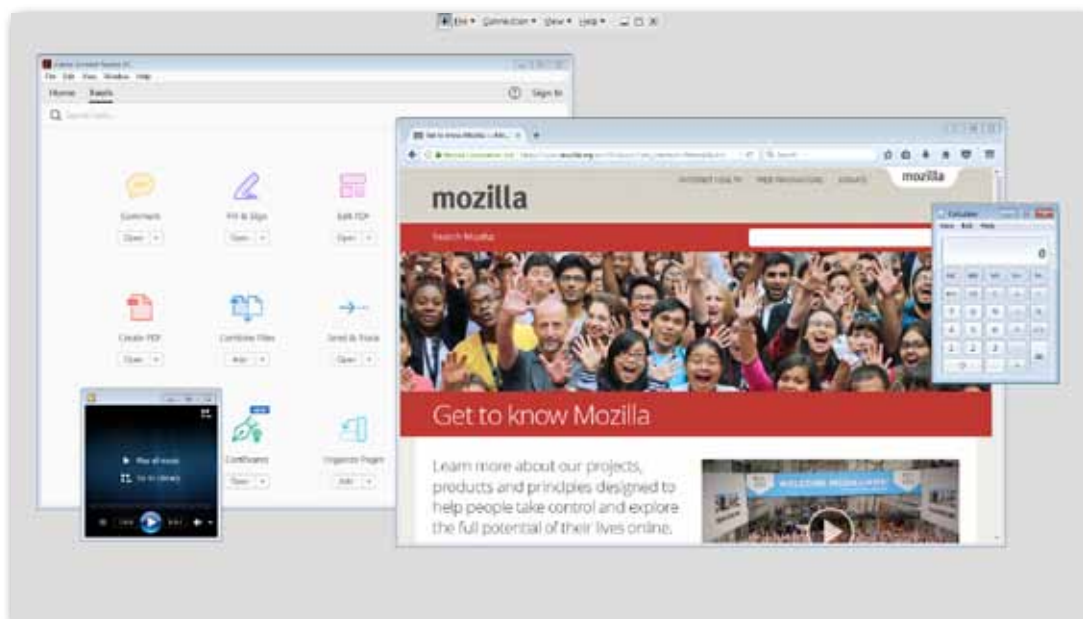


7. 仮想デスクトップまたはアプリケーションが画面に表示されます。

仮想デスクトップの例
Windows 7 Ultimate

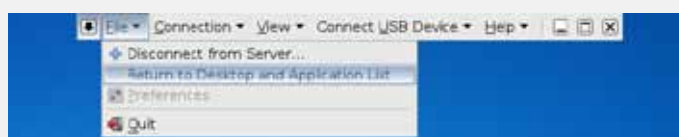


仮想アプリケーションの例 (VMware Horizon 6 with View) Adobe Reader、Windows Media Player、Mozilla Firefox、および Calculator

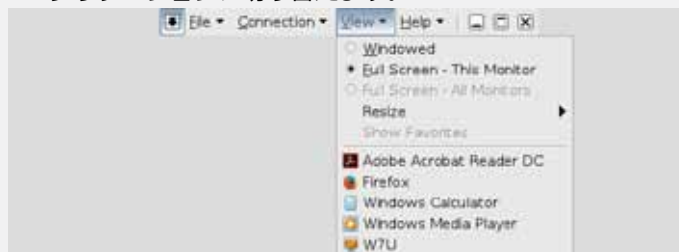


注意

- デスクトップまたはアプリケーションが全画面で表示されます。以下で変更できます：
 - 上部のツールバーで[ファイル]> [デスクトップとアプリケーションのリストに戻る]をクリックして、デスクトップとアプリケーションのリストを呼び出します。




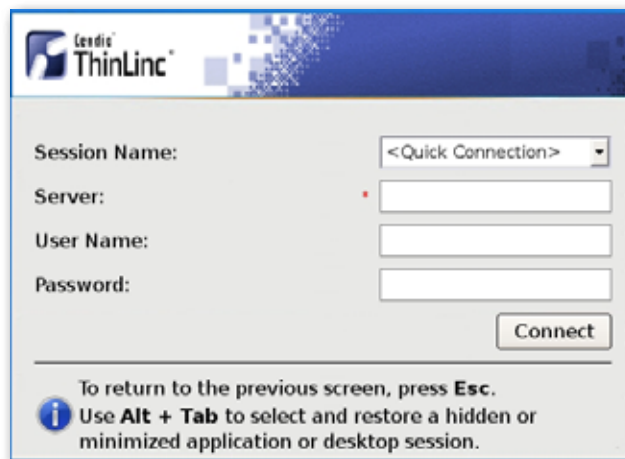
- 上部のツールバーの[表示]をクリックして、仮想デスクトップまたはアプリケーションに切り替えます。



Cendio ThinLincサービスへのアクセス

Cendio ThinLincサービスにアクセスするには、次の手順に従ってください。

1. Atrustクイック接続画面で  をクリックします（**トピック4**の画面を参照）。
2. 表示されるウィンドウで、サーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力し、**[接続]**をクリックします。



注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。

3. ThinLincセッションの認証情報を入力し、**[接続]**をクリックします。



4. ThinLincセッションが画面に表示されます。

リモートデスクトップの例 GNOMEデスクトップ環境



リモートアプリケーションの例 LibreOffice



2

クライアント設定の構成

この章では、Atrust Client Setupを使用して詳細設定を構成し、P2Tシンクライアントをカスタマイズする方法について説明します。


2.1 Atrustクライアントのセットアップ	
インターフェースの概要	35
設定一覧	36
2.2 システム設定の構成	
システムタブの概要	37
設定一覧	38
2.3 ユーザーインターフェイス設定の構成	
[ユーザーインターフェイス]タブの概要	72
設定一覧	73
2.4 外部デバイス設定の構成	
[デバイス]タブの概要	89
設定一覧	90
2.5 ネットワーク設定の構成	
[ネットワーク]タブの概要	98
設定一覧	99
2.6 サービスアクセス設定の構成	
[アプリケーション]タブの概要	123
設定一覧	124

2.1 Atrustクライアントのセットアップ

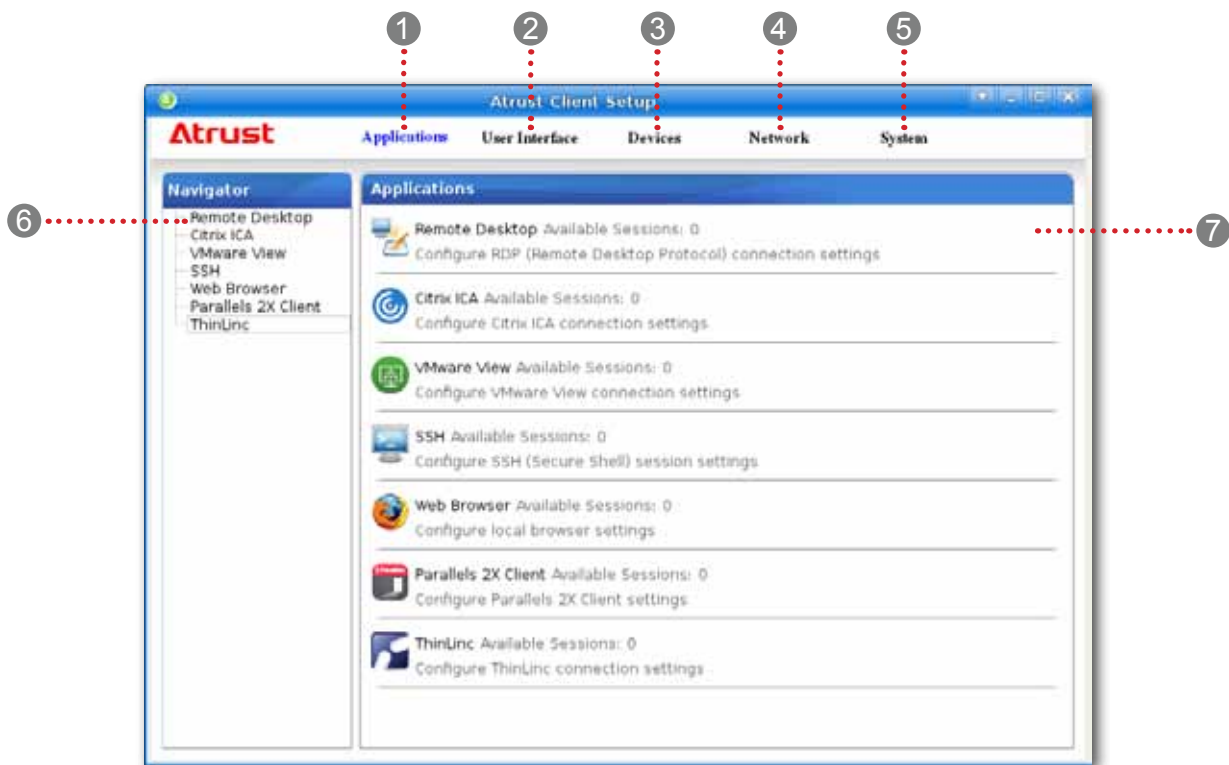
P2Tシンクライアントには、クライアント設定の構成とP2Tシンクライアントのカスタマイズに役立つ組み込みのローカルクライアント管理コンソールであるAtrust Client Setupが付属しています。

2.1.1 インターフェイスの概要

P2TシンクライアントでAtrust Client Setupにアクセスするには、以下を実行してください。

1. Atrustクイック接続画面で、**Setup**  アイコンをクリックしてAtrust Client Setupを起動します。
2. Atrust Client Setupウィンドウが表示されます。

インターフェイスの概要



インターフェイス要素

No.	名前	説明文
1	アプリケーションタブ	クリックして、クライアントを介したサービスアクセスの設定を構成します。
2	[ユーザーインターフェイス]タブ	クリックして、クライアントのユーザーインターフェイスの設定を構成します。
3	デバイスタブ	クリックして、クライアントの外部デバイスの設定を構成します。
4	ネットワークタブ	クリックして、クライアントをネットワークおよびサーバーに接続するための設定を構成します。
5	システムタブ	クリックして、クライアントの操作とメンテナンスの設定を構成します。
6	ナビゲーションエリア	クリックすると、選択したタブの下の設定項目を選択したり、選択した設定項目の下の設定エントリを選択したりできます。
7	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

2.1.2 クライアント設定の概要

次の表は、5つの主要な設定カテゴリの下の各設定項目の簡単な説明を示しています。

タブ	設定項目	セクション	ページ
システム	<ul style="list-style-type: none"> • タイムゾーンとタイムサーバーの構成 • パスワードの構成 • リモートアシスタンス設定の構成 • ファームウェアの更新 • アプライアンスモードの有効化/無効化 • 自動セットアップを有効にする • クイック接続の構成 • デキストベースの（コマンドライン）関数の実行の有効化/無効化 • イベントログの収集、関連画面のキャプチャ、エラーレポート用のファイルのアップロード • リモートコンピューターの証明書のインポート • 自動登録の有効化/無効化 • システムおよびネットワーク情報の表示 • ライセンス情報の表示 	2.2 システム設定の構成	37
ユーザーインターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> • 表示設定の構成 • デスクトップとシステム言語のカスタマイズ • クイックアクセスショートカットの非表示/表示 • カスタム壁紙を使用する • キーボード設定の調整 • マウス設定の調整 • スクリーンセーバー設定の構成 	2.3 ユーザーインターフェイス設定の構成	72
デバイス	<ul style="list-style-type: none"> • USBストレージデバイスの設定の構成 • オーディオデバイスの設定の構成 • ローカル/ネットワークプリンターの設定の構成 	2.4 外部デバイス設定の構成	89
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> • 有線ネットワークの設定 • VPN設定の構成 • ホストサーバーの名前へのIPアドレスのマッピングの作成 • フェールオーバークラスターリストの作成 • クライアントのホスト名を変更する • ワイヤレスネットワーク設定の構成 • サービスへのWebベースのアクセスのプロキシ設定の構成 	2.5 ネットワーク設定の構成	98
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft RDP接続設定の構成 • Citrix ICA接続設定の構成 • VMware View接続設定の構成 • SSH接続設定の構成 • ローカルWebブラウザ設定の構成 • Parallels 2X接続設定の構成 • Cendio ThinLinc接続設定の構成 	2.6 サービスアクセス設定の構成	123

2.2 システム設定の構成

2.2.1 システムタブの概要

[システム]タブでは、クライアントの操作とメンテナンスの設定を構成できます。[システム]タブの利用可能な設定にアクセスするには、Atrust Client Setupのタブをクリックします。

[システム]タブの概要



インターフェース要素

No.	名前	説明文
1	ナビゲーションエリア	[システム]タブの設定項目をクリックして選択します。
2	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

2.2.2 設定一覧

タブ	設定	アイコン	説明文	セクション	ページ
システム	タイムゾーン		クリックして、P2Tシンクライアントのタイムゾーンとタイムサーバーを構成します。	2.2.3	39
	パスワード		クリックして、P2Tシンクライアントユーザー用のAtrust Client Setupのアクセス権限を設定します。	2.2.4	40
			クリックして、ローカルデスクトップのログインパスワードを設定します。	2.2.5	44
			クリックして、リモートアシスタンスの設定を構成します。	2.2.6	45
	ファームウェア更新		クリックして、ネットワーク経由でファームウェアを更新します。この機能は、クライアントがリモートのAtrust Device Managerコンソールによって管理されている場合にのみクライアントに適用できます。	2.2.7	47
	アプライアンスモード		クリックしてアプライアンスモードを有効/無効にして、自動RDP / ICA / ビュー / Webブラウザ / 2Xセッションを許可/禁止します。アプライアンスモードでは、クライアントは目的のRDP / ICA / View / 2Xセッションで直接起動し、セッションを終了した後に構成されたアクションを実行します。	2.2.8	49
	オートセットアップ		クリックすると、自動セットアップが有効になり、クライアントが起動時にプリセット設定を取得して、目的のユーザー環境に自動的に入ることができます。	2.2.9	53
	クイック接続		クリックしてクイック接続モードを構成します。	2.2.10	54
				2.2.11	56
	ターミナル		クリックして、テキストベースの（コマンドライン）関数の実行を有効/無効にします。	2.2.12	61
	エラーレポート		クリックしてエラーログを収集し、エラーレポート用の画面キャプチャプログラムを起動します。	2.2.13	62
エラー報告のために、指定したFTPサーバーにファイルをアップロードするときにクリックします。				2.2.14	64
認証マネージャ		クリックして、リモートコンピューターの証明書をインポートまたは管理します。	2.2.15	65	
拡張設定		自動登録などの詳細設定を構成するときにクリックします。	2.2.16	69	
システム情報		クリックすると、システム、ネットワーク、およびライセンスの詳細情報が表示されます。	2.2.17	70	
			2.2.18	71	



注意

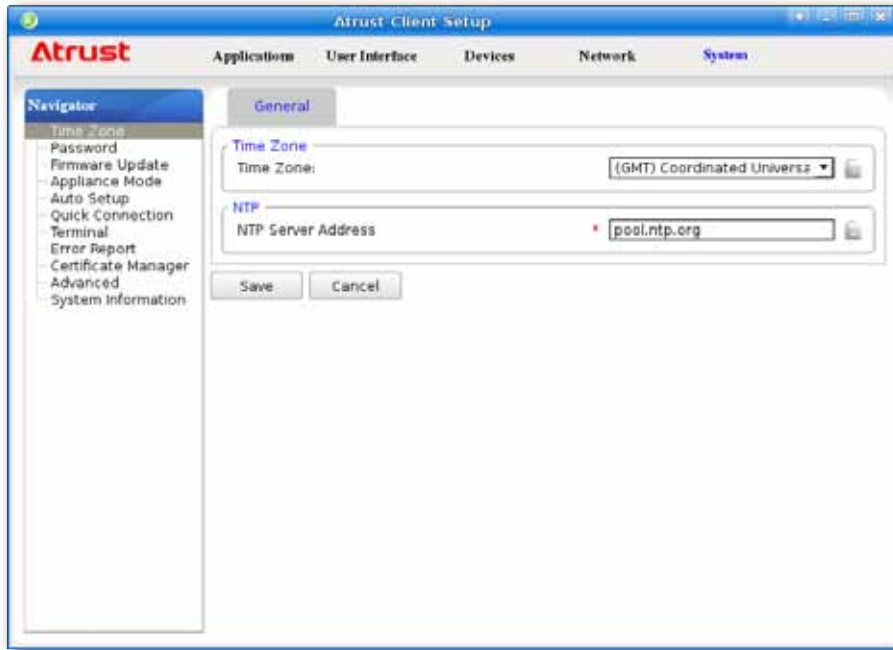
- Atrust Device Managerは、リモートの大規模クライアント管理コンソールであり、デスクトップ仮想化インフラストラクチャ内の多数のエンドポイントデバイスをリモートで管理するのに役立ちます。Atrust Device Managerの詳細については、Atrust Device Managerのユーザーズマニュアルを参照してください。

2.2.3 タイムゾーンとタイムサーバーの構成

タイムゾーンの設定では、目的のタイムゾーンとタイムサーバーを構成して、P2Tシンクライアントの正確なシステム時刻を取得できます。

目的のタイムゾーンとタイムサーバーを設定するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**システム>タイムゾーン**をクリックします。



2. [タイムゾーン]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして目的のタイムゾーンを選択します。
3. NTP (Network Time Protocol) セクションで、デフォルトを使用するか、目的のタイムサーバーを入力します。

注意

- デフォルトのタイムサーバーのIPアドレスは **pool.ntp.org**です。デフォルトの詳細については、NTPプールプロジェクトのWebサイト (www.pool.ntp.org) を参照してください。
- タイムサーバーから正確な時刻を取得するには、P2Tシンクライアントのネットワークまたはインターネットへの接続を確認してください。

4. [保存]をクリックして適用します。

2.2.4 Atrust Client Setupのアクセス権限とパスワードの構成

パスワード設定により、P2Tシンクライアントユーザー向けのAtrust Client Setupのアクセス権限を設定できます。



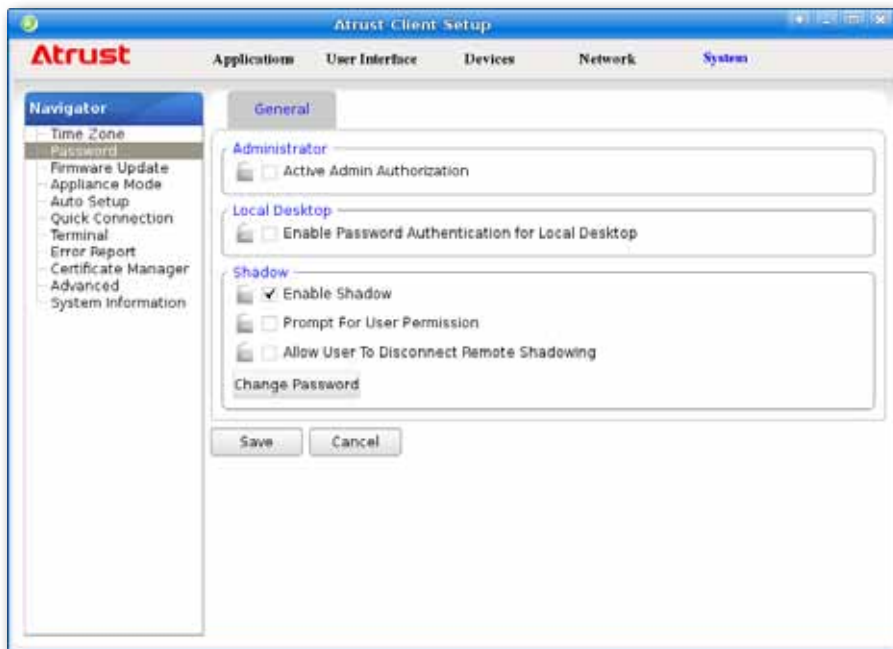
注意

- すべてのP2Tシンクライアントユーザーは、工場出荷時のデフォルトでAtrust Client Setupにアクセスできます。この設定を使用して、必要に応じて変更することができます。

管理者専用のアクセス権限とパスワードの設定

管理者のみにアクセス権とパスワードを設定するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [パスワード]**をクリックします。



2. [管理者]セクションで、**[アクティブな管理者の承認]**をクリックしてオンにします。
3. 管理者のアクセス権限が付与され、パスワードを設定するためのウィンドウが表示されます。

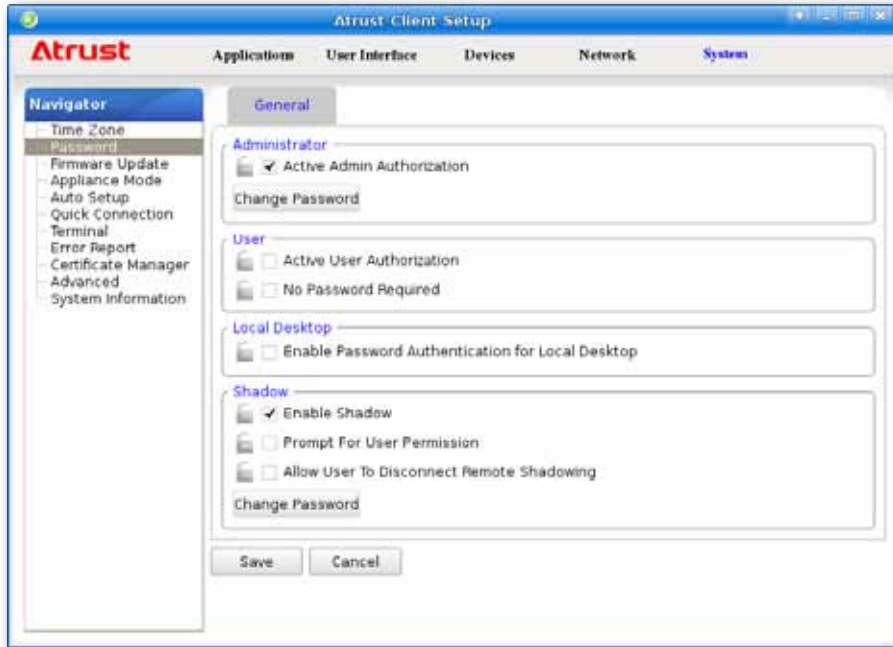


4. 目的のパスワードを入力し、**[OK]**をクリックして確認します。
5. **[保存]**をクリックして、すべての変更を保存します。

標準ユーザーにもアクセス権限とパスワードを設定する

標準ユーザーにもアクセス権限とパスワードを設定するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[システム]> [パスワード]をクリックします。
2. [ユーザー]セクションで、[アクティブなユーザー認証]をクリックしてオンにします。



注意

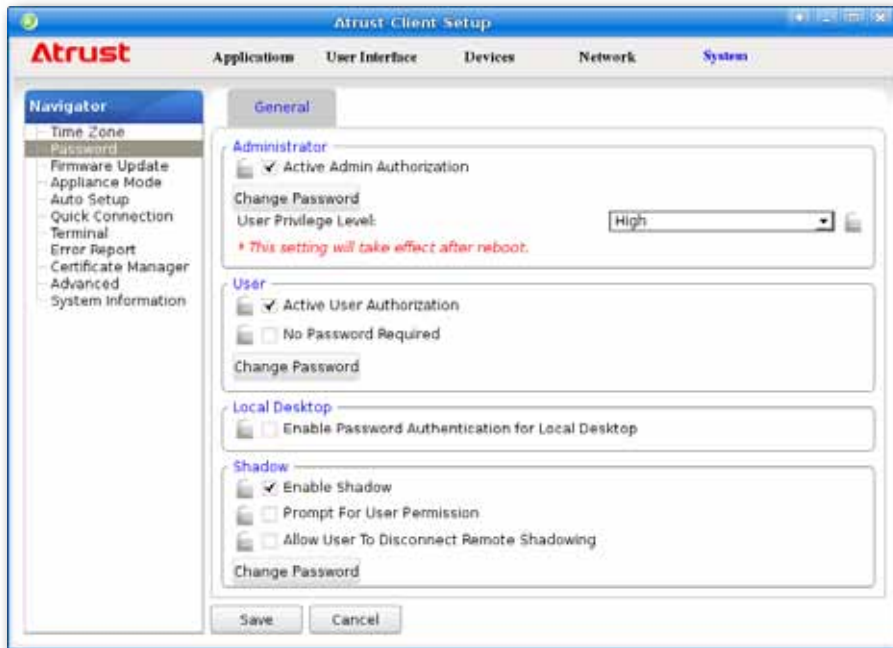
- 「ユーザー」セクションは、「**アクティブな管理者承認**」がチェックされている場合にのみ表示されます。

3. 標準ユーザーのアクセス権限が付与され、パスワードを設定するためのウィンドウが表示されます。



4. 目的のパスワードを入力し、[OK]をクリックして確認します。

5. 標準ユーザーのアクセス権限が付与されると、[管理者]セクションに[ユーザー権限レベル]ドロップダウンメニューが表示され、標準ユーザーの権限レベルを設定できます。この設定項目を使用して、標準ユーザーが使用できる設定の範囲を設定できます。



注意

- 変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。

ユーザー特権レベル	利用可能な設定	
高	<p>アプリケーションタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> リモートデスクトップ Citrix ICA VMware View SSH ウェブブラウザ Parallels 2Xクライアント ThinLinc <p>[ユーザーインターフェイス]タブ</p> <ul style="list-style-type: none"> 表示 デスクトップ キーボード マウス スクリーンセーバー <p>デバイスタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> USBストレージ オーディオ プリンター 	<p>ネットワークタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> イーサネット VPN ホスト(Hosts) ホスト名 ワイヤレス プロキシ <p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> タイムゾーン パスワード ファームウェアアップデート アプライアンスモード 自動設定 クイック接続 ターミナル エラーレポート 証明書マネージャー Advanced システムインフォメーション

中	<p>[ユーザーインターフェイス]タブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • Display • Desktop • Keyboard • Mouse • Screensaver 	<p>ネットワークタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • Ethernet • Wireless <p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • Time Zone • パスワード • Error Report
低	<p>[ユーザーインターフェイス]タブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • Display • Desktop • Keyboard • Mouse • Screensaver 	<p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • Time Zone • パスワード • Error Report
なし	<p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスワード • Error Report 	

- さらに、**[パスワード不要]**が[ユーザー]セクションに表示され、標準ユーザーの認証を無効にできます。
- 設定が完了したら、**[保存]**をクリックして変更を保存します。
- システムを再起動して変更を適用します。

2.2.5 Atrust Linux OSのログインパスワードの設定

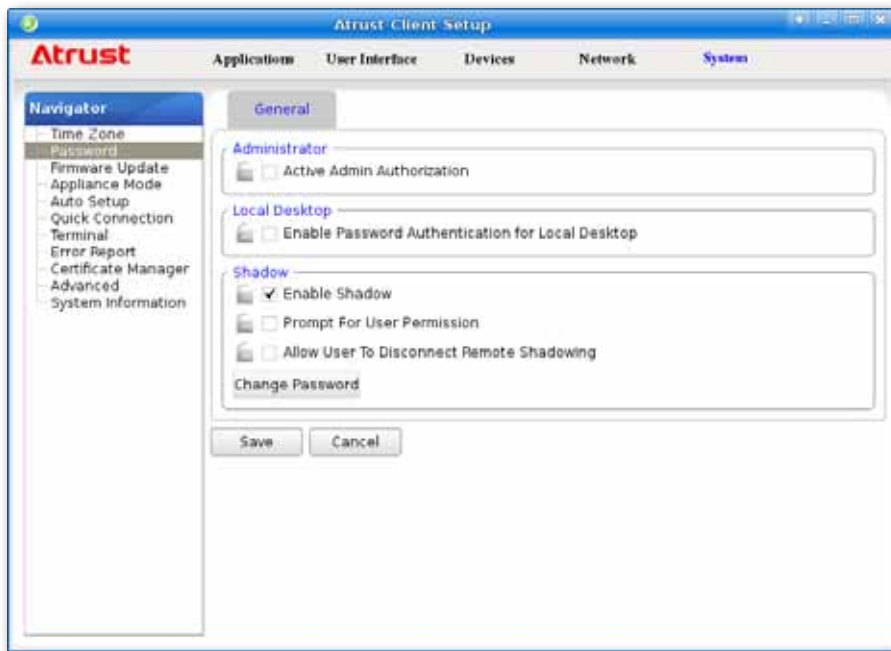
Atrust Linux OSのログインパスワードを有効にして設定するには、次の手順を実行します。



注意

- デフォルトの動作では、ログインパスワードなしでAtrust Linux OSに入ります。

Atrust Client Setupで、**[システム]> [パスワード]**をクリックします。



9. [ローカルデスクトップ]セクションで、**[ローカルデスクトップのパスワード認証を有効にする]**をクリックしてオンにします。パスワードを設定するウィンドウが表示されます。



10. 目的のパスワードを入力し、**[OK]**をクリックして確認します。
11. **[保存]**をクリックして適用します。次回Atrust Linux OSに入ると、パスワードの入力を求められます。

2.2.6 リモートアシスタンスのシャドウ設定の構成

シャドウ機能を使用すると、管理者はクライアントユーザーがリモートで問題を解決したり、ローカル設定を構成したりできるようになります。この機能を有効にすると、管理者はローカルユーザーと同じようにリモートコンピューターからクライアントを監視および制御できます。

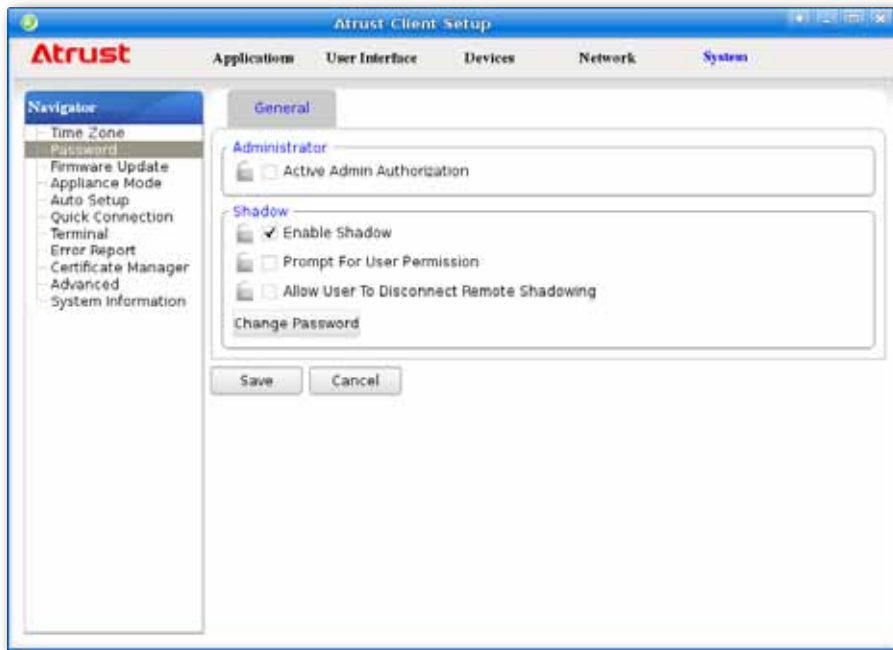


注意

- リモートコンピューターでシャドウ機能を使用するには、そのコンピューターにAtrust Device Managerコンソールをインストールし、P2TシンクライアントをAtrust Device Managerの管理対象グループに追加する必要があります。詳細については、Atrust Device Managerのユーザーマニュアルを参照してください。

シャドウ機能を有効にしてリモートアシスタンスのパスワードを設定するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [パスワード]**をクリックします。



2. [シャドウ]セクションで、**[シャドウを有効にする]**チェックボックスがオフになっている場合は、オンにします。



注意

- デフォルトでは、シャドウ機能は有効になっています。**[パスワードの変更]**をクリックし、次の手順に従ってパスワードを設定します。

3. シャドウ機能が有効になり、リモートアシスタンス用のパスワードを設定するためのウィンドウが表示されます。




 **注意**

- リモートコンピューターでは、管理者はAtrust Device Managerコンソールでシャドウ機能（リモートアシスタンス）を使用するためにこのパスワードが必要になります。詳細については、Atrust Device Managerのユーザーズマニュアルを参照してください。

4. 目的のパスワードを入力し、**[OK]**をクリックして確認します。
5. シャドウ接続中にユーザー権限を取得するには、**ユーザー権限のプロンプト**を確認してください。
6. ユーザーがリモートシャドウを停止できるようにするには、**[ユーザーがリモートシャドウを切断できるようにする]**をオンにします。
7. **[保存]**をクリックして、すべての変更を保存します。

 **注意**

- シャドウ機能がリモートのAtrust Device Managerから実行されると、ターゲットクライアントで、ローカルのLinuxデスクトップのタスクバーにアイコン  が表示され、右下隅に通知がポップアップ表示されます。クイック接続モード（P2Tシンクライアントのデフォルト）の場合、Atrustクイック接続画面の右下隅に通知がポップアップ表示されます。

2.2.7 管理コンピューターからのファームウェアの更新

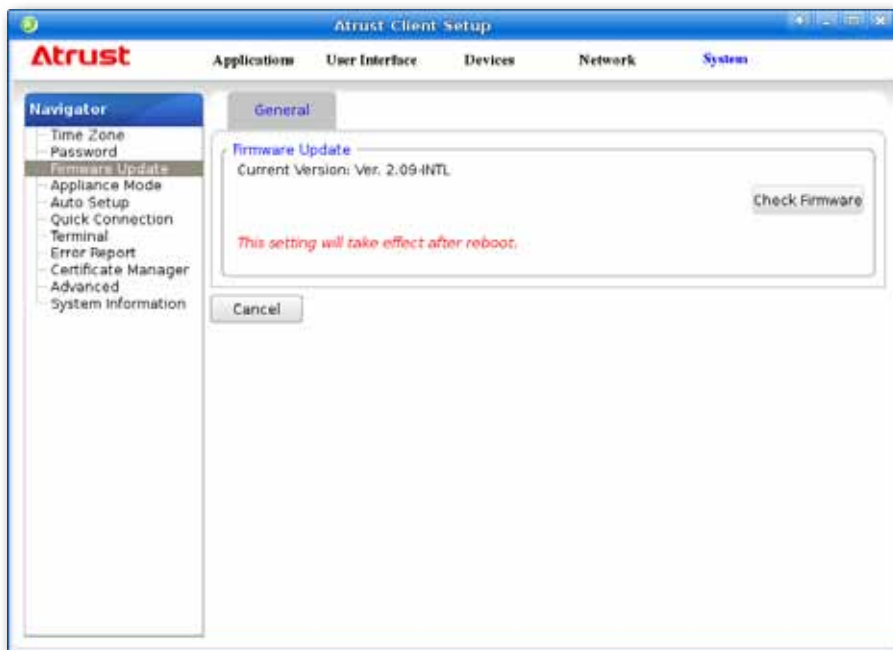
ファームウェアの更新を使用すると、クライアントユーザーは管理コンピューターからファームウェアを更新できます。

注意

- P2Tシンクライアントがリモートコンピューターにインストールされている Atrust Device Manager の下の管理対象グループに追加されていること、およびクライアントファームウェアファイルが Atrust Device Manager にインポートされていることを確認します。これらは、この機能の前提条件です。
- ファームウェアの更新と Atrust Device Manager の詳細については、Atrust Device Manager のユーザーマニュアルを参照してください。

管理コンピューターからファームウェアを更新するには、次の手順に従ってください。

1. Atrust Client Setup で、**システム > ファームウェア更新** をクリックします。

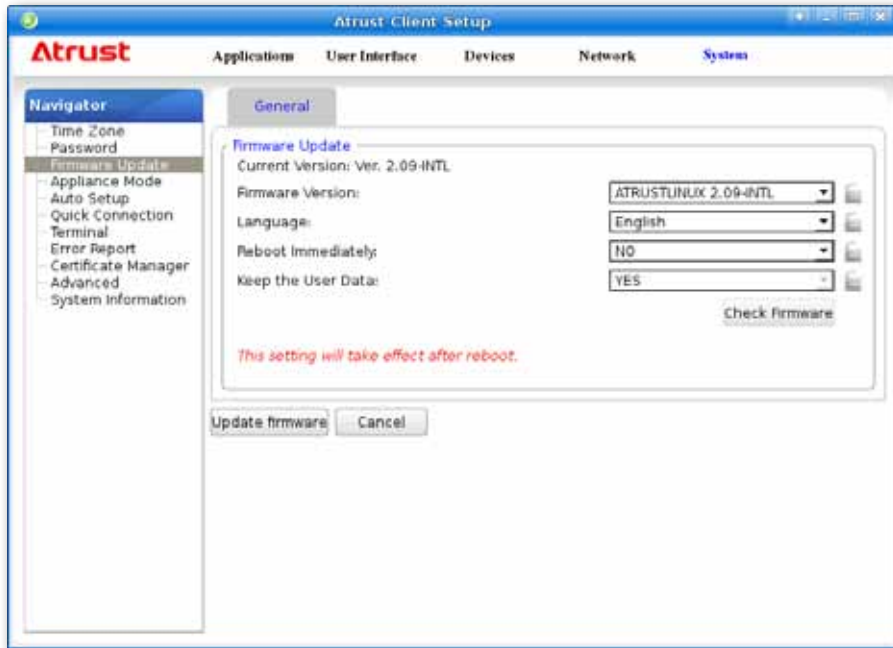


2. [ファームウェアの更新]セクションで、**[ファームウェアの確認]** をクリックします。
3. 完了すると、ファームウェアリストがロードされたことを通知するウィンドウが表示されます。



4. **[はい]** をクリックして続行します。

5. ドロップダウンメニューをクリックして、目的のファームウェアバージョンとその他の更新オプションを選択します。



ファームウェア更新オプション	
項目	説明文
ファームウェアバージョン	目的のファームウェアバージョンをクリックして選択します。
言語	Atrust Client Setupコンソールを含むシステムのインターフェース言語をクリックして選択します。 注意: 使用可能な言語は、選択したファームウェアバージョンによって異なる場合があります。
すぐに再起動	クリックして、ファームウェアの更新のためにシステムをすぐに再起動するか、後で手動でシステムを再起動するかを選択します。
ユーザーデータを保持する	Atrust Client Setupで設定値を保持するかどうかを選択するには、クリックしてください。 注意: 「はい」 を選択すると、ファームウェアの更新後、Atrust Client Setupのすべての設定値は変更されません。 「いいえ」 を選択すると、すべての設定値が工場出荷時のデフォルトに戻ります。このオプションは、ご使用のシステムでは使用できない場合があります。 注意: クライアントがAtrust Device Managerによって管理されており、ここで 「いいえ」 が選択されている場合、Atrust Device Managerはファームウェアの更新後にクライアントの管理に失敗します。Atrust Device Managerの詳細については、Atrust Device Managerのユーザーズマニュアルを参照してください。

6. **[ファームウェアの更新]**をクリックして、選択内容を確認します。再起動後、システムはファームウェアの更新を開始します。

2.2.8 アプライアンスモードの有効化または無効化

アプライアンスモードでは、P2Tシンクライアントを目的のMicrosoftリモートデスクトップ、Citrix ICA、VMware (Horizon) View、Webブラウザー、Parallels 2X、またはCendio ThinLincセッションで直接起動できます。このモードでは、ユーザーは通常のデスクトップコンピューターを使用しているかのような動作になります。ベースのオペレーティングシステムであるAtrust OSは、隠されます。



注意

- P2Tシンクライアントには、類似しているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。

No.	モード	説明文
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Webブラウザー / 2X / ThinLincセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいセッションを再開する • シンクライアントの再起動 • シンクライアントをオフにする
2	オートスタート	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Webブラウザー / 2X / ThinLincセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>使用可能なアクションは次のとおりです (Webブラウザーには該当しません) :</p> <ul style="list-style-type: none"> • ローカルデスクトップに戻る • 新しいセッションを再開する • シンクライアントの再起動 • シンクライアントをオフにする
3	クイック接続	<p>デフォルト有効。 システムの起動後、クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>

- これらのモードの詳細については、以下のセクションを参照してください。
 - 2.2.10(P.54) と 1.1(P.9) (クイック接続モード)
 - 2.2.8(P.49) (アプライアンスモード)
 - 2.6.5(P.140) (RDPセッションの自動開始モード)
 - 2.6.11(P.179) (ICAセッションの自動起動モード)
 - 2.6.14(P.213) (Viewセッションの自動起動モード)
 - 2.6.17(P.221) (Webブラウザーセッションの自動起動モード)
 - 2.6.22(P.232) (2Xセッションの自動開始モード)
 - 2.6.25(P.247) (ThinLincセッションの自動開始モード)

アプライアンスモードの有効化

アプライアンスモードを有効にするには、次の操作を行います。



注意

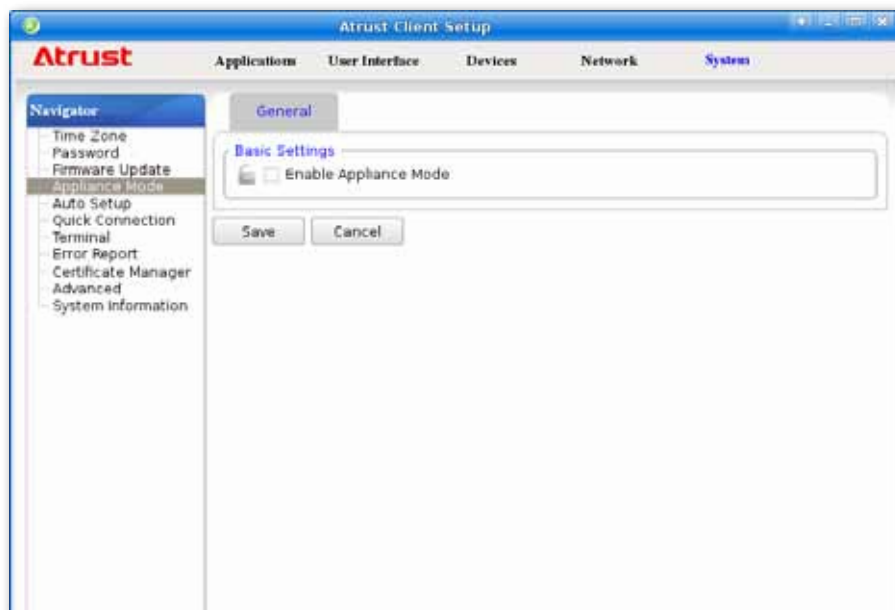
- **[アプリケーション]タブ**で、目的のMicrosoftリモートデスクトップ、Citrix ICA、VMware (Horizon) View、Webブラウザー、2X、またはThinLincセッションの接続設定を構成したことを確認します。アプライアンスモードで使用するサービスタイプと接続設定エントリを指定する必要があります。詳細な手順については、セクションをご覧ください。
 - “2.6.3 基本的なRDP接続設定の構成 (P.125)”
 - “2.6.6 基本的なICA接続設定の構成 (P.156)”
 - “2.6.12 基本的なVMware View接続設定の構成 (P.209)”
 - “2.6.17 ブラウザセッションの基本設定の構成 (P.221)”
 - “2.6.20 基本的なRAS / RDP接続設定の構成 (P.225)”
 - “2.6.23 基本的なThinLinc接続設定の構成 (P.244)”



注意

- 自動開始モードでは、クライアントをRDP / ICA /ビュー/ Webブラウザー/ 2X / ThinLincセッションで直接起動することもでき、アプライアンスモードよりも柔軟に構成できることに注意してください。自動開始モードの詳細については、以下のセクションを参照してください。
 - “2.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.140)”
 - “2.6.11 ICA接続の詳細設 (P.179)”
 - “2.6.14 詳細ビュー接続設定の構成 (P.213)”
 - “2.6.19 ブラウザセッションの詳細設定 (P.224)”
 - “2.6.22 高度なRAS / RDP接続設定の構成 (P.232)”
 - “2.6.25 ThinLinc接続の詳細設定 (P.247)”

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [アプライアンスモード]**をクリックします。



2. [アプライアンスモードを有効にする]をクリックしてオンにします。
3. アプライアンスモードの他の設定が表示されます。ドロップダウンメニューをクリックして、アプリケーション（またはサービス）のタイプ（Citrix ICA、リモートデスクトップ、VMware View、Webブラウザー、Parallels 2Xクライアント）、そのタイプで利用可能な特定のサービス、およびセッション終了後の目的のアクションを選択します。

Basic Settings

Enable Appliance Mode

Application Type: Citrix ICA

Use Session: XD

On Application Exit: Shutdown

** To launch Console: Shift+Ctrl+Delete*

** To minimize ICA Fullscreen Desktop: Press Left Ctrl+F2 then Alt+F9*

Basic Settings

Enable Appliance Mode

Application Type: Remote Desktop

Use Session: WMS

On Application Exit: Shutdown

** To launch Console: Shift+Ctrl+Delete*

** To toggle RDP fullscreen: Ctrl+Alt+Enter*

Basic Settings

Enable Appliance Mode

Application Type: VMware View

Use Session: VHV

On Application Exit: Shutdown

** To launch Console: Shift+Ctrl+Delete*

** To release keyboard and mouse from the virtual desktop, press Ctrl+Alt*

Basic Settings

Enable Appliance Mode

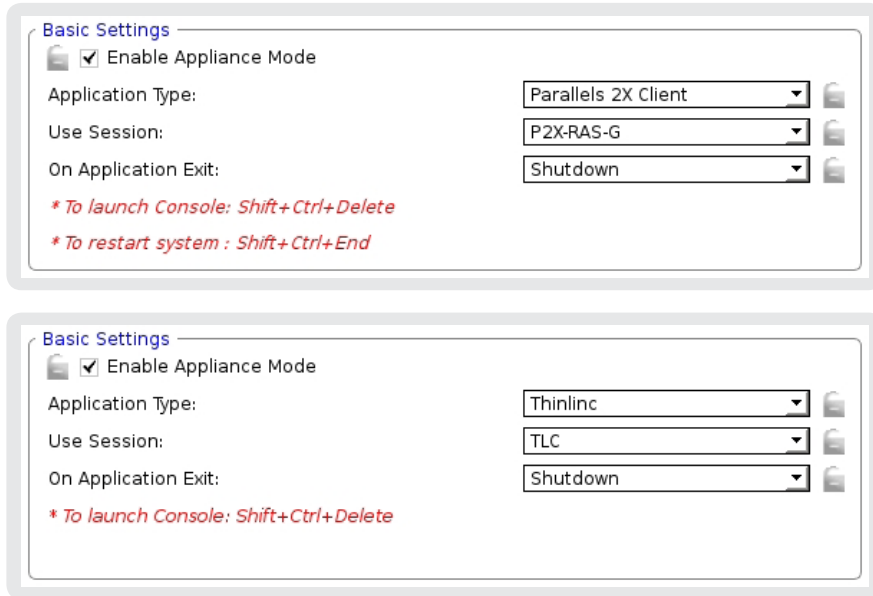
Application Type: Web Browser

Use Session: Gmail

On Application Exit: Shutdown

** To launch Console: Shift+Ctrl+Delete*

** To restart system : Shift+Ctrl+End*



注意

- 選択したRDP / ICA / 表示 / 2X接続にどの解像度オプションを選択しても、アプライアンスモードでのRDP / ICA / 表示 / 2Xセッションは常にフルスクリーンモードを使用してリモート/仮想デスクトップを表示します。

4. [保存]をクリックして選択を確認します。
5. 再起動後、システムはアプライアンスモードに入ります。



注意

- アプライアンスモードを無効にするか、アプライアンスモードでAtrust Client Setupにアクセスするには、“アプライアンスモードの無効化 (P.52)”を参照してください。

アプライアンスモードの無効化

アプライアンスモードを無効にするには、次の手順を実行してください

1. アプライアンスモードで、RDP / ICA / 2X / ThinLincセッションの全画面モードを終了するか、Webブラウザウィンドウの選択を解除するか、ビューセッション（仮想デスクトップ）からキーボードとマウスを離します。
 - RDPセッションのフルスクリーンモードを終了するには、**Ctrl + Alt + Enter**キーを押してから、セッションウィンドウを最小化します。
 - ICAセッションのフルスクリーンモードを終了するには、**Ctrl + F2**を押してから、**Alt + F9**を押します。
 - 2Xセッションのフルスクリーンモードを終了するには、リモートデスクトップからログアウトします。
 - ThinLincセッションのフルスクリーンモードを終了するには、**F8**キーまたはカスタムホットキーを押し、ポップアップメニューで**[最小化]**を選択します。
 - Webブラウザウィンドウの選択を解除するには、デスクトップの背景をクリックします。
 - キーボードとマウスをViewセッション（仮想デスクトップ）から解放するには、**Ctrl + Alt**を押します。

**注意**

- Viewセッション（仮想デスクトップ）からキーボードとマウスを離れた後、Viewセッション（仮想デスクトップ）がバックグラウンドに残ることに注意してください。

2. **Ctrl + Shift + Del**をクリックして、Atrust Client Setupを起動します。

**注意**

- アプライアンスモードでは、クライアントオペレーティングシステム（Atrust Linux）のタスクバーにアクセスできません。

3. Atrust Client Setupで、**[システム]> [アプライアンスモード]**をクリックします。

4. **[アプライアンスモードを有効にする]**をクリックして、無効にし、**[保存]**をクリックして変更を適用します。

5. 現在のRDP / ICA / ビュー / Webブラウザ / 2X / ThinLincセッションに戻ります。

- 現在のRDP / ICA / Webブラウザ / 2X / ThinLincセッションに戻るには、**Alt + Tab**（Altを押しながらTabを押して別のアイテムを切り替える）を使用して、現在のセッションを選択して復元します。
- 現在のViewセッションに戻るには、背景のViewセッション（仮想デスクトップ）の任意の場所をクリックします。

6. 現在のRDP / ICA / ビュー / Webブラウザ / 2X / ThinLincセッションを終了またはログオフします。

7. その後、クライアントがシャットダウンする可能性があります。クライアントを手動で再起動します。

2.2.9 オートセットアップの有効化または無効化

オートセットアップにより、シンクライアントは起動時にプリセット構成を取得し、目的のユーザー環境に自動的に入ることができます。その操作には、クライアント側のオートセットアップを除き、オートセットアップ環境とネットワーク接続が必要です。詳細については、オートセットアップのユーザーガイドを参照してください。

**注意**

- シンクライアントが事前に設定された後にオートセットアップを無効にするには、クライアントをリセットします。“A.1 P2Tシンクライアントのリセット (P.253)”を参照してください。

2.2.10 クイック接続モードの構成

クイック接続モードでは、システムの起動後にAtrustクイック接続画面に入ることができます。この設定はデフォルトで有効になっています。



注意

- クイック接続モードでP2Tシンクライアントを使用する方法の詳細については、セクション“1.1 基本を学ぶ (P.9)”を参照してください。
- P2Tシンクライアントには、類似しているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。

No.	モード	説明文
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Webブラウザ / 2X / ThinLincセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする
2	オートスタート	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Webブラウザ / 2X / ThinLincセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>使用可能なアクションは次のとおりです (Webブラウザには該当しません) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする
3	クイック接続	デフォルト有効。 システムの起動後、クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。

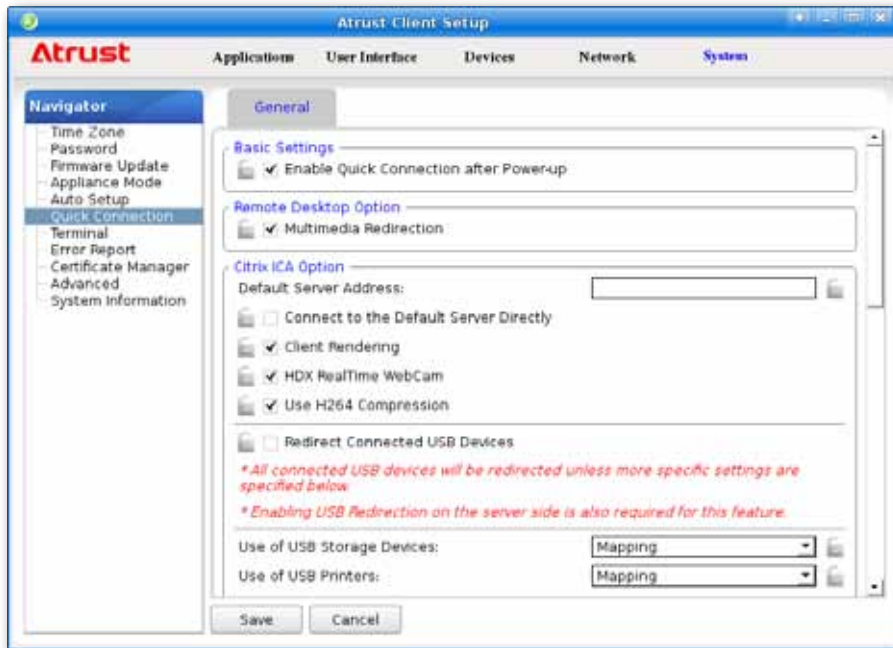


注意

- クイック接続モードを使用するには、アプライアンスモードと自動起動モードの両方が無効になっていることを確認してください。デフォルトでは、P2Tシンクライアントはクイック接続モードであり、アプライアンスモードと自動起動モードの両方が無効になっています。ただし、2つのモードのいずれかが有効になっている場合、クイック接続モードは機能しません。
- アプライアンスモードの詳細については、“2.2.8 アプライアンスモードの有効化または無効化 (P.49)”を参照してください。
- 自動開始モードの詳細については、次のセクションを参照してください。
 - “2.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.140)”
 - “2.6.11 ICA接続の詳細設 (P.179)”
 - “2.6.14 詳細ビュー接続設定の構成 (P.213)”
 - “2.6.19 ブラウザセッションの詳細設定 (P.224)”
 - “2.6.22 高度なRAS / RDP接続設定の構成 (P.232)”
 - “2.6.25 ThinLinc接続の詳細設定 (P.247)”

クイック接続モードを有効/無効にするには、以下を実行してください：

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [クイック接続]**をクリックします。



2. **[電源投入後にクイック接続を有効にする]**をクリックしてオン/オフにし、クイック接続モードを有効/無効にし、**[保存]**をクリックして変更を適用します。



注意

- クイック接続の詳細設定については、次のセクション (2.2.11)を参照してください。

3. 以下に示すように、スイッチのショートカットも[スタート]メニューとローカルのLinuxデスクトップに追加または削除されます。

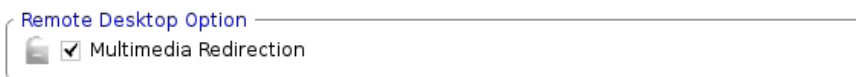


2.2.11 クイック接続の詳細設定

Atrust Client Setupの[System]> [Quick Connections]から、リモートデスクトップ、Citrix ICA、VMware Viewセッションなどのクイック接続の詳細設定を構成できます。

リモートデスクトップセッションの高度なクイック接続設定

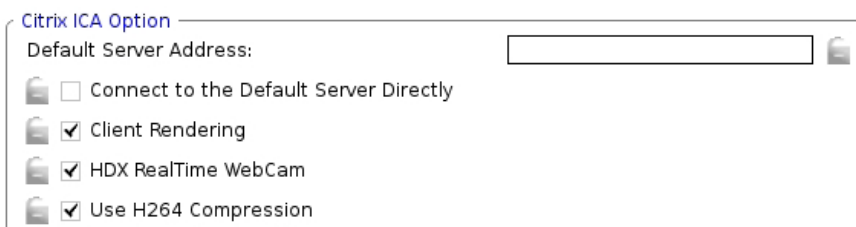
リモートデスクトップセッションのクイック接続の詳細設定を構成するには、次の表を参照してください。




リモートデスクトップオプション	
項目	説明文
マルチメディアリダイレクション	<p>マルチメディアリダイレクトを有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。</p> <p>有効にすると、クライアントは元の圧縮マルチメディアストリームを受信し、ローカルでデコードして表示します。この機能は、クライアントの負荷を増やしますが、サーバーリソースを節約し、帯域幅の使用を減らし、オーディオとビデオの再生エクスペリエンスを向上させます。</p> <p>デフォルトで有効になっています。</p>

Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定

Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定を構成するには、以下の表を参照してください。



Citrix ICAオプション	
項目	説明文
デフォルトサーバーアドレス	表示するデフォルトのサーバーアドレスを入力します。
直接デフォルトサーバーへ接続	チェックして、デフォルトサーバーに直接接続します。
クライアントレンダリング	クライアントレンダリングを有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。 クライアントレンダリング を無効にすると、 サーバーレンダリング が使用されます。
HDXリアルタイムウェブカム	この項目は、 クライアントレンダリング が選択されている場合にのみ使用できます。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。
H264圧縮を使う	オンにすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。

 Redirect Connected USB Devices

** All connected USB devices will be redirected unless more specific settings are specified below.*

** Enabling USB Redirection on the server side is also required for this feature.*

Citrix ICAオプション	
項目	説明文
USBデバイスへのリダイレクト接続	オンにすると、接続されたUSBデバイスのリダイレクトがクイック接続モードで有効になります。以下で特定の設定を指定しない限り、接続されているすべてのUSBデバイスがリダイレクトされます。

Use of USB Storage Devices:

Mapping 

Use of USB Printers:

Mapping 

Citrix ICAオプション	
項目	説明文
USBストレージデバイスを使う	ICAセッションでUSBストレージデバイスを使用する方法をクリックして選択します。 マッピング、リダイレクト、無効 の3つのオプションを使用できます。
USBプリンターを使う	ICAセッションでUSBプリンターを使用する方法をクリックして選択します。 マッピング、リダイレクト、無効 の3つのオプションを使用できます。


Plugged USB Devices: **1**

(Vendor: 046d Product: c52e) Logitech, Inc.

Redirection Rules: **2**

** Use redirection rules to manage specific USB devices.*

** Maximum number of rules: 10*

Allow 

Citrix ICAオプション	
項目	説明文
リダイレクトルール	2 にリダイレクトルールを作成して、 1 に関する情報で特定のUSBデバイスを管理します。

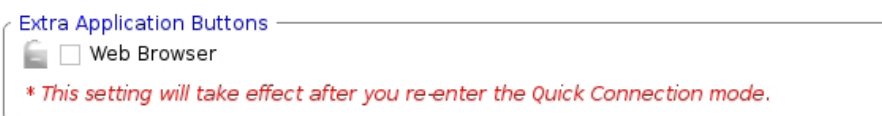


注意

- 接続されているすべてのUSBデバイスは、**プラグインUSBデバイス (1)**の下にリストされ、ルールの作成に必要なベンダーおよび製品情報が表示されます。

クイック接続モードでローカルにインターネットにアクセスする

クイック接続モードでローカルにインターネットにアクセスするには、Atrustクイック接続画面にWebブラウザボタンを表示するように設定できます。



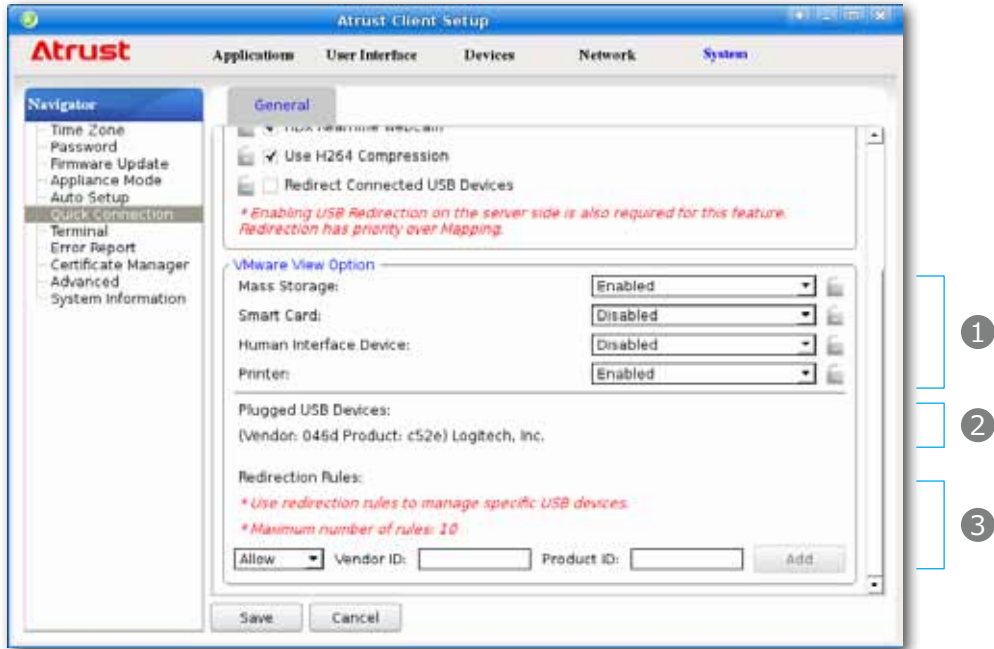
Atrustクイック接続画面



VMware Viewセッションの高度なクイック接続設定

VMware Viewセッションのクイック接続の詳細設定を構成するには、以下を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[システム]> [クイック接続]をクリックします。



2. ドロップダウンメニューをクリックして、大容量記憶装置、スマートカード、ヒューマンインターフェイスデバイス、およびプリンターの**汎用設定 (1)**を構成します。**有効または無効**の2つのオプションを使用できます。

Mass Storage:	Enabled	▼	🔒
Smart Card:	Disabled	▼	🔒
Human Interface Device:	Disabled	▼	🔒
Printer:	Enabled	▼	🔒

3. リダイレクトルール (3) を使用して、特定のUSBデバイスを管理します。

Plugged USB Devices: (2)
(Vendor: 046d Product: c52e) Logitech, Inc.

Redirection Rules: (3)
** Use redirection rules to manage specific USB devices.*
** Maximum number of rules: 10*

Allow ▾ Vendor ID: Product ID:

- (2) を参照して特定のデバイスのベンダーIDと製品IDを入力し、ドロップダウンメニューをクリックして[許可]または[拒否]を選択します。
- (3) にルールを追加するには、右側の[追加]をクリックします。



注意

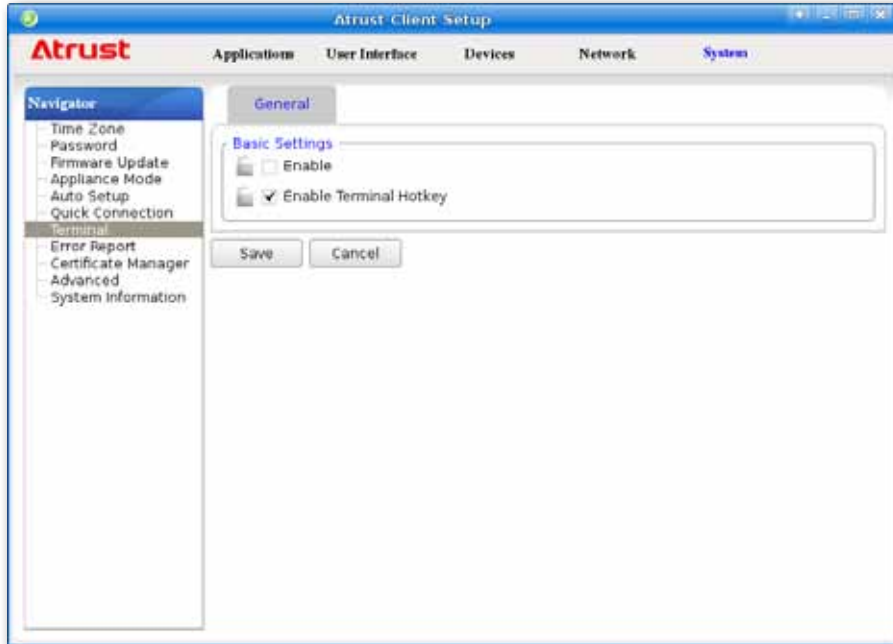
- 接続されているすべてのUSBデバイスが、**プラグインUSBデバイス (2)** の下にリストされ、ルールの作成に必要なベンダーおよび製品情報が表示されます。
- **リダイレクトルール (3)** は、**一般設定 (1)** よりも優先されます。

4. [保存]をクリックして適用します。

2.2.12 コマンドライン機能の有効化または無効化

テキストベースの（コマンドライン）関数の実行を有効または無効にするには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [ターミナル]**をクリックします。



2. クリックして設定を構成します。

- [スタート]メニューのショートカットを介してコマンドライン機能の実行を許可するには、**[有効にする]**をオンにします。
- ホットキーを介したコマンドライン機能の実行を許可するには、**[ターミナルホットキーを有効にする]**をオンにします。
- **ターミナル**を完全に無効にするには、両方のチェックを外します。

注意

- ショートカットからターミナルを開くには、ローカルLinuxデスクトップで**[スタート]> [設定]> [ターミナル]**をクリックします。



- ホットキーで**ターミナル**を開くには、**Ctrl + Alt + T**を押します。

3. **[保存]**をクリックして変更を適用します。

2.2.13 イベントログの収集と関連画面のキャプチャ

エラーレポート機能を使用すると、イベントログを収集し、エラーレポートの関連画面をキャプチャできます。

イベントログの収集

P2Tシンククライアントのイベントログを収集するには、次の手順を実行してください。

1. USBフラッシュドライブをP2Tシンククライアントに接続します。



注意

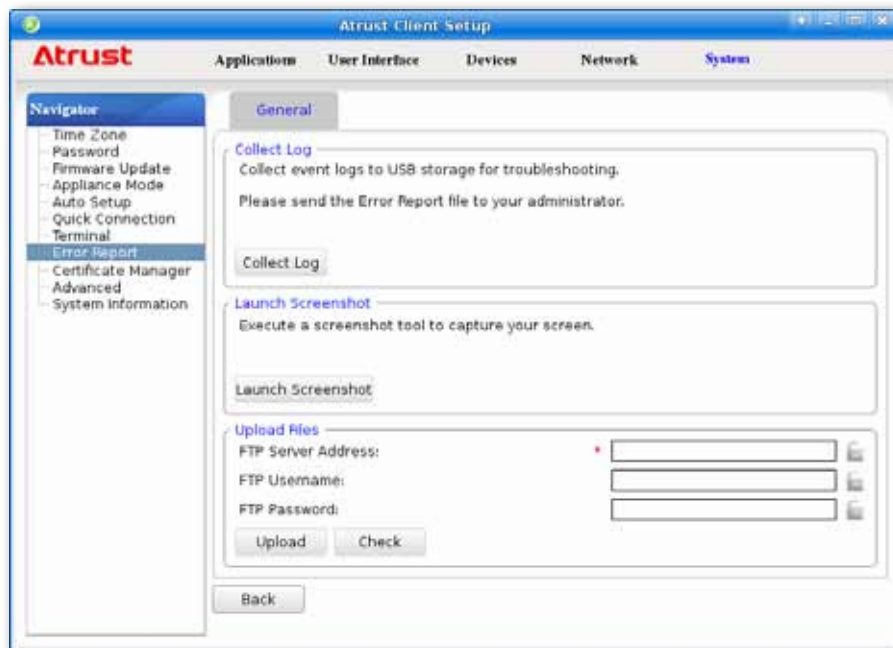
- このUSBフラッシュドライブは、P2Tシンククライアントのイベントログの保存に使用されます。
- USBストレージデバイスのアクセスと自動マウントが有効になっていることを確認します。詳細な手順については“2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)”セクションを参照してください。



注意

- ローカルデスクトップに保存されたファイルは再起動後に削除されることに注意してください。

2. **Atrust Client Setup**で、**システム> エラーレポート**をクリックします。



3. 「**ログの収集**」をクリックします。ログファイルセット（**events.tar.gz**という名前）を保存する場所を選択するように求めるウィンドウが表示されます。接続されているUSBフラッシュドライブは、接続されている場合のデフォルトの場所です。[**保存**]をクリックして適用します。



エラー関連画面のキャプチャ

P2Tシンクライアントのエラー関連画面をキャプチャするには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**システム>エラーレポート**をクリックします。
2. [**スナップショットの起動**]をクリックして、画面キャプチャプログラムを開きます



3. 必要に応じて、開いているウィンドウで画面キャプチャ設定を直接構成し、[**OK**]をクリックして目的の画面をキャプチャします。



ヒント

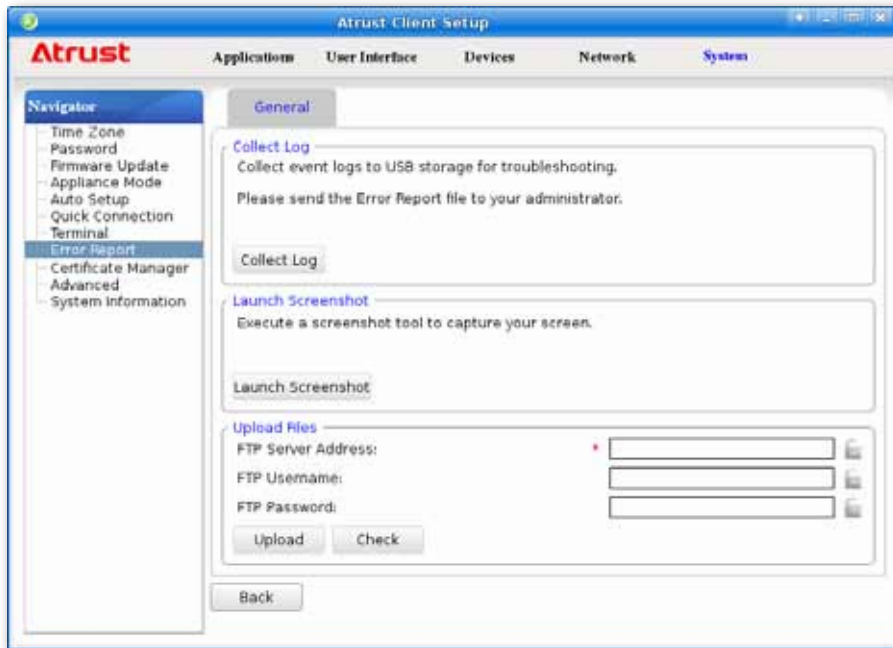
- 目的の画面またはウィンドウに切り替えるための時間を確保するために、キャプチャする前の遅延時間を少なくとも2秒に設定することをお勧めします。
- キャプチャした画面は、イベントログが保存されたのと同じUSBフラッシュドライブに保存することをお勧めします。
- ローカルデスクトップに保存されたファイルは再起動後に削除されることに注意してください。

2.2.14 エラー報告のためのファイルのアップロード

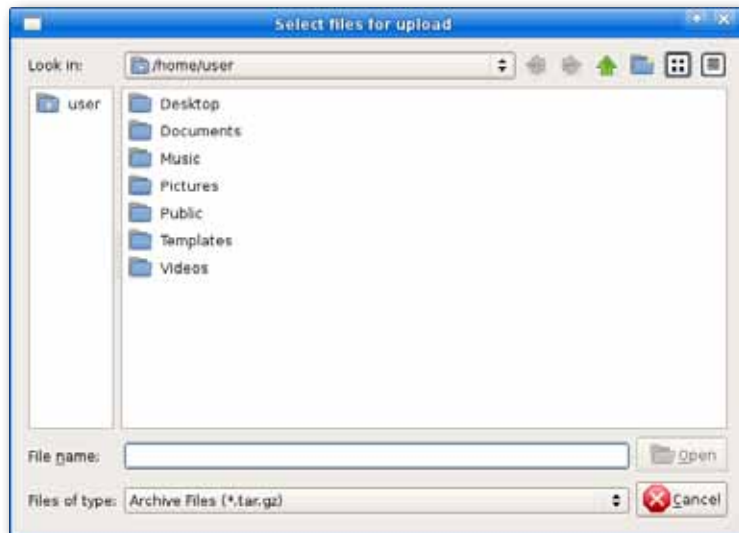
エラー報告のために、指定したFTPサーバーにファイルをアップロードできます。

FTPサーバーにファイルをアップロードするには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**システム>エラーレポート**をクリックします。



2. [ファイルのアップロード]セクションで、FTPサーバーのIPアドレスと資格情報を入力し、**[アップロード]**をクリックしてファイルを選択し、そのFTPサーバーにアップロードします。



ヒント

- 最初に**[確認]**ボタンを使用して、IPアドレスと資格情報の有効性を確認できます。

2.2.15 リモートコンピューターの証明書のインポート

次の方法でリモートコンピューターの証明書をインポートできます。

- ローカルデバイス（USBストレージデバイスから）
- ネットワーク（リモートコンピューターまたは管理コンソールから）



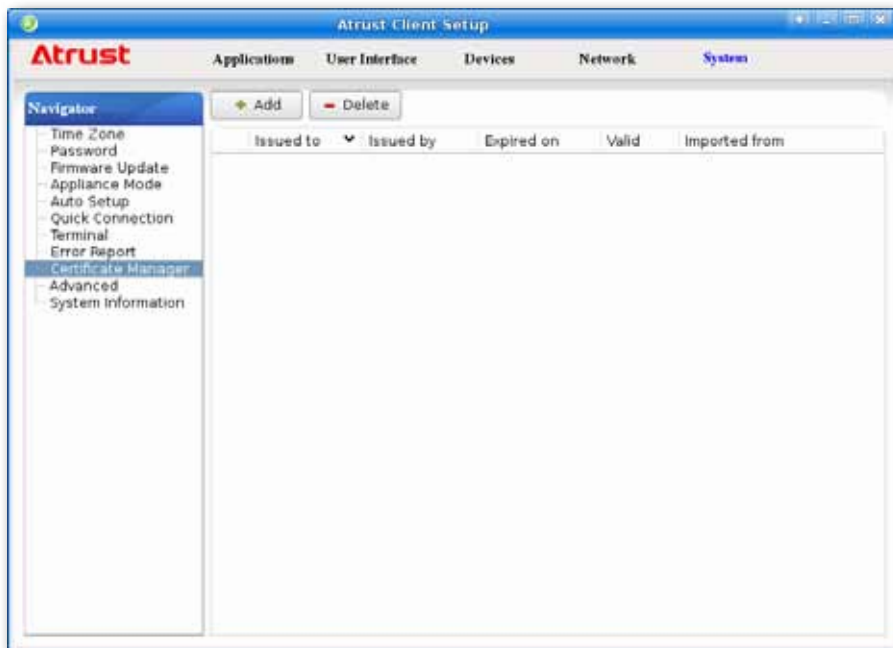
注意

- P2Tシンクライアントで使用できる管理コンソールは、複数のシンクライアント用のリモートおよびグループ管理コンソールであるAtrust Device Managerです。詳細については、Atrust Device Managerのユーザーズマニュアルを参照してください。

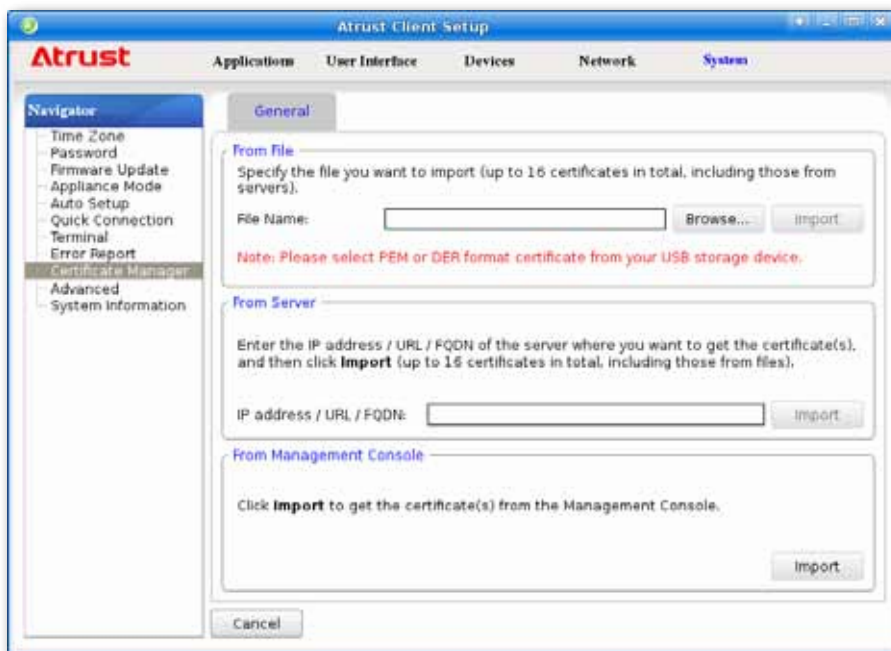
USBストレージデバイスを介した証明書のインポート

USBストレージデバイスを介してリモートコンピューターの証明書をインポートするには、次の手順を実行してください。

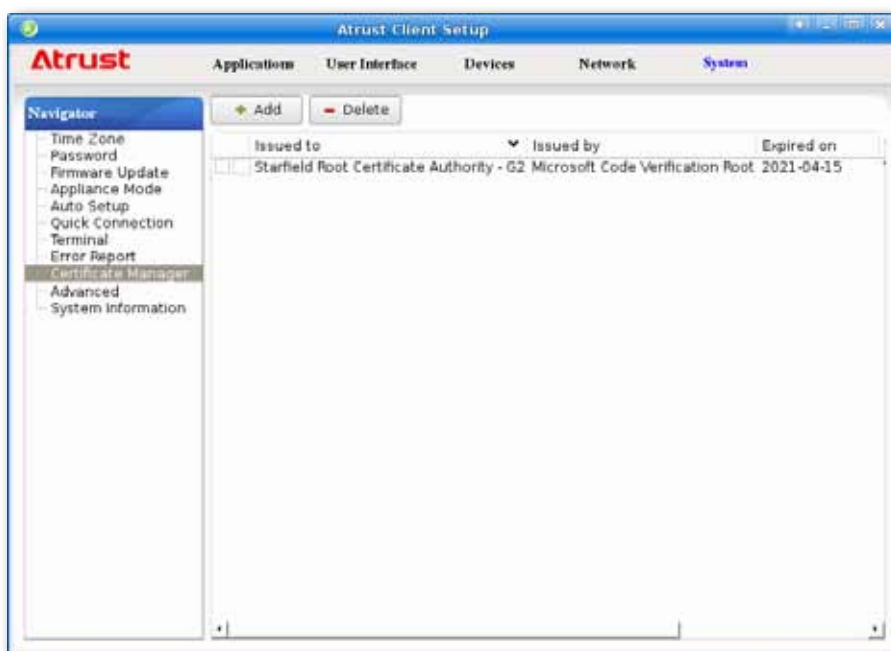
1. 証明書をUSBストレージデバイスにコピーし、このストレージデバイスをP2Tシンクライアントに接続します。
2. Atrust Client Setupで、「システム」 > 「証明書マネージャー」をクリックします。
3. 証明書リストの上部にある[追加]をクリックします。



4. [ファイルから]セクションで、[参照]をクリックして目的の証明書ファイルを見つけ、[開く]をクリックして確認します。



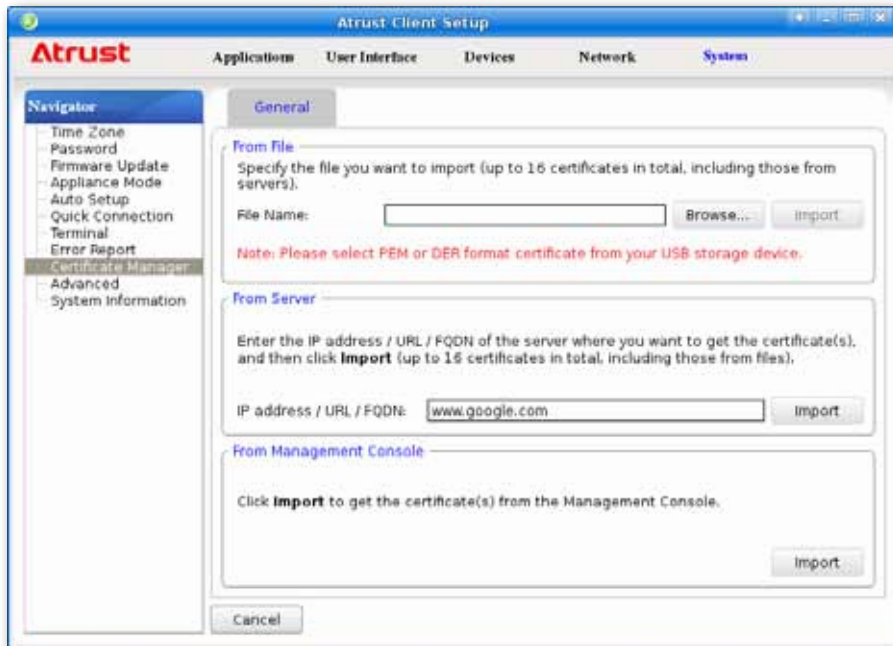
5. [インポート]をクリックして、証明書のインポートを開始します。
6. 完了すると、証明書が証明書リストに表示されます。



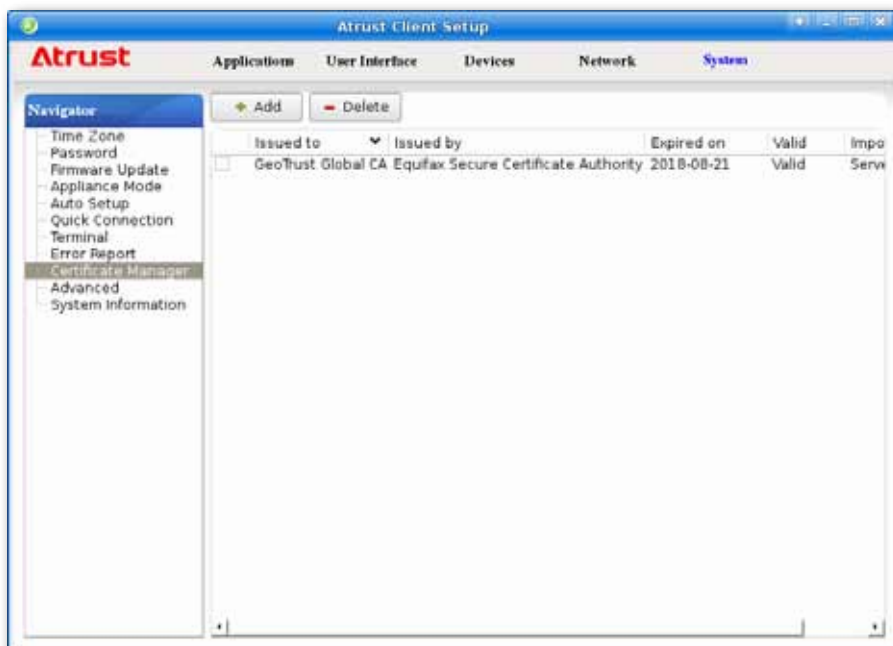
ネットワーク経由でリモートコンピューターから証明書をインポートする

ネットワーク経由でリモートコンピューターから証明書をインポートするには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、「システム」 > 「証明書マネージャー」をクリックします。
2. 証明書リストの上部にある[追加]をクリックします。
3. [サーバーから]セクションで、リモートコンピューターのIPアドレス/ URL / FQDNを入力し、[インポート]をクリックします。



4. 完了すると、証明書が証明書リストに表示されます。



ネットワークを介したAtrust Device Managerからの証明書のインポート

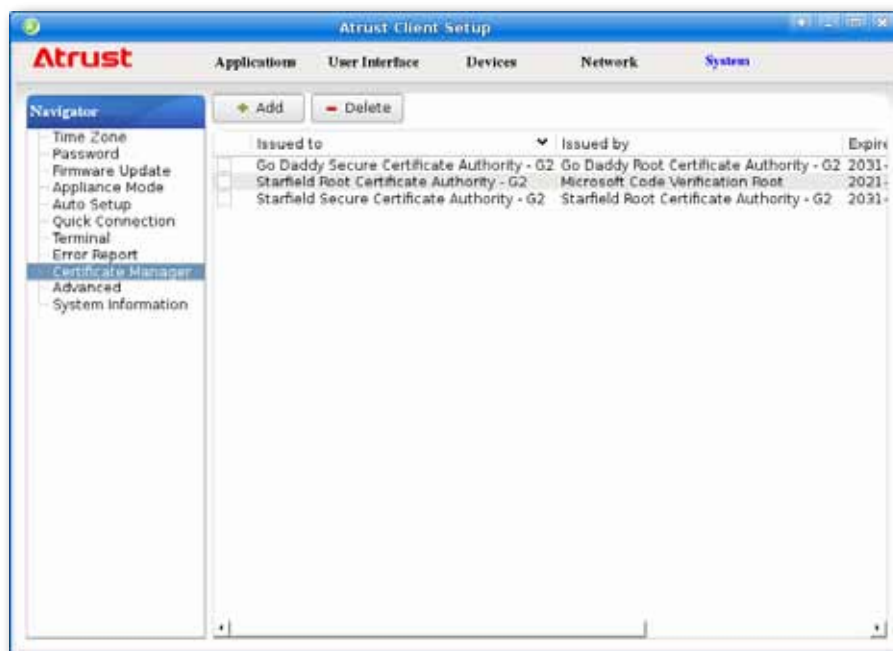
Atrust Device Managerからネットワーク経由で証明書をインポートするには、次の手順を実行してください。



注意

- 続行する前に、(1) シンクライアントが管理コンソールの管理対象グループ、つまりAtrust Device Managerに追加されていること、および(2) 証明書が管理コンソールにインポートされていることを確認してください。

1. Atrust Client Setupで、「システム」>「証明書マネージャー」をクリックします。
2. 証明書リストの上部にある[追加]をクリックします。
3. [Atrust Device Managerから]セクションで、[インポート]をクリックして、Atrust Device Managerで利用可能なすべての証明書のインポートを開始します。
4. 完了すると、証明書が証明書リストに表示されます。



2.2.16 自動登録の有効化または無効化

自動登録により、シンククライアントはオンラインのときにAtrust Device Managerに自動的に登録され、Atrust Device Managerによって管理されるようになります。

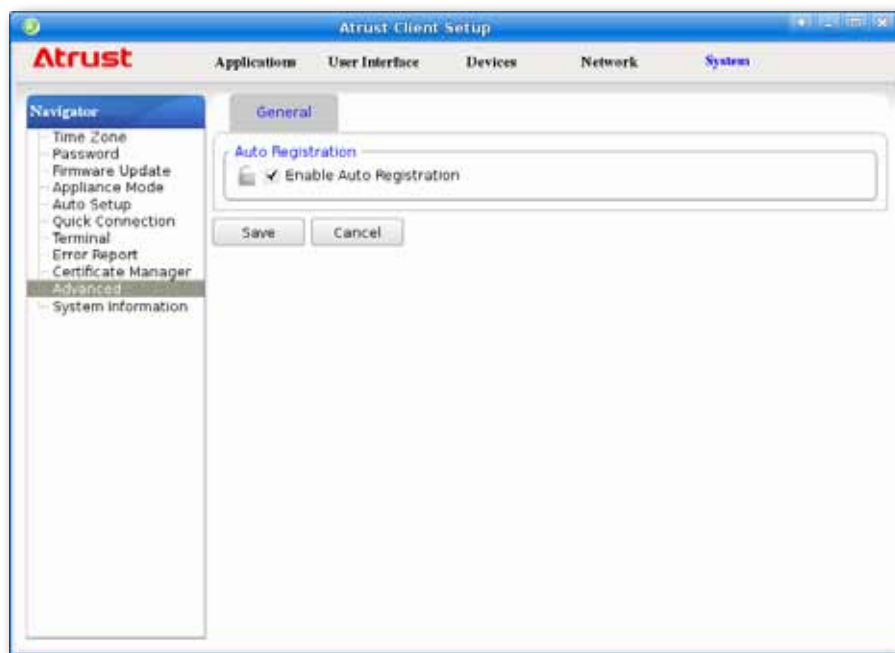


注意

- この機能を機能させるには、シンククライアントとターゲットAtrust Device Managerの両方で自動登録を有効にする必要があります。さらに、ネットワーク上のDHCPサーバーまたはDNSサーバーでいくつかの構成が必要です。詳細については、Atrust Device Managerのユーザーズマニュアルを参照してください。
- デフォルトでは、自動登録はシンククライアント側で有効になっており、Atrust Device Managerは無効になっています。

シンククライアントで自動登録を有効または無効にするには、次の手順を実行します。

- Atrust Client Setupで、**System > Advanced**をクリックします。
- 自動登録を有効または無効にするには、**[自動登録を有効にする]**を有効または無効にします。



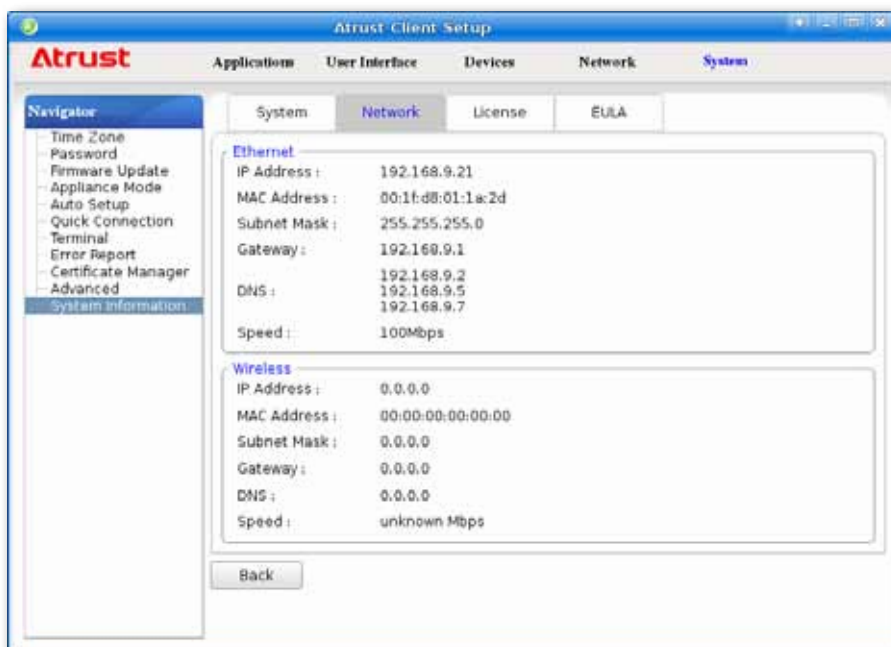
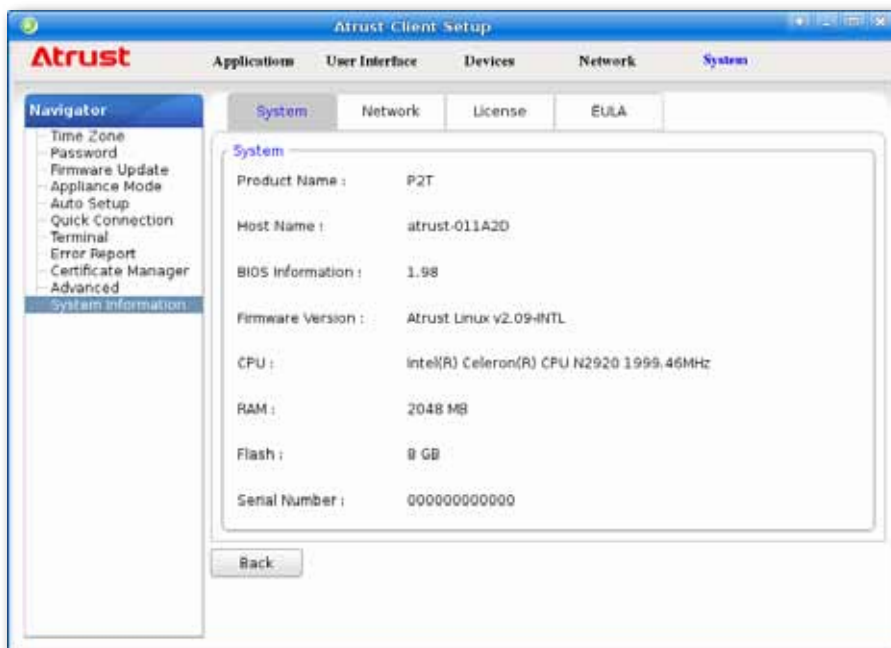
- [保存]**をクリックして適用します。

2.2.17 システムおよびネットワーク情報の表示

Atrust Client Setupを使用して、システムとネットワークの詳細情報を表示できます。

Atrust Client Setupを使用してシステムとネットワークの詳細情報を表示するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[システム]> [システム情報]をクリックします。
2. システム/ネットワークタブをクリックして、システム/ネットワーク情報を表示します。

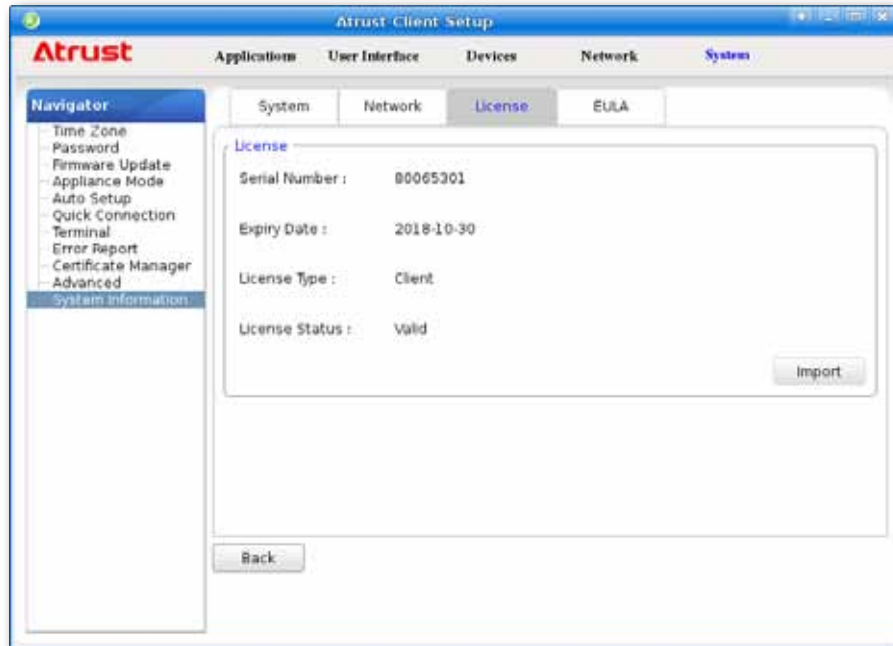


2.2.18 ライセンス情報の表示

Atrust Client Setupからライセンス情報を確認できます。

Atrust Client Setupを通じてライセンス情報を確認するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [システム情報]**をクリックします。
2. **[ライセンス]**タブをクリックして、ライセンス情報を表示します。

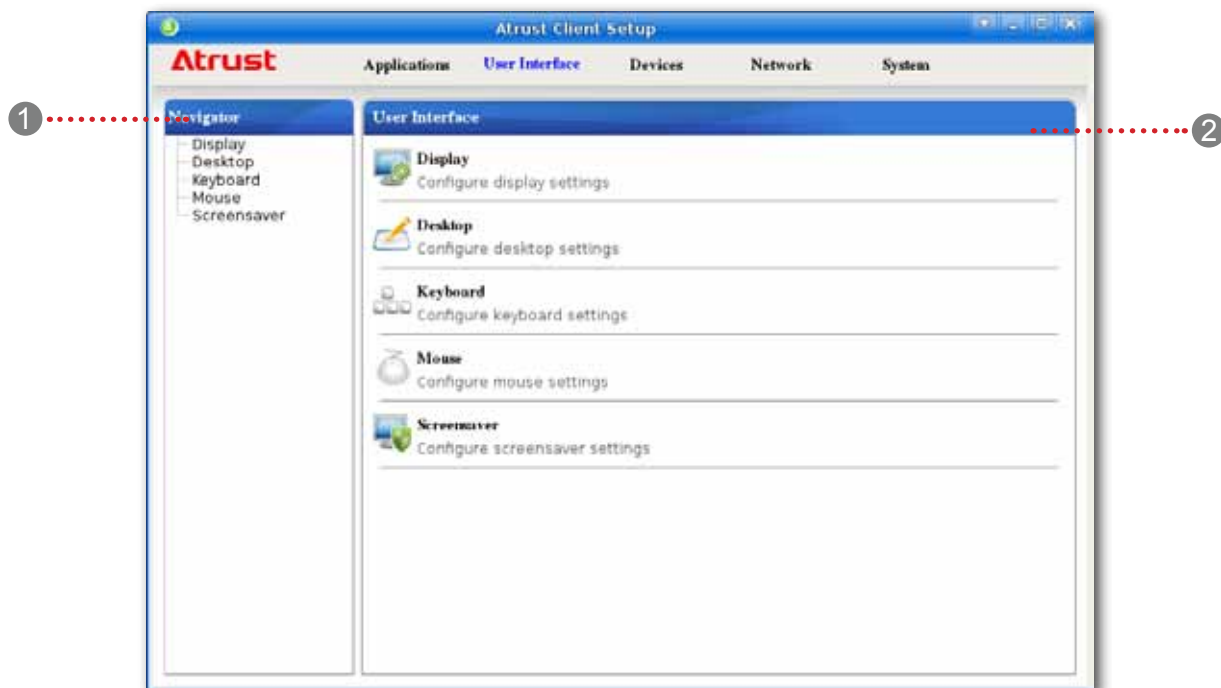


2.3 ユーザーインターフェイス設定の構成

2.3.1 [ユーザーインターフェイス]タブの概要

[ユーザーインターフェイス]タブでは、クライアントのユーザーインターフェイスの設定を構成できます。
[ユーザーインターフェイス]タブの利用可能な設定にアクセスするには、Atrust Client Setupのタブをクリックします。

[ユーザーインターフェイス]タブの概要



インターフェース要素

No.	名前	説明文
1	ナビゲーションエリア	[ユーザーインターフェイス]タブの設定項目をクリックして選択します。
2	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

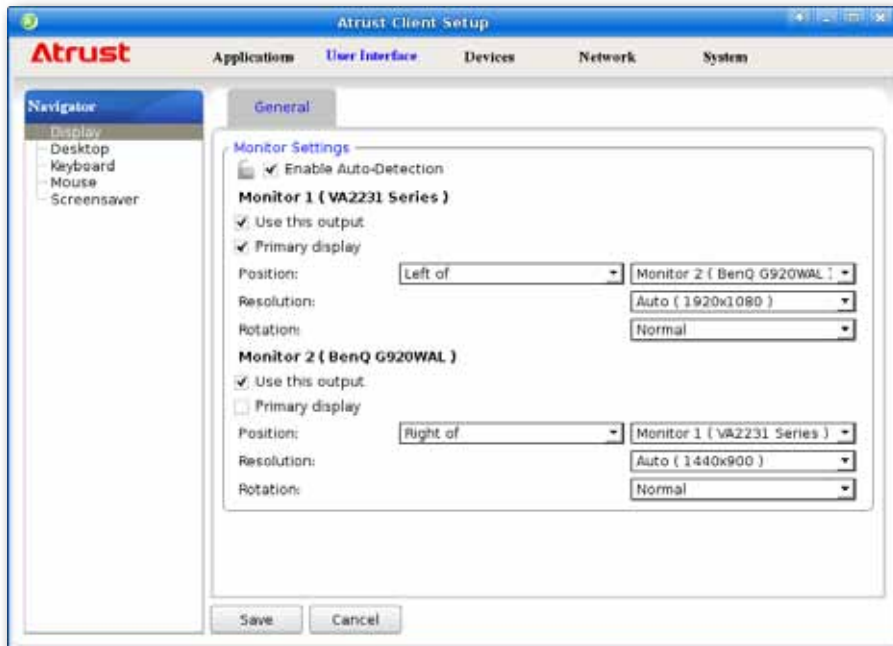
2.3.2 設定一覧

タブ	設定	アイコン	説明文	セクション	ページ
ユーザーインターフェイス	ディスプレイ		クリックして表示設定を構成します。	2.3.3	74
	デスクトップ		クリックして、デスクトップとシステムの言語をカスタマイズします。	2.3.4 2.3.5 2.3.6 2.3.7 2.3.8	76 79 81 82 83
	キーボード		クリックしてキーボード設定を調整します。	2.3.9	84
	マウス		クリックしてマウス設定を調整します。	2.3.10	86
	スクリーンセーバー		クリックしてスクリーンセーバーの設定を構成します。	2.3.11	87

2.3.3 表示設定の構成

P2Tシンクライアントの表示設定を構成するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[ユーザーインターフェイス] > [ディスプレイ]をクリックします。



2. デフォルトでは、自動検出が有効になっており、適切な解像度が割り当てられています。カスタマイズするには、自動検出を無効にしてから、目的の値を選択します。次の表の説明を参照して、適切な設定値を選択してください。

注意

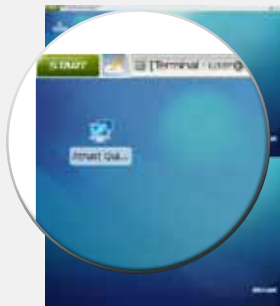
- 使用可能な設定項目は、コンピューターおよび接続されているディスプレイの数によって異なります。
- ディスプレイの詳細設定については、セクション 2.3.5 から 2.3.6 も参照してください。

モニター設定	
項目	説明文
自動検出	接続されているモニターの自動検出を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。接続されているモニターに適切な解像度が設定されます。
利用出力	このアイテムを使用して、この接続された出力デバイスを有効/無効にします。
プライマリディスプレイ	複数接続されている場合は、チェックしてプライマリディスプレイを選択します。
位置	このアイテムを使用して、他のモニターに対するモニターの位置を示します。
	オプション 説明文
	上 このモニターは他のモニター（メイン画面）の上にあります。
	下 このモニターは他のモニターの下にあります（拡張画面）。
	右 このモニターは、もう一方のモニター（メイン画面）の右側にあります。
	左 このモニターは、もう一方のモニター（拡張画面）の左側にあります。
同じ 2台のモニターの表示内容は同じです（クローンモード）。	
解像度	このアイテムを使用して、接続されたディスプレイに適切な解像度を設定します。
	オプション 説明文
	Auto このオプションは、 [自動検出を有効にする] が選択されている場合にのみ使用できます。 Other options 接続されているモニターのドロップダウンメニューから目的の解像度を選択します。
	注意: 自動検出が無効になっている場合、クライアントでサポートされているすべての解像度が[解像度]ドロップダウンメニューに表示されます。一部の解像度はご使用のモニターに適用できない場合があります。ご注意ください。
回転	このアイテムを使用して、画面の回転を構成します。4つのオプション、 [標準] 、 [反転] 、 [左] 、および [右] を使用できます。



注意

- 上下配置（上/下）を選択すると、下図のようにタスクバーがメイン画面の上部に移動します。

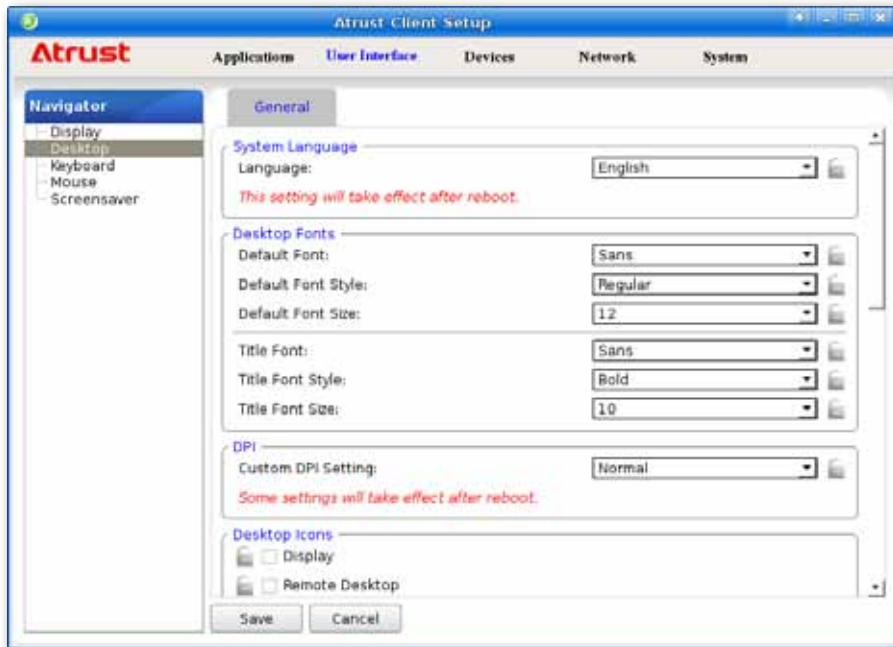


- **輝度.** デバイスの内蔵ディスプレイ（ある場合）の場合、**Ctrl + Shift + 上矢印キー**と**下矢印キー**を使用して明るさを調整できます。

2.3.4 デスクトップとシステムの言語設定のカスタマイズ

P2Tシンクライアントのデスクトップとシステムの言語設定をカスタマイズするには、次の手順を実行します。


1. Atrust Client Setupで、**[ユーザーインターフェイス]> [デスクトップ]**をクリックします。



2. ドロップダウンメニューまたはチェックボックスをクリックして、必要な設定を選択します。各設定項目の説明については、次の表を参照してください。


システム言語	
項目	説明文
言語	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、システム言語を選択します。</p> <p>注意: 使用可能な言語は、デバイスのファームウェアバージョンによって異なる場合があります。 注意: 変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。</p>
デスクトップフォント	
項目	説明文
フォント	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、メニュー、メニューのオプション、デスクトップショートカットのテキストラベル、プログラムウィンドウのタブなど、オペレーティングシステムのユーザーインターフェイスに使用する目的のフォント、スタイル、サイズを選択します。</p> <p>注意: 変更は、開いているウィンドウのタイトル、Atrust Client Setupコンソール、およびシステム情報ウィンドウ ([スタート]> [システム設定]> [システム情報]) には適用されません。</p>
フォントスタイル	
フォントサイズ	
タイトルフォント	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、目的のフォント、そのスタイル、および開いているウィンドウのタイトルに使用されるサイズを選択します。</p>
タイトルフォントスタイル	
タイトルフォントサイズ	

DPI	
項目	説明文
カスタムDPI設定	Dots Per Inch を変更するには、ドロップダウンメニューをクリックします。ユーザーインターフェイスの一部の変更を有効にするには、再起動が必要になる場合があります。
デスクトップアイコン	
項目	説明文
ディスプレイ	表示設定をすばやく構成するには、ローカルLinuxデスクトップでショートカット Display  の表示/非表示をオン/オフにします。 詳しくは“2.3.5 表示ショートカットを使用した表示設定の構成 (P.79)”をご覧ください。
リモートデスクトップ	[スタート]メニューとローカルLinuxデスクトップでショートカット Remote Desktop  を表示/非表示にするには、チェック/チェックを外してすばやくアクセスします。 詳細については、“2.3.7 クイックアクセスショートカットの非表示または表示 (P.82)”セクションを参照してください。
Citrix	[スタート]メニューとローカルLinuxデスクトップでショートカット Citrix  を表示/非表示にするには、チェック/チェックを外してすばやくアクセスします。 詳細については、“2.3.7 クイックアクセスショートカットの非表示または表示 (P.82)”セクションを参照してください。
VMware View	[スタート]メニューでデスクトップショートカット VMware View  とローカルLinuxデスクトップを表示/非表示するには、オン/オフを切り替えてすばやくアクセスします。 詳細については、“2.3.7 クイックアクセスショートカットの非表示または表示 (P.82)”セクションを参照してください。
Parallels 2X Client	[スタート]メニューおよびローカルLinuxデスクトップで Parallels 2X Client  のデスクトップショートカットを表示/非表示するには、オン/オフにします。
ThinLinc	[スタート]メニューおよびローカルLinuxデスクトップでデスクトップショートカット ThinLinc  を表示/非表示するには、チェック/チェックを外します。 詳細については、“2.3.7 クイックアクセスショートカットの非表示または表示 (P.82)”セクションを参照してください。
AnyDesk	[スタート]メニューとローカルのLinuxデスクトップでデスクトップショートカット AnyDesk  を表示/非表示するには、オン/オフにします。
Teamviewer QuickSupport	[スタート]メニューおよびローカルLinuxデスクトップでデスクトップショートカット Teamviewer QuickSupport  の表示/非表示をオン/オフにします。
Tokenadmin	[スタート]メニューおよびローカルLinuxデスクトップでデスクトップショートカット Tokenadmin  を表示/非表示するには、オン/オフにします。
XDMCP	[スタート]メニューとローカルLinuxデスクトップでデスクトップショートカット XDMCP  を表示/非表示するには、オン/オフにします。
Firefox Web Browser	[スタート]メニューおよびローカルLinuxデスクトップでデスクトップショートカット Firefox Web Browser  を表示/非表示するには、チェック/チェックを外します。 注意: このアイテムの可用性はシステムによって異なります (ランダムアクセスメモリサイズが2 GB以上の場合に利用可能)。

LibreOffice	[スタート]メニューでデスクトップショートカット LibreOffice  を表示/非表示にするには、チェックをオン/オフにして、すばやくアクセスできるようにローカルのLinuxデスクトップを表示します。												
アイコンサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、デスクトップアイコン/ショートカットの希望のサイズを選択します。												
アイコンフォントサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、デスクトップアイコン/ショートカットの必要なテキストラベルサイズを選択します。												
デスクトップ背景													
項目	説明文												
壁紙を有効	Atrust壁紙の使用を有効/無効にするためにチェック/チェックを外します。 注意: 無効にすると、無地の背景（濃い青）が使用されます。												
カスタム壁紙を有効	カスタム壁紙の使用を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。チェックすると、さらに多くの設定が表示されます。 詳しくは“2.3.8 カスタム壁紙の使用 (P.83)”をご覧ください。												
ダウンロード													
カスタム壁紙ファイル													
壁紙スタイル	ドロップダウンメニューをクリックして、壁紙の適用方法を選択します。5つのオプションが利用可能です。 中央, Tiled, 拡大/縮小, スケール と ズーム 。 <table border="1" data-bbox="462 981 1321 1294"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央</td> <td>元の画像を画面の中央に配置します。</td> </tr> <tr> <td>Tiled</td> <td>画面に元の画像を並べて表示します。</td> </tr> <tr> <td>拡大/縮小</td> <td>画面に合わせて画像を中央に配置し、拡大/縮小します。</td> </tr> <tr> <td>スケール</td> <td>上下または左右が画面に合うまで、画面に合わせて画像を中央に配置してサイズを調整します。</td> </tr> <tr> <td>ズーム</td> <td>画像を中央に配置してサイズを調整し、画面全体に表示します。</td> </tr> </tbody> </table> 注意: 接続されているディスプレイのサイズによっては、2つのオプションが同じ効果を持つ場合があります。	オプション	説明文	中央	元の画像を画面の中央に配置します。	Tiled	画面に元の画像を並べて表示します。	拡大/縮小	画面に合わせて画像を中央に配置し、拡大/縮小します。	スケール	上下または左右が画面に合うまで、画面に合わせて画像を中央に配置してサイズを調整します。	ズーム	画像を中央に配置してサイズを調整し、画面全体に表示します。
オプション	説明文												
中央	元の画像を画面の中央に配置します。												
Tiled	画面に元の画像を並べて表示します。												
拡大/縮小	画面に合わせて画像を中央に配置し、拡大/縮小します。												
スケール	上下または左右が画面に合うまで、画面に合わせて画像を中央に配置してサイズを調整します。												
ズーム	画像を中央に配置してサイズを調整し、画面全体に表示します。												
壁紙	ドロップダウンメニューをクリックして、Atrustの壁紙の色を選択します。4色をご用意： 緑、青、オレンジとシアン 。												
タスクバー													
項目	説明文												
タスクバー自動非表示	自動的に非表示にするか、常にタスクバーを表示するには、チェックをオン/オフにします。												
タスクバーサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、目的のタスクバーサイズを選択します。												

3. **[保存]**をクリックして適用します。

2.3.5 表示ショートカットを使用した表示設定の構成

デスクトップの **Display** ショートカット  を使用して表示設定を構成するには、次の手順を実行します。



注意

- デフォルトでは、このショートカットは非表示になっています。デスクトップに表示するには、2.3.4(P.76)を参照してください。



注意

- 一部のデバイスまたはディスプレイは、このツールをサポートしていない場合があります。
- 一部のデバイスでは、**DVI-I**ポートに接続すると、**DVI-D**ディスプレイが正常に機能しません。

1. ローカルデスクトップで  をダブルクリックします。
2. 開いたウィンドウの表示設定を構成します。

例：接続されている単一のディスプレイ



例：デュアルディスプレイ接続、クローンモード



注意

- [ミラーディスプレイ (クローンモード)] をオンにすると、各ディスプレイの解像度が自動的に同じに設定され、変更できない場合があります。

例：デュアルディスプレイ接続、拡張モード




注意


- デュアルディスプレイが接続されている場合、プライマリディスプレイを使用して目的のプライマリディスプレイを設定できます。

3. 完了したら、[閉じる]をクリックして終了します。

2.3.6 画面アイコンのドラッグによる実際の表示配置の反映

Display  では、画面アイコンをドラッグして、拡張モードでのディスプレイの実際の配置を反映できます。

これを行うには、以下を実行してください。

1. ローカルデスクトップで、 をダブルクリックします。
2. ターゲット画面のアイコンの上にマウスを置きます。ポインタが矢印から手に切り替わります。
3. 次に、画面アイコンをドラッグして場所を変更します。



例：No.1画面を上部にドラッグ



例：No.1画面を右にドラッグ



4. 完了したら、**[適用]**をクリックして変更を有効にします。

2.3.7 クイックアクセスショートカットの非表示または表示

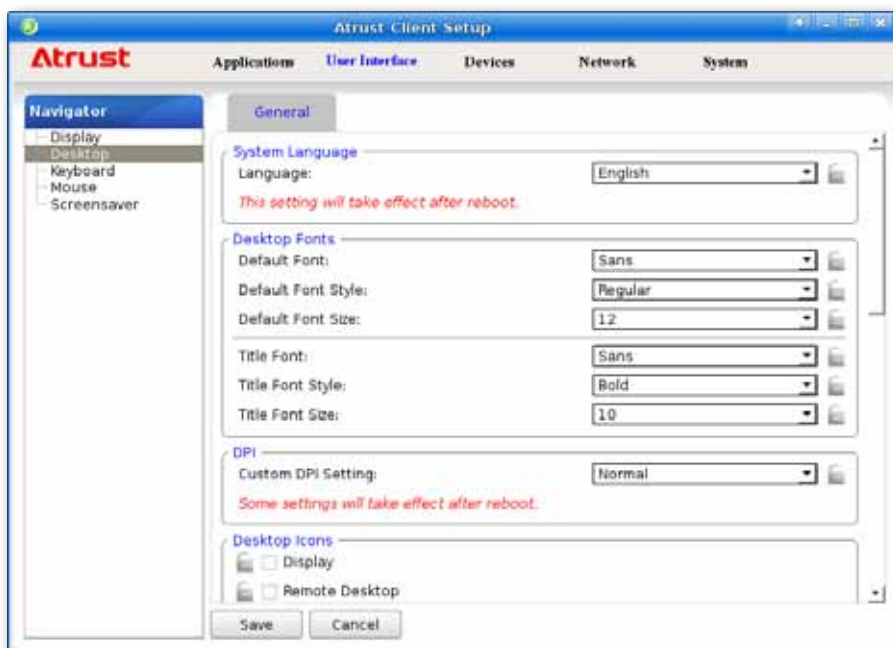
クイック接続モードが無効になっている場合、スイッチの[スタート]メニューのAtrustクイック接続のショートカットとローカルLinuxデスクトップは非表示になります。



クイック接続モードが無効になっているときにサービスにすばやくアクセスする場合は、[スタート]メニューとローカルLinuxデスクトップにクイックアクセスショートカットの**リモートデスクトップ / Citrix / VMware View / ThinLinc**を表示するように選択できます。これらのショートカットを使用すると、クイック接続モードが無効になっているときにサービスにすばやくアクセスできます。デフォルトでは非表示になっています。

[スタート]メニューの**リモートデスクトップ / Citrix / VMware View / ThinLinc**およびローカルLinuxデスクトップのショートカットを表示/非表示にするには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、**[ユーザーインターフェイス]> [デスクトップ]**をクリックします。



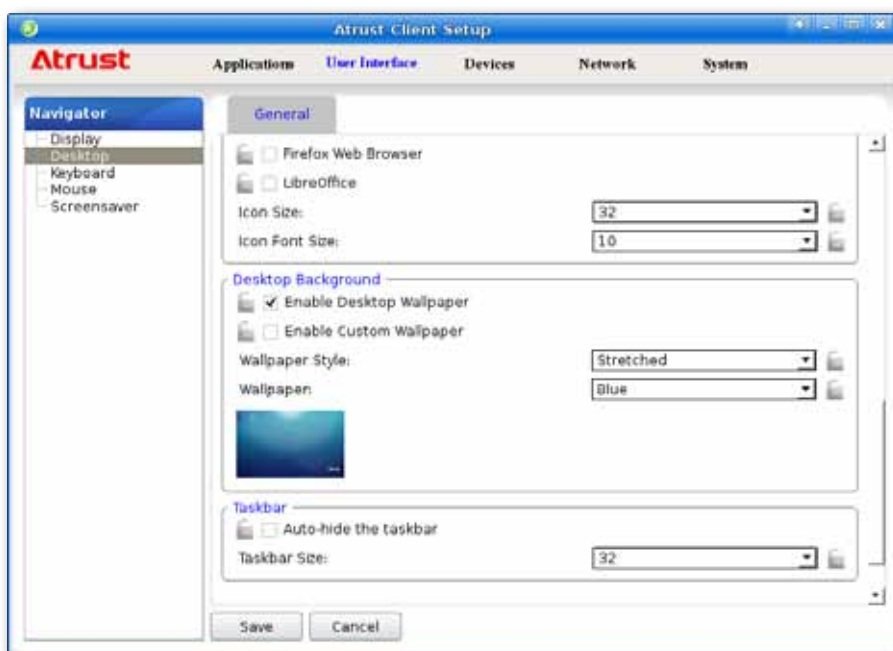
2. [デスクトップアイコン]セクションの[リモートデスクトップ/ Citrix / VMware View / ThinLinc]をクリックしてオン/オフにし、[スタート]メニューおよびローカルLinuxデスクトップのクイックアクセスショートカットリモートデスクトップ/ Citrix / VMwareビュー/ ThinLincを表示/非表示にします。
3. [保存]をクリックして変更を適用します。
4. 選択したショートカットが表示/非表示になります。



2.3.8 カスタム壁紙の使用

カスタムの壁紙を使用するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[ユーザーインターフェイス]> [デスクトップ]をクリックします。



2. **[カスタム壁紙を有効にする]**をオンまたはオフにして、カスタム壁紙の使用を有効または無効にします。
3. 壁紙を適用する方法と、画像ファイルをダウンロードまたは取得する場所を選択します。壁紙を取得するには、**自動設定**、**デバイスマネージャー**、**ファイル**の3つのオプションがあります。



注意

- **オートセットアップ**が選択されている場合、シンクライアントはオートセットアップ環境にあり、その環境用に適切に構成されている必要があります。詳細については、“オートセットアップの有効化または無効化 (P. 53)”を参照してください。
- **デバイスマネージャー**が選択されている場合、シンクライアントはAtrust Device Managerによって管理されている必要があります。詳細については、Atrust Device Managerのユーザーズマニュアルを参照してください。

4. 必要に応じて、その他の情報を提供します。



注意

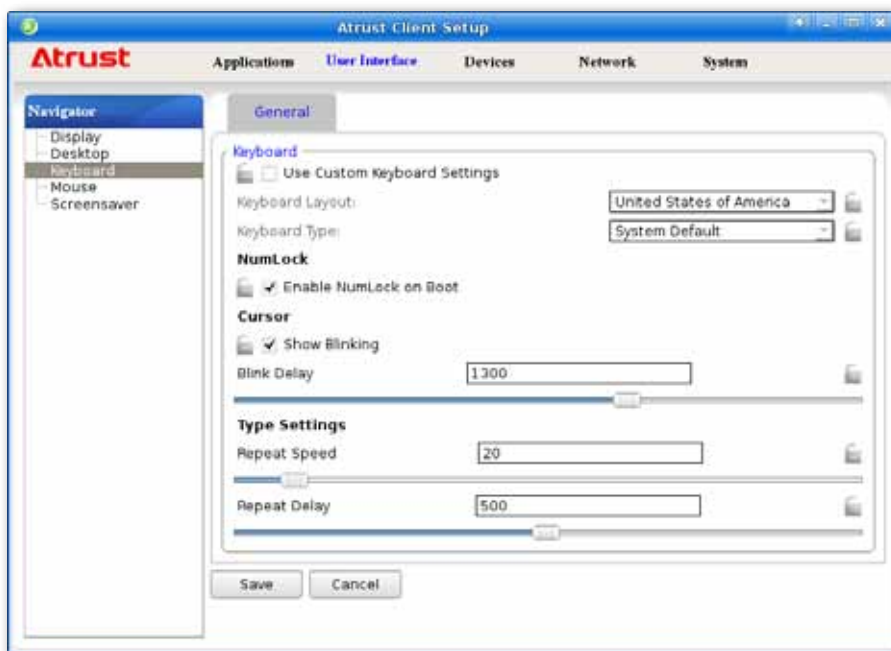
- **[ファイル]**を選択した場合は、ローカルに接続されたUSBフラッシュドライブなど、イメージファイルをローカルに取得する場所を指定する必要があります。
- カスタム壁紙ファイルの最大許容サイズは**5 MB**です。

5. **[保存]**をクリックして確定します。

2.3.9 キーボード設定の調整

P2Tシンクライアントのキーボード設定を調整するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**[ユーザーインターフェイス]> [キーボード]**をクリックします。



2. ドロップダウンメニューをクリックするか、チェックボックスをオンまたはオフにするか、スライダーを動かして、目的の設定を選択します。各設定項目の説明については、次の表を参照してください。

キーボード		
項目		説明文
カスタムキーボード設定		カスタムキーボード設定の使用を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。 注意: この設定が有効になっている場合にのみ、キーボードのレイアウトとタイプを設定できます。
キーボードレイアウト		ドロップダウンメニューをクリックして、目的のキーボードレイアウトを選択します。
キーボードタイプ		ドロップダウンメニューをクリックして、目的のキーボードタイプを選択します。
起動時Numlock有効		システムの起動後にNumLockキーを有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。
カーソル	点滅	カーソルの点滅を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します（ローカルデスクトップのみ）。
	点滅時間	スライダーを動かして、カーソルが出現するまでの点滅間隔を選択します。
タイプ設定	リピート速度	スライダーを動かして、キーを押したときの文字リピート率を選択します。
	リピート遅延	スライダーを動かして、各出現間の文字繰り返し遅延を選択します。



ヒント

- 上/下矢印の上にマウスを置いて、キーボードレイアウトリストをすばやく上下にスクロールします。



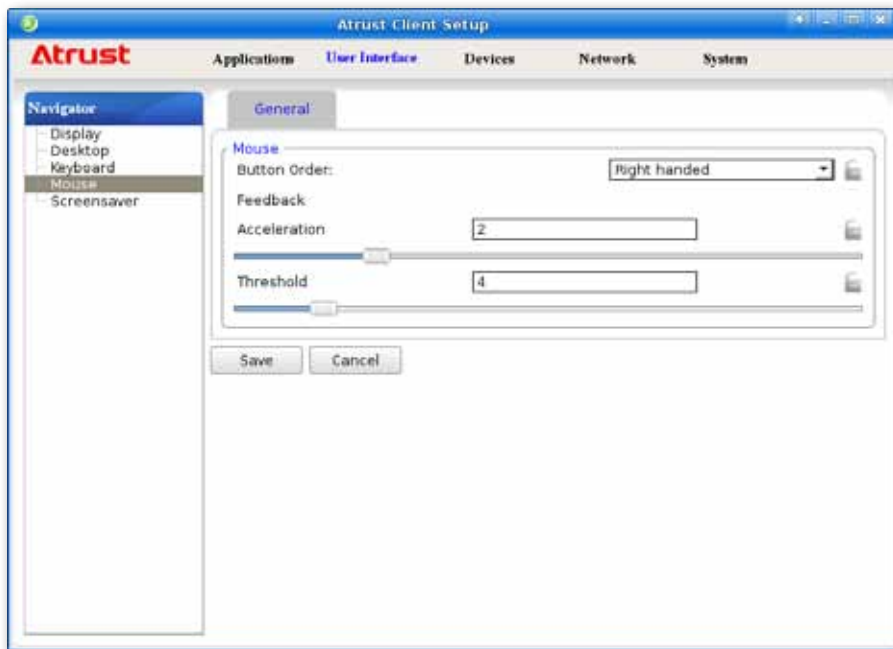
- 設定値を微調整するには、そのスライダーをクリックし、右/左キーを使用して値を1ずつ増減するか、Page Up / Page Downキーを使用して10ずつ増減します。

3. **[保存]**をクリックして適用します

2.3.10 マウス設定の構成

P2Tシンクライアントのマウス設定を構成するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、[ユーザーインターフェイス]> [マウス]をクリックします。



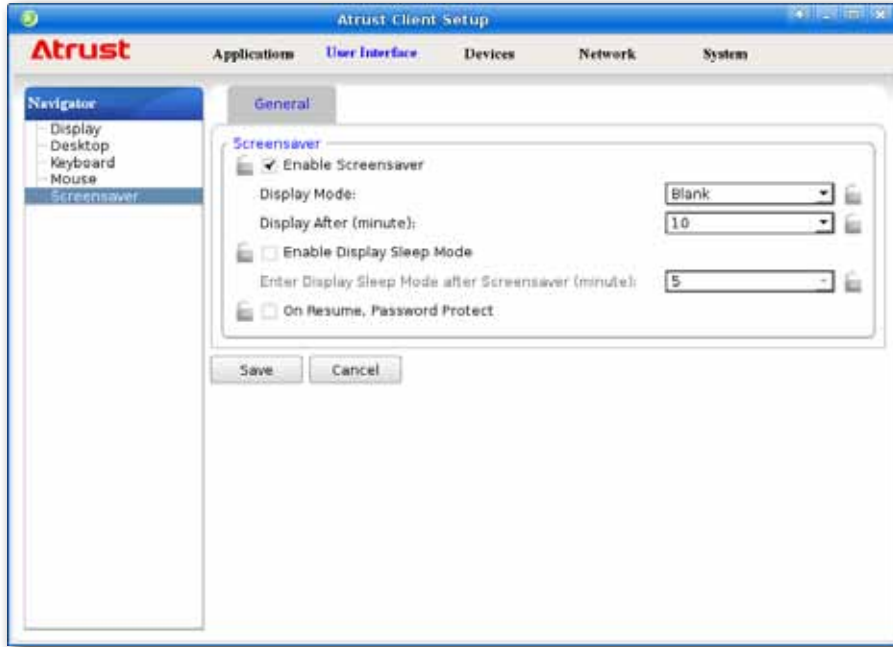
2. ドロップダウンメニューをクリックするか、スライダーを動かして、目的の設定値を選択します。各設定項目の説明については、次の表を参照してください。

マウス		
項目		説明文
ボタン設定		ドロップダウンメニューをクリックして、右利き用と左利き用のマウスボタンを切り替えます。
フィードバック	加速度	スライダーを動かして、マウスの移動速度を選択します。
	しきい値	スライダーを動かして、マウスが加速し始めるまでの移動距離（ピクセル）を選択します。

2.3.11 スクリーンセーバー設定の構成

P2Tシンクライアントのスクリーンセーバー設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、[ユーザーインターフェイス]> [スクリーンセーバー]をクリックします。



2. ドロップダウンメニューまたはチェックボックスをクリックして、必要な設定を選択します。

スクリーンセーバー									
項目	説明文								
スクリーンセーバー有効	スクリーンセーバーを有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。								
ディスプレイモード	<p>スクリーンセーバーの表示モードをクリックして選択します。空白、ロゴ、画像の3つのオプションを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブランク</td> <td>黒い画面を表示します。</td> </tr> <tr> <td>ロゴ</td> <td>Atrustフローティングロゴを表示します。</td> </tr> <tr> <td>イメージ</td> <td>指定した画像を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	ブランク	黒い画面を表示します。	ロゴ	Atrustフローティングロゴを表示します。	イメージ	指定した画像を表示します。
オプション	説明文								
ブランク	黒い画面を表示します。								
ロゴ	Atrustフローティングロゴを表示します。								
イメージ	指定した画像を表示します。								
待機時間 (分)	スクリーンセーバーの待機時間をクリックして選択します。								

使用する場所	<p>クリックして画像を取得し、スクリーンセーバーに使用する場所を選択します。3つのオプション、デフォルト、自動セットアップ、Atrust Device Managerを使用できます。</p>								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デフォルト</td> <td>P2Tシンクライアントのデフォルトイメージを使用します。</td> </tr> <tr> <td>オートセットアップ</td> <td>自動設定から画像を取得して使用します。</td> </tr> <tr> <td>Atrust Device Manager</td> <td>Atrust Device Managerからイメージを取得して使用します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	デフォルト	P2Tシンクライアントのデフォルトイメージを使用します。	オートセットアップ	自動設定から画像を取得して使用します。	Atrust Device Manager	Atrust Device Managerからイメージを取得して使用します。
	オプション	説明文							
	デフォルト	P2Tシンクライアントのデフォルトイメージを使用します。							
	オートセットアップ	自動設定から画像を取得して使用します。							
Atrust Device Manager	Atrust Device Managerからイメージを取得して使用します。								
<p>注意: オートセットアップの詳細については、ユーザーズガイドを参照してください。</p>									
<p>注意: Atrust Device Managerの詳細については、そのユーザーマニュアルを参照してください。</p>									
画像変更感覚	クリックして、表示される画像を変更する間隔を設定します。								
スリープモード	オンにすると、ディスプレイがオフになり（信号の送信が停止され）、エネルギーを最大限に節約できます。								
スクリーンセーバー後のスリープモード	スクリーンセーバーの起動後にディスプレイをオフにする（信号の送信を停止する）タイミングを選択するときにクリックします。								
復帰後のパスワード	オン/オフすると、パスワードあり/なしで再開できます。								



ヒント

- スクリーンセーバーの待機時間を設定している間、上/下矢印の上にマウスを置くと、分リストをすばやく上下にスクロールできます。

3. **[保存]**をクリックして適用します。

2.4 外部デバイス設定の構成

2.4.1 [デバイス]タブの概要

[デバイス]タブでは、クライアントの外部デバイスの設定を構成できます。[デバイス]タブの利用可能な設定にアクセスするには、Atrust Client Setupのタブをクリックします。




[デバイス]タブの概要



インターフェース要素

No.	名前	説明文
1	ナビゲーションエリア	[デバイス]タブの設定項目をクリックして選択するか、選択した設定項目の設定エントリを選択します。
2	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

2.4.2 設定一覧

タブ	設定	アイコン	説明文	セクション	ページ
デバイス	USBストレージ		USBストレージデバイスの設定を構成するときにクリックします。	2.4.3 2.4.4	90 91
	オーディオ		クリックして、オーディオデバイスの設定を構成します。	2.4.5 2.4.6	92 93
	プリンター		クリックして、ローカルまたはネットワークプリンターを追加します。	2.4.7 2.4.8	94 97

2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成

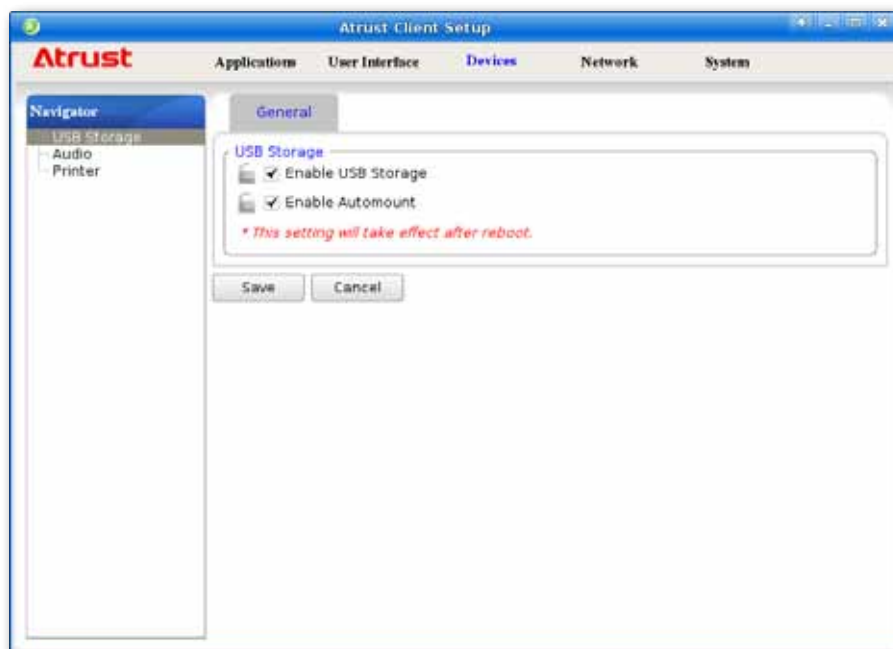
USBストレージデバイスの設定を構成するには、次の操作を行います。



注意

- ローカルまたは仮想セッションでローカルに接続されたUSBストレージデバイスにアクセスするには、この設定項目で適切な設定を構成する必要があります。

1. Atrust Client Setupで、[デバイス]> [USBストレージ]をクリックします。



2. チェックボックスをオンまたはオフにして、必要な設定を選択します。

USBストレージデバイスの設定	
項目	説明文
USBストレージ有効	<p>USBストレージデバイスへのアクセスを許可/禁止するには、このチェックボックスをオン/オフにします。</p> <p>注意: RDP / ICA / View / 2Xセッションでローカルに接続されたUSBストレージデバイスを使用するには、このセッションのRDP / ICA / View / 2X接続設定でローカルUSBストレージデバイスのマッピングを有効にする必要があります。詳細な手順と関連する設定については、セクションを参照してください。</p> <p>“2.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.140)” “2.6.11 ICA接続の詳細設 (P.179)” “2.6.14 詳細ビュー接続設定の構成 (P.213)” “2.6.22 高度なRAS / RDP接続設定の構成 (P.232)”</p>
自動マウント有効	<p>USBストレージデバイスの自動マウントを有効/無効にするには、このチェックボックスをオン/オフにします。</p> <p>注意: この設定が無効になっている場合、ユーザーは接続されたUSBストレージデバイスを手動でマウントする必要があります。詳細な手順については、セクション“2.4.4 接続されたUSBストレージデバイスを手動でマウントおよびイジェクトする (P.91)”を参照してください。</p>

3. **[保存]**をクリックして変更を保存します。



注意

- 変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。

2.4.4 接続されたUSBストレージデバイスを手動でマウントおよびイジェクトする

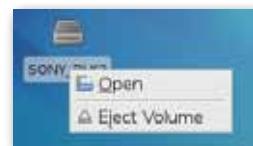
接続されたUSBストレージデバイスをマウント/イジェクトするには、次の手順を実行してください。



注意

- **[自動マウントを有効にする]**がオンになっている場合（“2.4.4 接続されたUSBストレージデバイスを手動でマウントおよびイジェクトする (P.91)”のセクションを参照）、接続されているUSBストレージデバイスが自動的にマウントされます。

1. 接続されているUSBストレージデバイスのデスクトップアイコンを右クリックします。
2. ポップアップメニューが表示されます。



3. ボリュームのマウント/ボリュームの排出をクリックして選択し、接続されたUSBストレージデバイスをマウント/排出します。

2.4.5 接続されたオーディオデバイスの無効化または有効化

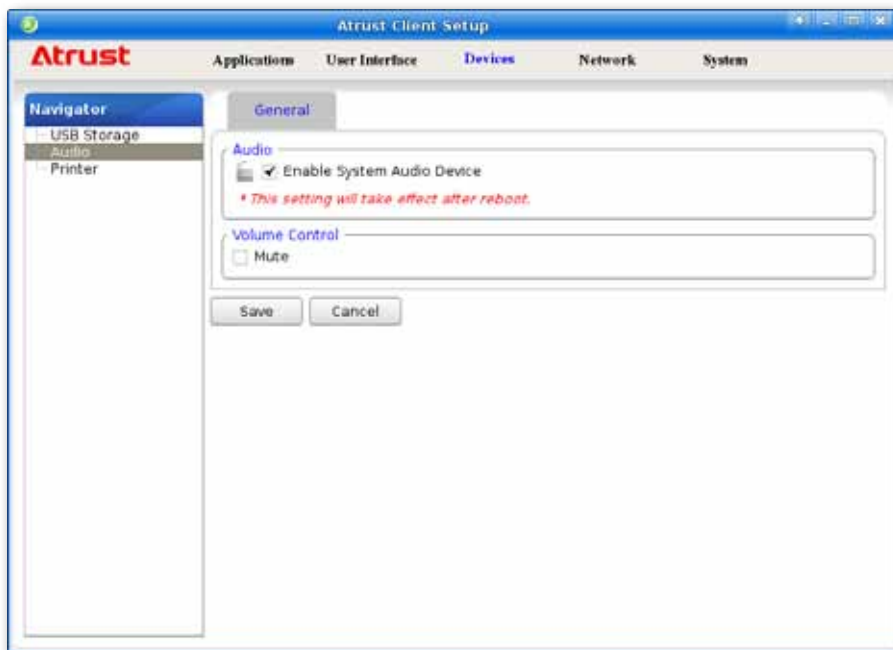
接続されているオーディオデバイスを無効/有効にするには、次の操作を行います。



注意

- ローカルに接続されたオーディオデバイスを無効にすると、クライアントユーザーは、RDP / ICA / View / 2Xセッションでこれらのデバイスを使用してオーディオの再生または録音を実行できなくなります。

1. Atrust Client Setupで、[デバイス]> [オーディオ]をクリックします。



2. デフォルトでは、システムオーディオデバイスは有効になっています。 [システムオーディオデバイスを有効にする]をクリックしてオン/オフにします。
3. [保存]をクリックして選択を確認し、再起動して有効にします。



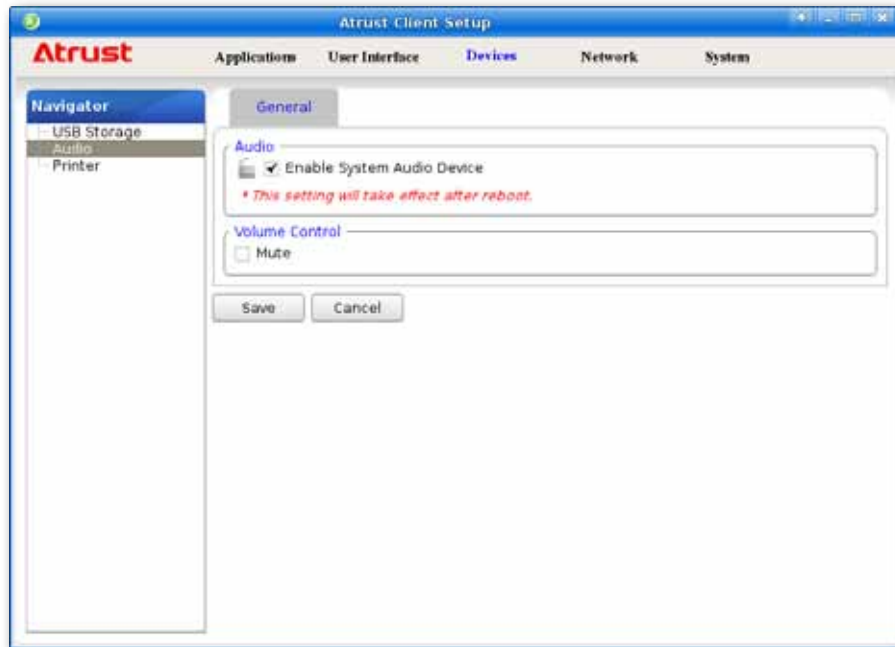
注意

- ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用するには、ミキサーでオーディオ設定を構成する必要がある場合があります。そのためには、クイック接続画面またはローカルデスクトップで、右下隅のスピーカーアイコンをクリックし、[ミキサー]をクリックして[ミキサー]ウィンドウを開きます。
- RDP / ICA / View / 2Xセッションでローカルオーディオデバイスを使用してオーディオの再生または録音を実行するには、RDP / ICA / View / 2X接続設定でオーディオ設定を構成する必要がある場合があります。詳細な手順については、セクションを参照してください。
 - “2.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.140)”
 - “2.6.11 ICA接続の詳細設 (P.179)”
 - “2.6.14 詳細ビュー接続設定の構成 (P.213)”
 - “2.6.22 高度なRAS / RDP接続設定の構成 (P.232)”

2.4.6 サウンドをミュートまたはミュート解除する

Atrust Client Setupを使用してサウンドをミュート/ミュート解除するには、以下を実行してください：

1. Atrust Client Setupで、[デバイス]> [オーディオ]をクリックします。

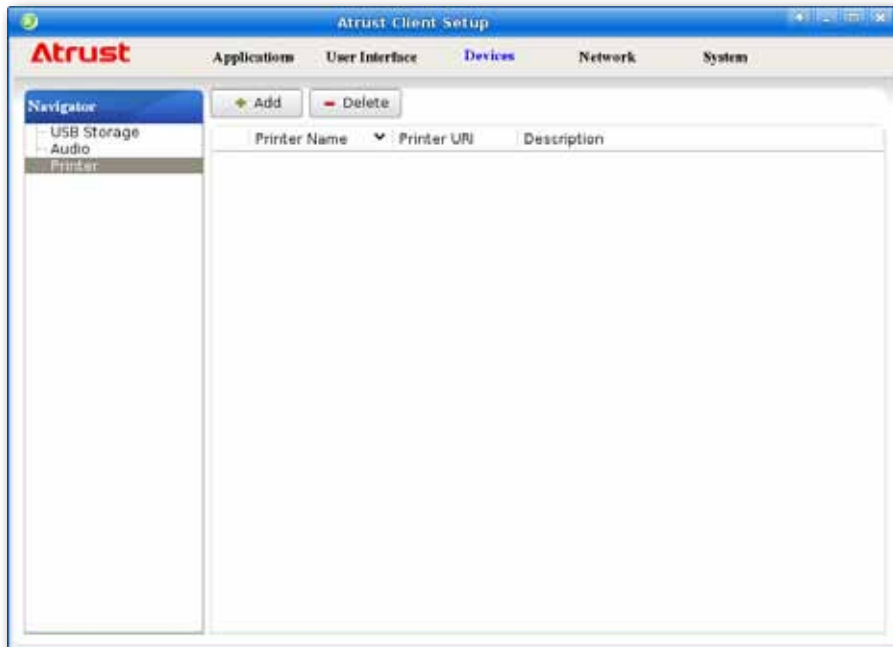


2. 音量コントロールセクションで、**ミュート**をオン/オフにして、サウンドをミュート/ミュート解除します。
3. **[保存]**をクリックして適用します。

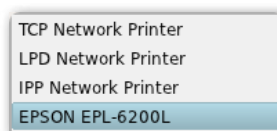
2.4.7 ローカルプリンターの追加

P2Tシンクライアントのローカルプリンターを追加するには、次の操作を行います。

1. 目的のプリンターをP2Tシンクライアントに接続し、プリンターの電源を入れます。
2. Atrust Client Setupで、**[デバイス]> [プリンター]**をクリックします。

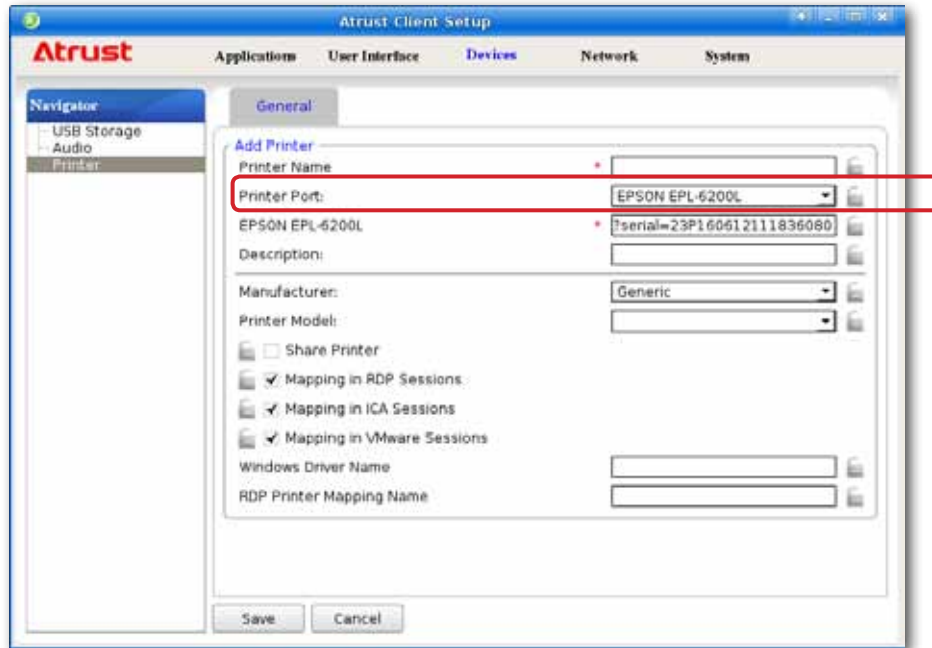


3. プリンターリストの上部にある**[追加]**をクリックします。
4. システムは、使用可能なローカルプリンターの検索を自動的に開始します。
5. 完了すると、検出されたローカルプリンターが**[プリンターポート]**ドロップダウンメニューに一覧表示されます。
6. **[プリンターポート]**ドロップダウンメニューをクリックして、目的のローカルプリンターを選択します。



7. **[プリンターの追加]**セクションのフィールドは、選択したプリンターの種類に合わせて自動的に変更されます。

8. 選択したプリンターのフィールドが表示され、プリンターURI (Uniform Resource Identifier) データがフィールドに自動的に入力されます。



注意

- URI (Uniform Resource Identifier) は、インターネット上のリソースを識別するために使用される文字のシーケンスです。

9. 製造元とプリンターモデルのドロップダウンメニューをクリックして、接続されているローカルプリンターの製造元とモデルを選択します。



注意

- プリンターが正常に動作するには、これら2つのメニューで正しい情報を指定する必要があります。そうしないと、プリンターが機能しなくなります。


10. 次の表を参照して、必要な設定を構成してください。



注意

- プリンターのWindowsドライバー名を指定する必要がある場合があります。詳細については、表の説明を参照してください。

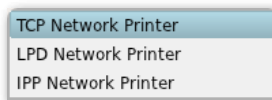
11. 目的のプリンター名を入力し、**[保存]**をクリックして適用します。

プリンターの設定	
項目	説明文
プリンタを共有	<p>プリンタを共有するには、チェックボックスをオン/オフにします。</p> <p>プリンタの共有がチェックされると、同じネットワークセグメント内の他のコンピュータがプリンタを使用できるようになります。</p> <p>この共有プリンターを他のコンピュータで使用できるように追加するには、次の操作を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows Server 2008 R2などのWindows Serverオペレーティングシステムを実行しているコンピュータの場合、最初にインターネット印刷クライアント機能を追加してください ([スタート]> [すべてのプログラム]> [管理ツール]> [サーバーマネージャー]> [アクション]> [機能の追加]> [インターネット印刷クライアント])をクリックし、ウィザードに従ってください。タスクを完了してから、システムを再起動します。 2. [スタート]> [デバイスとプリンター]> [プリンターの追加]> [ネットワーク、ワイヤレスまたはBluetoothプリンターの追加]をクリックします。 3. [停止]をクリックしてプリンターの自動検索をキャンセルし、[探しているプリンターはこの一覧にはありません]をクリックします。 4. [名前前で共有プリンターを選択する]に"http://IP address of your thin client:631/printers/Printer Name"と入力します。 <p>注意: たとえば、プリンターがシンクライアントにローカルに接続され、Atrust Client Setupを介してプリンター名EPSでローカルプリンターとして追加され、シンクライアントのIPアドレスが192.168.50.146であるとする。ここに入力する必要があります: http://192.168.50.146:631/printers/EPS</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. [次へ]をクリックして続行します。 6. プリンターの製造元とモデルを選択し、[OK]をクリックして正しいドライバーをインストールします。 7. 完了すると、成功メッセージが表示されます。[次へ]をクリックして続行します。 8. 表示されたページで、[テストページの印刷]をクリックしてプリンターをテストします。 9. [完了]をクリックして適用します。プリンタが[プリンタとFAX]リストに追加されます。
RDPセッションでのマッピング	RDPセッションでローカルに接続されているプリンターを有効/無効にするには、オン/オフにします。
ICAセッションでのマッピング	ICAセッションでローカルに接続されているプリンターを有効/無効にするには、オン/オフにします。
VMwareセッションでのマッピング	ビューセッションでローカルに接続されたプリンターを有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。
Windowsドライバー名	<p>プリンタがセッションで適切に機能する場合は、このフィールドを空白のままにします。プリンターが機能しない場合は、このフィールドに入力すると問題が解決することがあります。</p> <p>必要な情報を見つけるには、以下を実行してください</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows OSを実行しているコンピュータにプリンターを接続し、必要なインストールを完了して、プリンターが正常に動作することを確認します。 2. [スタート]> [デバイスとプリンター]をクリックし、開いたウィンドウでプリンターを右クリックして、ポップアップメニューを開きます。 3. ポップアップメニューで、[プリンターのプロパティ]をクリックして選択します。 4. 開いたウィンドウで、[詳細]をクリックします。ドライバー名が表示されます。 
RDPプリンターマッピング名 (RDPセッションのみ)	セッションで目的のプリンター名を入力します (Windowsデスクトップ)。このフィールドが空白のままの場合、[プリンタ名]フィールドに入力した名前が使用されます。

2.4.8 ネットワークプリンターの追加

P2Tシンクライアント用のネットワークプリンターを追加するには、次の操作を行います。

1. P2Tシンクライアントがネットワークに接続され、目的のネットワークプリンターがオンになっていることを確認します。
2. Atrust Client Setupで、**[デバイス]> [プリンター]**をクリックします。
3. プリンターリストの上部にある**[追加]**をクリックします。
4. システムは、使用可能なローカルプリンターの検索を自動的に開始します。完了すると、検出されたローカルプリンターが**[プリンターポート]**ドロップダウンメニューに一覧表示されます。
5. **[プリンターポート]**ドロップダウンメニューをクリックして、目的のネットワークプリンターを選択します。**TCPネットワークプリンター**、**LPDネットワークプリンター**、**IPPネットワークプリンター**の3種類のネットワークプリンターを使用できます。



6. **[プリンターの追加]**セクションのフィールドは、選択したプリンターの種類に合わせて自動的に変更されます。
7. TCPプリンターサーバー、LPDプリンターサーバー、またはIPP URIフィールドにネットワークプリンターのIPアドレスを入力します。

Add Printer

Printer Name *

Printer Port:

TCP Print Server *

TCP Port

Description:

Add Printer

Printer Name *

Printer Port:

LPD Print Server *

LPD Queue Name

Description:

Add Printer

Printer Name *

Printer Port:

IPP URI *

Description:

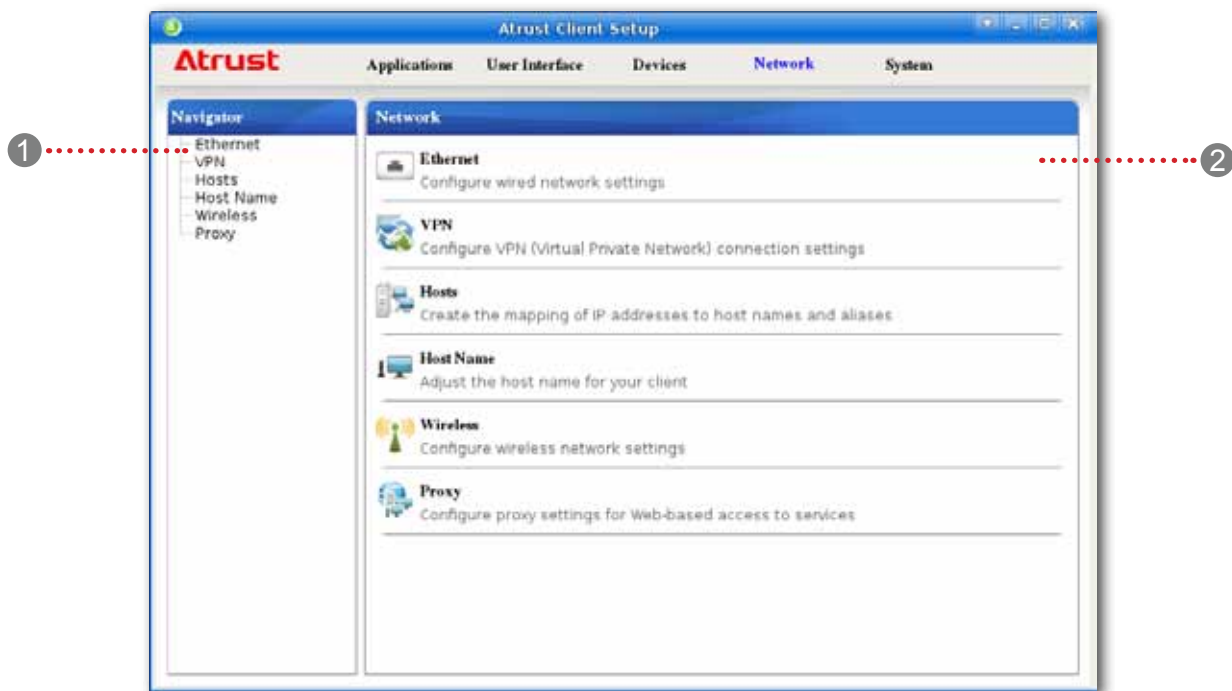
8. 製造元とプリンターモデルのドロップダウンメニューをクリックして、目的のネットワークプリンターの製造元とモデルを選択します。
9. (ページ96) の表を参照してその他のプリンター設定を構成し、**[保存]**をクリックして適用します。

2.5 ネットワーク設定の構成

2.5.1 [ネットワーク]タブの概要

[ネットワーク]タブでは、クライアントのネットワーク設定を構成できます。[ネットワーク]タブの利用可能な設定にアクセスするには、Atrust Client Setupのタブをクリックします。

[ネットワーク]タブの概要



インターフェース要素

No.	名前	説明文
1	ナビゲーションエリア	クリックして、[ネットワーク]タブの設定項目を選択するか、選択した設定項目の設定エントリを選択します。
2	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

2.5.2 設定一覧

タブ	設定	アイコン	説明文	セクション	ページ
ネットワーク	イーサネット		クリックして有線ネットワーク設定を構成します。	2.5.3 2.5.4 2.5.5	100 103 104
	VPN		クリックしてVPN（仮想プライベートネットワーク）接続設定を構成し、VPN接続を作成します。	2.5.6 2.5.7	105 109
	ホスト(Hosts)		クリックすると、IPアドレスとホストサーバーの名前のマッピングが作成され、フェールオーバークラスターリストが作成されます。	2.5.8 2.5.9	110 112
	ホストネーム		クリックして、Thin Clientのホスト名を変更します。	2.5.10	114
	ワイヤレス		クリックしてワイヤレスネットワーク設定を構成し、ワイヤレス接続を作成します。	2.5.11 2.5.12 2.5.13 2.5.14	115 116 117 120
	プロキシ		サービスへのWebベースのアクセスのプロキシ設定を構成するときにクリックします。	2.5.15	121

2.5.3 有線ネットワーク設定の構成

イーサネット設定を使用すると、P2Tシンクライアントの有線ネットワーク設定を構成できます。

イーサネットネットワークインターフェイスの有効化または無効化

イーサネットネットワークインターフェイスを有効/無効にするには、次の手順に従ってください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>イーサネット**をクリックします。
2. [インターフェイス]セクションで、**[有効にする]**をオンまたはオフにして、イーサネットネットワークインターフェイスを有効または無効にします。

The screenshot shows a configuration window with three sections: 'Interface' with a checked 'Enable' checkbox, 'IP Address' with a dropdown menu set to 'DHCP', and 'DNS' with a dropdown menu set to 'Dynamic DNS (via DHCP)'. Each section has a small icon to its right.

3. **[保存]**をクリックして適用します。

動的IPアドレスの使用

動的IPアドレスを使用するには、以下を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>イーサネット**をクリックします。
2. [IPアドレス]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、[IPタイプ]フィールドで**[DHCP]**を選択します。



注意

- DHCPが選択されている場合、ネットワーク上のDHCPサーバーはP2TシンクライアントにIPアドレスを自動的に割り当てます。これがデフォルトの設定です。

3. **[保存]**をクリックして適用します。

静的IPアドレスの使用

静的IPアドレスを使用するには、次の操作を行います。



注意

- 企業ネットワーク環境では、P2Tシンクライアントに動的IPアドレスを使用することをお勧めします。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>イーサネット**をクリックします。
2. [IPアドレス]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、[IPタイプ]フィールドで**[静的IP]**を選択します。
3. IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイの各フィールドが[IPアドレス]セクションに表示されます。

4. P2TシンクライアントのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力します。

IP address	
IP type:	Static IP
IP address:	* 192.168.12.88
Subnet mask:	* 255.255.255.0
Gateway:	* 192.168.12.254



注意

- P2Tシンクライアントが接続するネットワークに関する無料のIPアドレスやその他の必要なデータについては、ネットワーク管理者に問い合わせてください。赤いアスタリスクは必須フィールドを示します。

5. **[保存]**をクリックして適用します。



注意

- 静的IPアドレスを使用する場合は、さらにDNSサーバーアドレスを手動で指定する必要があります。

DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する

DNSサーバーアドレスを自動的に取得するには、次の操作を行います。



注意

- DHCPサーバー経由でIPアドレスを取得しないことを選択した場合、DHCPサーバー経由でDNSサーバーアドレスを自動的に取得することはできません。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>イーサネット**をクリックします。
2. [DNS]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、[DNSタイプ]フィールドで**[動的DNS (DHCP経由)]**を選択します。
3. **[保存]**をクリックして適用します。

DNSサーバーのアドレスを手動で指定する

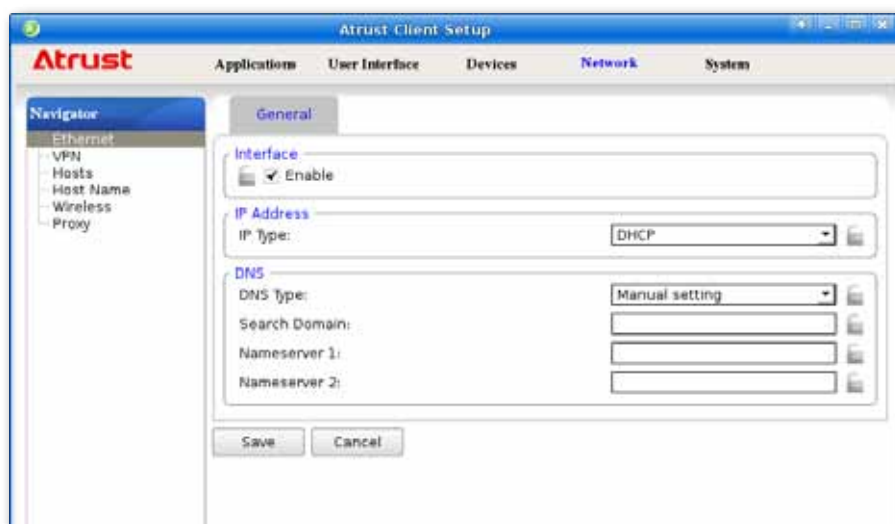
DNSサーバーアドレスを手動で指定するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>イーサネット**をクリックします。
2. [DNS]セクションで、プルダウンメニューをクリックして**[手動設定]**を選択します。
3. **[検索ドメイン]**、**[ネームサーバー-1]**、および**[ネームサーバー-2]**フィールドがDNSセクションに表示されます。



注意

- P2Tシンクライアントに静的IPアドレスを使用する場合は、DNSサーバーアドレスを手動で指定する必要があります。この場合、[DNSの種類]フィールドは表示されず、**[手動設定]**または**[動的DNS (DHCP経由)]**を選択することはできません。



4. Nameserver 1フィールドに優先DNSサーバーアドレスを入力し、存在する場合はNameserver 2フィールドに代替DNSサーバーアドレスを入力します。



注意

- [ドメインの検索]フィールドでドメイン名を指定すると、システムはそのドメイン内のコンピューターをFQDN（絶対ドメイン名）ではなく単にコンピューター名で検出できるようになります。

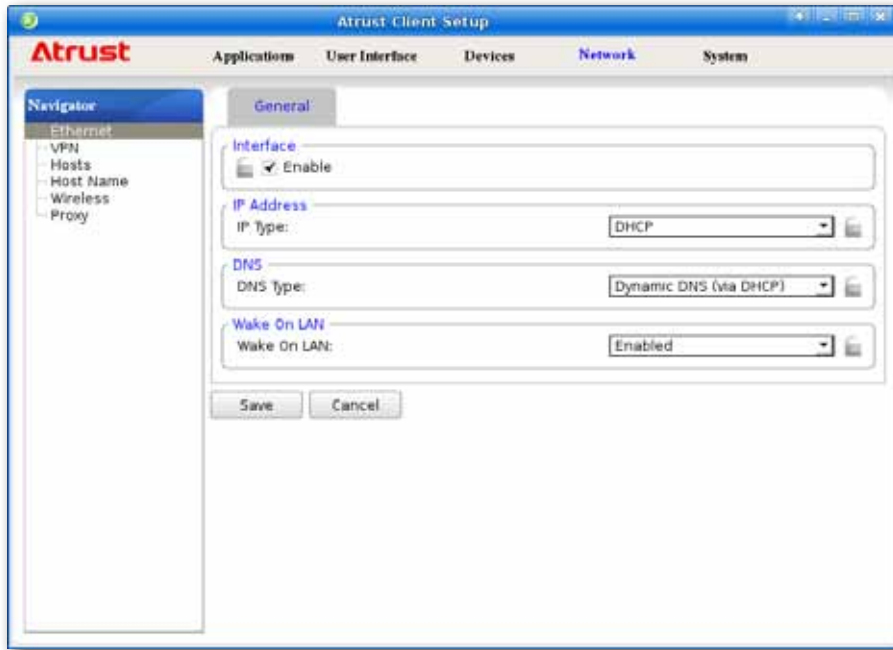
5. **[保存]**をクリックして適用します。

2.5.4 Wake On LANの有効化または無効化

シンクライアントはWake On LANをサポートしており、Atrustが開発したクライアント管理コンソールであるAtrust Device Managerを使用してリモートでウェイクアップできます。

Wake On LANを有効/無効にするには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>イーサネット**をクリックします。



2. ドロップダウンメニューをクリックして、Wake On LANを有効/無効にします。



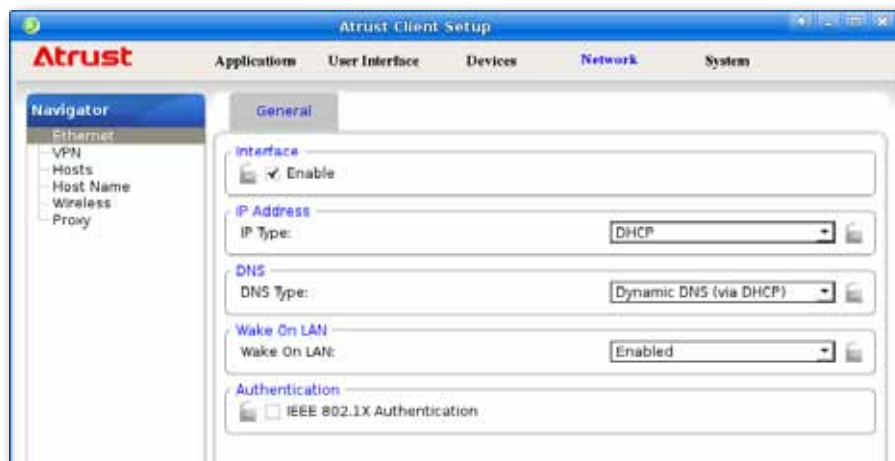
注意

- デフォルトで有効になっています。

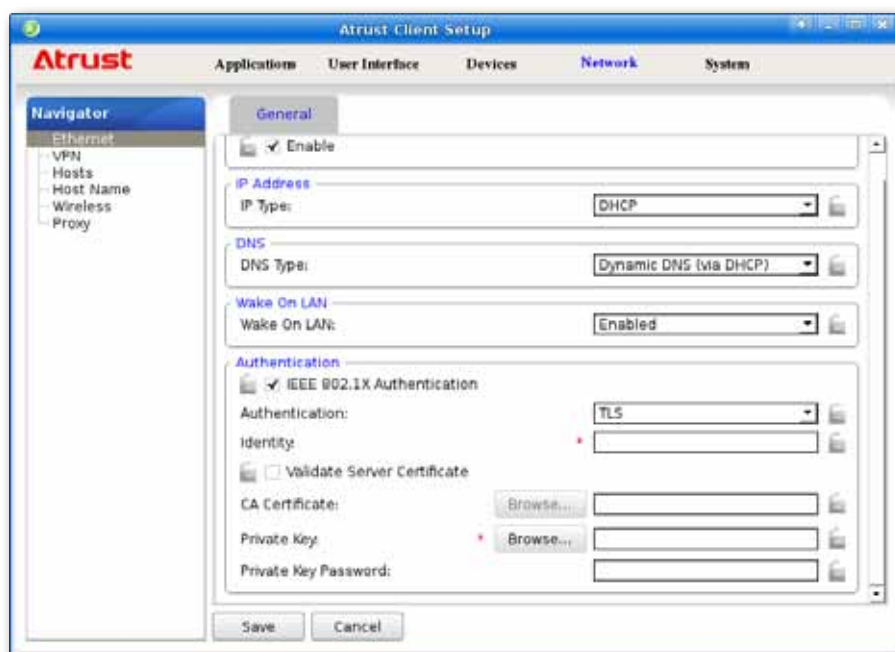
2.5.5 IEEE 802.1X認証の構成

IEEE 802.1X認証を構成するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>イーサネット**をクリックします。



2. [認証]セクションで、**[IEEE 802.1X認証]**をオンまたはオフにして、IEEE 802.1X認証を有効または無効にします。



3. 目的の認証方法を選択し、必要に応じてファイルまたは情報を入力します。



注意

- 必要なファイルまたは構成と認証に関する情報については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

2.5.6 VPN接続の確立と停止

VPN設定により、P2Tシンクライアントの仮想プライベートネットワーク接続を確立/停止できます。



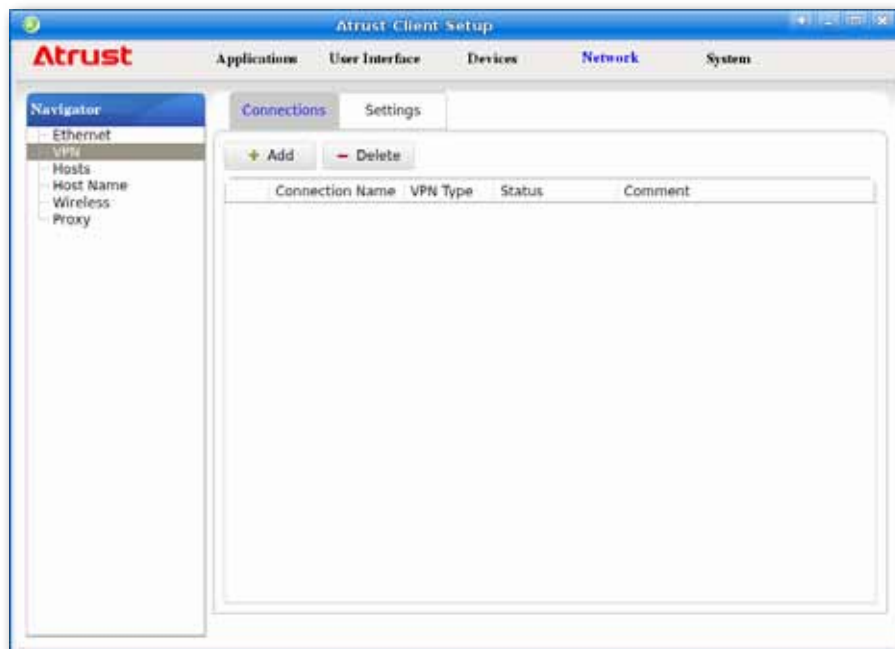
注意

- VPN設定では、仮想プライベートネットワーク設定を構成および管理することもできます。仮想プライベートネットワーク設定を構成および管理する方法については、“2.5.7 仮想プライベートネットワーク設定の構成 (P.109)”セクションを参照してください。

仮想プライベートネットワークの追加

仮想プライベートネットワークを追加するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>VPN**をクリックして、Virtual Private Networkリストを開きます。

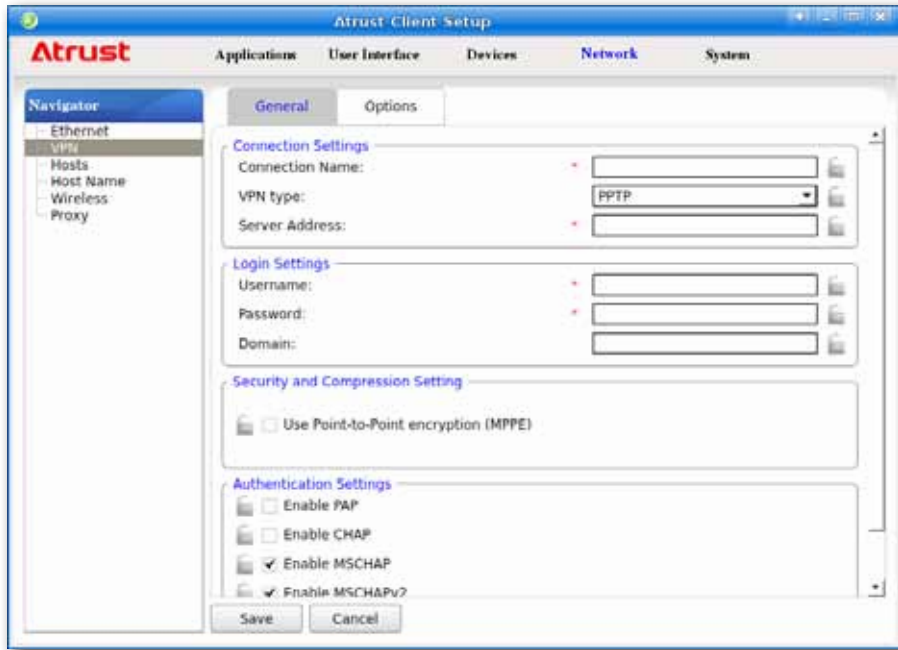


注意

- エントリを作成していない場合、仮想プライベートネットワークリストは空になります。

2. [仮想プライベートネットワーク]リストの上部にある[追加]をクリックします。

3. **[全般]**タブで、ドロップダウンメニューをクリックして、目的のVPNタイプを選択します。**PPTP**、**L2TP**、および**Cisco AnyConnect**の3つのタイプを使用できます。



注意

- 設定項目は、選択したVPNの種類によって異なります。

4. 入力またはドロップダウンメニューをクリックして、構成と認証に関する情報を提供します。



注意

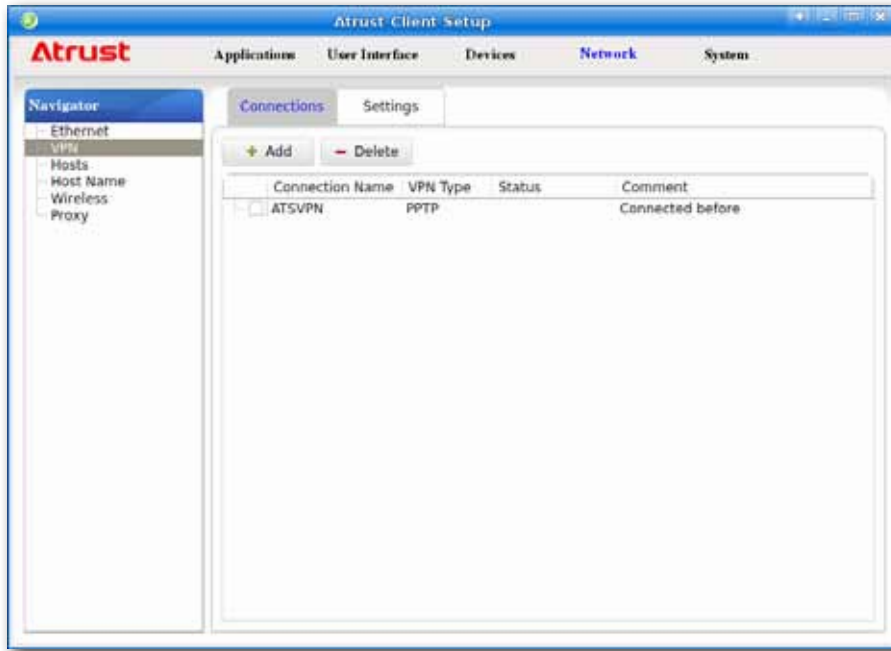
- 構成と認証に必要な情報については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

5. **[オプション]**タブで、必要に応じてDNS関連の設定を構成します。
6. **[保存]**をクリックして、仮想プライベートネットワークを追加します。

仮想プライベートネットワーク接続の確立


P2Tシンクライアントの仮想プライベートネットワーク接続を確立するには、以下を実行してください。

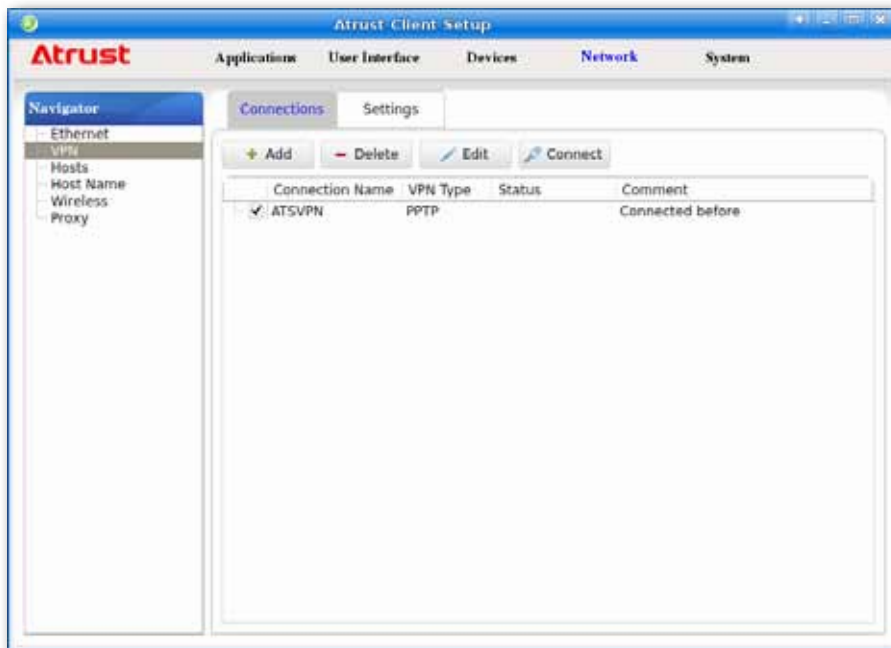
1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク**>**VPN**をクリックして、Virtual Private Networkリストを開きます。



注意

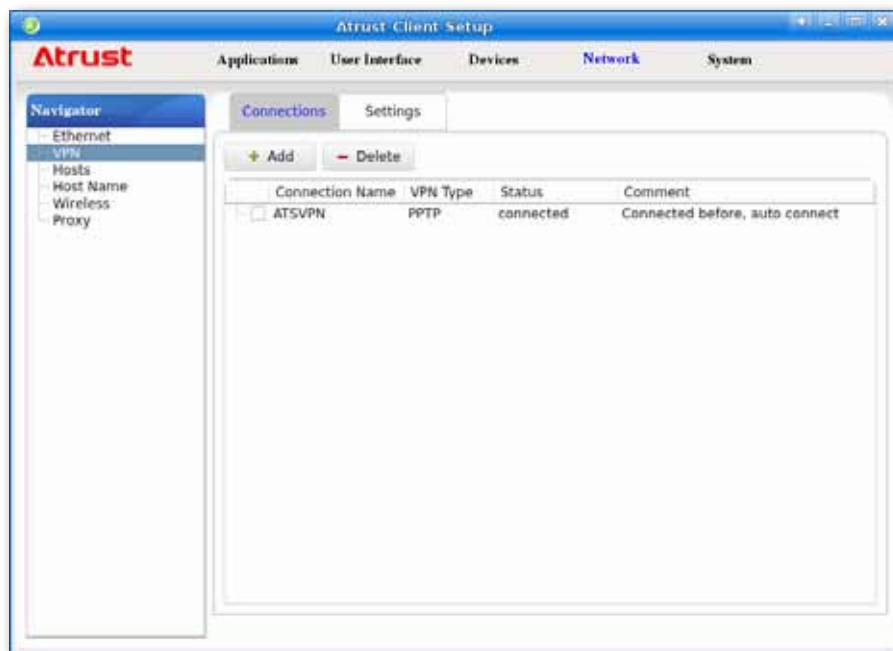
- エントリを作成していない場合、仮想プライベートネットワークリストは空になります。仮想プライベートネットワークを追加する手順については、前のトピックを参照してください。

2. クリックして、目的の仮想プライベートネットワークを確認します。[ Connect] の接続]ボタンが仮想プライベートネットワークリストの上部に表示されます。




3. [接続]をクリックして、選択したネットワークエントリを介して仮想プライベートネットワーク接続を作成します。

4. **[接続]**をクリックして、選択したネットワークエントリを介して仮想プライベートネットワーク接続を作成します。



仮想プライベートネットワーク接続の停止

仮想プライベートネットワーク接続を停止するには、以下を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>VPN**をクリックして、Virtual Private Networkリストを開きます。
2. クリックして目的の仮想プライベートネットワークを確認します。[仮想プライベートネットワーク]リストの上部に[ Disconnect]の切断]ボタンが表示されます。
3. **[切断]**をクリックして、仮想プライベートネットワーク接続を停止します。

仮想プライベートネットワークの削除

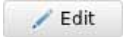
仮想プライベートネットワークを削除するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>VPN**をクリックして、Virtual Private Networkリストを開きます。
2. クリックして、目的の仮想プライベートネットワークを確認します。
3. **[削除]**をクリックして、選択した仮想プライベートネットワークを削除します。

2.5.7 仮想プライベートネットワーク設定の構成

仮想プライベートネットワークの接続設定の調整

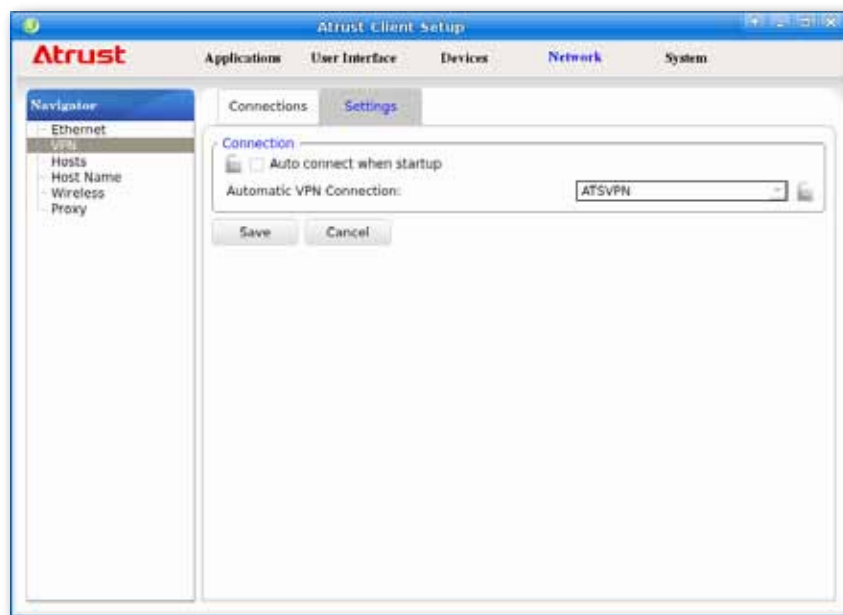
仮想プライベートネットワークの接続設定を調整するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>VPN**をクリックして、Virtual Private Networkリストを開きます。
2. クリックして、目的の仮想プライベートネットワークを確認します。[仮想プライベートネットワーク]リストの上部に[ の編集]ボタンが表示されます。
3. [編集]をクリックして設定を調整し、[保存]をクリックして適用します。

仮想プライベートネットワーク接続の一般設定の構成

仮想プライベートネットワーク接続の一般的な設定を構成するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>VPN**をクリックし、次に**Settings**サブタブをクリックします。



2. [接続]セクションで、[起動時に自動接続]をクリックしてオン/オフにし、システム起動後の自動仮想プライベートネットワーク接続を許可/禁止します。この機能が有効になっている場合は、ドロップダウンメニューから目的の仮想プライベートネットワークを選択します。

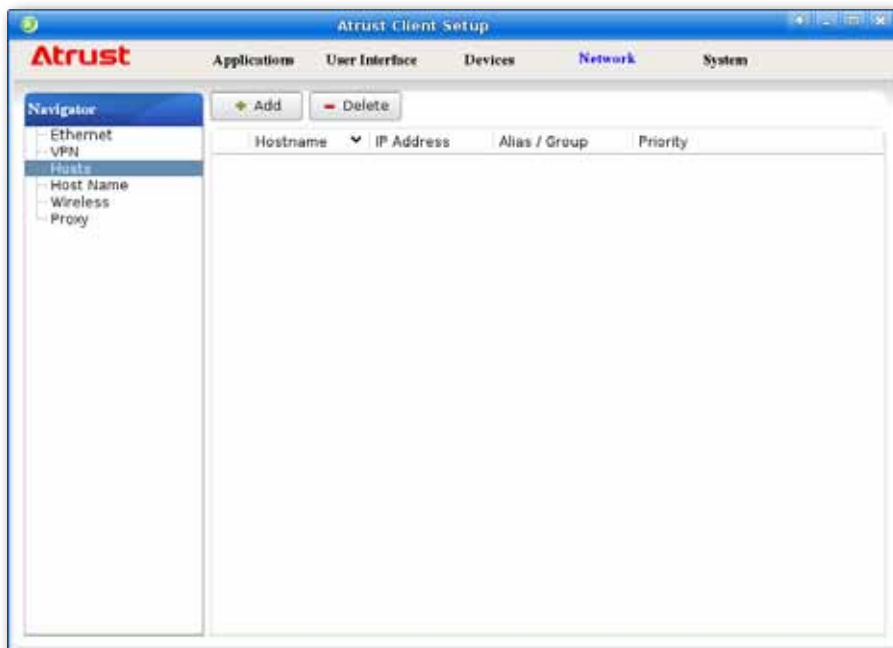
2.5.8 ホスト名へのIPアドレスのマッピングの作成

Atrust Client Setupでは、クライアント設定の構成中にIPアドレスを指定する必要がある場合は、IPアドレスの代わりにホストの名前またはエイリアスを使用できます。この機能を使用するには、まずIPアドレスからホストの名前またはエイリアスへのマッピングを作成する必要があります。

マッピングリストの作成

名前またはエイリアスへのIPアドレスのマッピングを作成するには、以下を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>ホスト**をクリックして、ホストリストを開きます。



2. **[追加]**をクリックして、新しいホストエントリの追加を開始します。
3. ホストの名前、IPアドレス、エイリアスを入力し、**[優先度]**フィールドを空白のままにして、**[保存]**をクリックして適用します。

Hosts Table Settings

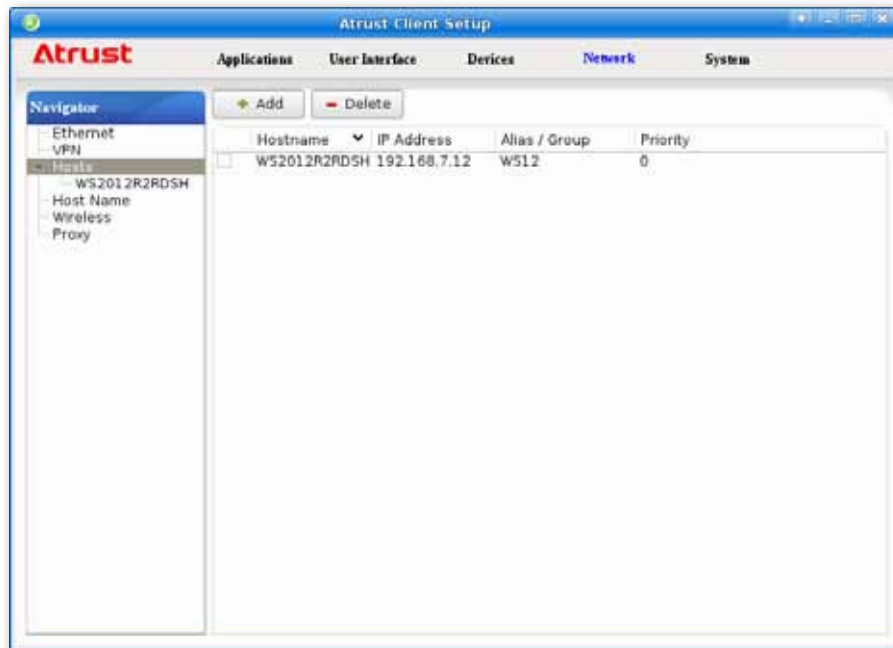
Hostname:	*	<input type="text" value="WS2012R2RDSH"/>	🗑️
IP Address:	*	<input type="text" value="192.168.7.12"/>	🗑️
Alias / Group:		<input type="text" value="WS12"/>	🗑️
Priority:		<input type="text"/>	🗑️



注意

- ホストがドメインに属している場合は、[ホスト名]フィールドにFQDN（絶対ドメイン名）または**完全な**コンピューター名を入力しないでください。この必須フィールドには、ホストのコンピューター名のみを入力します。
- ホストフェイルオーバー機能を許可するフェイルオーバークラスターリストを作成する場合にのみ、[優先度]フィールドに数値を入力する必要があります。詳しくは“2.5.9 フェイルオーバークラスターリストの構成 (P.112)”をご覧ください。

4. 新しく追加されたエントリがホストリストに表示されます。



5. 手順2~3を繰り返して、別の新しいエントリを追加します。

6. これで、クライアント設定の構成中にAtrust Client SetupでIPアドレスを指定する必要がある場合は、IPアドレスの代わりにホストの名前またはエイリアスを使用できます。

マッピングリストの管理

マッピングリストを管理するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>ホスト**をクリックして、ホストリストを開きます。
2. ホストリストのエントリを管理する場合に選択します。
 - エントリの設定を調整するには、エントリをダブルクリックするか、エントリをチェックオフしてから、マッピングリストの上部にある**[編集]**ボタンをクリックします。
 - エントリを削除するには、エントリをチェックして、マッピングリストの上部にある**[削除]**をクリックします。
 - 複数のエントリを削除するには、目的のエントリをすべてオフにして、**[削除]**をクリックします。確認を求めるウィンドウが表示されます。**[はい]**をクリックして確認します。

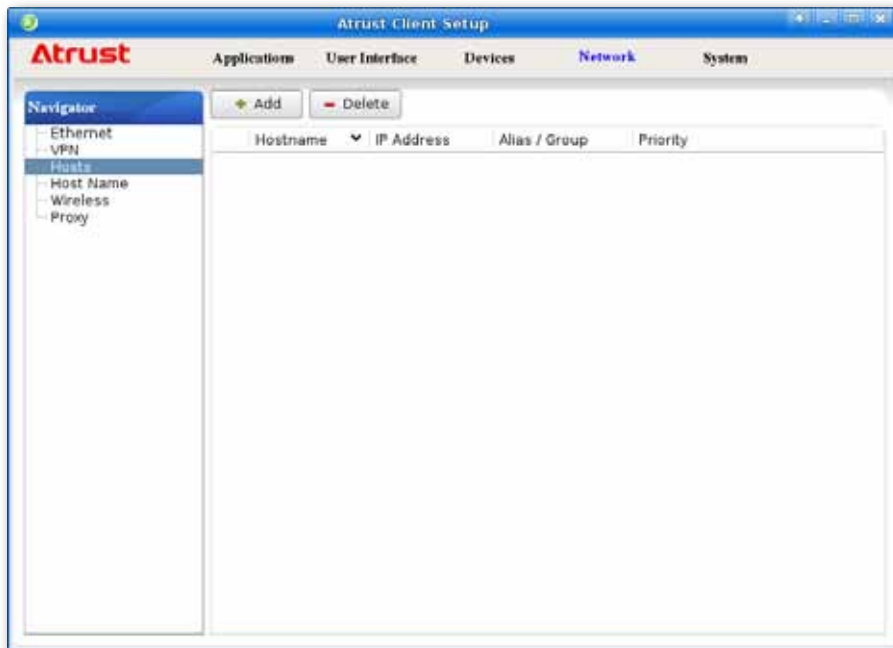
2.5.9 フェールオーバークラスターリストの構成

Atrust Client Setupを使用すると、フェールオーバークラスターリストを作成し、そのサーバーグループ（フェールオーバークラスター）からのサービスの高可用性を維持できます。

フェールオーバークラスターリストの作成

フェールオーバークラスターリストを作成するには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>ホスト**をクリックして、ホストリストを開きます。



2. **[追加]**をクリックして、新しいホストエントリの追加を開始します。
3. 名前、IPアドレス、エイリアス、さらにクラスター（グループ）名、クラスター（グループ）の優先順位を入力し、**[保存]**をクリックして適用します。

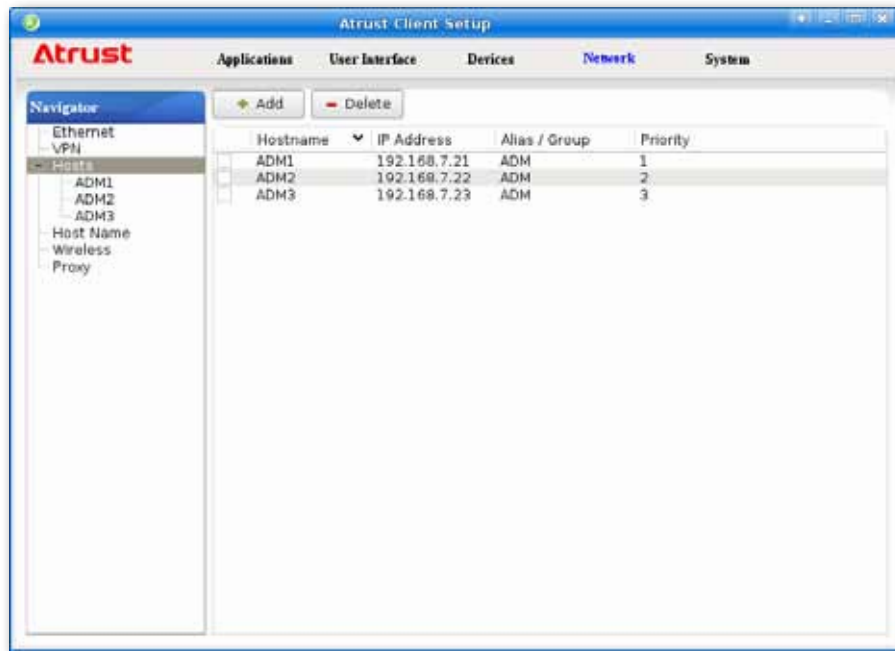
Hosts Table Settings	
Hostname:	* ADM1
IP Address:	* 192.168.7.21
Alias / Group:	ADM
Priority:	1



注意

- ホストがドメインに属している場合は、[ホスト名]フィールドにFFQDN（絶対ドメイン名）または**完全な**コンピューター名を入力しないでください。この必須フィールドには、ホストのコンピューター名のみを入力します。

4. 手順2～3を繰り返して、別の新しいエントリを追加します。
5. 追加されたすべてのエントリがホストリストに表示されます。



6. P2Tシンクライアントは、このフェイルオーバークラスター（グループ）に接続している間、指定された優先順位に従います。

	Hostname	IP Address	Alias / Group	Priority
<input type="checkbox"/>	ADM1	192.168.7.21	ADM	1
<input type="checkbox"/>	ADM2	192.168.7.22	ADM	2
<input type="checkbox"/>	ADM3	192.168.7.23	ADM	3

フェイルオーバークラスターリストの管理

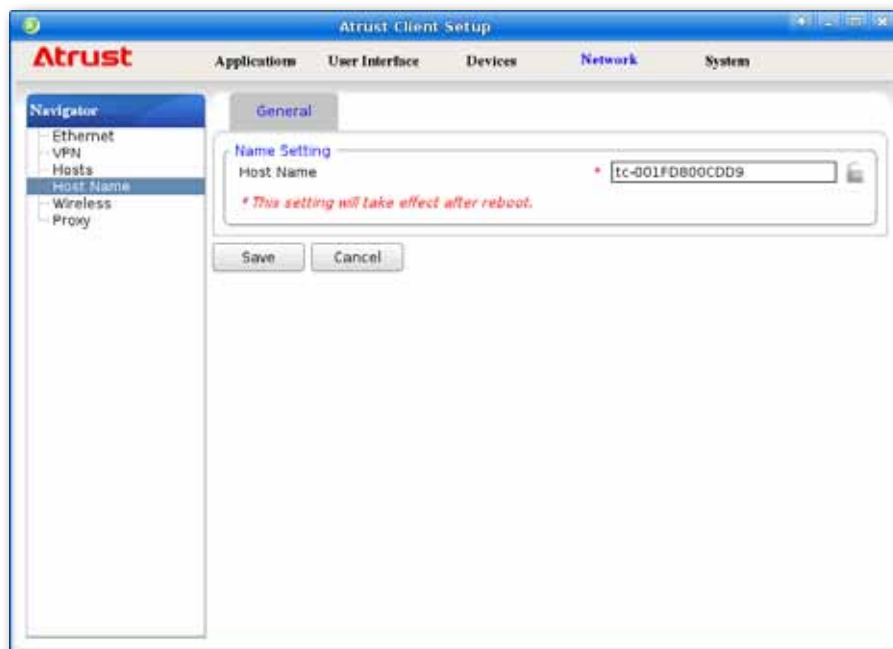
ホストリストを管理するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>ホスト**をクリックして、ホストリストを開きます。
2. ホストリストのエントリを管理する場合に選択します。
 - エントリを設定を調整するには、エントリをダブルクリックするか、エントリをチェックオフしてから、ホストリストの上部にある**[編集]**ボタンをクリックします。
 - エントリを削除するには、エントリをチェックして、ホストリストの上部にある**[削除]**をクリックします。
 - 複数のエントリを削除するには、目的のエントリをすべてオフにして、**[削除]**をクリックします。確認を求めるウィンドウが表示されます。**[はい]**をクリックして確認します。

2.5.10 シンククライアントのホスト名の変更

シンククライアントのホスト名を変更するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>ホスト名**をクリックします。
2. シンククライアントのデフォルトのホスト名を変更します。



3. **[保存]**をクリックして確定します。
4. 変更を有効にするには再起動が必要です。

2.5.11 ワイヤレスインターフェイスの有効化または無効化

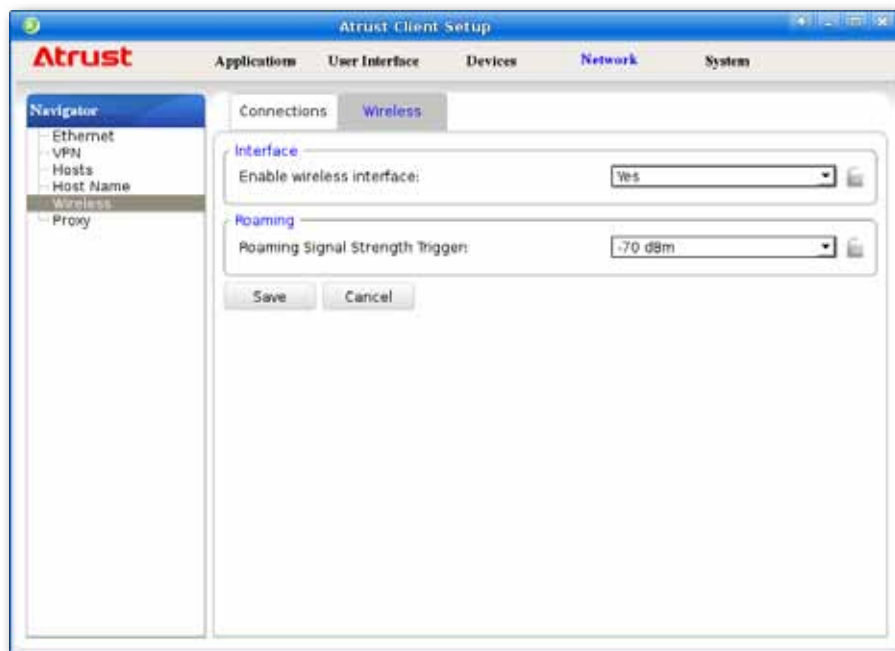
ワイヤレスインターフェイスを有効または無効にするには、次の操作を行います。



注意

- デバイスがワイヤレスネットワークに対応していることを確認します。ワイヤレスインターフェイスがないと、ワイヤレス接続を確立できません。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>ワイヤレス**をクリックし、次に**ワイヤレスサブタブ**をクリックします。

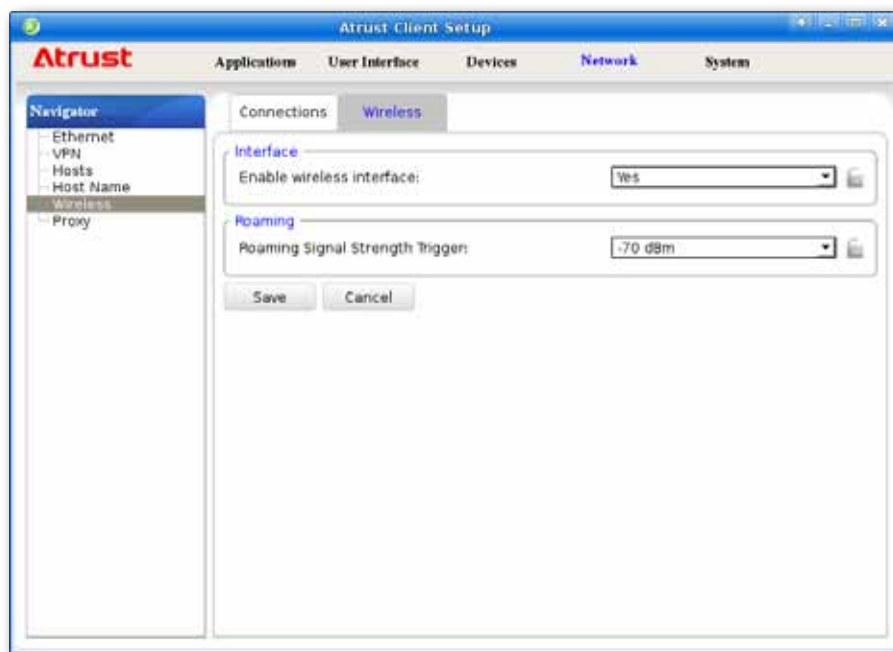


2. [インターフェイス]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、ワイヤレスネットワークインターフェイスを有効または無効にします。
3. **[保存]**をクリックして適用します。

2.5.12 ローミングのトリガーしきい値の構成

ワイヤレス接続のローミングトリガーしきい値を構成するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>ワイヤレス**をクリックし、次に**ワイヤレスサブタブ**をクリックします。



2. [ローミング]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、目的のトリガーしきい値を選択します。



注意

- ワイヤレスローミングを無効にするには、ここで[ローミングなし]を選択します。

3. [保存]をクリックして適用します。

2.5.13 ワイヤレス接続の確立と停止



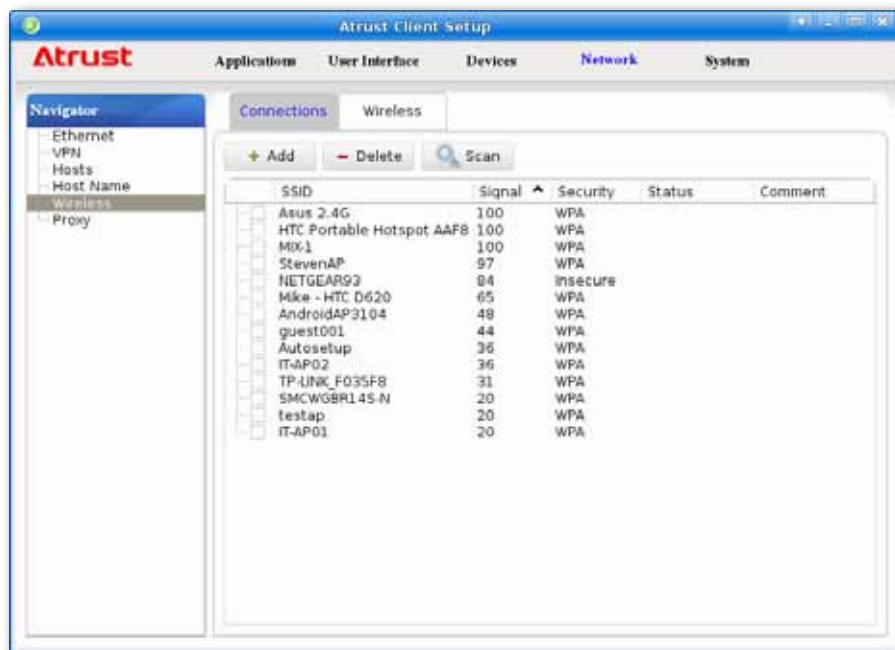
注意

- デバイスがワイヤレスネットワークに対応していることを確認します。ワイヤレスインターフェイスがないと、ワイヤレス接続を確立できません。

ワイヤレスネットワーク接続の確立


P2Tシンクライアントのワイヤレスネットワーク接続を確立するには、次の手順に従ってください。

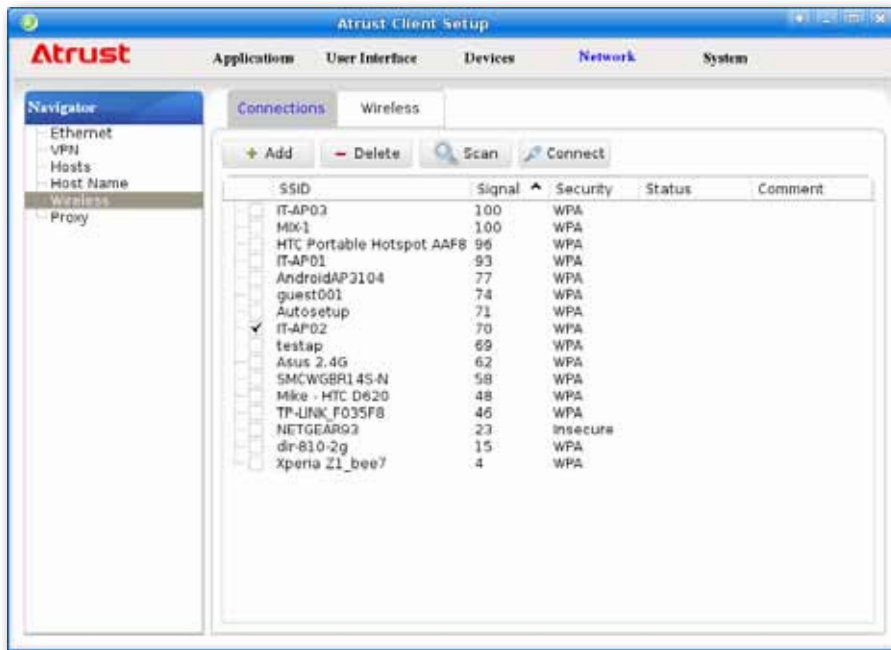
1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>ワイヤレス**をクリックし、**ワイヤレスネットワークリスト**を開きます。



注意

- P2Tシンクライアントは、ネットワーク検出を**1回**実行し、使用可能なすべてのワイヤレスネットワークを指定します。更新するには、ワイヤレスネットワークリストの上部にある**[スキャン]**をクリックします。

2. クリックして、目的のワイヤレスネットワークを確認します。[ Connect] の接続]ボタンがワイヤレスネットワークリストの上部に表示されます。



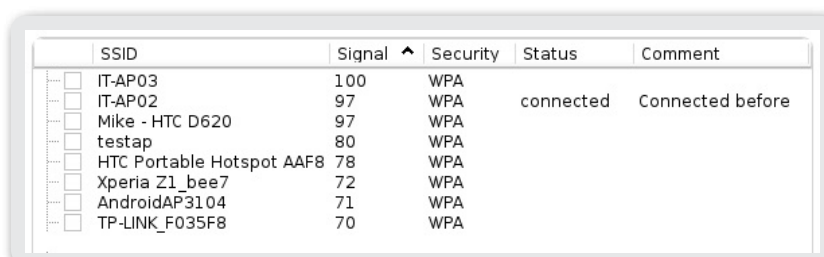
3. **[接続]**をクリックして、選択したワイヤレスネットワークを介したワイヤレスネットワーク接続を作成します。
4. 確認または認証を求めるウィンドウが表示されます。



注意

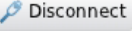
- 以前にこのワイヤレスネットワークにアクセスしたことがある場合、パスワードは今後のアクセスのために自動的に記録されます。この場合、パスワードを再度入力する必要はありません。無線接続の確立を確認するだけです。
- 認証に必要な情報については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

5. 必要なパスワードを入力し、**[接続]**をクリックして続行します。または、**[OK]**をクリックして、ワイヤレス接続の確立を確認します。
6. 完了すると、ワイヤレスネットワークの[ステータス]列に**接続**が表示されます。



ワイヤレスネットワーク接続の停止

ワイヤレスネットワーク接続を停止するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク> ワイヤレス**をクリックし、**ワイヤレスネットワークリスト**を開きます。
2. クリックして、目的のワイヤレスネットワークを確認します。ワイヤレスネットワークリストの上部に[ Disconnect]の切断]ボタンが表示されます。
3. ワイヤレスネットワーク接続を停止するには、**[切断]**をクリックします。

ワイヤレスネットワークの追加

ワイヤレスネットワークリストで目的のワイヤレスネットワークが見つからない場合は、手動で追加できます。ワイヤレスネットワークをワイヤレスネットワークリストに追加するには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク> ワイヤレス**をクリックし、**ワイヤレスネットワークリスト**を開きます。
2. ワイヤレスネットワークリストの上部にある**[追加]**をクリックします。
3. 開いたウィンドウで、ワイヤレスネットワーク名（SSID）を入力し、使用するワイヤレスセキュリティ方法を選択して、必要な情報を入力します。



4. **[接続]**をクリックして、ワイヤレス接続を作成します。



注意

- IPアドレスの設定方法については、“2.5.3 有線ネットワーク設定の構成 (P.100)”を参照してください。
- デフォルトでは、DHCPサーバーによって割り当てられた動的IPアドレスを使用します。

5. 完了すると、追加されたワイヤレスネットワークが[ワイヤレスネットワーク]リストに表示され、**接続されている**ことが[ステータス]列に表示されます。

ワイヤレスネットワークの削除

ワイヤレスネットワークを削除するには、次の手順に従ってください。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク> ワイヤレス**をクリックし、**ワイヤレスネットワークリスト**を開きます。
2. 目的のワイヤレスネットワークをクリックしてチェックし、**[削除]**をクリックして、選択したワイヤレスネットワークを削除します。



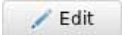
注意

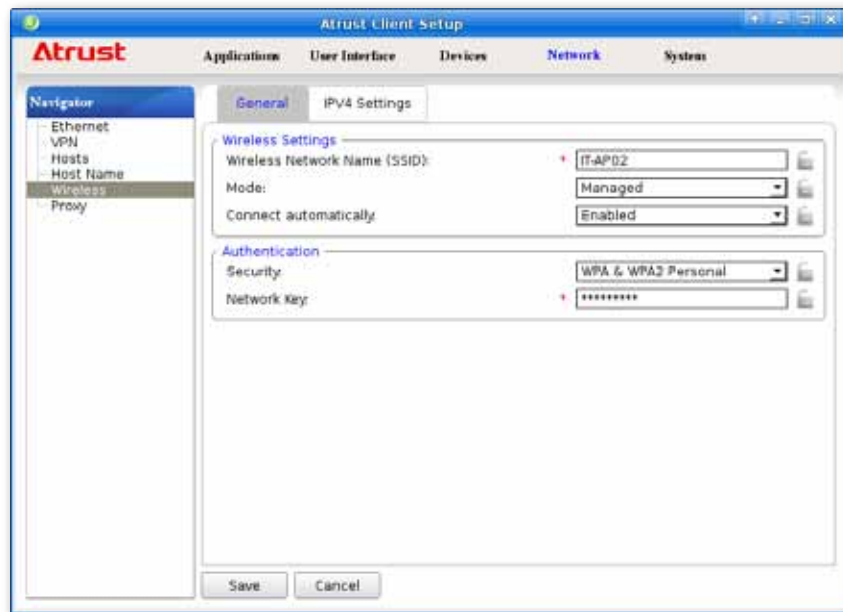
- P2Tシンクライアントは使用可能なワイヤレスネットワークを自動的に検出し、検出されたネットワークをワイヤレスネットワークリストに追加します。したがって、削除されたワイヤレスネットワークはリストに再び表示される可能性があります。保存されている認証データを含む接続設定は削除されます。

2.5.14 ワイヤレス接続設定の構成

ワイヤレスネットワークの接続設定の調整

ワイヤレスネットワークの接続設定を調整するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**ネットワーク>ワイヤレス**をクリックし、**ワイヤレスネットワークリスト**を開きます。
2. クリックして、現在接続されている目的のワイヤレスネットワークを確認します。[ Edit] の編集]ボタンがワイヤレスネットワークリストの上部に表示されます。
3. [編集]をクリックして設定を調整します。



- [全般]タブで、ドロップダウンメニューをクリックして、このワイヤレスネットワークが範囲内にあるときの自動接続と他の接続設定を構成します。

注意

- デフォルトでは、クライアントがワイヤレスネットワークに正常に接続した場合、そのネットワークに自動的に接続します。

- [IPv4設定]タブで、ドロップダウンメニューをクリックするか、フィールドに値を入力してIP設定を構成します。

注意

- [全般]タブで接続設定を構成する方法については、“2.5.13 ワイヤレス接続の確立と停止 (P.117)”セクションをご覧ください。[IPv4設定]タブでIPアドレスを設定する方法については、“2.5.3 有線ネットワーク設定の構成 (P.100)”を参照してください。

4. [保存]をクリックして適用します。

2.5.15 サービスへのWebベースのアクセスのプロキシ設定の構成

サービスへのWebベースのアクセスのプロキシ設定を構成するには、次の手順を実行してください。

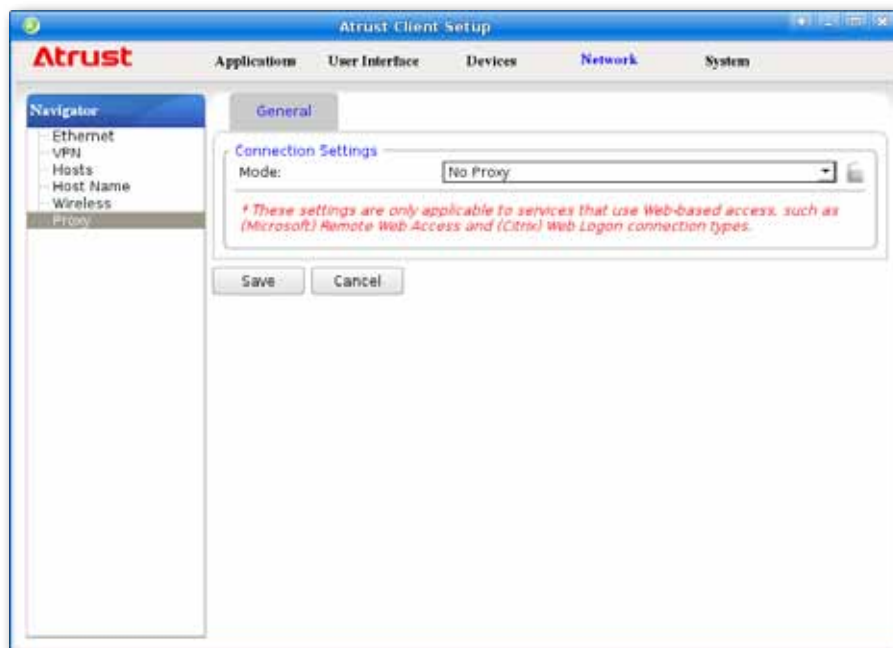
注意

- ここで使用できる設定は、(Microsoft) リモートWebアクセスや (Citrix) Webログオン接続タイプなど、Webベースのアクセスを使用するサービスにのみ適用されます。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [プロキシ]**をクリックします。
2. [モード]ドロップダウンメニューをクリックして、目的の構成モードを選択します。4つのモードを使用できます。
プロキシなし、プロキシ設定の自動検出、プロキシの手動設定、および自動プロキシ設定。

注意

- 設定項目は、選択したモードによって異なります。



3. 必要に応じてデータを提供します。各設定項目の説明については、以下の表を参照してください。

接続設定											
項目	説明文										
モード	目的のプロキシ構成モードをクリックして選択します。										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロキシなし</td> <td>プロキシサーバーは使用しないでください。</td> </tr> <tr> <td>プロキシ設定の自動検出</td> <td>ネットワークのプロキシ設定を自動的に検出します。</td> </tr> <tr> <td>手動プロキシ設定</td> <td>プロキシ設定を手動で構成します。</td> </tr> <tr> <td>自動プロキシ設定</td> <td>プロキシ設定ファイルへの接続を通じてプロキシ設定を自動的にロードします。</td> </tr> </tbody> </table>	モード	説明文	プロキシなし	プロキシサーバーは使用しないでください。	プロキシ設定の自動検出	ネットワークのプロキシ設定を自動的に検出します。	手動プロキシ設定	プロキシ設定を手動で構成します。	自動プロキシ設定	プロキシ設定ファイルへの接続を通じてプロキシ設定を自動的にロードします。
	モード	説明文									
	プロキシなし	プロキシサーバーは使用しないでください。									
	プロキシ設定の自動検出	ネットワークのプロキシ設定を自動的に検出します。									
手動プロキシ設定	プロキシ設定を手動で構成します。										
自動プロキシ設定	プロキシ設定ファイルへの接続を通じてプロキシ設定を自動的にロードします。										
モード：手動プロキシ構成											
HTTPプロキシ	HTTPプロキシサーバーのIPアドレスを提供します。										
ポート	HTTPプロキシサーバーが使用するポート番号を提供します。										
プロキシなし	プロキシリストを提供しません。 指定されたURLへの接続中にプロキシサーバーを使用しないでください。										
モード：自動プロキシ構成											
URL	プロキシ設定をネットワーク経由でロードできるプロキシ設定ファイルのURLを提供します。										

2.6 サービスアクセス設定の構成

2.6.1 [アプリケーション]タブの概要

[アプリケーション]タブでは、クライアントでのサービスアクセスの設定を構成できます。[アプリケーション]タブの利用可能な設定にアクセスするには、Atrust Client Setupのタブをクリックします。

[アプリケーション]タブの概要



インターフェース要素

No.	名前	説明文
1	ナビゲーションエリア	[アプリケーション]タブで設定項目を選択するか、選択した設定項目で設定エントリを選択するときにクリックします。
2	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

2.6.2 設定一覧

タブ	設定	アイコン	説明文	セクション	ページ
アプリケーション	リモートデスクトップ		クリックしてRDP（リモートデスクトッププロトコル）接続設定を構成し、リモートデスクトップセッションのローカルデスクトップと[スタート]メニューにショートカットを作成します。	2.6.3 2.6.4 2.6.5	125 134 140
	Citrix ICA		クリックしてICA（独立コンピューティングアーキテクチャ）接続設定を構成し、ICAセッションのローカルデスクトップと[スタート]メニューにショートカットを作成します。	2.6.6 2.6.7 2.6.8 2.6.9 2.6.10 2.6.11	156 169 170 171 172 179
	VMware View		クリックして、VMware View接続設定を構成し、ローカルデスクトップとViewセッションの[スタート]メニューにショートカットを作成します。	2.6.12 2.6.13 2.6.14	209 211 213
	SSH		クリックしてSSH（Secure Shell）接続設定を構成し、ローカルデスクトップにショートカットを作成し、SSHセッションの[スタート]メニューを作成します。	2.6.15 2.6.16	218 220
	Web Browser		クリックして設定を構成し、ローカルデスクトップとブラウザセッションの[スタート]メニューにショートカットを作成します。 注意: このローカルブラウザ機能は、デバイスに2 GB以上のメモリが搭載されている場合にのみ使用できます。	2.6.17 2.6.18 2.6.19	221 223 224
	Parallels 2X Client		クリックしてRAS（リモートアプリケーションサーバー） / RDP（リモートデスクトッププロトコル）接続設定を構成し、ローカルデスクトップとRAS / RDPセッションの[スタート]メニューにショートカットを作成します。	2.6.20 2.6.21 2.6.22	225 230 232
	ThinLinc		クリックしてCendio ThinLinc接続設定を構成し、ThinLincセッションのローカルデスクトップと[スタート]メニューにショートカットを作成します。	2.6.23 2.6.24 2.6.25	244 246 247

2.6.3 基本的なRDP接続設定の構成

リモートデスクトップ設定を使用すると、RDP（リモートデスクトッププロトコル）接続設定を構成し、サービスアクセス用のローカルデスクトップと[スタート]メニューにショートカットを作成できます。これらのショートカットを使用するだけで、リモートデスクトップまたはアプリケーションにアクセスして作業できます。



注意

- Microsoftリモートデスクトップサービスの詳細については、MicrosoftのWebサイト（www.microsoft.com）にアクセスしてください。

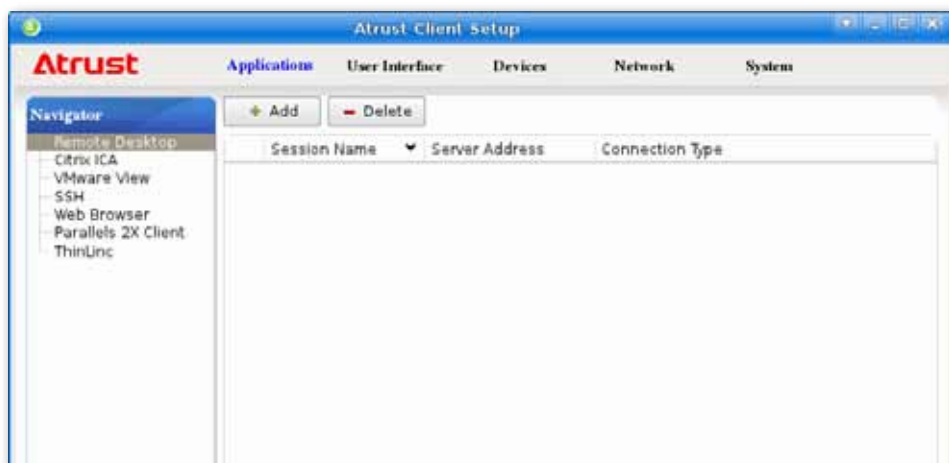
3つの接続タイプを使用できます。

接続タイプ	説明文	ページ
リモートデスクトップ	リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。	126
リモートWebアクセス	Webブラウザを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	128
ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	130

接続タイプ：リモートデスクトップ

リモートデスクトップ接続タイプのRDP接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行します。

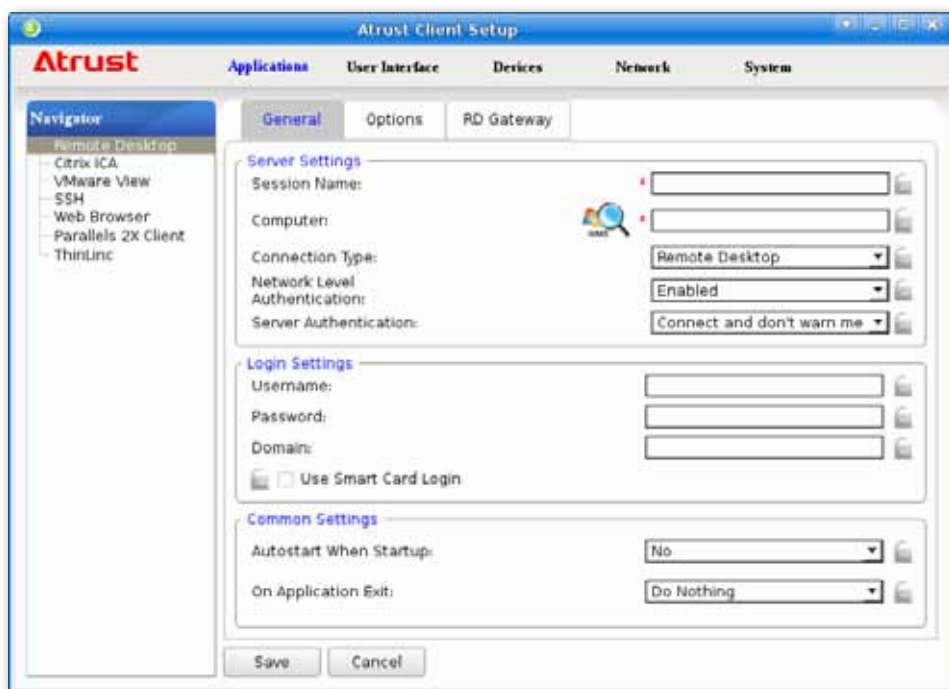
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [リモートデスクトップ]をクリックします。
2. RDP接続リストが[構成]領域に表示されます。



注意

- エントリを作成していない場合、RDP接続リストは空になります。

3. RDP接続リストの上部にある[追加]をクリックして、RDP接続の新しいエントリを作成します。



4. 「一般」サブタブの「サーバー設定」セクションで、セッション名とサーバー/仮想マシンのアドレスを入力します。




注意

- 赤いアスタリスクは必須フィールドを示します。
- リモートサービスでホストされるコンピューターは、物理サーバーまたは仮想マシンです。詳細については、MicrosoftのWebサイト www.microsoft.com または support.microsoft.com にアクセスしてください。
- P2Tシンクライアントは、最大2つのリモートデスクトップセッションを同時にサポートします。
- Windows® RemoteFX™ は、リモートデスクトップユーザーにネットワーク経由でリッチなユーザーエクスペリエンスを提供するテクノロジーです。



注意

- MultiPoint™ リモートデスクトップセッションのRDP接続設定のエントリを作成するには、以下を実行してください。
 1. [サーバー設定]セクションで[]をクリックして、ネットワーク経由でMultiPoint™ Serverシステムの検出を開始します。
 2. 開いたウィンドウで、ドロップダウンメニューをクリックして目的のサーバーを選択し、[OK]をクリックして確認します。
 3. 選択したサーバーの名前とIPアドレスが、対応するフィールドに自動的に入力されます。
- デフォルトのセッション名は、選択したMultiPointホストサーバーの名前になりますが、デフォルトを変更することもできます。
- Windows® MultiPoint™ Server は共有リソーステクノロジーです。このWindowsベースのオペレーティングシステムにより、ホストサーバーは複数の独立したステーションに電力を供給できるようになり、ユーザーは単一のサーバーの処理能力を共有できます。このオペレーティングシステムに基づいて、Atrustはサーバーとクライアントの両方を含む完全なソリューションを提供します。詳細については、当社のウェブサイト www.atrustcorp.com をご覧ください。

5. **[保存]**をクリックして、このRDP接続エントリを追加します。

6. リモートデスクトップサービスのショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なRDP接続設定を構成する必要がある場合があります。その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“2.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.140)”を参照してください。

接続タイプ : リモートWebアクセス

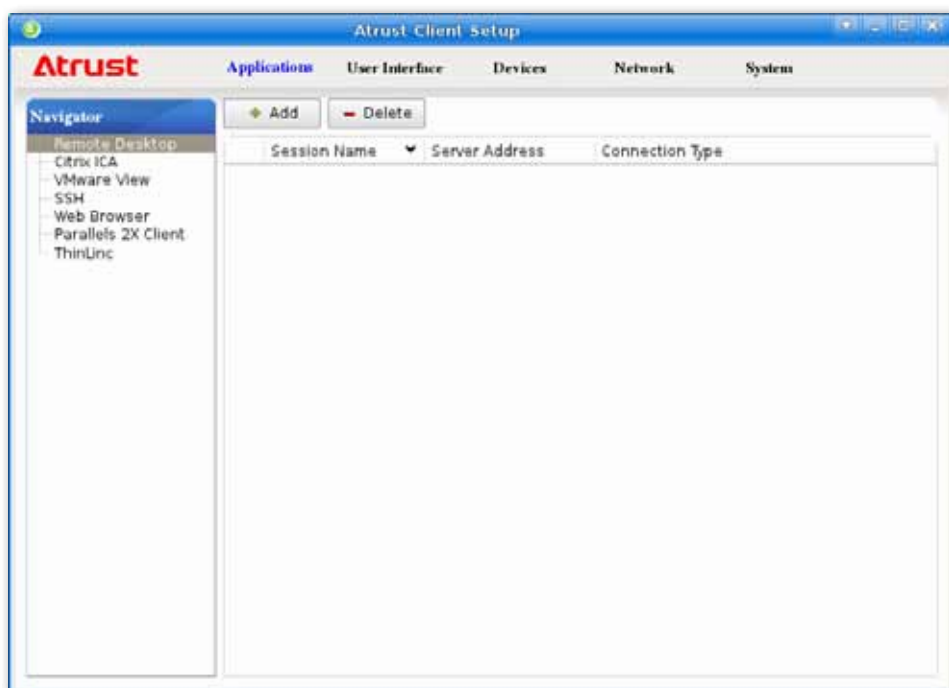
リモートWebアクセス接続タイプのRDP接続設定をすばやく構成するには、以下を実行してください。



注意

- Atrust P2Tシンクライアントは、Windows Sever 2012 R2に基づくRD Webアクセスのみをサポートします。Windows Server 2008 R2ベースはサポートされていません。

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [リモートデスクトップ]をクリックします。
2. RDP接続リストが[構成]領域に表示されます。



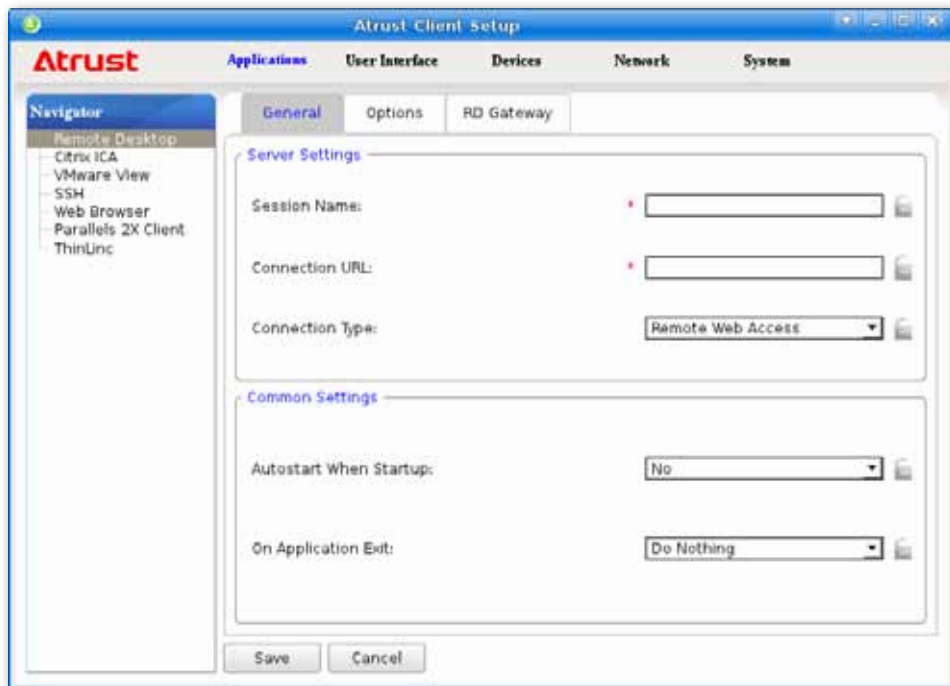
注意

- エントリを作成していない場合、RDP接続リストは空になります。

3. RDP接続リストの上部にある[追加]をクリックして、RDP接続の新しいエントリを作成します。



4. **[全般]**サブタブで、**[接続の種類]**ドロップダウンメニューをクリックして、**[リモートWebアクセス]**を選択します。



5. Webベースのリモートアプリケーションにアクセスするためのセッション名と接続URLを入力します。



注意

- 赤いアスタリスクは必須フィールドを示します。
- 適切な接続URLについては、IT管理者にお問い合わせください。

6. **[保存]**をクリックして、このRDP接続エントリを追加します。
7. リモートWebアクセスのショートカットは、ローカルデスクトップと**[スタート]**メニューに自動的に作成されます。

接続タイプ : Webフィード

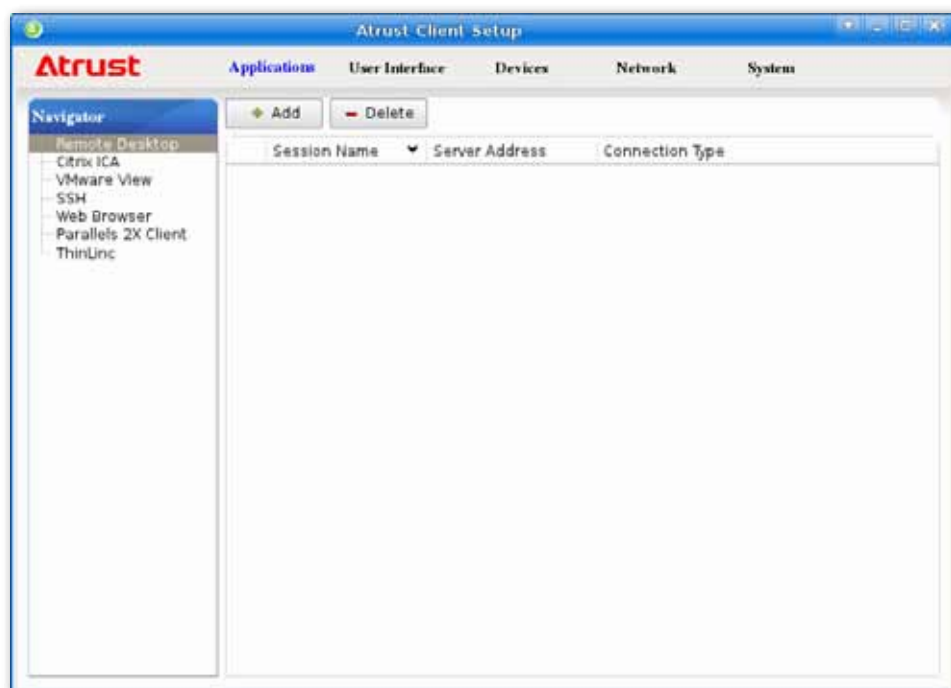
Webフィード接続タイプのRDP接続設定をすばやく構成するには、以下を実行してください。



注意

- Atrust P2Tシンクライアントは、Windows Sever 2012 R2に基づくRD Webフィードのみをサポートします。Windows Server 2008 R2ベースはサポートされていません。

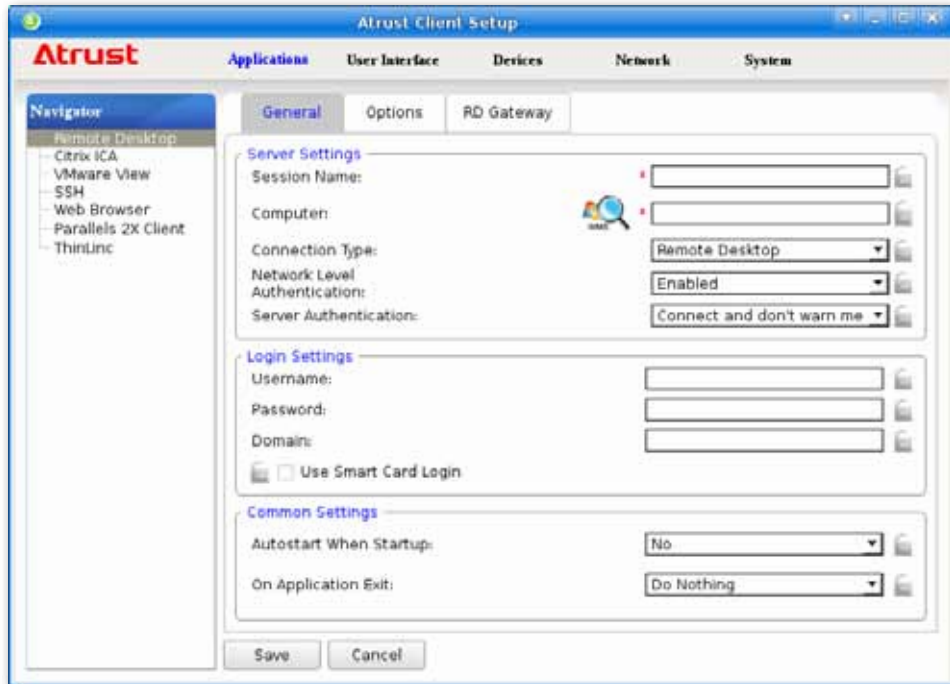
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [リモートデスクトップ]をクリックします。
2. RDP接続リストが[構成]領域に表示されます。



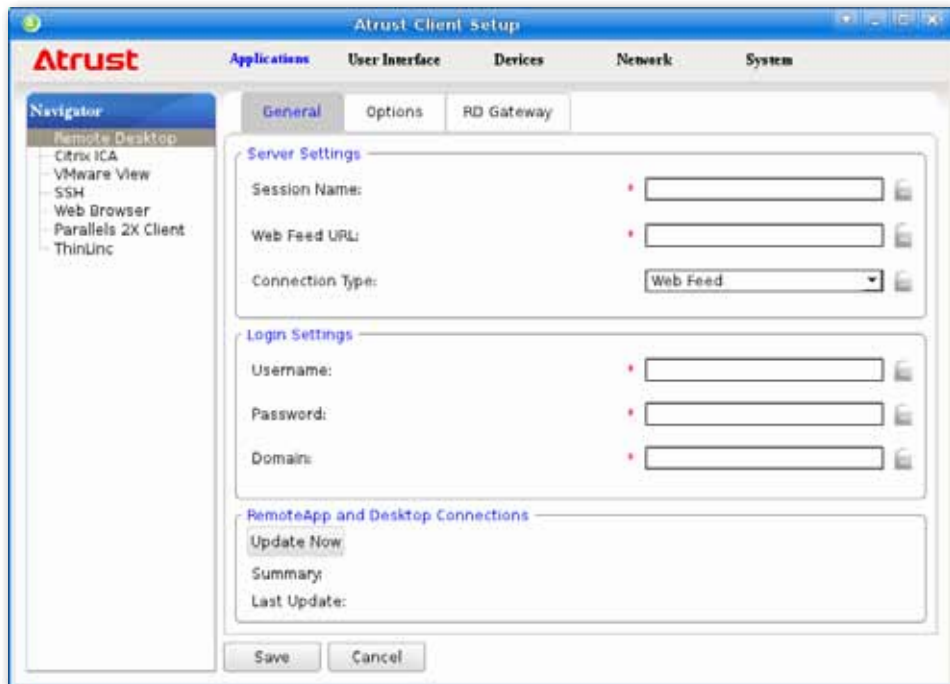
注意

- エントリを作成していない場合、RDP接続リストは空になります。

3. RDP接続リストの上部にある[追加]をクリックして、RDP接続の新しいエントリを作成します。



4. [全般]サブタブで、[接続タイプ]ドロップダウンメニューをクリックして、[Webフィード]を選択します。



5. セッション名、リモートアプリケーションにアクセスするためのWebフィードURL、およびWebフィードの資格情報を入力します。



注意

- 赤いアスタリスクは必須フィールドを示します。
- 適切なWebフィードURLについては、IT管理者にお問い合わせください。

6. [RemoteAppとデスクトップ接続]セクションで[今すぐ更新]をクリックします。完了すると、そのセクションに結果が以下のように表示されます。

RemoteApp and Desktop Connections

Update Now

Summary: 3 applications, 0 desktops

Last Update: Mon Jun 30 2014 10:13:16



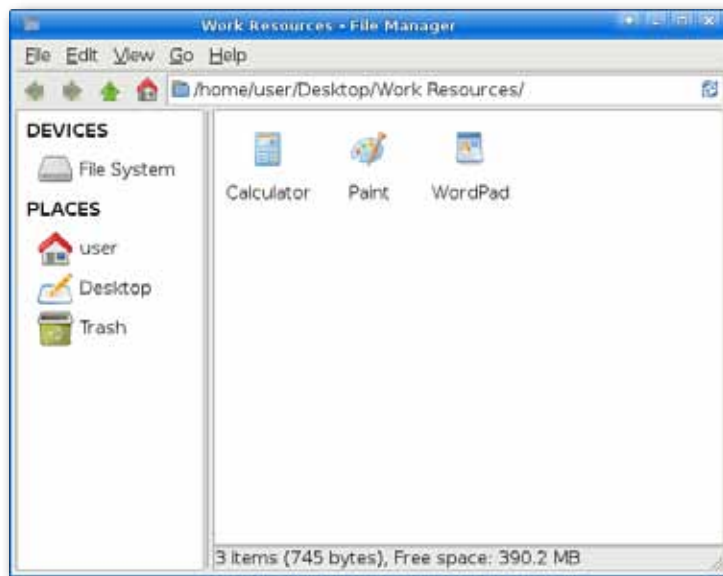
注意

- 新しく公開されたアプリケーションがある場合は、今すぐ更新を使用してWebフィードの概要を更新する必要があります。そうしないと、新しいアプリケーションにアクセスできなくなります。

7. [保存]をクリックして、このRDP接続エントリを追加します。
8. アクセスショートカットのある**Work Resources**という名前のフォルダーがローカルデスクトップに自動的に作成されます。



9. 利用可能なアプリケーションへのアクセスショートカットは、そのフォルダーにあります。



注意

- 新しく公開されたアプリケーションがある場合は、ステップ6で説明されている「**今すぐ更新**」を使用してWebフィードを更新する必要があります。そうしないと、新しいアプリケーションは表示されません。

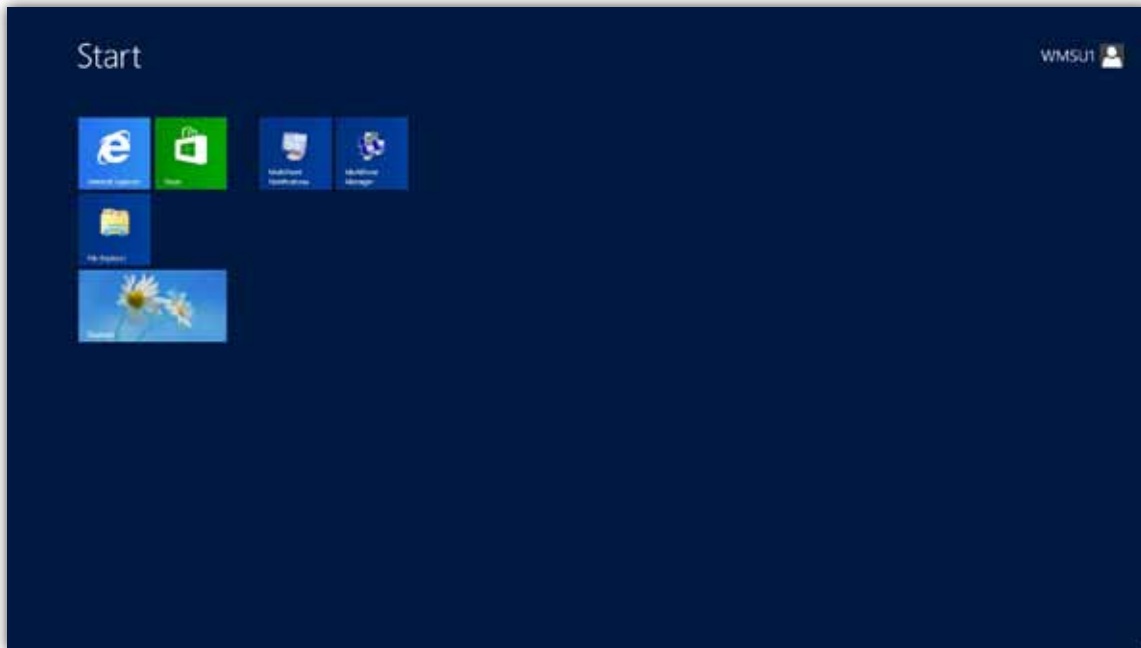
2.6.4 リモートデスクトップサービスへのアクセス

接続タイプ：リモートデスクトップ

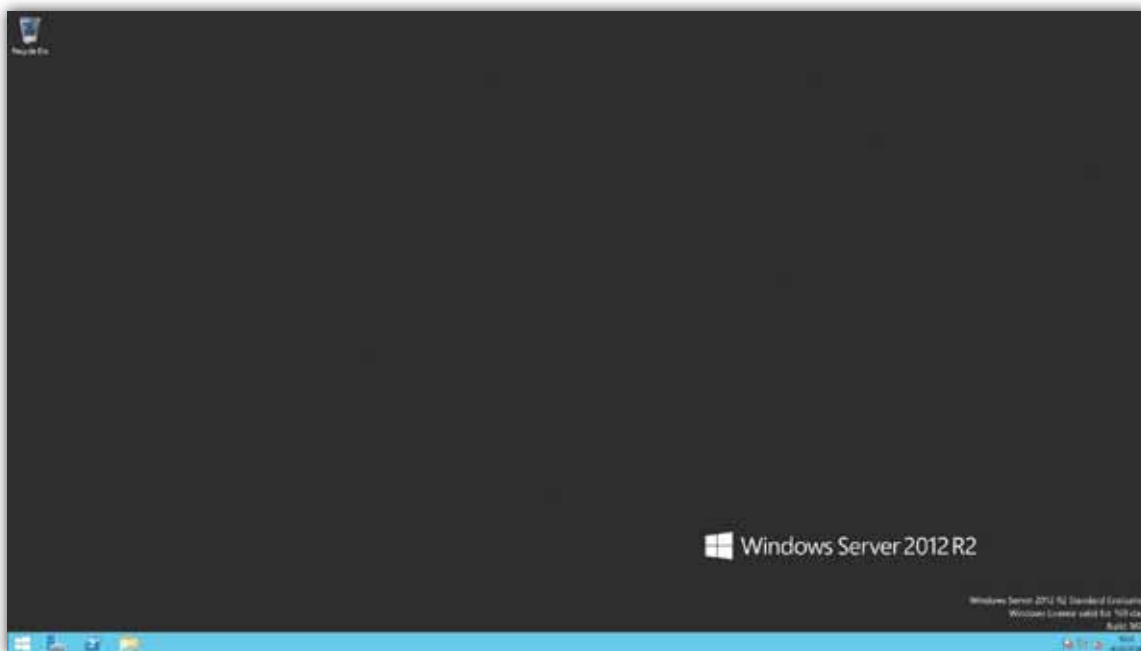
リモートデスクトップにアクセスするには、次の操作を行います。

1. デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 画面の指示に従い、必要に応じて必要な資格情報を提供します。
3. リモートデスクトップが画面に表示されます。

例：Windows MultiPoint Server 2012



例：Windows Server 2012



例 : Windows 8 Enterprise



注意

- リモートデスクトップの接続タイプでは、アプリケーションのみのセッションを起動することもできます。デスクトップ全体ではなく、特定のアプリケーションのみが起動されます。詳しくは“2.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.140)”をご参照ください。

接続タイプ：リモートWebアクセス

リモートアプリケーションにアクセスするには、次の手順を実行してください。

1. デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 資格情報の入力を求めるウィンドウが表示されます。



注意

- 「この接続は信頼できません」という警告メッセージが表示される場合があります。詳細についてはIT管理者に相談し、接続が**最初に**安全であることを確認してください。セキュリティ証明書をインポートするには、「2.2.15 リモートコンピューターの証明書のインポート (P.65)」セクションを参照してください。バイパスするには、[**リスクを理解する**] > [**例外を追加**] > [**セキュリティ例外の確認**]をクリックします。

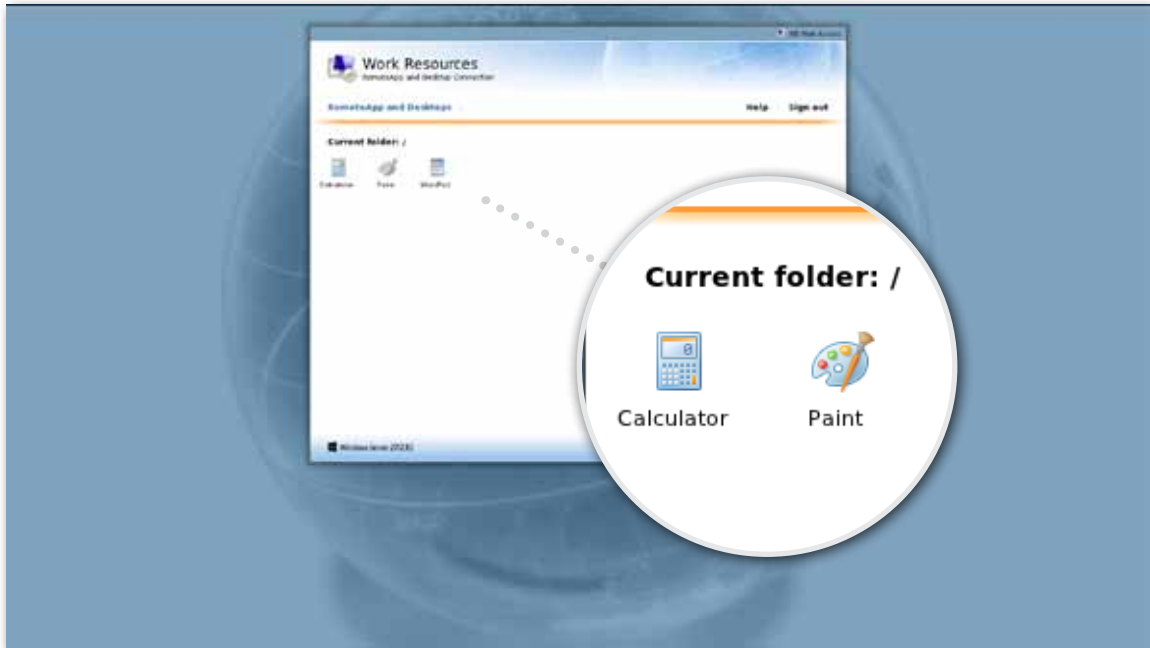


ヒント

- このログオン画面または他の画面を終了してローカルデスクトップに**戻る**には、**Alt + F4**キーを押してください。

3. 資格情報を入力し、[**サインイン**]をクリックします。

4. アクセスショートカットが画面に表示されます。



5. クリックまたはダブルクリックして、目的のアプリケーションを選択します。
6. 資格情報の入力を求めるウィンドウが表示されます。



7. 資格情報を入力し、[OK]をクリックして、選択したアプリケーションを起動します。

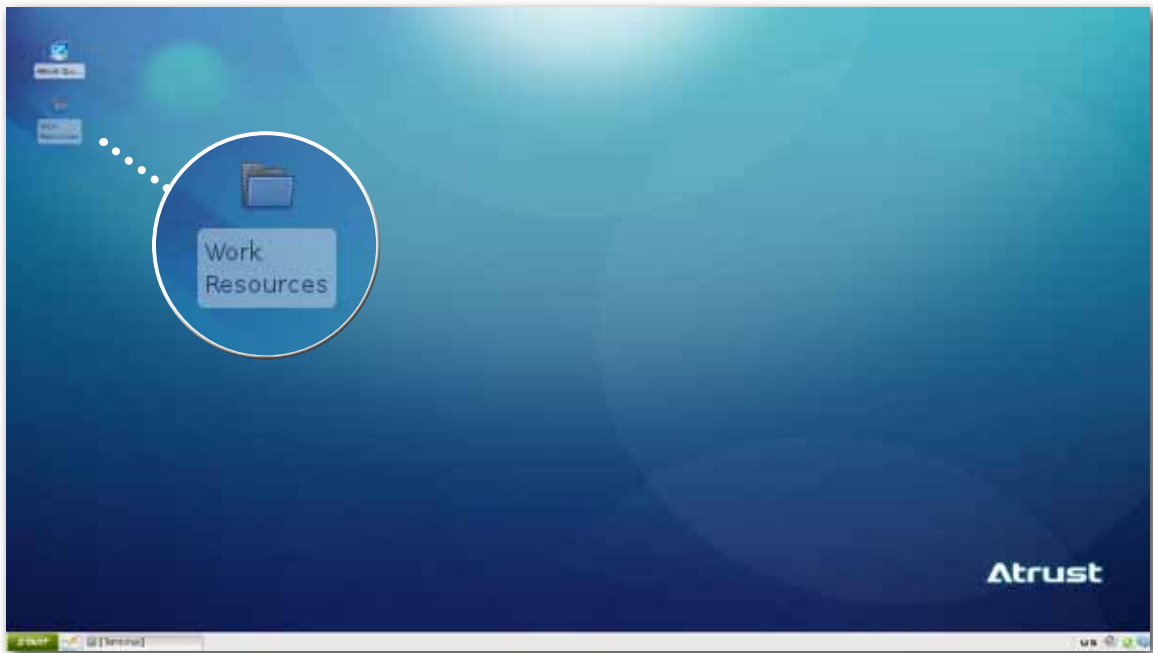


ヒント

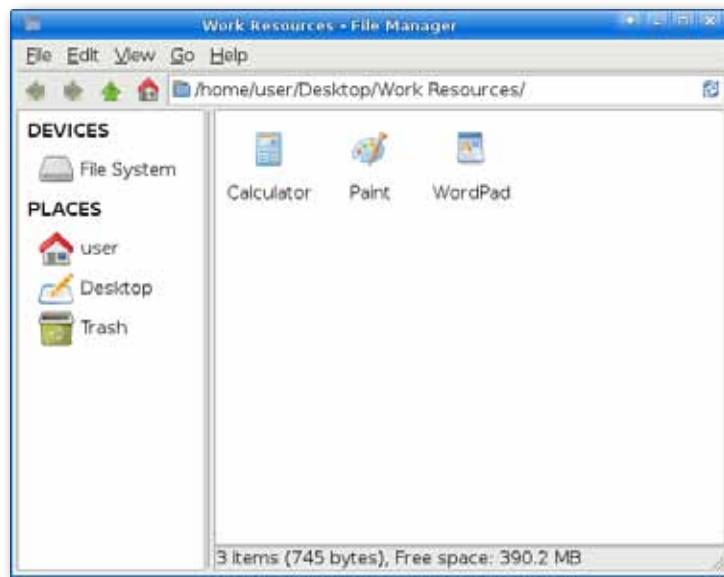
- **Alt + Tab**を使用して、非表示または最小化されたアプリケーションまたはデスクトップを選択して復元します。

接続タイプ : Webフィード

1. ローカルデスクトップの**Work Resources**フォルダをダブルクリックします。



2. 利用可能なアプリケーションへのアクセスショートカットは、そのフォルダにあります。



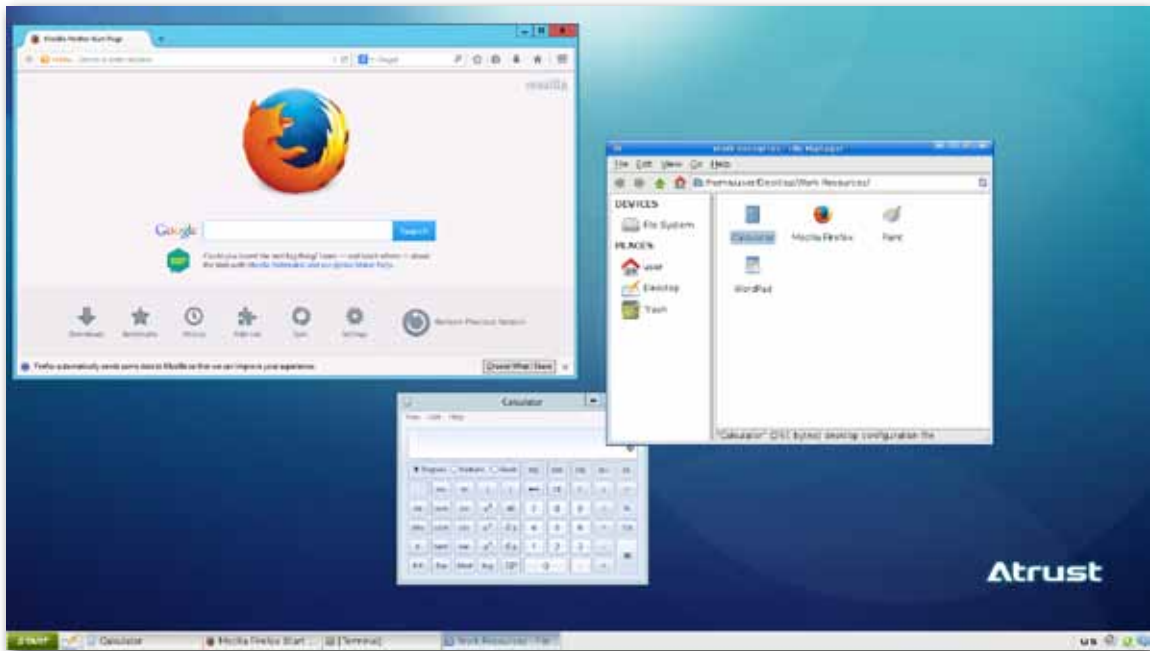
3. ダブルクリックして目的のアプリケーションを選択します。

4. 資格情報の入力を求めるウィンドウが表示されます。



5. 資格情報を入力し、[OK]をクリックして、選択したアプリケーションを起動します。

リモートアプリケーションの例 Mozilla Firefoxおよび Calculator




2.6.5 詳細なRDP接続設定の構成

以下の表は、RDP接続の各設定項目の説明です。これらの表を参照して、詳細設定を構成し、ローカルデスクトップのショートカットとサービスアクセスの[スタート]メニューをカスタマイズしてください。

 **注意**

- 使用可能な設定は、選択した接続タイプによって異なることに注意してください。

リモートデスクトップの接続タイプの設定

 **注意**

- リモートWebアクセスの接続タイプの設定については、“管理者専用のアクセス権限とパスワードの設定 (P.40)”を参照してください。
- Webフィードの接続タイプの設定については、“Webフィードの接続タイプの設定 (P.151)”を参照してください。

一般サブタブ


サーバー設定									
項目	説明文								
セッション名	リモートデスクトップセッションの名前を入力します。								
コンピューター	リモートデスクトップセッションを配信するサーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。								
接続タイプ	<p>この表では、リモートデスクトップが選択されている場合に使用可能な設定についてのみ説明します。</p> <p>3つの接続タイプを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リモートデスクトップ</td> <td>リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。</td> </tr> <tr> <td>リモートWebアクセス</td> <td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。</td> </tr> <tr> <td>ウェブフィード</td> <td>公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	リモートデスクトップ	リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。	リモートWebアクセス	Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。
オプション	説明文								
リモートデスクトップ	リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。								
リモートWebアクセス	Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。								
ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。								
ネットワークレベル認証	<p>ネットワークレベル認証を有効/無効にします。</p> <p>注意: ネットワークレベル認証は、ログオン画面が表示されてセッションが作成される前にユーザーの認証を要求することにより、サーバーのセキュリティを強化するために使用される認証方法です。これは、リモートコンピュータを悪意のあるユーザーやソフトウェアから保護するのに役立つ、より安全な認証方法です。</p>								

<p>サーバー認証</p>	<p>クライアントがリモートコンピューターのIDを確認できない場合の次の処理を選択します。3つのオプションが利用できます接続して警告しない、警告し、接続しないでください。</p> <table border="1" data-bbox="547 342 1390 555"> <thead> <tr> <th data-bbox="547 342 794 387">オプション</th> <th data-bbox="794 342 1390 387">説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="547 387 794 432">警告せず接続</td> <td data-bbox="794 387 1390 432">警告なしでとにかく接続します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="547 432 794 510">警告</td> <td data-bbox="794 432 1390 510">警告し、ユーザーが接続するかどうかを選択できるようにします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="547 510 794 555">接続拒否</td> <td data-bbox="794 510 1390 555">接続を拒否します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: リモートコンピューターの証明書をインポートするには、セクション“2.2.15 リモートコンピューターの証明書のインポート (P.65)”を参照してください。</p>	オプション	説明文	警告せず接続	警告なしでとにかく接続します。	警告	警告し、ユーザーが接続するかどうかを選択できるようにします。	接続拒否	接続を拒否します。
オプション	説明文								
警告せず接続	警告なしでとにかく接続します。								
警告	警告し、ユーザーが接続するかどうかを選択できるようにします。								
接続拒否	接続を拒否します。								
<p>ログイン設定</p>									
<p>項目</p>	<p>説明文</p>								
<p>ユーザー名</p>	<p>認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。</p>								
<p>パスワード</p>	<p>認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。</p>								
<p>ドメイン</p>	<p>サーバーのドメインを入力します。</p> <p>注意: ドメインは、共通のデータベースとセキュリティポリシーを共有するネットワーク上のコンピューターのコレクションです。サーバーがどのドメインにも属していない場合は、このフィールドを空白のままにします。</p>								
<p>スマートカードログイン</p>	<p>オンにすると、スマートカードを使用したログオンが有効になります。</p>								

共通設定													
項目	説明文												
自動起動	<p>P2Tシンクライアントの起動時にリモートデスクトップセッションを自動的に開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには、類似しているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td>デフォルト有効。システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。
No.	モード	説明文											
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。											
アプリケーション終了時	<p>リモートデスクトップセッションが終了したときの動作を選択します。5つのオプションが利用可能です。 何もしない, アプリケーションを再起動します, アプリケーションの強制再起動, リポートとシャットダウン。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>何もしない</td> <td>ローカルLinuxデスクトップに戻ります。</td> </tr> <tr> <td>アプリケーションを再起動します</td> <td>リモートデスクトップセッションを再度開きます。</td> </tr> <tr> <td>アプリケーションの強制再起動</td> <td>リモートデスクトップセッションを再度開き、その間のメッセージをスキップします。</td> </tr> <tr> <td>リポート</td> <td>P2Tシンクライアントを再起動します。</td> </tr> <tr> <td>シャットダウン</td> <td>P2Tシンクライアントをオフにします。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。	アプリケーションを再起動します	リモートデスクトップセッションを再度開きます。	アプリケーションの強制再起動	リモートデスクトップセッションを再度開き、その間のメッセージをスキップします。	リポート	P2Tシンクライアントを再起動します。	シャットダウン	P2Tシンクライアントをオフにします。
オプション	説明文												
何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。												
アプリケーションを再起動します	リモートデスクトップセッションを再度開きます。												
アプリケーションの強制再起動	リモートデスクトップセッションを再度開き、その間のメッセージをスキップします。												
リポート	P2Tシンクライアントを再起動します。												
シャットダウン	P2Tシンクライアントをオフにします。												

オプションサブタブ

プログラム									
I項目	説明文								
起動時のプログラムの起動	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、アプリケーションモードを有効または無効にします。このオプションを使用して、セッションタイプを選択します。2つのリモートセッションタイプを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> リモートデスクトップ（アプリケーションモードが無効な場合） リモートアプリケーション（アプリケーションモードが有効な場合） <p>注意: リモートアプリケーションセッションは、フルデスクトップではなく特定のアプリケーションのみにアクセスするために使用されるリモートセッションです。</p> <p>注意: リモートアプリケーションセッションを開く前に、ホストサーバー上のRemoteAppマネージャーを使用して、目的のアプリケーションをRemoteAppプログラムリストに追加する必要があります。サーバー上のRemoteAppプログラムリストに目的のアプリケーションを追加する方法の詳細については、MicrosoftのWebサイト（www.microsoft.com）にアクセスしてください。</p>								
起動時のフォルダー	<p>接続時に次のプログラムを起動するが有効になっている場合は、目的のアプリケーションの場所（ホストサーバー上）を入力します。</p> <p>注意: このフィールドに目的のアプリケーションの場所/パスを入力し、プログラムパスとファイル名（次のフィールド）にアプリケーションの名前のみを指定できます。または、[プログラムのパスとファイル名]にアプリケーションの完全なパスと名前を入力し、このフィールドを空のままにすることができます。</p>								
プログラムのパス及び名前	<p>[接続時に次のプログラムを起動する]が有効になっている場合は、目的のアプリケーションの名前を入力します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">リモートアプリ</th> <th style="text-align: left;">フォーマット例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Windows Media Player</td> <td>C:¥Programs Files (x86)¥Windows Media Player¥wmplayer.exe</td> </tr> <tr> <td>Adobe Reader X</td> <td>C:¥Programs Files (x86)¥Adobe¥Reader 10.0¥Reader¥ArcoRd32.exe</td> </tr> <tr> <td>Adobe Reader X</td> <td>C:¥Programs Files (x86)¥Adobe¥Reader 10.0¥Reader¥ArcoRd32</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: ファイル拡張子は省略できます。</p>	リモートアプリ	フォーマット例	Windows Media Player	C:¥Programs Files (x86)¥Windows Media Player¥wmplayer.exe	Adobe Reader X	C:¥Programs Files (x86)¥Adobe¥Reader 10.0¥Reader¥ArcoRd32.exe	Adobe Reader X	C:¥Programs Files (x86)¥Adobe¥Reader 10.0¥Reader¥ArcoRd32
リモートアプリ	フォーマット例								
Windows Media Player	C:¥Programs Files (x86)¥Windows Media Player¥wmplayer.exe								
Adobe Reader X	C:¥Programs Files (x86)¥Adobe¥Reader 10.0¥Reader¥ArcoRd32.exe								
Adobe Reader X	C:¥Programs Files (x86)¥Adobe¥Reader 10.0¥Reader¥ArcoRd32								
ウィンドウ設定									
I項目	説明文								
色深度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションに必要な色深度を選択します。5つのオプション、自動、15ビット、16ビット、24ビット、32ビットを使用できます。</p> <p>注意: RemoteFXが有効になっている場合、ここで選択した色深度に関係なく、32ビット/ピクセルが適用されます。</p> <p>注意: [自動]オプションは、ホストサーバーによって定義された設定を使用します。</p> <p>注意: ホストサーバー上のリモートデスクトップセッションの色深度の上限を構成できます。この場合、ここで選択する色深度に関係なく、値は定義された制限を超えることはできません。</p>								

<p>解像度</p>	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションに必要なディスプレイ解像度を選択します。フルスクリーン、ラージウィンドウ、ミディアムウィンドウ、スモールウィンドウの4つのオプションを使用できます。</p> <table border="1" data-bbox="491 342 1385 667"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フルスクリーン</td> <td>ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを全画面で開きます。</td> </tr> <tr> <td>ラージウィンドウ</td> <td>大きなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。</td> </tr> <tr> <td>ミディアムウィンドウ</td> <td>中程度のディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。</td> </tr> <tr> <td>スモールウィンドウ</td> <td>小さなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: ローカルデスクトップのディスプレイ解像度を構成するには、セクション“2.3.3 表示設定の構成 (P.74)”を参照してください。</p>	オプション	説明文	フルスクリーン	ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを全画面で開きます。	ラージウィンドウ	大きなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。	ミディアムウィンドウ	中程度のディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。	スモールウィンドウ	小さなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。
オプション	説明文										
フルスクリーン	ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを全画面で開きます。										
ラージウィンドウ	大きなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。										
ミディアムウィンドウ	中程度のディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。										
スモールウィンドウ	小さなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。										
<p>ツールバー</p>	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションでAtrustツールバーを使用するかどうかを選択します。ツールバーを使用すると、セッションウィンドウのサイズを調整したり、セッションを一時停止したりできます。</p>  <p>The image shows a red toolbar with the text 'Atrust' on the left, a mouse cursor pointing at it, and two icons on the right: a square with a plus sign and a square with an 'X'.</p>										
<p>フルスクリーン設定</p>	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Ctrl + Alt + Enterによるリモートセッションの全画面切り替えを許可/禁止します。</p>										
<p>カーソル自動非表示</p>	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションでの非アクティブ時のマウスカーソルまたはポインターの自動非表示を有効または無効にします。</p>										
<p>RemoteFX</p>	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RemoteFXを無効または有効にします。</p> <p>注意: Windows® RemoteFX™ は、リモートデスクトップユーザーにネットワーク経由でリッチなユーザーエクスペリエンスを提供するテクノロジーです。</p> <p>注意: P2TシンクライアントでリモートデスクトップセッションのRemoteFX機能を有効にするには、ホストサーバーを構成する必要があります。ホストサーバーでRemoteFXを有効にする方法の詳細については、MicrosoftサポートWebサイト support.microsoft.comにアクセスしてください。</p>										
<p>グラフィックス設定</p>	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、使用するグラフィック圧縮方法を選択します：RemoteFX、Progressive RemoteFX、またはH.264 / AVC 444。</p> <p>注意: この設定項目は、「RemoteFXの使用」が有効になっている場合にのみ表示されます。</p>										
<p>圧縮設定</p>	<p>クリックして、サーバーとクライアント間のデータトラフィックの一括圧縮を有効/無効にします。</p>										

最適化設定	
項目	説明文
接続品質	<p>ネットワーク接続の品質を最もよく表すオプションを選択します。3つのオプション、LAN（非常に高速）、ブロードバンド（高速）、およびモデム（低速）を使用できます。</p> <p>注意: ここで選択すると、このセクションの項目のデフォルトが次のように決定されます。</p>
デスクトップ背景	チェックすると、デスクトップの背景が使用されます。
フォントスムージング	チェックを入れると、ClearType® テクノロジーを使用して、フォントを明確で滑らかにします。
ドラッグ時ウィンドウ表示	オンにすると、ウィンドウのドラッグ中にウィンドウの内容が表示されます。
メニューとウィンドウのアニメーション	チェックすると、メニューとウィンドウのアニメーションが表示されます。
表示スタイル	チェックして、クラシックでないテーマを許可します。
ビットマップキャッシュ	チェックして、セッションでビットマップのクライアント側キャッシュを許可します。
接続設定	
項目	説明文
マルチメディアリダイレクション	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、マルチメディアリダイレクトを無効または有効にします。</p> <p>有効にすると、クライアントは元の圧縮マルチメディアストリームを受信し、ローカルでデコードして表示します。この機能は、クライアントの負荷を増やしますが、サーバーリソースを節約し、帯域幅の使用を減らし、オーディオとビデオの再生エクスペリエンスを向上させます。</p>
USBストレージマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、USBストレージマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでUSBフラッシュドライブやメモリーカードリーダーなどのローカルUSBストレージデバイスにアクセスできます。</p> <p>注意: Atrust Client Setupでは、ローカルに接続されたUSBストレージデバイスの使用を有効または無効にすることもできます。ローカルに接続されたUSBストレージデバイスをリモートデスクトップセッションで使用するには、まずそれらを有効にする必要があります。デフォルトは有効です。</p> <p>注意: USBストレージデバイスの使用を設定するには、セクション“2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)”を参照してください。</p>
プリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、プリンターマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでローカルプリンターまたはネットワークプリンターにアクセスできます。</p> <p>注意: 最初にP2Tシンクライアント用のローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加し、次にこの機能を有効にして、リモートデスクトップセッションでそのプリンターを使用する必要があります。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントにローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加する方法の詳細については、“2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)” または “2.4.8 ネットワークプリンターの追加 (P.97)”を参照してください。</p>
シリアルポートマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、シリアルポートマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスにアクセスできます。</p>

パラレルポートマッピング	ド롭ダウンメニューをクリックして、パラレルポートマッピングを有効または無効にします。 [有効にする] を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでプリンターやスキャナーなどのパラレルデバイスにアクセスできます。	
スマートカードマッピング	ド롭ダウンメニューをクリックして、スマートカードマッピングを有効または無効にします。 [有効にする] を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでスマートカードリーダーを介してスマートカードにアクセスできます。	
ロードバランス	このフィールドを使用して、必要に応じて、目的のリモートデスクトップサービスコレクションの値を指定します。	
サーバーステータスチェック	ド롭ダウンメニューをクリックして、接続ステータスチェックを有効/無効にします。 注意: リモートセッション用にデプロイされた一部のサーバーは、接続ステータスチェックをサポートしていない場合があります。この機能を有効にすると、リモートセッションが切断されます。この場合は、切断しないように無効にします。	
接続ダイアログの設定		
項目	説明文	
利用接続情報	ド롭ダウンメニューをクリックして、接続ダイアログウィンドウでリモートコンピュータに表示するものを選択します。 [コンピュータ] フィールドまたは [セッション名] フィールド。	
ドメインフィールド	ド롭ダウンメニューをクリックして、接続のドメインフィールドを表示/非表示にしますダイアログウィンドウ。	
ローカルリソースの設定		
項目	説明文	
リモートオーディオ再生	ド롭ダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。3つのオプションを使用できます。この コンピューターで再生する 、 リモートコンピューターで再生すると再生しません 。	
	オプション	説明文
	このコンピューターで再生する	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。
	リモートコンピューターで再生する	リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。
再生しません。	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。	
リモートオーディオ録音	ド롭ダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。次の2つのオプションを使用できます。この コンピューターからの録音と録音しない 。	
	オプション	説明文
	このコンピューターからの録音	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。
	録音しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。

RemoteFX USBリダイレクト設定	
項目	説明文
RemoteFX USBリダイレクト	<p>リモートデスクトップセッションでローカルに接続されたUSBデバイスを有効/無効にするには、オン/オフを切り替えます（仮想マシンベースのみ）。</p> <p>注意: RemoteFX USBリダイレクトを使用すると、サーバーでホストされている仮想マシン（ゲストオペレーティングシステムを使用）にUSBデバイスをリダイレクトできます。</p> <p>注意: RemoteFX USBリダイレクトは、セッションベースではなく、仮想マシンベースのリモートデスクトップサービスにのみ適用できます。詳細については、support.microsoft.comのMicrosoftサポートWebサイトにアクセスしてください。</p> <p>クライアント側で、仮想マシンベースのデスクトップでローカルに接続されたUSBデバイスを有効にするには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のUSBデバイスがクライアントに接続されていることを確認します。 2. P2TシンクライアントでRemoteFXが有効になっていることを確認します（“RemoteFX (P.144)”を参照）。 3. [RemoteFX USBリダイレクトの利用]をクリックして有効にします。 4. 新しいチェックボックスが表示され、必要なデバイスドライバが示されます。チェックして、ドライバを有効にします。 5. [保存]をクリックして適用します。 <p>注意: また、リモートデスクトップセッションでRemoteFX USBリダイレクトを有効にするには、ホストサーバーとそのゲストOSを構成する必要があります。サーバー側の構成手順については、MicrosoftサポートWebサイト support.microsoft.comにアクセスしてください。</p>

RDゲートウェイサブタブ

接続設定	
項目	説明文
RDゲートウェイサーバー利用	RDゲートウェイサーバーの使用を有効または無効にするには、チェックボックスをオンまたはオフにします。オンにすると、この表に次の2つの項目が表示されます。
サーバー名	RDゲートウェイサーバーの名前を入力します。この情報については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
RDゲートウェイに資格情報を使う	チェックして、リモートデスクトップコンピューターとRDゲートウェイサーバーの両方に対する認証に同じ資格情報のセットを使用します。
RDゲートウェイをバイパス	オンにすると、ローカルネットワークアドレスとの間のトラフィックがRDゲートウェイサーバー経由でルーティングされなくなります。これにより、RDP接続が速くなる可能性があります。

リモートWebアクセスの接続タイプの設定



注意

- リモートデスクトップの接続タイプの設定については、“リモートデスクトップの接続タイプの設定 (P.140)”を参照してください。
- Webフィードの接続タイプの設定については、“Webフィードの接続タイプの設定 (P.151)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定									
項目	説明文								
セッション名	リモートWebアクセスセッションの名前を入力します。								
接続URL	リモートWebアクセスセッションを配信するサーバーのURLを入力します。								
接続タイプ	<p>この表は、リモートWebアクセスが選択されている場合に利用可能な設定の説明のみを提供します。 3つの接続タイプを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リモートデスクトップ</td> <td>リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。</td> </tr> <tr> <td>リモートWebアクセス</td> <td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。</td> </tr> <tr> <td>ウェブフィード</td> <td>公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	リモートデスクトップ	リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。	リモートWebアクセス	Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。
オプション	説明文								
リモートデスクトップ	リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。								
リモートWebアクセス	Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。								
ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。								

共通設定													
項目	説明文												
起動時自動起動	<p>P2Tシンクライアントの起動時に、リモートWebアクセスセッションを自動的に開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには、類似しているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。
	No.	モード	説明文										
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。											
	<p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>												
アプリケーション終了時	<p>リモートWebアクセスセッションが終了したときの動作を選択します。5つのオプションが利用可能です。 何もしない, アプリケーションを再起動します, アプリケーションの強制再起動, リポートとシャットダウン。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>何もしない</td> <td>ローカルLinuxデスクトップに戻ります。</td> </tr> <tr> <td>アプリケーションを再起動します</td> <td>リモートWebアクセスセッションを再度開きます。</td> </tr> <tr> <td>アプリケーションの強制再起動</td> <td>リモートWebアクセスセッションを再度開き、その間のメッセージをスキップします。</td> </tr> <tr> <td>リポート</td> <td>P2Tシンクライアントを再起動します。</td> </tr> <tr> <td>シャットダウン</td> <td>P2Tシンクライアントをオフにします。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。	アプリケーションを再起動します	リモートWebアクセスセッションを再度開きます。	アプリケーションの強制再起動	リモートWebアクセスセッションを再度開き、その間のメッセージをスキップします。	リポート	P2Tシンクライアントを再起動します。	シャットダウン	P2Tシンクライアントをオフにします。
オプション	説明文												
何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。												
アプリケーションを再起動します	リモートWebアクセスセッションを再度開きます。												
アプリケーションの強制再起動	リモートWebアクセスセッションを再度開き、その間のメッセージをスキップします。												
リポート	P2Tシンクライアントを再起動します。												
シャットダウン	P2Tシンクライアントをオフにします。												

オプションサブタブ



注意

- リモートWebアクセスの接続タイプの[オプション]サブタブで利用できる設定はありません。

RDゲートウェイサブタブ



注意

- リモートWebアクセスの接続タイプの[RDゲートウェイ]サブタブでは、オプションは利用できません。

Webフィードの接続タイプの設定



注意

- リモートデスクトップの接続タイプの設定の説明については、“リモートデスクトップの接続タイプの設定 (P.140)”を参照してください。
- リモートWebアクセスの接続タイプの設定については、“ (P.147)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定									
項目	説明文								
セッション名	Webフィードセッションの名前を入力します。								
WebフィードURL	Webフィードセッションを配信するサーバーのURLを入力します。								
接続タイプ	<p>この表は、Webフィードが選択されている場合に使用可能な設定の説明のみを提供します。 3つの接続タイプを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リモートデスクトップ</td> <td>リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。</td> </tr> <tr> <td>リモートWebアクセス</td> <td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。</td> </tr> <tr> <td>ウェブフィード</td> <td>公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	リモートデスクトップ	リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。	リモートWebアクセス	Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。
オプション	説明文								
リモートデスクトップ	リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。								
リモートWebアクセス	Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。								
ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。								
ログイン設定									
項目	説明文								
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。								
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。								
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。								
RemoteAppとデスクトップ接続									
項目	説明文								
いますぐアップデート	クリックすると、サーバーから公開アプリケーションリストを取得して更新します。								

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
色深度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションに必要な色深度を選択します。5つのオプション、自動、15ビット、16ビット、24ビット、32ビットを使用できます。</p> <p>注意: RemoteFXが有効になっている場合、ここで選択した色深度に関係なく、32ビット/ピクセルが適用されます。</p> <p>注意: [自動]オプションは、ホストサーバーによって定義された設定を使用します。</p> <p>注意: ホストサーバー上のリモートデスクトップセッションの色深度の上限を構成できます。この場合、ここで選択する色深度に関係なく、値は定義された制限を超えることはできません。</p>
カーソル自動非表示	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションでの非アクティブ時のマウスカーソルまたはポインターの自動非表示を有効または無効にします。</p>
RemoteFX	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RemoteFXを無効または有効にします。</p> <p>注意: Windows® RemoteFX™ は、リモートデスクトップユーザーにネットワーク経由でリッチなユーザーエクスペリエンスを提供するテクノロジーです。</p> <p>注意: P2TシンクライアントでリモートデスクトップセッションのRemoteFX機能を有効にするには、ホストサーバーを構成する必要があります。ホストサーバーでRemoteFXを有効にする方法の詳細については、MicrosoftサポートWebサイト support.microsoft.com にアクセスしてください。</p>
圧縮設定	<p>クリックして、サーバーとクライアント間のデータトラフィックの一括圧縮を有効/無効にします。</p>
最適化設定	
項目	説明文
デスクトップ背景	<p>チェックすると、デスクトップの背景が使用されます。</p>
フォントスムージング	<p>チェックを入れると、ClearType® テクノロジーを使用して、フォントを明確で滑らかにします。</p>
ドラッグ時ウィンドウ表示	<p>オンにすると、ウィンドウのドラッグ中にウィンドウの内容が表示されます。</p>
メニューとウィンドウアニメーション	<p>チェックすると、メニューとウィンドウのアニメーションが表示されます。</p>
表示スタイル	<p>チェックして、クラシックでないテーマを許可します。</p>
ビットマップキャッシュ	<p>チェックして、セッションでビットマップのクライアント側キャッシュを許可します。</p>

接続設定	
項目	説明文
USBストレージマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、USBストレージマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでUSBフラッシュドライブやメモリカードリーダーなどのローカルUSBストレージデバイスにアクセスできます。</p> <p>注意: Atrust Client Setupでは、ローカルに接続されたUSBストレージデバイスの使用を有効または無効にすることもできます。ローカルに接続されたUSBストレージデバイスをリモートデスクトップセッションで使用するには、まずそれらを有効にする必要があります。デフォルトは有効です。</p> <p>注意: USBストレージデバイスの使用を設定するには、セクション“2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)”を参照してください。</p>
プリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、プリンターマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでローカルプリンターまたはネットワークプリンターにアクセスできます。</p> <p>注意: 最初にP2Tシンクライアント用のローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加し、次にこの機能を有効にして、リモートデスクトップセッションでそのプリンターを使用する必要があります。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントにローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加する方法の詳細については、“2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)” または “2.4.8 ネットワークプリンターの追加 (P.97)”を参照してください。</p>
シリアルポートマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、シリアルポートマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスにアクセスできます。</p>
パラレルポートマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、パラレルポートマッピングを有効または無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでプリンターやスキャナーなどのパラレルデバイスにアクセスできます。</p>
スマートカードマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、スマートカードマッピングを有効または無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでスマートカードリーダーを介してスマートカードにアクセスできます。</p>
ロードバランス	<p>このフィールドを使用して、必要に応じて、目的のリモートデスクトップサービスコレクションの値を指定します。</p>
サーバステータスチェック	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、接続ステータスチェックを有効/無効にします。</p> <p>注意: リモートセッション用にデプロイされた一部のサーバーは、接続ステータスチェックをサポートしていない場合があります。この機能を有効にすると、リモートセッションが切断されます。この場合は、切断しないように無効にします。</p>
接続ダイアログの設定	
項目	説明文
利用接続情報	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、接続ダイアログウィンドウでリモートコンピュータに表示するものを選択します。[コンピュータ]フィールドまたは[セッション名]フィールド。</p>
ドメインフィールド	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、接続ダイアログウィンドウのドメインフィールドを表示/非表示にします。</p>

ローカルリソースの設定									
項目	説明文								
リモートオーディオ再生	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。3つのオプションを使用できます。このコンピューターで再生する, リモートコンピューターで再生する, と再生しません。</p>								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>このコンピューターで再生する</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。</td> </tr> <tr> <td>リモートコンピューターで再生する</td> <td>リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。</td> </tr> <tr> <td>再生しません</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	このコンピューターで再生する	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。	リモートコンピューターで再生する	リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。	再生しません	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。
	オプション	説明文							
	このコンピューターで再生する	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。							
リモートコンピューターで再生する	リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。								
再生しません	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。								
リモートオーディオ録音	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。2つのオプションを使用できます。このコンピューターからの録音と録音しない。</p>								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>このコンピューターからの録音</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。</td> </tr> <tr> <td>録音しない</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	このコンピューターからの録音	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。	録音しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。		
	オプション	説明文							
このコンピューターからの録音	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。								
録音しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。								

RemoteFX USBリダイレクト設定	
項目	説明文
RemoteFX USBリダイレクト	<p>リモートデスクトップセッションでローカルに接続されたUSBデバイスを有効/無効にするには、オン/オフを切り替えます（仮想マシンベースのみ）。</p> <p>注意: RemoteFX USBリダイレクトを使用すると、サーバーでホストされている仮想マシン（ゲストオペレーティングシステムを使用）にUSBデバイスをリダイレクトできます。</p> <p>注意: RemoteFX USBリダイレクトは、セッションベースではなく、仮想マシンベースのリモートデスクトップサービスにのみ適用できます。詳細については、support.microsoft.comのMicrosoftサポートWebサイトにアクセスしてください。</p> <p>クライアント側で、仮想マシンベースのデスクトップでローカルに接続されたUSBデバイスを有効にするには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のUSBデバイスがP2Tシンクライアントに接続されていることを確認します。 2. P2TシンクライアントでRemoteFXが有効になっていることを確認します（“RemoteFX (P.144)”を参照）。 3. [Use RemoteFX USB Redirection]をクリックしてオンにします。 4. 新しいチェックボックスが表示され、必要なデバイスドライバーが示されます。チェックして、ドライバーを有効にします。 5. [保存]をクリックして適用します。 <p>注意: また、リモートデスクトップセッションでRemoteFX USBリダイレクトを有効にするには、ホストサーバーとそのゲストOSを構成する必要があります。サーバー側の構成手順については、MicrosoftサポートWebサイト support.microsoft.comにアクセスしてください。</p>

RDゲートウェイサブタブ



注意

- Webログオンの接続タイプの**[オプション]**サブタブで使用できるオプションはありません。

2.6.6 基本的なICA接続設定の構成

Citrix ICA 設定を使用すると、CitrixサービスのICA接続を構成し、ローカルデスクトップにショートカットを作成して、サービスアクセス用の[スタート]メニューを作成できます。これらのショートカットを使用するだけで、作業用の仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスできます。



注意

- Citrixデスクトップ仮想化ソリューションの詳細については、Citrix Webサイト（www.citrix.com）またはCitrix Knowledge Center（support.citrix.com）にアクセスしてください。

6つの接続タイプを使用できます。

接続タイプ	説明文	ページ
Web Logon	Webブラウザを介してデスクトップ/アプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	157
StoreFront	StoreFrontを介してデスクトップ/アプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	158
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介してデスクトップサービスにアクセスすることを選択します。	161
XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンを介してデスクトップサービスにアクセスすることを選択します。	163
XenApp	XenAppの以前のバージョンを介してアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	165
Server Connection	サービス配信サーバーへのアクセスを選択します（XenAppサーバーのみ）。	167



注意

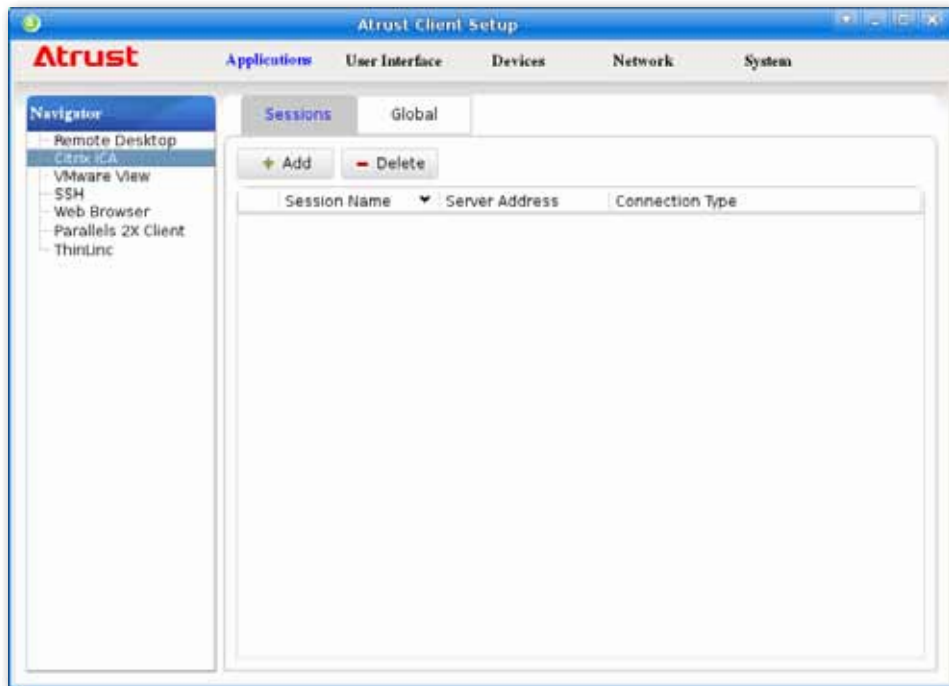
- Citrix製品と推奨される接続タイプについては、次の表を参照してください。

Citrix 製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon

接続タイプ : Webログオン

Webログオン接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]をクリックします。
2. 使用可能なICA接続リストが[設定]領域に表示されます。

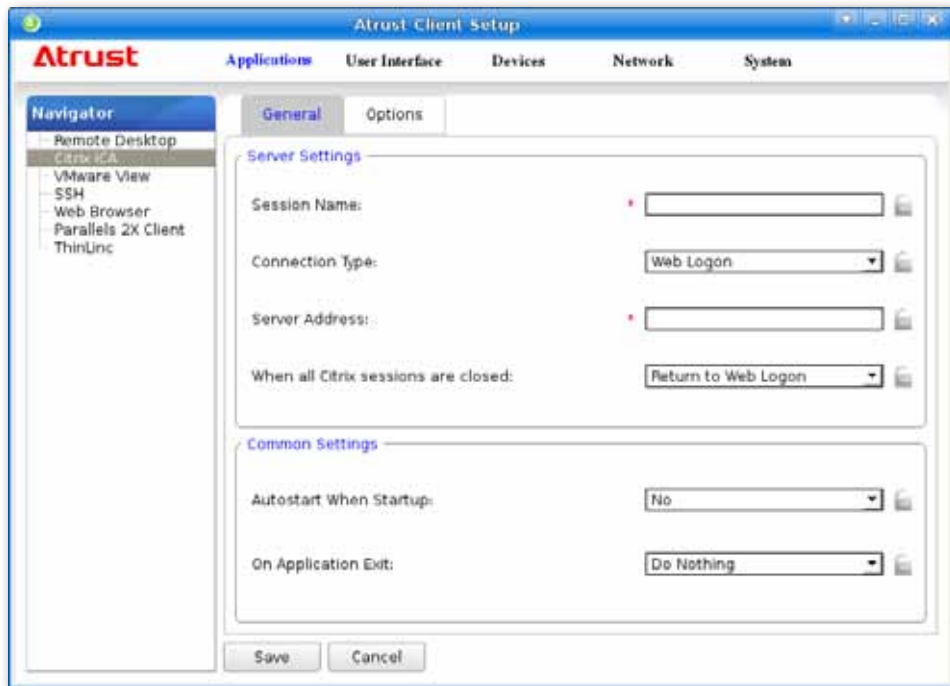


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

3. ICA接続リストの上部にある[追加]をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。

4. 「一般」サブタブで、接続タイプをデフォルトの「Webログオン」のままにして、目的のセッション名と、CitrixサービスにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。



注意

- XenDesktopおよびXenAppの新しいバージョンでは、**サーバーのサブパス**をさらに指定する必要がある場合があります。詳細については、次の表を参照してください。

Citrix 製品	接続するコンポーネント	接続アドレス
XenApp 6.5 以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN
XenDesktop 5.6 以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN IP / URL / FQDN plus sub-path
仮想アプリとデスクトップ (XenAppおよびXenDesktop 7.5以降)	StoreFront	例えば - FQDN : X75.CTX.poc サブパス : / Citrix / StoreWeb (デフォルト) 接続アドレス : X75.CTX.poc / Citrix / StoreWeb

- FQDNは絶対ドメイン名の頭字語です。

5. **[保存]**をクリックして、このICA接続エントリを追加します。アクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。その他の利用可能な設定の詳細については、セクション「2.6.11 ICA接続の詳細設 (P.179)」を参照してください。

接続タイプ : StoreFront

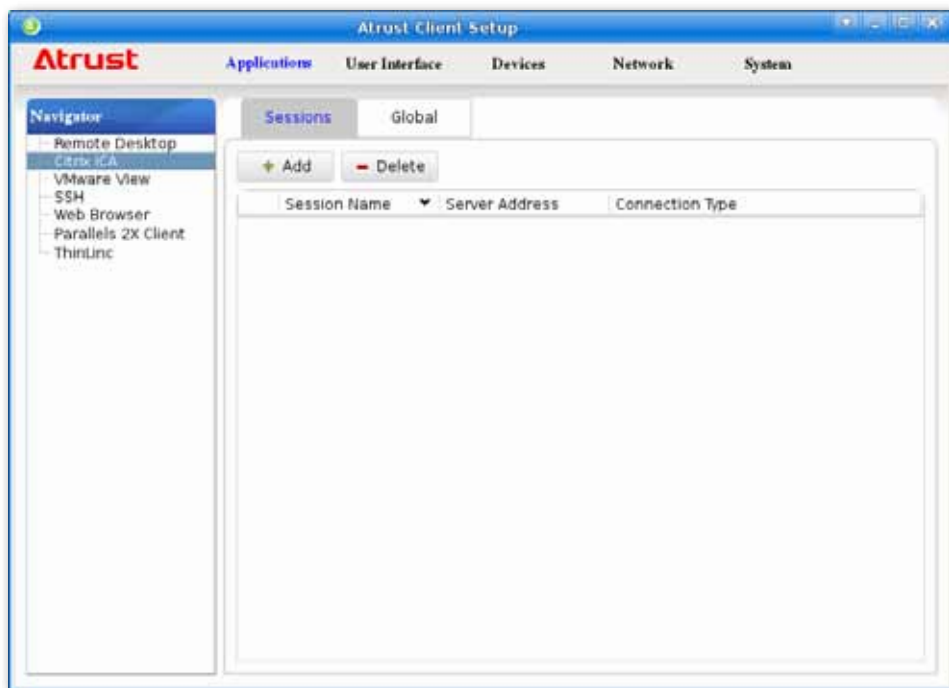
StoreFrontの接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、以下を実行してください：

注意

- Citrix製品と推奨される接続タイプについては、次の表を参照してください。

Citrix 製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]をクリックします。
2. 使用可能なICA接続リストが[設定]領域に表示されます。

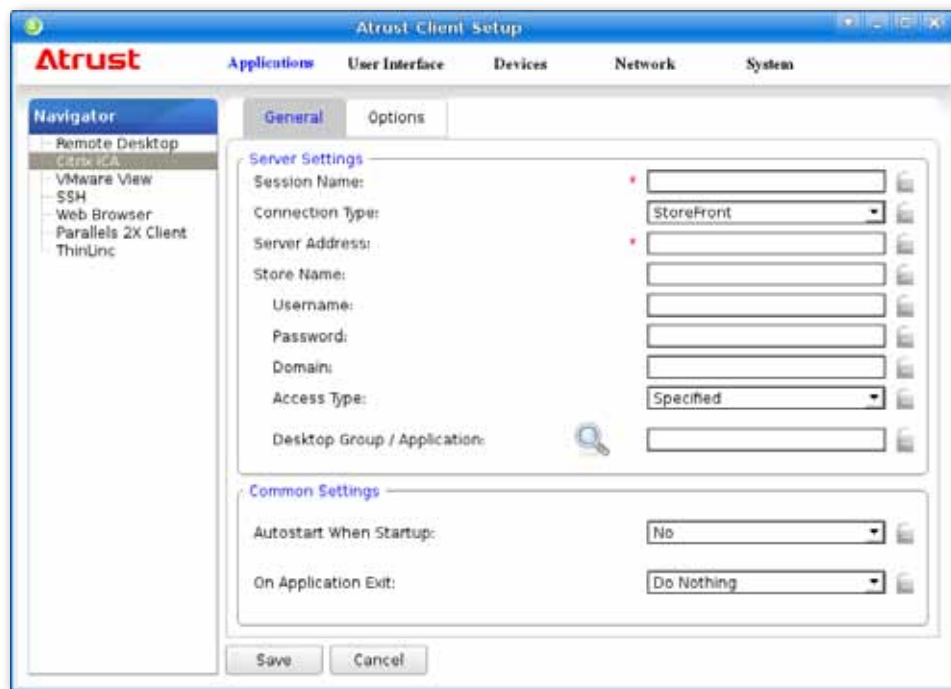


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

3. ICA接続リストの上部にある[追加]をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。


4. 「一般」サブタブで、「接続タイプ」ドロップダウンメニューをクリックして「StoreFront」を選択します。



5. 仮想アプリケーション/デスクトップにアクセスできるサーバーのセッション名とIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。



注意

- 検索アイコン  を使用して、特定の資格情報のセットで使用可能なデスクトップグループまたはアプリケーションを見つけることができます。

6. [保存]をクリックして確定します。カスタマイズされたアクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“2.6.11 ICA接続の詳細設 (P.179)”を参照してください。

接続タイプ : VDI-in-a-Box

VDI-in-a-Boxの接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行します。

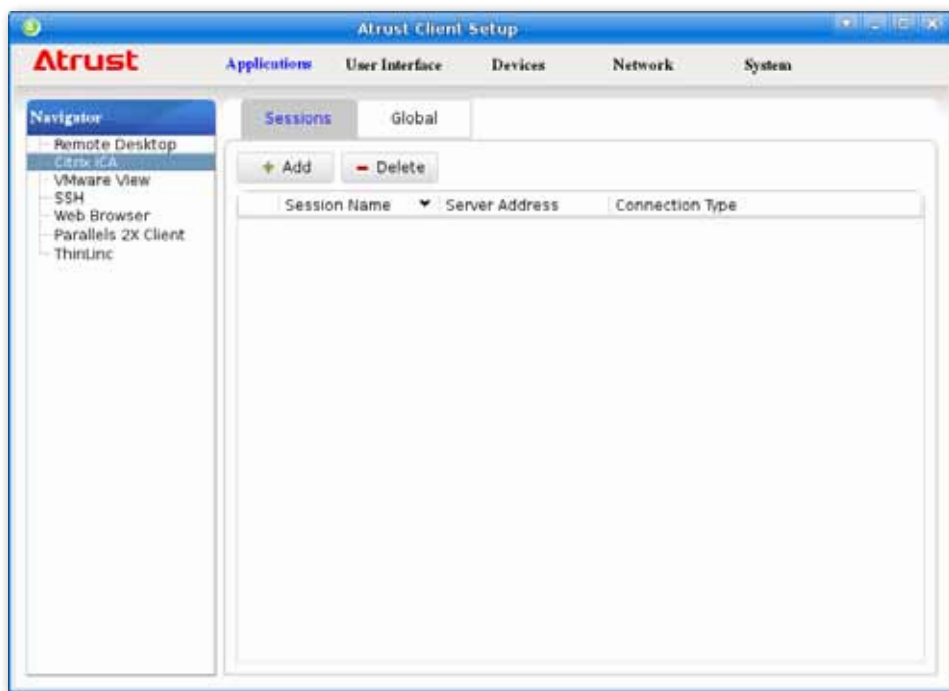


注意

- Citrix製品と推奨される接続タイプについては、次の表を参照してください。

Citrix 製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]をクリックします。
2. 使用可能なICA接続リストが[設定]領域に表示されます。

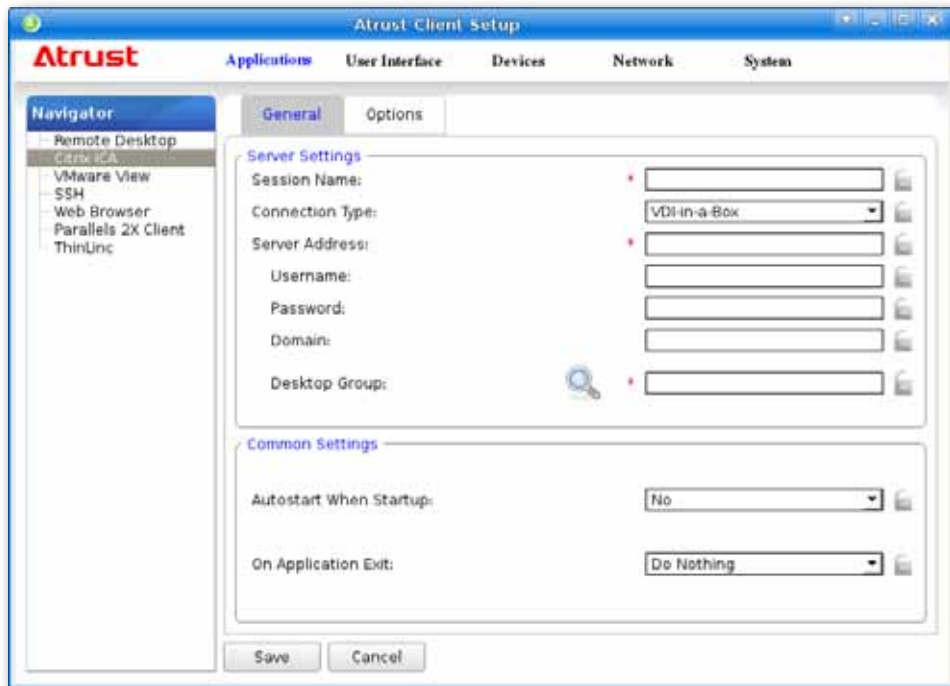


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

3. ICA接続リストの上部にある[追加]をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。


4. **General**サブタブで、Connection Typeドロップダウンメニューをクリックして、**VDI-in-a-Box**を選択します。



5. セッション名、仮想デスクトップにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDN、およびデスクトップグループの名前を入力します。



注意

- 検索アイコンを使用して、特定の資格情報のセットで使用可能なデスクトップグループを見つけることができます。

6. **[保存]**をクリックして確定します。カスタマイズされたアクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“2.6.11 ICA接続の詳細設 (P.179)”を参照してください。

接続タイプ : XenDesktop

XenDesktopの接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、以下を実行してください。

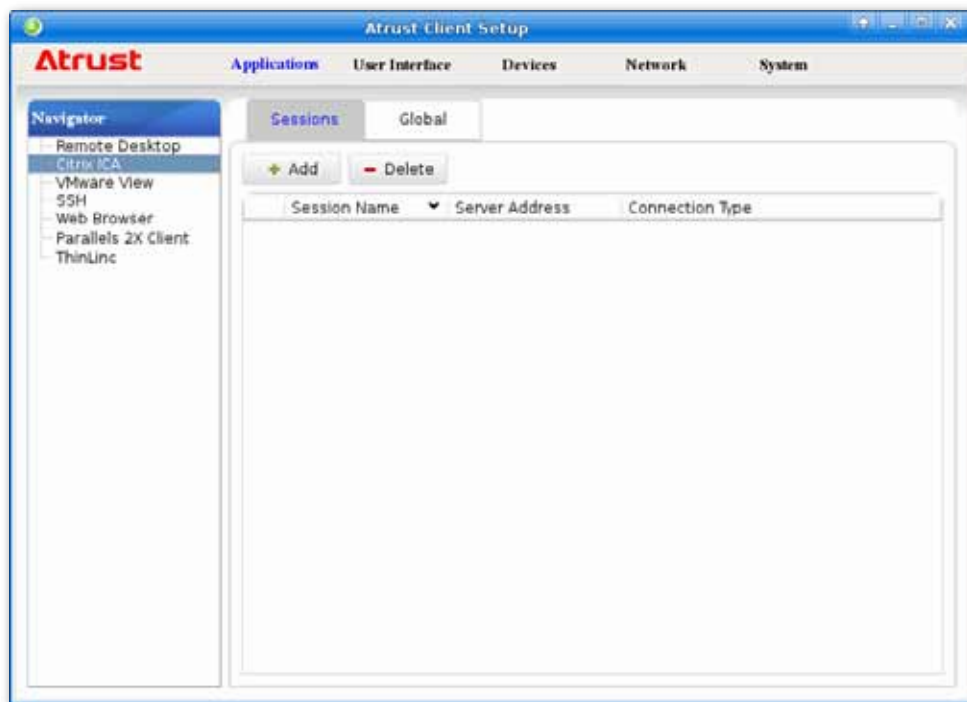


注意

- Citrix製品と推奨される接続タイプについては、次の表を参照してください。

Citrix 製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]をクリックします。
2. 使用可能なICA接続リストが[設定]領域に表示されます。

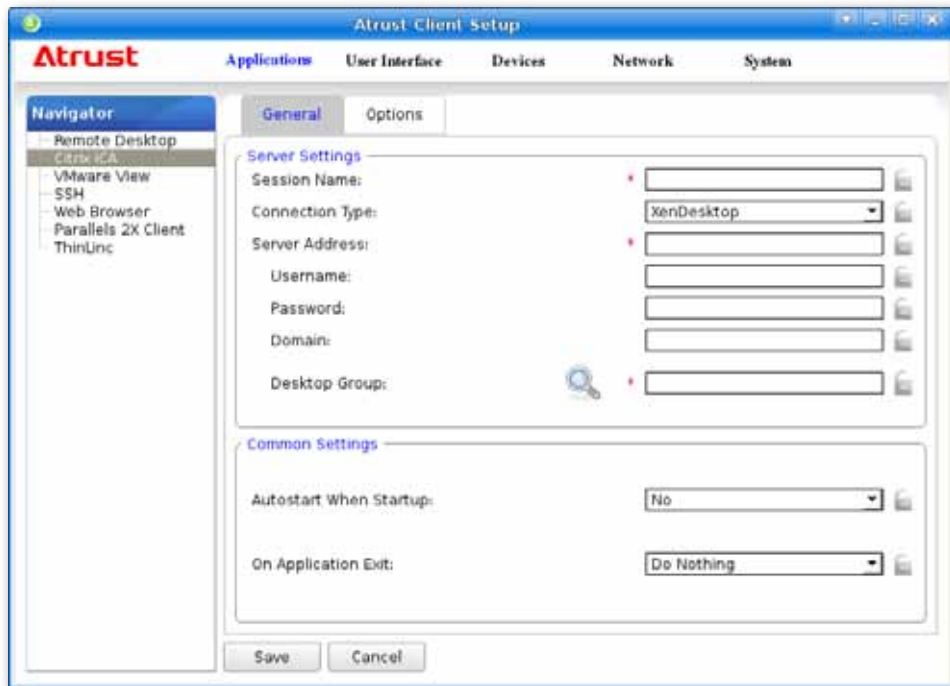


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

3. ICA接続リストの上部にある[追加]をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。


4. 「一般」サブタブで、「接続タイプ」ドロップダウンメニューをクリックして、**XenDesktop**を選択します。



5. セッション名、仮想デスクトップにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDN、および目的のデスクトップグループを入力します。



注意

- 検索アイコンを使用して、特定の資格情報のセットで使用可能なデスクトップグループを見つけることができます。

6. **[保存]**をクリックして確定します。カスタマイズされたアクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“2.6.11 ICA接続の詳細設 (P.179)”を参照してください。

接続タイプ : XenApp

XenAppの接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、以下を実行してください。

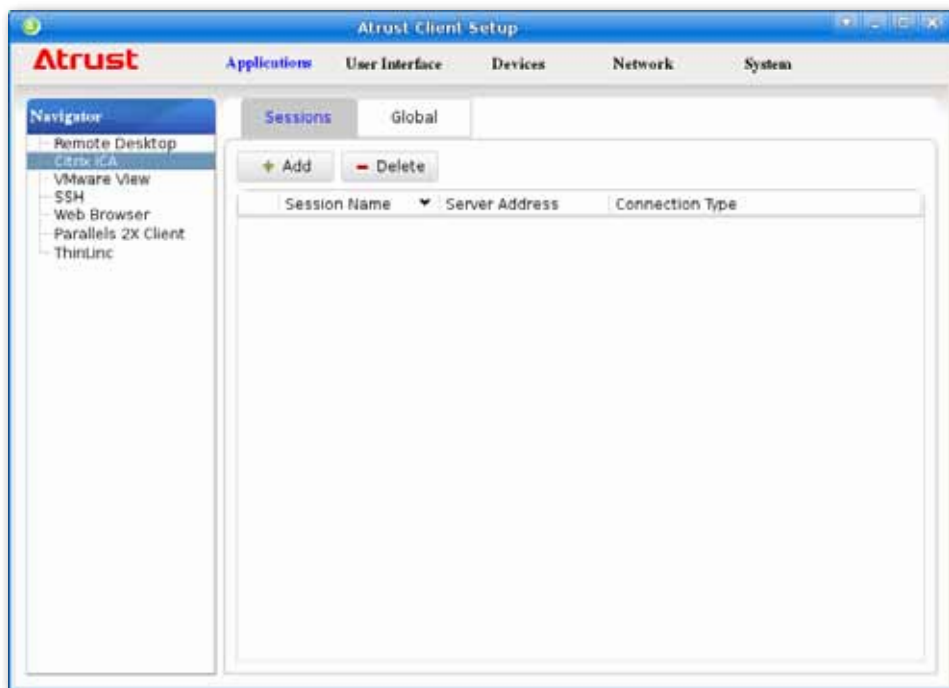


注意

- Citrix製品と推奨される接続タイプについては、次の表を参照してください。

Citrix 製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]をクリックします。
2. 使用可能なICA接続リストが[設定]領域に表示されます。

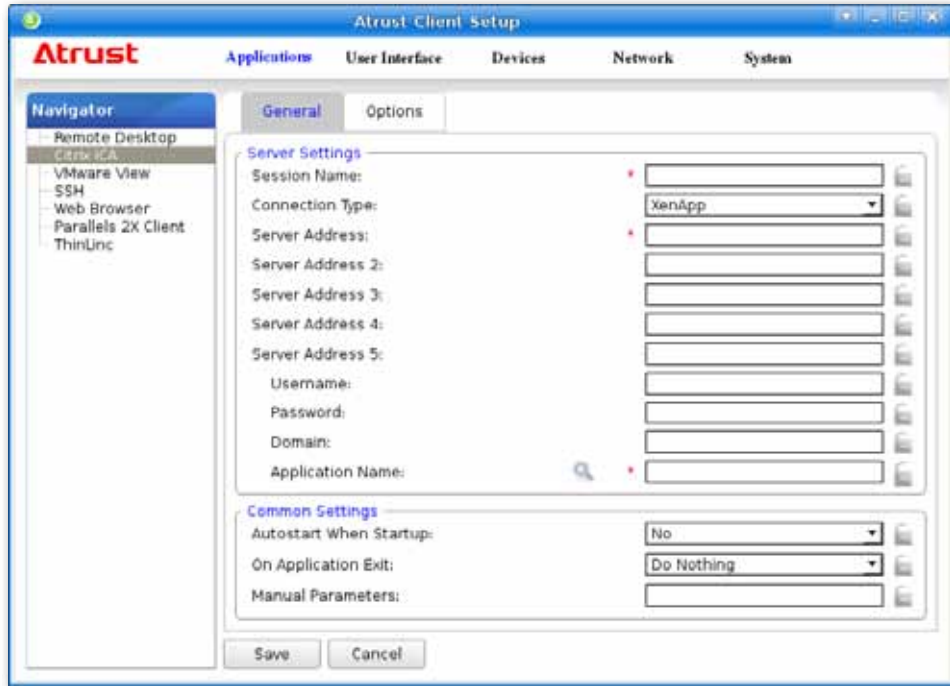


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

3. ICA接続リストの上部にある[追加]をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。

4. 「一般」サブタブで、「接続タイプ」ドロップダウンメニューをクリックして、**XenApp**を選択します。



5. セッション名、仮想アプリケーションにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDN、および目的のアプリケーション名を入力します。




注意

- サーバー側の構成によっては、サーバーアドレス（たとえば、XA65P.CTX.poc : **8080**）の**XMLポート番号**も指定する必要がある場合があります。



注意

- 検索アイコンを使用して、特定の資格情報のセットで使用可能なアプリケーションを見つけることができます。

6. **[保存]**をクリックして確定します。カスタマイズされたアクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“2.6.11 ICA接続の詳細設 (P.179)”を参照してください。

接続タイプ：サーバー接続

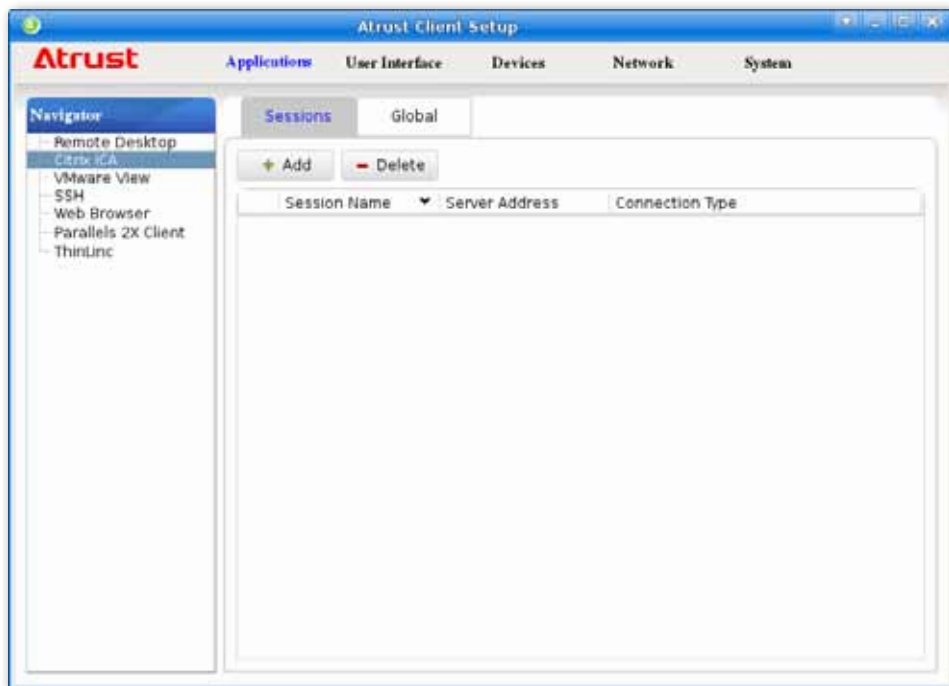
サーバー接続の接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。



注意

- この接続タイプは、**管理のために**XenAppサーバーに接続するために使用され、XenApp 6.5以前のみをサポートします。

1. Atrust Client Setupで、**[アプリケーション]> [Citrix ICA]**をクリックします。
2. 使用可能なICA接続リストが**[設定]**領域に表示されます。

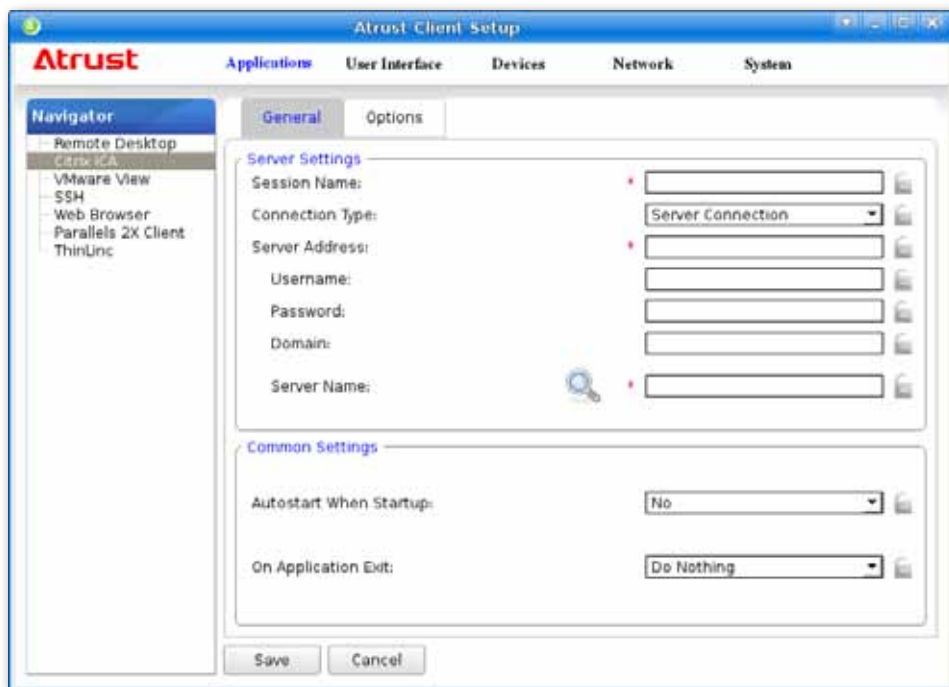


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

3. ICA接続リストの上部にある**[追加]**をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。

4. 「一般」サブタブで、「接続タイプ」ドロップダウンメニューをクリックして、「**サーバー接続**」を選択します。



5. セッション名、サーバーアドレス、サーバー名を入力します。




注意

- サーバー側の構成によっては、サーバーアドレス（たとえば、192.168.77.10 : **8080**）の**XMLポート番号**も指定する必要がある場合があります。



注意

- この接続タイプでは、XenAppサーバーへの接続のみがサポートされています。
- サーバー名の検出に役立つ検索アイコンを使用できます。

6. **[保存]**をクリックして確定します。カスタマイズされたアクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“2.6.11 ICA接続の詳細設 (P.179)”を参照してください。

2.6.7 Citrix Receiverバージョンの切り替え

Citrix環境に古いバージョンのCitrix Receiverが必要な場合は、2つのバージョンのCitrix Receiverを切り替えることができます。

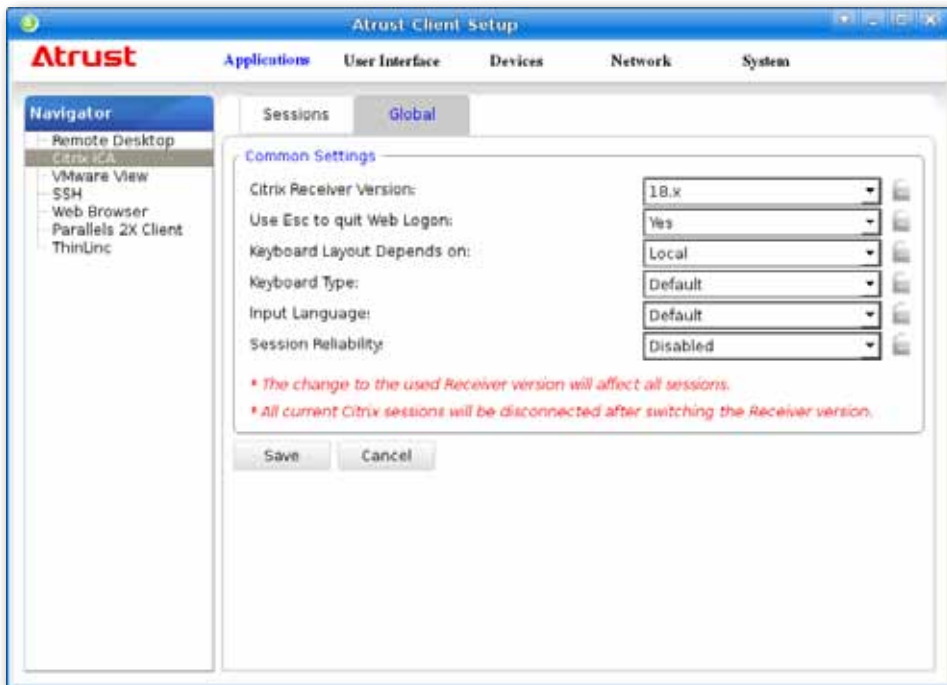
Citrix Receiverのバージョンを変更するには、以下を実行してください：



注意

- これはグローバル設定です。この変更はすべてのCitrix接続に影響します。

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]> [グローバル]をクリックします。
2. ドロップダウンメニューをクリックして、目的のCitrix Receiverバージョンを選択します。**12.x**と**18.x**の2つのオプションを使用できます。



ヒント

- デフォルトのCitrix Receiverバージョンは**18.x**です。
- Citrix製品と推奨されるCitrix Receiverバージョンについては、次の表を参照してください。

Citrix 製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5より前	12.x
XenDesktop 5.6より前	12.x
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.x以降)	18.x

3. [保存]をクリックして適用します。

2.6.8 Escを有効または無効にしてWebログオン画面で終了する

Escキーを使用してWebログオン画面を終了できるようにするかどうかを選択できます。

- 「はい」を選択した場合、EscキーとAlt + F4の両方を使用して、Webログオン画面を終了できます。
- 「いいえ」を選択すると、Alt + F4のみが機能します。

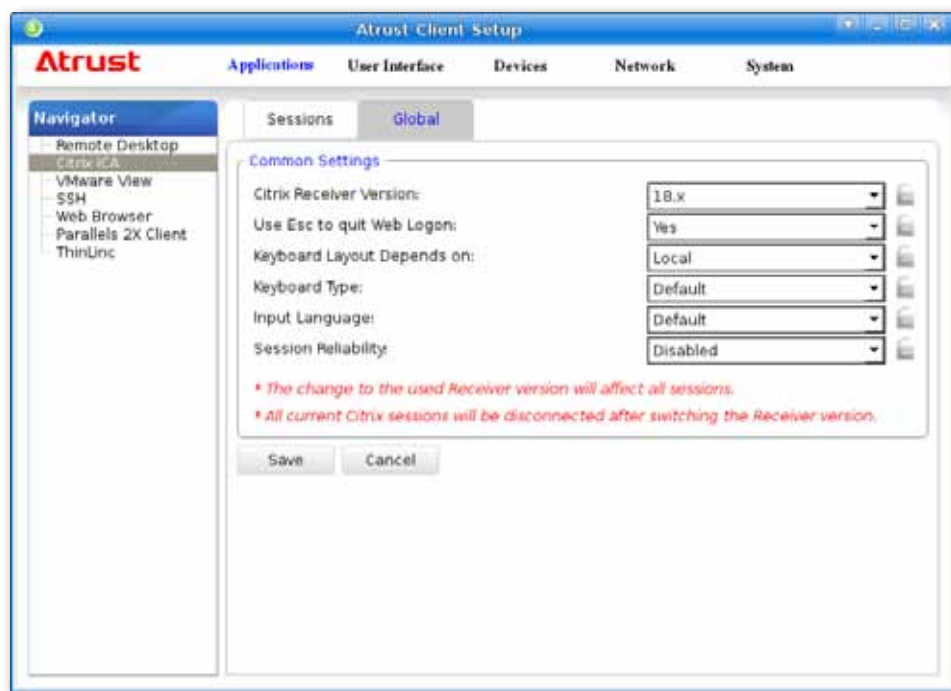
Webログオン画面でEsc to Quitを有効または無効にするには、次の手順を実行します。



注意

- これはグローバル設定です。この変更はすべてのCitrix接続に影響します。

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]> [グローバル]をクリックします。
2. ドロップダウンメニューをクリックして[はい]または[いいえ]を選択し、Esc to Quitを有効または無効にします。

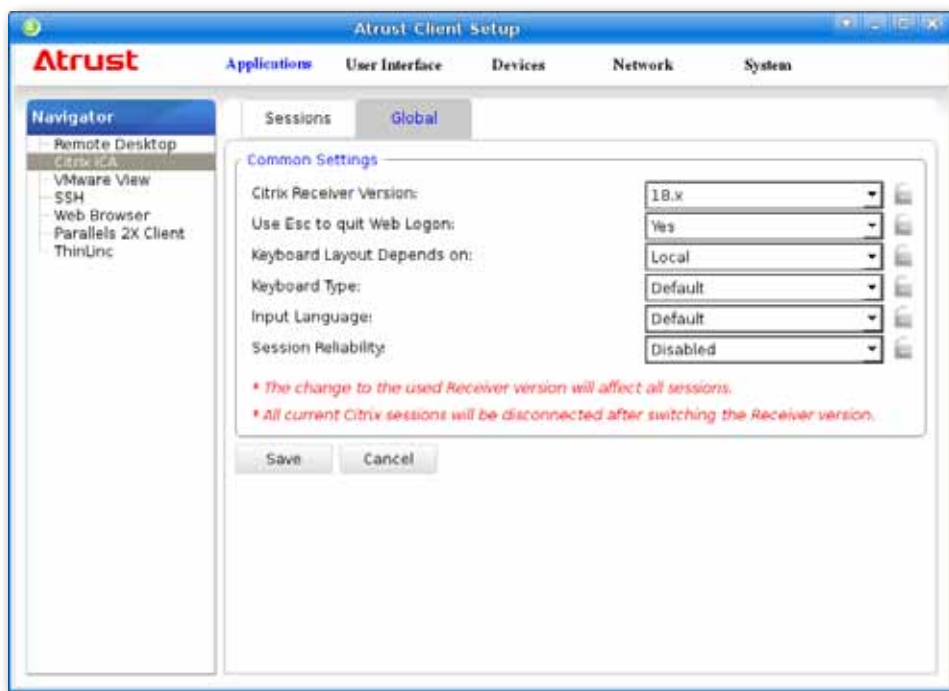


3. [保存]をクリックして適用します。

2.6.9 Citrix ICAセッションのキーボードレイアウトとタイプの設定

すべてのCitrix ICAセッションで使用するキーボードレイアウトとタイプを設定するには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]> [グローバル]をクリックします。
2. ドロップダウンメニューをクリックして、キーボードレイアウトと目的のキーボードタイプを決定するものを選択します。



注意

- これらはグローバル設定です。変更はすべてのICAセッションに影響します。

3. [保存]をクリックして適用します。

2.6.10 Citrixサービスへのアクセス

StoreFront、VDI-in-a-Box、XenDesktop、XenApp、およびサーバー接続の接続タイプの場合
Citrixサービスにアクセスするには、次の手順に従ってください。

1. デスクトップ上に作成された（カスタマイズされた）ショートカットをダブルクリックし、必要に応じて資格情報を入力します。
2. 接続タイプと設定に応じて、以下を見つけることができます。
 - 画面上で直接起動したデスクトップまたはアプリケーション
 - デスクトップまたはデスクトップ上のウィンドウに表示されているデスクトップまたはアプリケーションのショートカットにアクセスする

接続タイプがWebログオンの場合

Citrixサービスにアクセスするには、次の手順に従ってください。

1. デスクトップ上に作成された（カスタマイズされた）ショートカットをダブルクリックします。
2. Webブラウザは、Citrixログオン画面の**フルスクリーン**で起動されます。

Citrixログオン画面の例：XenApp 6.0の基礎



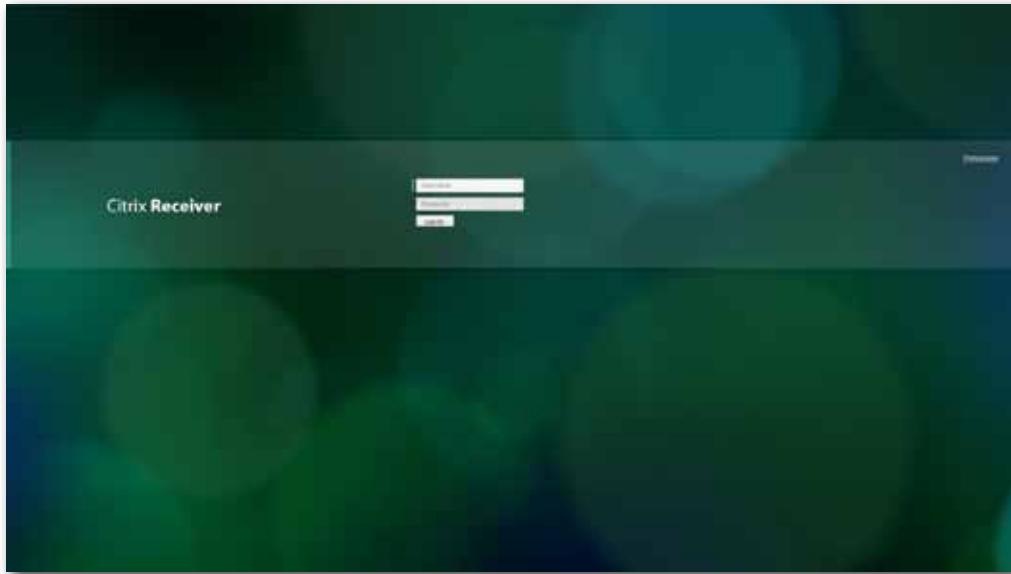
Citrixログオン画面の例 : XenApp 6.5 Platinum



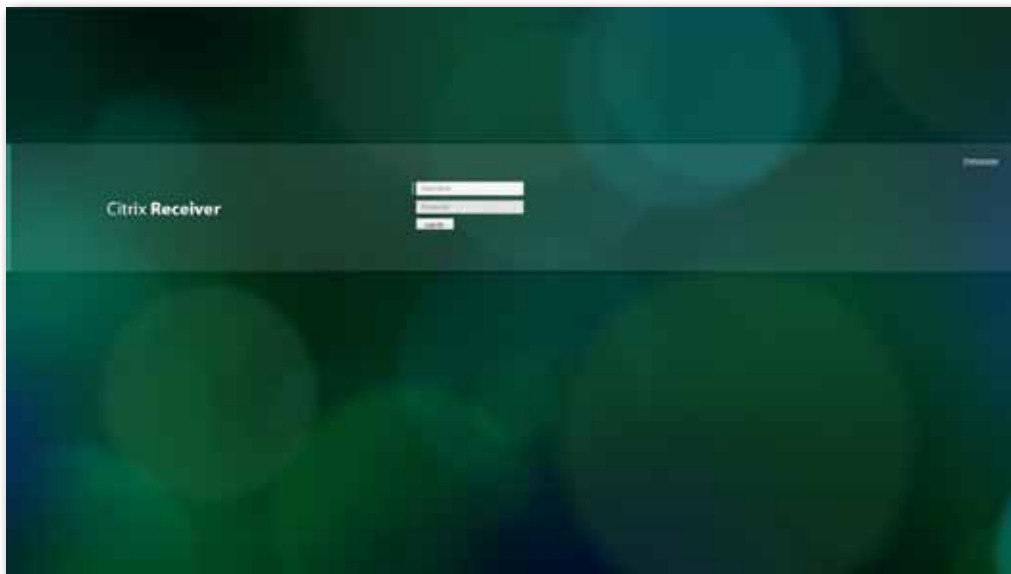
Citrixログオン画面の例 : XenDesktop 5.6 Platinum



Citrixログオン画面の例 : VDI-in-a-Box



Citrixログオン画面の例 : XenAppおよびXenDesktop 7.5 Platinum



3. 必要な資格情報を入力し、**[ログオン]**をクリックします。



注意

- XenAppサーバーがどのドメインにも属していない場合は、代わりにサーバー名を「ドメイン」フィールドに入力します。

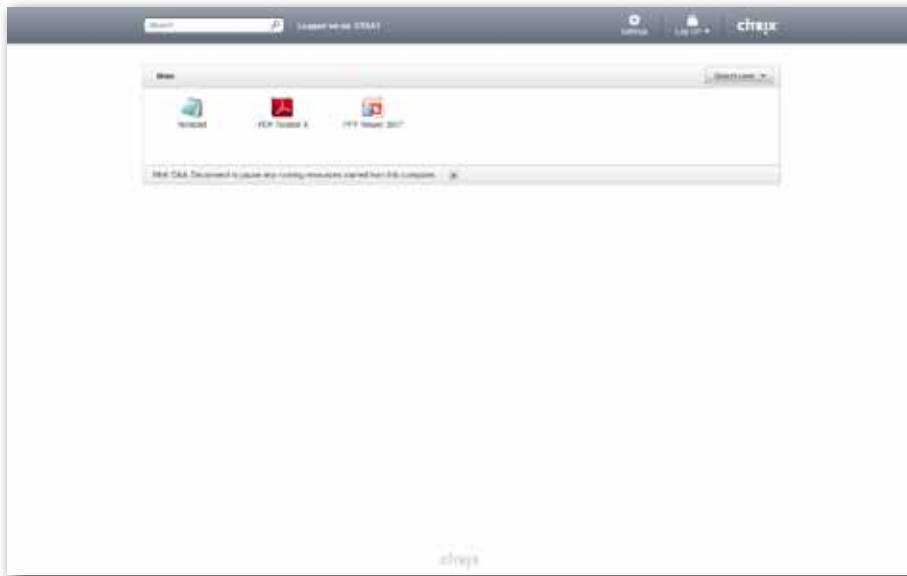
4. デスクトップまたはアプリケーションの選択画面で、目的のデスクトップまたはアプリケーションをクリックして選択します。



注意

- 提供された資格情報に割り当てられている仮想デスクトップのタイプが1つだけの場合は、仮想デスクトップを直接入力できます。

選択画面の例 : XenApp 6.5 Platinum



選択画面の例 : XenDesktop 5.6 Platinum



選択画面の例 : XenApp 7.5 Platinum

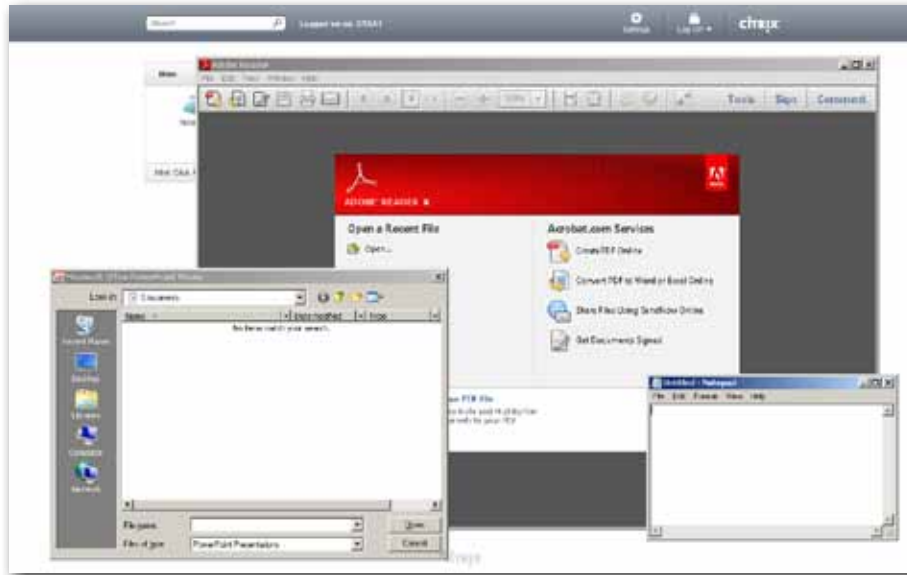


選択画面の例 : XenDesktop 7.5 Platinum

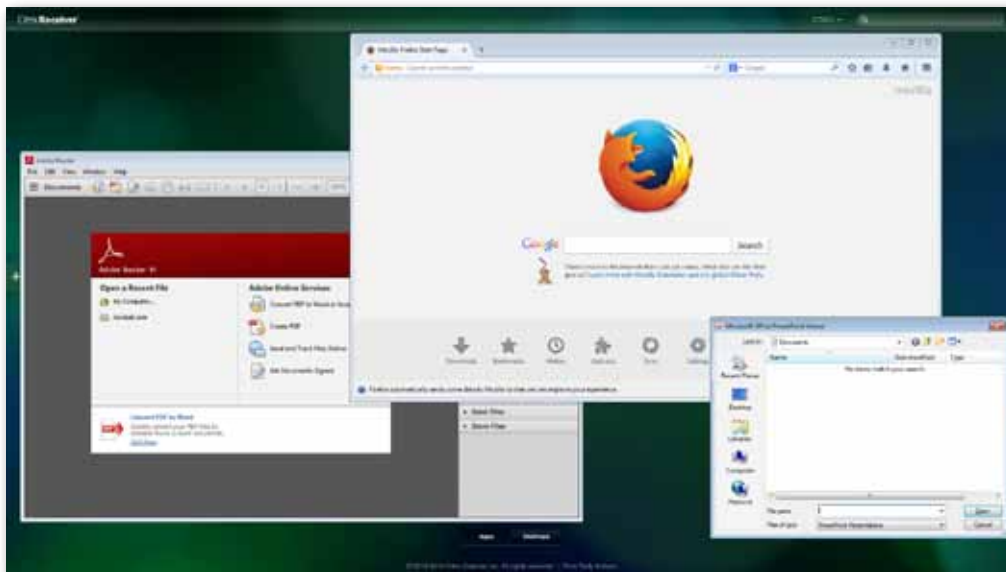


5. 選択した仮想デスクトップまたはアプリケーションが画面に表示されます。

仮想アプリケーションの例
PowerPoint Viewer、Adobe Reader、およびメモ帳



仮想アプリケーションの例
Adobe Reader、Mozilla Firefox、およびPowerPoint Viewer



仮想デスクトップの例 Windows 7 Ultimate



仮想デスクトップの例 Windows Server 2008 R2



2.6.11 ICA接続の詳細設

次の表は、ICA接続の各設定項目の説明です。これらの表を参照して詳細設定を構成し、ローカルデスクトップのショートカットとサービスアクセスの[スタート]メニューをカスタマイズしてください。



注意

- 使用可能な設定は、選択した接続タイプによって異なることに注意してください。

Webログオンの接続タイプの設定



注意

- StoreFrontの接続タイプで利用可能な設定については、“StoreFrontの接続タイプの設定 (P.184)”を参照してください。
- VDI-in-a-Boxの接続タイプで利用可能な設定については、“VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定 (P.189)”を参照してください。
- XenDesktopの接続タイプの設定については“XenDesktopの接続タイプの設定 (P.194)”を参照してください。
- XenAppの接続タイプの設定については、“XenAppの接続タイプの設定 (P.199)”を参照してください。
- サーバー接続の接続タイプの設定については、“サーバー接続の接続タイプの設定 (P.204)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定																									
項目	説明文																								
セッション名	Citrixサービスアクセスのブラウザーセッションの名前を入力します。																								
接続タイプ	<p>この表は、Webログインが選択されている場合に利用可能な設定の説明のみを提供します。</p> <p>6つの接続タイプを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Web Logon</td> <td>Webブラウザー（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>StoreFront</td> <td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop</td> <td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenApp</td> <td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>Server Connection</td> <td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。</td> </tr> </tbody> </table> <p>Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Citrix 製品</th> <th>推奨接続タイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>XenApp 6.5以前</td> <td>XenApp / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop 5.6以前</td> <td>XenDesktop / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)</td> <td>StoreFront / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Box / Web Logon</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	Web Logon	Webブラウザー（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。	Citrix 製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon	仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon
オプション	説明文																								
Web Logon	Webブラウザー（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。																								
Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。																								
Citrix 製品	推奨接続タイプ																								
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon																								
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon																								
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon																								
サーバーアドレス	<p>CitrixサービスにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。</p> <p>詳細については、以下の表を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Citrix 製品</th> <th>接続するコンポーネント</th> <th>接続アドレス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>XenApp 6.5以前</td> <td>ウェブインターフェース</td> <td>IP / URL / FQDN</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop 5.6以前</td> <td>ウェブインターフェース</td> <td>IP / URL / FQDN IP / URL / FQDN plus sub-path</td> </tr> <tr> <td>仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)</td> <td>StoreFront</td> <td>例えば - FQDN : X75.CTX.poc サブパス : / Citrix / StoreWeb (デフォルト) 接続アドレス : X75.CTX.poc / Citrix / StoreWeb</td> </tr> </tbody> </table>	Citrix 製品	接続するコンポーネント	接続アドレス	XenApp 6.5以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN	XenDesktop 5.6以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN IP / URL / FQDN plus sub-path	仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront	例えば - FQDN : X75.CTX.poc サブパス : / Citrix / StoreWeb (デフォルト) 接続アドレス : X75.CTX.poc / Citrix / StoreWeb												
Citrix 製品	接続するコンポーネント	接続アドレス																							
XenApp 6.5以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN																							
XenDesktop 5.6以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN IP / URL / FQDN plus sub-path																							
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront	例えば - FQDN : X75.CTX.poc サブパス : / Citrix / StoreWeb (デフォルト) 接続アドレス : X75.CTX.poc / Citrix / StoreWeb																							

セッション終了時	<p>すべてのCitrixセッションが閉じられたときに次に何をするかを選択します。</p> <table border="1" data-bbox="448 293 1331 443"> <thead> <tr> <th data-bbox="448 293 719 331">オプション</th> <th data-bbox="719 293 1331 331">説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="448 342 719 380">Webログオンに戻る</td> <td data-bbox="719 342 1331 380">Webログオン画面のままにします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 392 719 430">Webログオンを終了する</td> <td data-bbox="719 392 1331 430">Webログオン画面を終了します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: 仮想アプリケーションまたはデスクトップを1つだけ開いて閉じた場合、ここでのオプションが適用されます。</p>	オプション	説明文	Webログオンに戻る	Webログオン画面のままにします。	Webログオンを終了する	Webログオン画面を終了します。						
オプション	説明文												
Webログオンに戻る	Webログオン画面のままにします。												
Webログオンを終了する	Webログオン画面を終了します。												
共通設定													
項目	説明文												
起動時自動起動	<p>P2Tシンクライアントの起動時に、Citrixサービスアクセス用のブラウザセッションを自動的に開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには同様の異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合は1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="448 869 1315 1585"> <thead> <tr> <th data-bbox="448 869 496 907">No.</th> <th data-bbox="496 869 735 907">モード</th> <th data-bbox="735 869 1315 907">説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="448 913 496 1193">1</td> <td data-bbox="496 913 735 1193">アプライアンス</td> <td data-bbox="735 913 1315 1193"> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいセッションを再開する • シンクライアントの再起動 • シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1200 496 1518">2</td> <td data-bbox="496 1200 735 1518">自動起動</td> <td data-bbox="735 1200 1315 1518"> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ローカルデスクトップに戻る • 新しいセッションを再開する • シンクライアントの再起動 • シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 1525 496 1585">3</td> <td data-bbox="496 1525 735 1585">クイック接続</td> <td data-bbox="735 1525 1315 1585">デフォルト有効。システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいセッションを再開する • シンクライアントの再起動 • シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ローカルデスクトップに戻る • 新しいセッションを再開する • シンクライアントの再起動 • シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。
No.	モード	説明文											
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいセッションを再開する • シンクライアントの再起動 • シンクライアントをオフにする 											
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ローカルデスクトップに戻る • 新しいセッションを再開する • シンクライアントの再起動 • シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。											

アプリケーション終了時	Citrixサービスアクセスのブラウザセッションが終了したときの処理を選択します。4つのオプションが利用可能です。 何もしない, アプリケーションを再起動します, リポートとシャットダウン。	
	オプション	説明文
	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。
	アプリケーションを再起動します	サービスアクセスのためにブラウザセッションを再度開きます。
	リポート	シンクライアントを再起動します。
シャットダウン	シンクライアントをオフにします。	

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、ローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にし、Citrix ICAセッションでアクセスタイプを選択します。3つのオプション、No, Read Only, Read Writeを使用できます。読み取り専用または読み取りと書き込みが選択されている場合、ローカルに接続されたUSBドライブは、起動されたCitrix ICAセッションで使用可能になります。</p> <p>注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は、“2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)”をご参照ください。</p>
ローカルシリアルポートマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: この設定項目は、P2Tシンクライアントには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用しており、シリアル-USBアダプターを使用してP2Tシンクライアントに接続する場合、仮想デスクトップでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。</p>
ローカルプリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、セクション“2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)”で詳細な手順を参照してください。</p>

接続設定	
項目	説明文
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。2つのオプションを使用できます。サーバーレンダリングとクライアントレンダリング。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>
HDXリアルタイムウェブカム	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>
H264圧縮	<p>オンにすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>
USBリダイレクト設定	
項目	説明文
USBストレージ	<p>これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.56)”を参照してください。</p>
プリンター	
接続USBデバイスリダイレクト	
USBデバイスの接続	
リダイレクトルール	

StoreFrontの接続タイプの設定




注意

- Webログオンの接続タイプで利用可能な設定については、“Webログオンの接続タイプの設定 (P.179)”を参照してください。
- FVDI-in-a-Boxの接続タイプの設定については、“VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定 (P.189)”を参照してください。
- XenDesktopの接続タイプの設定については、“XenDesktopの接続タイプの設定 (P.194)”を参照してください。
- XenAppの接続タイプの設定については、“XenAppの接続タイプの設定 (P.199)”を参照してください。
- サーバー接続の接続タイプの設定については、“サーバー接続の接続タイプの設定 (P.204)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定																									
項目	説明文																								
セッション名	Citrix ICAセッションの名前を入力します。																								
接続タイプ	<p>この表は、StoreFrontが選択されている場合に使用可能な設定の説明のみを提供しています。 6つの接続タイプを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Web Logon</td> <td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>StoreFront</td> <td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop</td> <td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenApp</td> <td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>Server Connection</td> <td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。</td> </tr> </tbody> </table> <p>Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Citrix 製品</th> <th>推奨接続タイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>XenApp 6.5以前</td> <td>XenApp / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop 5.6以前</td> <td>XenDesktop / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)</td> <td>StoreFront / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Box / Web Logon</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	Web Logon	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。	Citrix 製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon	仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon
オプション	説明文																								
Web Logon	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。																								
Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。																								
Citrix 製品	推奨接続タイプ																								
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon																								
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon																								
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon																								

サーバーアドレス	(StoreFrontがホストされている) 仮想デスクトップまたはアプリケーションにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。												
ストア名	必要に応じて、Citrix環境のストア名を入力します。												
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。												
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。												
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。												
アクセスタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、アクセスタイプを選択します。2つのオプション、SpecifiedとAllを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Specified</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 特定のデスクトップ/アプリケーション、または ウィンドウのショートカットにアクセスする </td> </tr> <tr> <td>All</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> デスクトップのショートカットにアクセスする </td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	Specified	<ul style="list-style-type: none"> 特定のデスクトップ/アプリケーション、または ウィンドウのショートカットにアクセスする 	All	<ul style="list-style-type: none"> デスクトップのショートカットにアクセスする 						
オプション	説明文												
Specified	<ul style="list-style-type: none"> 特定のデスクトップ/アプリケーション、または ウィンドウのショートカットにアクセスする 												
All	<ul style="list-style-type: none"> デスクトップのショートカットにアクセスする 												
デスクトップグループ/アプリケーション	<p>デスクトップグループ/アプリケーションの名前を入力するか、フィールドの前にある検索アイコンを使用して、使用可能なデスクトップグループ/アプリケーションを見つけます。</p>												
共通設定													
項目	説明文												
起動時自動起動	<p>P2Tシンクライアントの起動時に自動でCitrix ICAセッションを開くかどうかを選択します (自動起動モード)。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには同様の異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合は1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td> <p>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	<p>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>
No.	モード	説明文											
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	<p>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>											

アプリケーション終了時	Citrix ICAセッションが終了したときの処理を選択します。4つのオプションが利用可能です。 何もしない, アプリケーションを再起動します, リポートとシャットダウン。	
	オプション	説明文
	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。
	アプリケーションを再起動します	ICAセッションを再度開きます。
	リポート	シンクライアントを再起動します。
	シャットダウン	シンクライアントをオフにします。
アプリケーション終了時に 資格情報要求	この設定項目は、[アプリケーションの終了時]で[アプリケーションの再起動]が選択されている場合にのみ使用できます。ICAセッションの再起動時に資格情報を要求するかどうかを選択するときにクリックします。	

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
色深度	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションに必要な色品質を選択します。 16ビット、24ビット、および自動 の3つのオプションを使用できます。
ウィンドウサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションの目的のウィンドウサイズを選択します。 フルスクリーン、1280x1024、1024x768、800x600 の4つのオプションが利用できます。
ウィンドウモード	ドロップダウンメニューをクリックして、目的のウィンドウモードを選択します。2つのオプション、 レギュラーウィンドウ と シームレスウィンドウ を使用できます。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にします。 注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は、「2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)」をご参照ください。
ローカルシリアルポートマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。 注意: この設定項目は、P2Tシンクライアントには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用しており、シリアル-USBアダプターを使用してP2Tシンクライアントに接続する場合、仮想デスクトップでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。

ローカルプリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、セクション“2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)”で詳細な手順を参照してください。</p>								
接続設定									
項目	説明文								
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>								
HDXリアルタイムウェブカム	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>								
H264圧縮	<p>オンにすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>								
自動再接続	<p>ICAセッションが中断された後の自動再接続を有効/無効にするには、オン/オフにします。</p> <p>注意: XenDesktop ICAセッションでは、自動再接続（自動クライアント再接続）が機能しない場合があります。これは既知の問題です。詳細については、CitrixのWebサイト support.citrix.com または www.citrix.com にアクセスしてください。</p>								
再施行回数	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行回数を1～10の範囲で選択します。</p>								
再施工遅延時間	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行間の遅延時間を5～60秒の範囲で選択します。</p>								
オーディオの有効	<p>ICAセッションでサウンドを有効/無効にするには、オン/オフにします。</p>								
オーディオ品質	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、ICAセッションに必要な音質を選択します。3つのオプションを使用できます。高品質、中品質と低品質。</p>								
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">オプション</th> <th style="text-align: left;">説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="485 1420 756 1518">高品質</td> <td data-bbox="756 1420 1406 1518">エンドポイントデバイスがサウンドファイルネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="485 1518 756 1644">中品質</td> <td data-bbox="756 1518 1406 1644">エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="485 1644 756 1765">低品質</td> <td data-bbox="756 1644 1406 1765">エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。	中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。	低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。
	オプション	説明文							
	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。							
中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。								
低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。								
高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。								
中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。								
低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。								

オーディオ入力	ICAセッションでオーディオ入力を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。								
Windowsキー組み合わせ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。3つのオプションを使用できます。ローカルコンピュータ、リモートサーバー、と全画面モードのみ。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ローカルコンピュータ</td> <td>ローカルデスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td>リモートサーバー</td> <td>仮想デスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td>全画面モードのみ</td> <td>デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	ローカルコンピュータ	ローカルデスクトップにのみ適用されます。	リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
オプション	説明文								
ローカルコンピュータ	ローカルデスクトップにのみ適用されます。								
リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。								
全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。								
接続ダイアログの設定									
項目	説明文								
資格情報を記憶する	ドロップダウンメニューをクリックして、ダイアログウィンドウの [資格情報を記憶する] チェックボックスを 表示 または 非表示 にします。								
USBリダイレクト設定									
項目	説明文								
USBストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.56)”を参照してください。								
プリンター									
接続USBデバイスリダイレクト									
USBデバイスの接続									
リダイレクトルール									

VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定




注意

- Webログオンの接続タイプで利用可能な設定については、“Webログオンの接続タイプの設定 (P.179)”を参照してください。
- StoreFrontの接続タイプの設定については、“StoreFrontの接続タイプの設定 (P.184)”を参照してください。
- XenDesktopの接続タイプの設定については、“XenDesktopの接続タイプの設定 (P.194)”を参照してください。
- XenAppの接続タイプの設定については、“XenAppの接続タイプの設定 (P.199)”を参照してください。
- サーバー接続の接続タイプの設定については、“サーバー接続の接続タイプの設定 (P.204)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定															
項目	説明文														
セッション名	Citrix ICAセッションの名前を入力します。														
接続タイプ	この表では、VDI-in-a-Boxが選択されている場合に使用可能な設定についてのみ説明します。 6つの接続タイプを使用できます。														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Web Logon</td> <td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>StoreFront</td> <td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop</td> <td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenApp</td> <td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>Server Connection</td> <td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	Web Logon	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。
	オプション	説明文													
	Web Logon	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。													
	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。													
	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。													
	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。													
	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。													
	Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。													
	Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>Citrix 製品</th> <th>推奨接続タイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>XenApp 6.5以前</td> <td>XenApp / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop 5.6以前</td> <td>XenDesktop / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)</td> <td>StoreFront / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Box / Web Logon</td> </tr> </tbody> </table>	Citrix 製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon	仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon					
Citrix 製品	推奨接続タイプ														
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon														
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon														
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon														
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon														

サーバーアドレス	仮想デスクトップにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。												
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。												
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。												
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。												
デスクトップグループ	デスクトップグループの名前を入力するか、フィールドの前にある検索アイコン  を使用して、使用可能なデスクトップグループを見つけます。												
共通設定													
項目	説明文												
起動時自動起動	<p>P2Tシンクライアントの起動時に自動でCitrix ICAセッションを開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには同様の異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合は1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td>デフォルト有効。システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。
	No.	モード	説明文										
	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 										
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。											
<p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>													

アプリケーション終了時	Citrix ICAセッションが終了したときの処理を選択します。4つのオプションが利用可能です。 何もしない、アプリケーションを再起動します、リポートとシャットダウン。	
	オプション	説明文
	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。
	アプリケーションを再起動します	ICAセッションを再度開きます。
	リポート	シンクライアントを再起動します。
	シャットダウン	シンクライアントをオフにします。
アプリケーション終了時に資格情報要求	この設定項目は、 [アプリケーションの終了時] で [アプリケーションの再起動] が選択されている場合にのみ使用できます。ICAセッションの再起動時に資格情報を要求するかどうかを選択するときをクリックします。	

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
色深度	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションに必要な色品質を選択します。 16ビット、24ビット 、および 自動 の3つのオプションを使用できます。
ウィンドウサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションの目的のウィンドウサイズを選択します。 フルスクリーン、1280x1024、1024x768、800x600 の4つのオプションが利用できます。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にします。 注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は、「2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)」をご参照ください。
ローカルシリアルポートマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。「 はい 」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。 注意: この設定項目は、P2Tシンクライアントには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用しており、シリアル-USBアダプターを使用してP2Tシンクライアントに接続する場合、仮想デスクトップでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。
ローカルプリンターマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「 はい 」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。 注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、セクション「2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)」で詳細な手順を参照してください。

接続設定									
項目	説明文								
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>								
HDXリアルタイムウェブカム	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>								
H264圧縮	<p>オンにすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>								
自動再接続	<p>ICAセッションが中断された後の自動再接続を有効/無効にするには、オン/オフにします。</p> <p>注意: XenDesktop ICAセッションでは、自動再接続（自動クライアント再接続）が機能しない場合があります。これは既知の問題です。詳細については、CitrixのWebサイト support.citrix.com または www.citrix.com にアクセスしてください。</p>								
再実行回数	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再実行回数を1～10の範囲で選択します。</p>								
再施工遅延時間	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行間の遅延時間を5～60秒の範囲で選択します。</p>								
オーディオの有効	<p>ICAセッションでサウンドを有効/無効にするには、オン/オフにします。</p>								
オーディオ品質	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、ICAセッションに必要な音質を選択します。3つのオプションを使用できます。高品質、中品質と低品質。</p>								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高品質</td> <td> <p>エンドポイントデバイスがサウンドファイルネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。</p> </td> </tr> <tr> <td>中品質</td> <td> <p>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。</p> </td> </tr> <tr> <td>低品質</td> <td> <p>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	高品質	<p>エンドポイントデバイスがサウンドファイルネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。</p>	中品質	<p>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。</p>	低品質	<p>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。</p>
	オプション	説明文							
	高品質	<p>エンドポイントデバイスがサウンドファイルネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。</p>							
中品質	<p>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。</p>								
低品質	<p>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。</p>								

オーディオ入力	ICAセッションでオーディオ入力を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。								
Windowsキー組み合わせ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。3つのオプションを使用できます。ローカルコンピュータ、リモートサーバー、と全画面モードのみ。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ローカルコンピュータ</td> <td>ローカルデスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td>リモートサーバー</td> <td>仮想デスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td>全画面モードのみ</td> <td>デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	ローカルコンピュータ	ローカルデスクトップにのみ適用されます。	リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
オプション	説明文								
ローカルコンピュータ	ローカルデスクトップにのみ適用されます。								
リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。								
全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。								
接続ダイアログの設定									
項目	説明文								
資格情報を記憶する	ドロップダウンメニューをクリックして、ダイアログウィンドウの[資格情報を記憶する]チェックボックスを表示または非表示にします。								
USBリダイレクト設定									
項目	説明文								
USBストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.56)”を参照してください。								
プリンター									
接続USBデバイスリダイレクト									
USBデバイスの接続									
リダイレクトルール									

XenDesktopの接続タイプの設定




注意

- Webログオンの接続タイプで利用可能な設定については、“Webログオンの接続タイプの設定 (P.179)”を参照してください。
- StoreFrontの接続タイプの設定については、“StoreFrontの接続タイプの設定 (P.184)”を参照してください。
- VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定については、“VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定 (P.189)”を参照してください。
- XenAppの接続タイプの設定については、“XenAppの接続タイプの設定 (P.199)”を参照してください。
- サーバー接続の接続タイプの設定については、“サーバー接続の接続タイプの設定 (P.204)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定																									
項目	説明文																								
セッション名	Citrix ICAセッションの名前を入力します。																								
接続タイプ	<p>この表は、XenDesktopが選択されている場合に使用可能な設定の説明のみを提供しています。 6つの接続タイプを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Web Logon</td> <td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>StoreFront</td> <td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop</td> <td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenApp</td> <td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>Server Connection</td> <td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。</td> </tr> </tbody> </table> <p>Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Citrix 製品</th> <th>推奨接続タイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>XenApp 6.5以前</td> <td>XenApp / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop 5.6以前</td> <td>XenDesktop / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)</td> <td>StoreFront / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Box / Web Logon</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	Web Logon	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。	Citrix 製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon	仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon
オプション	説明文																								
Web Logon	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。																								
Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。																								
Citrix 製品	推奨接続タイプ																								
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon																								
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon																								
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon																								

サーバーアドレス	仮想デスクトップにアクセスできるサーバー（Webインターフェイスがホストされている）のIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。												
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。												
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。												
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。												
デスクトップグループ	デスクトップグループの名前を入力するか、フィールドの前にある検索アイコン  を使用して、使用可能なデスクトップグループを見つけます。												
共通設定													
項目	説明文												
起動時自動起動	<p>P2Tシンクライアントの起動時に自動でCitrix ICAセッションを開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには同様の異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合は1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td> <p>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	<p>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>
	No.	モード	説明文										
	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 										
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	<p>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>											
<p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>													

アプリケーション終了時	Citrix ICAセッションが終了したときの処理を選択します。4つのオプションが利用可能です。 何もしない、アプリケーションを再起動します、リポートとシャットダウン。	
	オプション	説明文
	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。
	アプリケーションを再起動します	ICAセッションを再度開きます。
	リポート	シンククライアントを再起動します。
	シャットダウン	シンククライアントをオフにします。
アプリケーション終了時に資格情報要求	この設定項目は、 [アプリケーションの終了時] で [アプリケーションの再起動] が選択されている場合にのみ使用できます。ICAセッションの再起動時に資格情報を要求するかどうかを選択するときにクリックします。	

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
色深度	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションに必要な色品質を選択します。 16ビット、24ビット、および自動 の3つのオプションを使用できます。
ウィンドウサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションの目的のウィンドウサイズを選択します。 フルスクリーン、1280x1024、1024x768、800x600 の4つのオプションが利用できます。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にします。</p> <p>注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は、「2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)」をご参照ください。</p>
ローカルシリアルポートマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: この設定項目は、P2Tシンククライアントには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用しており、シリアル-USBアダプターを使用してP2Tシンククライアントに接続する場合、仮想デスクトップでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。</p>

ローカルプリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、セクション“2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)”で詳細な手順を参照してください。</p>								
接続設定									
項目	説明文								
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>								
HDXリアルタイムウェブカム	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>								
H264圧縮	<p>オンにすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>								
自動再接続	<p>ICAセッションが中断された後の自動再接続を有効/無効にするには、オン/オフにします。</p> <p>注意: XenDesktop ICAセッションでは、自動再接続（自動クライアント再接続）が機能しない場合があります。これは既知の問題です。詳細については、CitrixのWebサイト support.citrix.com または www.citrix.com にアクセスしてください。</p>								
再実行回数	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行回数を1～10の範囲で選択します。</p>								
再施工遅延時間	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行間の遅延時間を5～60秒の範囲で選択します。</p>								
オーディオの有効	<p>ICAセッションでサウンドを有効/無効にするには、オン/オフにします。</p>								
オーディオ品質	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、ICAセッションに必要な音質を選択します。3つのオプションを使用できます。高品質、中品質と低品質。</p>								
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高品質</td> <td>エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。</td> </tr> <tr> <td>中品質</td> <td>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。</td> </tr> <tr> <td>低品質</td> <td>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。	中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。	低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。
	オプション	説明文							
	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。							
中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。								
低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。								
高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。								
中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。								
低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。								

オーディオ入力	ICAセッションでサウンドを有効/無効にするには、オン/オフにします。								
Windowsキー組み合わせ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。3つのオプションを使用できます。ローカルコンピュータ、リモートサーバー、と全画面モードのみ。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ローカルコンピュータ</td> <td>ローカルデスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td>リモートサーバー</td> <td>仮想デスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td>全画面モードのみ</td> <td>デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	ローカルコンピュータ	ローカルデスクトップにのみ適用されます。	リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
オプション	説明文								
ローカルコンピュータ	ローカルデスクトップにのみ適用されます。								
リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。								
全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。								
接続ダイアログの設定									
項目	説明文								
資格情報を記憶する	ドロップダウンメニューをクリックして、ダイアログウィンドウの [資格情報を記憶する] チェックボックスを 表示 または 非表示 にします。								
USBリダイレクト設定									
項目	説明文								
USBストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.56)”を参照してください。								
プリンター									
接続USBデバイスリダイレクト									
USBデバイスの接続									
リダイレクトルール									

XenAppの接続タイプの設定




注意

- Webログオンの接続タイプで利用可能な設定については、“Webログオンの接続タイプの設定 (P.179)”を参照してください。
- StoreFrontの接続タイプの設定については、“StoreFrontの接続タイプの設定 (P.184)”を参照してください。
- VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定については、“VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定 (P.189)”を参照してください。
- XenDesktopの接続タイプに使用可能な設定の説明については、“XenDesktopの接続タイプの設定 (P.194)”を参照してください。
- サーバー接続の接続タイプの設定については、“サーバー接続の接続タイプの設定 (P.204)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定																									
項目	説明文																								
セッション名	Citrix ICAセッションの名前を入力します。																								
接続タイプ	<p>この表は、XenAppが選択されている場合に使用可能な設定の説明のみを提供しています。6つの接続タイプを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Web Logon</td> <td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>StoreFront</td> <td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop</td> <td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenApp</td> <td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>Server Connection</td> <td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。</td> </tr> </tbody> </table> <p>Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Citrix 製品</th> <th>推奨接続タイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>XenApp 6.5以前</td> <td>XenApp / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop 5.6以前</td> <td>XenDesktop / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)</td> <td>StoreFront / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Box / Web Logon</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	Web Logon	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。	Citrix 製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon	仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon
オプション	説明文																								
Web Logon	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。																								
Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。																								
Citrix 製品	推奨接続タイプ																								
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon																								
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon																								
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon																								

サーバーアドレス	XenAppサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。												
サーバーアドレス 2	他の使用可能なXenAppサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。												
サーバーアドレス 3													
サーバーアドレス 4													
サーバーアドレス 5													
ユーザー名		認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。											
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。												
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。												
アプリケーション名	アプリケーション名を入力するか、フィールドの前にある検索アイコン  を使用して、使用可能なアプリケーションを見つけます。												
共通設定													
項目	説明文												
起動時自動起動	<p>P2Tシンクライアントの起動時に自動でCitrix ICAセッションを開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには同様の異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合は1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td> <p>デフォルト有効。システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	<p>デフォルト有効。システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>
	No.	モード	説明文										
	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 										
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	<p>デフォルト有効。システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>											
<p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>													

アプリケーション終了時	Citrix ICAセッションが終了したときの処理を選択します。4つのオプションが利用可能です。 何もしない, アプリケーションを再起動します, リポートとシャットダウン。	
	オプション	説明文
	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。
	アプリケーションを再起動します	ICAセッションを再度開きます。
	リポート	シンクライアントを再起動します。
	シャットダウン	シンクライアントをオフにします。
アプリケーション終了時に資格情報要求	この設定項目は、 [アプリケーションの終了時] で [アプリケーションの再起動] が選択されている場合にのみ使用できます。ICAセッションの再起動時に資格情報を要求するかどうかを選択するときにクリックします。	
拡張パラメーター	拡張パラメーターを渡すためのパラメーターを入力します。	

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
色深度	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションに必要な色品質を選択します。 16ビット、24ビット、および自動 の3つのオプションを使用できます。
ウィンドウサイズ	この項目は、 通常ウィンドウ が選択されている場合にのみ使用できます。 ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションの目的のウィンドウサイズを選択します。 フルスクリーン、1280x1024、1024x768、800x600 の4つのオプションが利用できます。
ウィンドウモード	ドロップダウンメニューをクリックして、目的のウィンドウモードを選択します。2つのオプション、 レギュラーウィンドウとシームレスウィンドウ を使用できます。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にします。 注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は、「2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)」をご参照ください。

ローカルシリアルポートマッピング	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: この設定項目は、P2Tシンクライアントには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用し、シリアル-USBアダプターを使用してP2Tシンクライアントに接続する場合、提供されたアプリケーションでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。</p>
ローカルプリンターマッピング	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、セクション“2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)”で詳細な手順を参照してください。</p>
接続設定	
項目	説明文
レンダリングタイプ	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>
HDXリアルタイムウェブカム	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>
H264圧縮	<p>オンにすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>
ネットワークプロトコル	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、接続に使用するプロトコルを選択します。3つのオプション、TCP / IP、TCP / IP + HTTPサーバーの場所、およびSSL / TLS + HTTPSサーバーの場所を使用できます。</p>
自動再接続	<p>ICAセッションが中断された後の自動再接続を有効/無効にするには、オン/オフにします。</p>
再実行回数	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、再試行回数を1~10の範囲で選択します。</p>
再施工遅延時間	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、再試行間の遅延時間を5~60秒の範囲で選択します。</p>
オーディオの有効	<p>ICAセッションでサウンドを有効/無効にするには、オン/オフにします。</p>

オーディオ品質	ド롭ダウンメニューをクリックして、ICAセッションに必要な音質を選択します。3つのオプションを使用できます。 高品質 、 中品質 と 低品質 。	
	オプション	説明文
	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されません。
	中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。
低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に適切なオーディオパフォーマンスを実現します。	
オーディオ入力	ICAセッションでオーディオ入力を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。	
Windowsキー組み合わせ	ド롭ダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。3つのオプションを使用できます。 ローカルコンピュータ 、 リモートサーバー 、と 全画面モードのみ 。	
	オプション	説明文
	ローカルコンピュータ	ローカルデスクトップにのみ適用されます。
	リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。
全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。	
USBリダイレクト設定		
項目	説明文	
USBストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.56)”を参照してください。	
プリンター		
接続USBデバイスリダイレクト		
USBデバイスの接続		
リダイレクトルール		

サーバー接続の接続タイプの設定



注意

- Webログオンの接続タイプで利用可能な設定については、“Webログオンの接続タイプの設定 (P.179)”を参照してください。
- StoreFrontの接続タイプの設定については、“StoreFrontの接続タイプの設定 (P.184)”を参照してください。
- VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定については、“VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定 (P.189)”を参照してください。
- XenDesktopの接続タイプで使用可能な設定の説明については、“XenDesktopの接続タイプの設定 (P.194)”を参照してください。
- XenAppの接続タイプの設定については、“XenAppの接続タイプの設定 (P.199)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定																									
項目	説明文																								
セッション名	Citrix ICAセッションの名前を入力します。																								
接続タイプ	<p>この表は、サーバー接続が選択されている場合に利用可能な設定の説明のみを提供します。6つの接続タイプを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Web Logon</td> <td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>StoreFront</td> <td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop</td> <td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>XenApp</td> <td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td> </tr> <tr> <td>Server Connection</td> <td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。</td> </tr> </tbody> </table> <p>Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Citrix 製品</th> <th>推奨接続タイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>XenApp 6.5以前</td> <td>XenApp / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>XenDesktop 5.6以前</td> <td>XenDesktop / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)</td> <td>StoreFront / Web Logon</td> </tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td> <td>VDI-in-a-Box / Web Logon</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	Web Logon	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。	Citrix 製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon	仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon
オプション	説明文																								
Web Logon	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。																								
Server Connection	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。																								
Citrix 製品	推奨接続タイプ																								
XenApp 6.5以前	XenApp / Web Logon																								
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Web Logon																								
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Web Logon																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Web Logon																								

サーバーアドレス	XenAppサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。 注意: サーバー接続は、XenAppサーバーへの接続のみをサポートしています。												
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。												
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。												
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。												
サーバー名	サーバーの名前を入力します。												
共通設定													
項目	説明文												
起動時自動起動	P2Tシンクライアントの起動時に自動でCitrix ICAセッションを開くかどうかを選択します (自動起動モード)。 注意: P2Tシンクライアントには同様の異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合は1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td>デフォルト有効。システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。
	No.	モード	説明文										
	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 										
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。											
注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。													

アプリケーション終了時	Citrix ICAセッションが終了したときの処理を選択します。4つのオプションが利用可能です。 何もしない, アプリケーションを再起動します, リポートとシャットダウン。	
	オプション	説明文
	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。
	アプリケーションを再起動します	ICAセッションを再度開きます。
	リポート	シンククライアントを再起動します。
	シャットダウン	シンククライアントをオフにします。
アプリケーション終了時に資格情報要求	この設定項目は、 [アプリケーションの終了時] で [アプリケーションの再起動] が選択されている場合にのみ使用できます。ICAセッションの再起動時に資格情報を要求するかどうかを選択するときにクリックします。	

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
色深度	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションに必要な色品質を選択します。 16ビット、24ビット、および自動 の3つのオプションを使用できます。
ウィンドウサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションの目的のウィンドウサイズを選択します。 フルスクリーン、1280x1024、1024x768、800x600 の4つのオプションが利用できます。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にします。 注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は、“2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)”をご参照ください。
ローカルシリアルポートマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。 注意: この設定項目は、P2Tシンククライアントには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用し、シリアルからUSBへのアダプターを使用してP2Tシンククライアントに接続する場合、仮想サーバーデスクトップでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。

ローカルプリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、セクション“2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)”で詳細な手順を参照してください。</p>
接続設定	
項目	説明文
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>
HDXリアルタイムウェブカム	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>
H264圧縮	<p>オンにすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>
ネットワークプロトコル	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、接続に使用するプロトコルを選択します。3つのオプション、TCP / IP、TCP / IP + HTTPサーバーの場所、およびSSL / TLS + HTTPSサーバーの場所を使用できます。</p>
自動再接続	<p>ICAセッションが中断された後の自動再接続を有効/無効にするには、オン/オフにします。</p> <p>注意: XenDesktop ICAセッションでは、自動再接続（自動クライアント再接続）が機能しない場合があります。これは既知の問題です。詳細については、CitrixのWebサイト support.citrix.com または www.citrix.com にアクセスしてください。</p>
再施行回数	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行回数を1~10の範囲で選択します。</p>
再施工遅延時間	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行間の遅延時間を5~60秒の範囲で選択します。</p>
オーディオの有効	<p>ICAセッションでサウンドを有効/無効にするには、オン/オフにします。</p>

オーディオ品質	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、ICAセッションに必要な音質を選択します。3つのオプションを使用できます。高品質、中品質と低品質。</p> <table border="1" data-bbox="547 318 1406 790"> <thead> <tr> <th data-bbox="547 318 826 371">オプション</th> <th data-bbox="826 318 1406 371">説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="547 371 826 495">高品質</td> <td data-bbox="826 371 1406 495">エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="547 495 826 640">中品質</td> <td data-bbox="826 495 1406 640">エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="547 640 826 790">低品質</td> <td data-bbox="826 640 1406 790">エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に適切なオーディオパフォーマンスを実現します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。	中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。	低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に適切なオーディオパフォーマンスを実現します。
オプション	説明文								
高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。								
中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。								
低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に適切なオーディオパフォーマンスを実現します。								
オーディオ入力	ICAセッションでオーディオ入力を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。								
Windowsキー組み合わせ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。3つのオプションを使用できます。ローカルコンピュータ、リモートサーバー、と全画面モードのみ。</p> <table border="1" data-bbox="547 1043 1406 1256"> <thead> <tr> <th data-bbox="547 1043 826 1093">オプション</th> <th data-bbox="826 1043 1406 1093">説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="547 1093 826 1137">ローカルコンピュータ</td> <td data-bbox="826 1093 1406 1137">ローカルデスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="547 1137 826 1189">リモートサーバー</td> <td data-bbox="826 1137 1406 1189">仮想デスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="547 1189 826 1256">全画面モードのみ</td> <td data-bbox="826 1189 1406 1256">デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	ローカルコンピュータ	ローカルデスクトップにのみ適用されます。	リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
オプション	説明文								
ローカルコンピュータ	ローカルデスクトップにのみ適用されます。								
リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。								
全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。								
USBリダイレクト設定									
項目	説明文								
USBストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.56)”を参照してください。								
プリンター									
接続USBデバイスリダイレクト									
USBデバイスの接続									
リダイレクトルール									

2.6.12 基本的なVMware View接続設定の構成

VMware View設定を使用すると、VMware ViewまたはHorizon ViewサービスのView接続設定を構成し、ローカルデスクトップにショートカットを作成して、サービスアクセス用の[スタート]メニューを作成できます。これらのショートカットを使用するだけで、仕事用のオンデマンドサービスにアクセスできます。

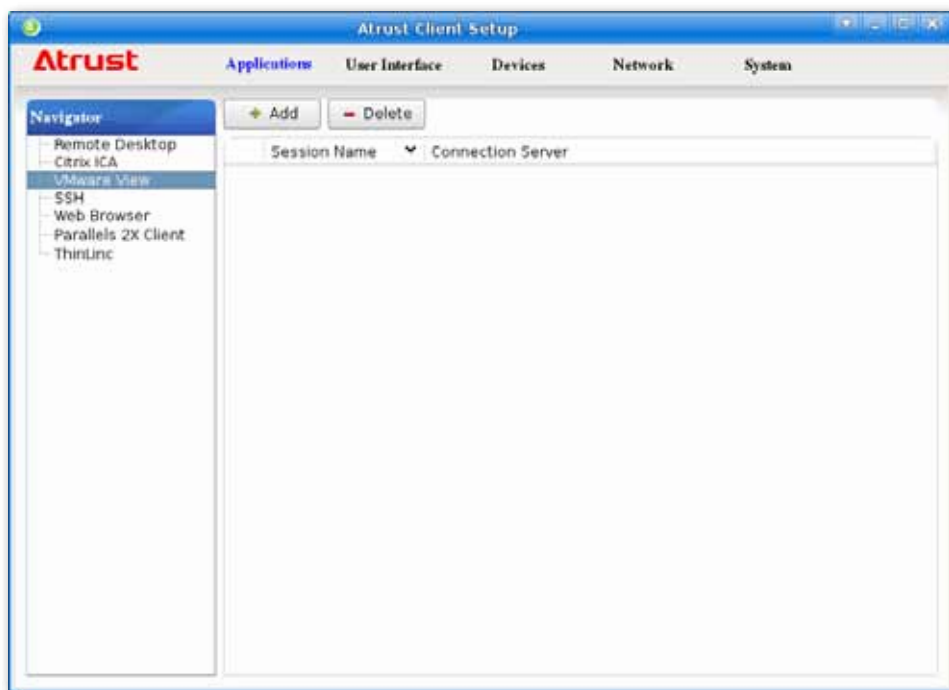


注意

- VMwareデスクトップ仮想化ソリューションの詳細については、VMware Webサイト www.vmware.com にアクセスしてください。

VMware View接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。

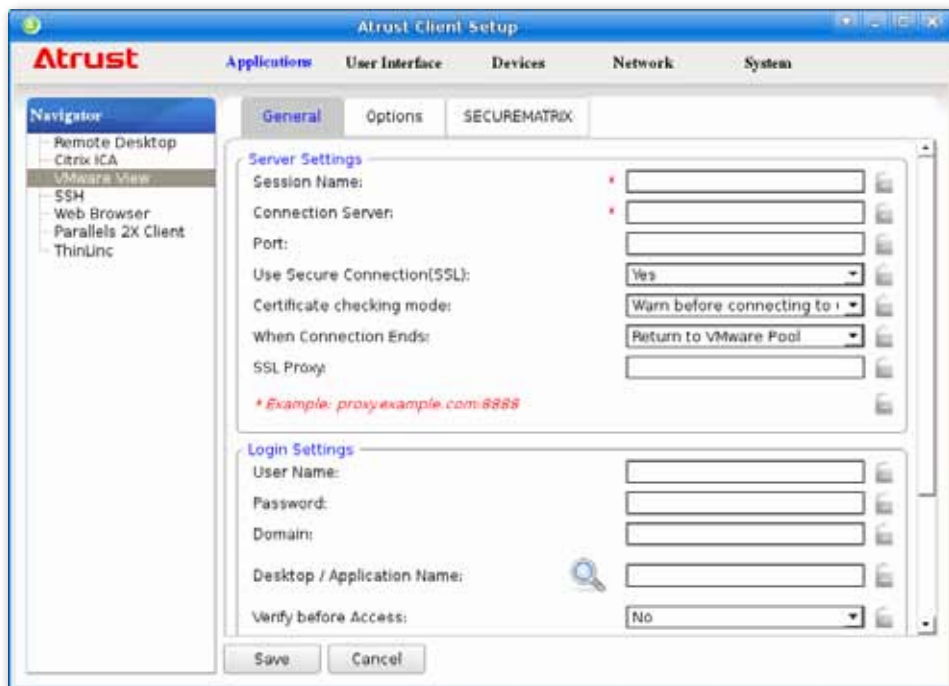
- Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [VMware View]をクリックします。
- [接続の表示]リストが[構成]領域に表示されます。



注意

- エントリを作成していない場合、接続の表示リストは空になります。

- [接続の表示]リストの上部にある[追加]をクリックして、[接続の表示]の新しいエントリを追加します。



4. 目的のセッション名とView接続サーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力し、**[保存]**をクリックして確定します。



注意

- これらは、デスクトップにサービスアクセスショートカットを作成するための唯一の必須フィールドです。サービスへのアクセス期間中に他のデータを提供できます。必要に応じて、他のデータを入力することもできます。

5. 新しいエントリが[接続の表示]リストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。

2.6.13 VMware ViewまたはHorizon Viewサービスへのアクセス

VMware ViewまたはHorizon Viewサービスにアクセスするには、以下を実行してください。

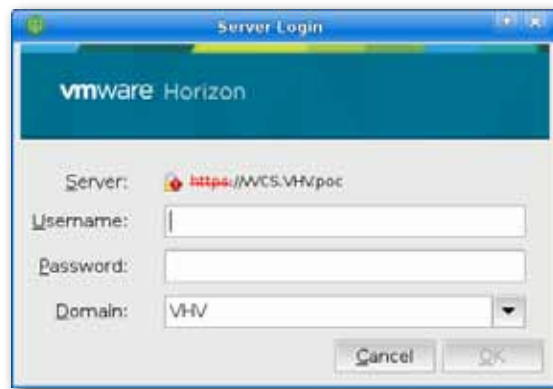
1. デスクトップ上に作成された（カスタマイズされた）アクセスショートカットをダブルクリックします。



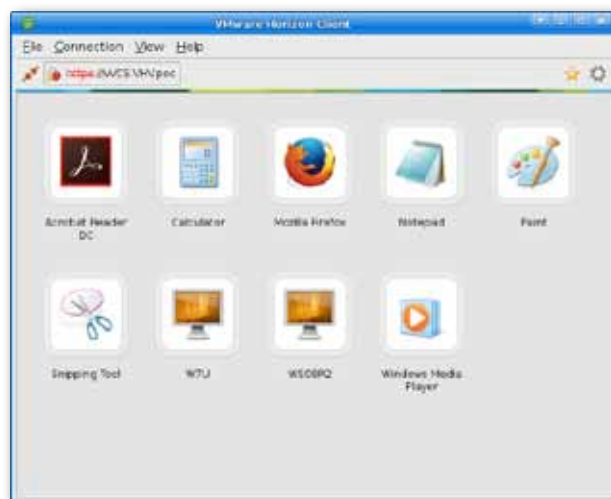
注意

- リモートサーバーに関する証明書メッセージがウィンドウに表示される場合があります。詳細についてはIT管理者に相談し、接続が**最初に**安全であることを確認してください。セキュリティ証明書をインポートするには、「2.2.15 リモートコンピューターの証明書のインポート (P.65)」セクションを参照してください。バイパスするには、**[安全でない接続]**をクリックします。

2. ようこそウィンドウが表示される場合があります。 **[OK]**をクリックして続行します。
3. 資格情報の入力を求めるウィンドウが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力し、[ドメイン]ドロップダウンメニューをクリックしてドメインを選択し、**[OK]**をクリックします。



4. 提供された資格情報に使用できるデスクトップまたはアプリケーション、あるいはその両方がウィンドウに表示されます。

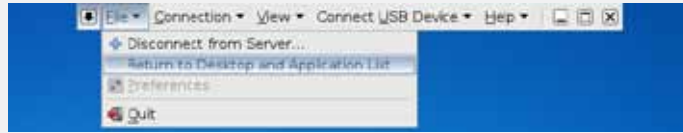


5. ダブルクリックして、目的のデスクトップまたはアプリケーションを選択します。
6. 選択したデスクトップまたはアプリケーションが画面に表示されます。

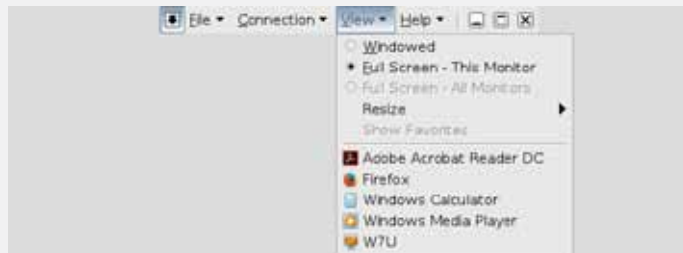


注意

- デスクトップまたはアプリケーションが全画面で表示されます。あなたはできる：
 - 上部のツールバーで[ファイル]> [デスクトップとアプリケーションのリストに戻る]をクリックして、デスクトップとアプリケーションのリストを呼び出します。




- 上部のツールバーの[表示]をクリックして、仮想デスクトップまたはアプリケーションに切り替えます。



2.6.14 詳細ビュー接続設定の構成

下の表は、ビュー接続の各設定項目の説明です。詳細設定を構成し、ローカルデスクトップのショートカットとサービスアクセスの[スタート]メニューをカスタマイズするには、この表を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定							
項目	説明文						
セッション名	VMware ViewまたはHorizon Viewセッションの名前を入力します。						
コネクションサーバー	View接続サーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。 注意: View接続サーバーの詳細については、VMwareのWebサイト (www.vmware.com) にアクセスしてください。						
ポート	View接続サーバーとの通信に使用するポート番号を入力します。デフォルト値を使用するには、空白のままにします。						
安全な接続(SSL)	安全な接続を有効/無効にするためにチェック/チェックを外します。						
証明書チェックモード	ドロップダウンメニューをクリックして、サーバーID証明書を確認するかどうか、および信頼されていないサーバーに接続するかどうかを選択します。 サーバーID証明書を検証しない、信頼できないサーバーに接続する前に警告する、信頼できないサーバーに接続しない の3つのオプションを使用できます。						
接続終了時	ドロップダウンメニューをクリックして、接続が終了したときの動作を選択します。2つのオプションが利用可能です。 VMwareプールに戻る と VMwareクライアントを終了 します。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">オプション</th> <th style="text-align: left;">説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>VMwareプールに戻る</td> <td>接続が終了したら、指定された資格情報のデスクトップとアプリケーションのリストに戻ります。</td> </tr> <tr> <td>VMwareクライアントを終了</td> <td>接続が終了したら、VMware Clientを閉じます。仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスするには、資格情報を再度提供する必要があります。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	VMwareプールに戻る	接続が終了したら、指定された資格情報のデスクトップとアプリケーションのリストに戻ります。	VMwareクライアントを終了	接続が終了したら、VMware Clientを閉じます。仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスするには、資格情報を再度提供する必要があります。
オプション	説明文						
VMwareプールに戻る	接続が終了したら、指定された資格情報のデスクトップとアプリケーションのリストに戻ります。						
VMwareクライアントを終了	接続が終了したら、VMware Clientを閉じます。仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスするには、資格情報を再度提供する必要があります。						
SSLプロキシ	SSLプロキシのURL / IPアドレス (ポート番号を含む) を入力します (ある場合)。						
ログイン設定							
項目	説明文						
ユーザー名	認証用のユーザー名を入力します。						
パスワード	認証用のパスワードを入力します。						
ドメイン	View接続サーバーのドメイン名を入力します。						
デスクトップ/アプリケーション名	デスクトップ/アプリケーション名を入力します。または、ユーザーが選択できるように空白のままにします。 注意: 検索アイコン  を使用して、特定の資格情報のセットで使用可能なデスクトップまたはアプリケーションを見つけることができます。						

<p>接続前確認</p>	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格を確認するかどうかを選択します。</p> <hr/> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="528 322 644 349">オプション</th> <th data-bbox="687 322 751 349">説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="528 394 580 421">はい</td> <td data-bbox="687 367 1342 443">前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格を確認します。指定された資格情報がこの検証に合格しない場合は停止します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="528 506 603 533">いいえ</td> <td data-bbox="687 465 1342 568">指定された資格情報に、前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格がない場合は、そのエラーを無視して、その資格情報で利用できるデスクトップとアプリケーションのリストを提供します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	はい	前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格を確認します。指定された資格情報がこの検証に合格しない場合は停止します。	いいえ	指定された資格情報に、前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格がない場合は、そのエラーを無視して、その資格情報で利用できるデスクトップとアプリケーションのリストを提供します。		
オプション	説明文								
はい	前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格を確認します。指定された資格情報がこの検証に合格しない場合は停止します。								
いいえ	指定された資格情報に、前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格がない場合は、そのエラーを無視して、その資格情報で利用できるデスクトップとアプリケーションのリストを提供します。								
<p>資格情報の記憶</p>	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、ログオン資格情報を記憶するかどうかを選択します。</p>								
<p>ディスプレイプロトコル設定</p>	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、目的の表示プロトコルを選択します。手動、Microsoft RDP、PCoIPの3つのオプションを使用できます。</p> <hr/> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="528 810 644 837">オプション</th> <th data-bbox="719 810 783 837">説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="528 855 580 882">手動</td> <td data-bbox="719 855 1145 882">目的の表示プロトコルを手動で選択します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="528 900 687 927">Microsoft RDP</td> <td data-bbox="719 900 1225 927">表示プロトコルとしてMicrosoft RDPを使用します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="528 945 603 972">PCoIP</td> <td data-bbox="719 945 1235 972">表示プロトコルとしてVMware PCoIPを使用します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	手動	目的の表示プロトコルを手動で選択します。	Microsoft RDP	表示プロトコルとしてMicrosoft RDPを使用します。	PCoIP	表示プロトコルとしてVMware PCoIPを使用します。
オプション	説明文								
手動	目的の表示プロトコルを手動で選択します。								
Microsoft RDP	表示プロトコルとしてMicrosoft RDPを使用します。								
PCoIP	表示プロトコルとしてVMware PCoIPを使用します。								
<p>共通設定</p>									
<p>項目</p>	<p>説明文</p>								
<p>非インタラクティブモード</p>	<p>非インタラクティブモードを許可または禁止するには、[はい]または[いいえ]を選択します。デフォルトでは、非インタラクティブモードを使用します。</p> <hr/> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="528 1263 644 1290">オプション</th> <th data-bbox="679 1263 743 1290">説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="528 1326 580 1352">はい</td> <td data-bbox="679 1308 1353 1361">非インタラクティブモードが使用されます。[接続設定の表示]で設定が指定されている場合、ユーザーは別の設定を再選択できません。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="528 1397 603 1424">いいえ</td> <td data-bbox="679 1379 1353 1433">対話モードが使用されます。ユーザーは、接続設定の表示で設定が指定されている場合でも、別の設定を再選択できます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	はい	非インタラクティブモードが使用されます。[接続設定の表示]で設定が指定されている場合、ユーザーは別の設定を再選択できません。	いいえ	対話モードが使用されます。ユーザーは、接続設定の表示で設定が指定されている場合でも、別の設定を再選択できます。		
オプション	説明文								
はい	非インタラクティブモードが使用されます。[接続設定の表示]で設定が指定されている場合、ユーザーは別の設定を再選択できません。								
いいえ	対話モードが使用されます。ユーザーは、接続設定の表示で設定が指定されている場合でも、別の設定を再選択できます。								

<p>起動時自動起動</p>	<p>P2Tシンクライアントの起動時に、VMware ViewまたはHorizon Viewセッションを自動的に開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには同様の異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合は1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="523 443 1390 1167"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のVMware ViewまたはHorizon Viewセッションで直接起動し、セッションの終了後に構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のVMware ViewまたはHorizon Viewセッションで直接起動し、セッションの終了後に構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td>デフォルト有効。システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のVMware ViewまたはHorizon Viewセッションで直接起動し、セッションの終了後に構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のVMware ViewまたはHorizon Viewセッションで直接起動し、セッションの終了後に構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。
No.	モード	説明文											
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のVMware ViewまたはHorizon Viewセッションで直接起動し、セッションの終了後に構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のVMware ViewまたはHorizon Viewセッションで直接起動し、セッションの終了後に構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。											
<p>アプリケーション終了時</p>	<p>VMware ViewまたはHorizon Viewセッションが終了したときの動作を選択します。4つのオプションが利用可能です。 何もしない, アプリケーションを再起動します, リポート, とシャットダウン。</p> <table border="1" data-bbox="523 1458 1390 1720"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>何もしない</td> <td>ローカルデスクトップに戻ります。</td> </tr> <tr> <td>アプリケーションを再起動します</td> <td>VMware ViewまたはHorizon Viewセッションを再度開きます。</td> </tr> <tr> <td>リポート</td> <td>シンクライアントを再起動します。</td> </tr> <tr> <td>シャットダウン</td> <td>シンクライアントをオフにします。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	何もしない	ローカルデスクトップに戻ります。	アプリケーションを再起動します	VMware ViewまたはHorizon Viewセッションを再度開きます。	リポート	シンクライアントを再起動します。	シャットダウン	シンクライアントをオフにします。		
オプション	説明文												
何もしない	ローカルデスクトップに戻ります。												
アプリケーションを再起動します	VMware ViewまたはHorizon Viewセッションを再度開きます。												
リポート	シンクライアントを再起動します。												
シャットダウン	シンクライアントをオフにします。												

オプションサブタブ

ウィンドウ設定									
項目	説明文								
解像度	ドロップダウンメニューをクリックして、ビューセッションの目的の表示サイズを選択します。3つのオプションを使用できます。 全画面表示 、 大きなウィンドウ と 小さなウィンドウ 。								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全画面表示</td> <td>選択したビューセッションを全画面で開きます。</td> </tr> <tr> <td>大きなウィンドウ</td> <td>選択したビューセッションを大きなウィンドウで開きます。</td> </tr> <tr> <td>小さなウィンドウ</td> <td>選択したビューセッションを小さなウィンドウで開きます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	全画面表示	選択したビューセッションを全画面で開きます。	大きなウィンドウ	選択したビューセッションを大きなウィンドウで開きます。	小さなウィンドウ	選択したビューセッションを小さなウィンドウで開きます。
	オプション	説明文							
	全画面表示	選択したビューセッションを全画面で開きます。							
大きなウィンドウ	選択したビューセッションを大きなウィンドウで開きます。								
小さなウィンドウ	選択したビューセッションを小さなウィンドウで開きます。								
ウィンドウモード	ドロップダウンメニューをクリックして、ウィンドウモードを選択します。2つのオプションを使用できます。 通常のウィンドウ と シームレスウィンドウ 。								
ツールバー	セッションでツールバーにアクセスできるかどうかを選択するには、ドロップダウンメニューをクリックします。								
USBリダイレクト設定									
項目	説明文								
マスマストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“VMware Viewセッションの高度なクイック接続設定 (P. 59)”を参照してください。								
スマートカード									
ヒューマンインターフェイスデバイス									
プリンター									
USBデバイスの接続									
リダイレクトルール									
接続設定									
項目	説明文								
プリンターマッピング	<p>クリックして、VMware View接続のプリンターマッピングを有効/無効にします。</p> <p>注意: 最初にP2Tシンクライアントのローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加し、次にこの機能を有効にして、仮想デスクトップセッションでそのマッピングされたプリンターを使用する必要があります。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントにローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加する方法の詳細については、“2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)”または“2.4.8 ネットワークプリンターの追加 (P.97)”を参照してください。</p> <p>注意: プリンターマッピングを無効にしても、プリンターリダイレクトが有効になっている場合は、プリンターが仮想デスクトップセッションにリダイレクトされる可能性があります（この表の上記の設定を参照）。</p>								

SECUREMATRIXサブタブ

接続設定	
項目	説明文
SECUREMATRIX認証	SECUREMATRIX認証を使用する場合にオンにします。
GSBサーバーアドレス	SECUREMATRIX認証サービスのサーバーであるGSBサーバーのサーバーアドレスを入力します。
ユーザー名	ユーザー名（ログインID）を入力します。



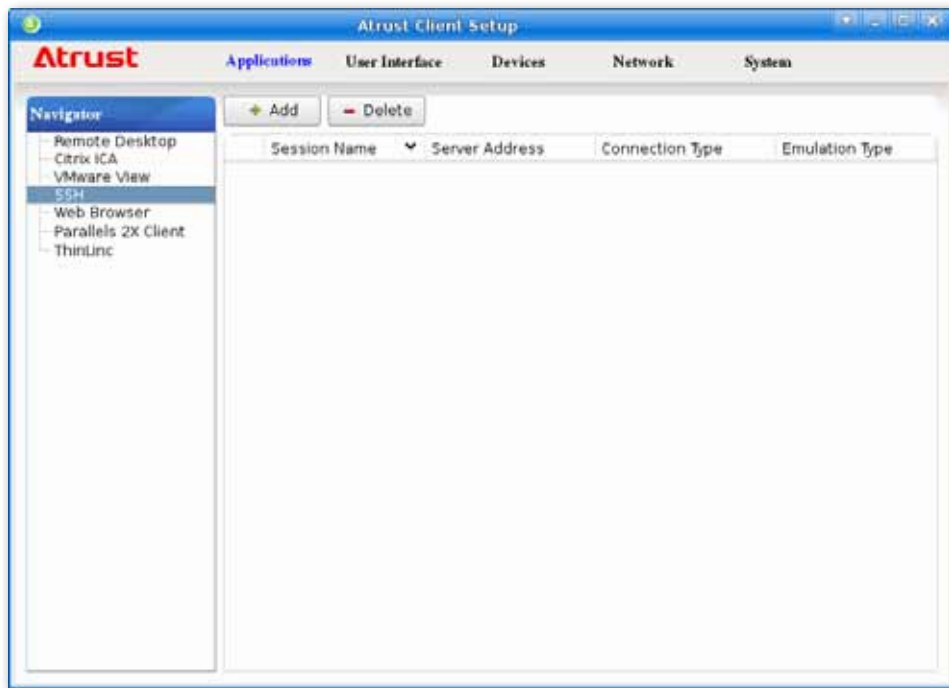
注意

- 詳細については、「A.3 VMware接続でのSECUREMATRIX認証の使用 (P.257)」を参照してください。

2.6.15 SSH接続設定の構成

SSH (Secure SHell) 接続設定を構成するには、次の手順を実行してください。

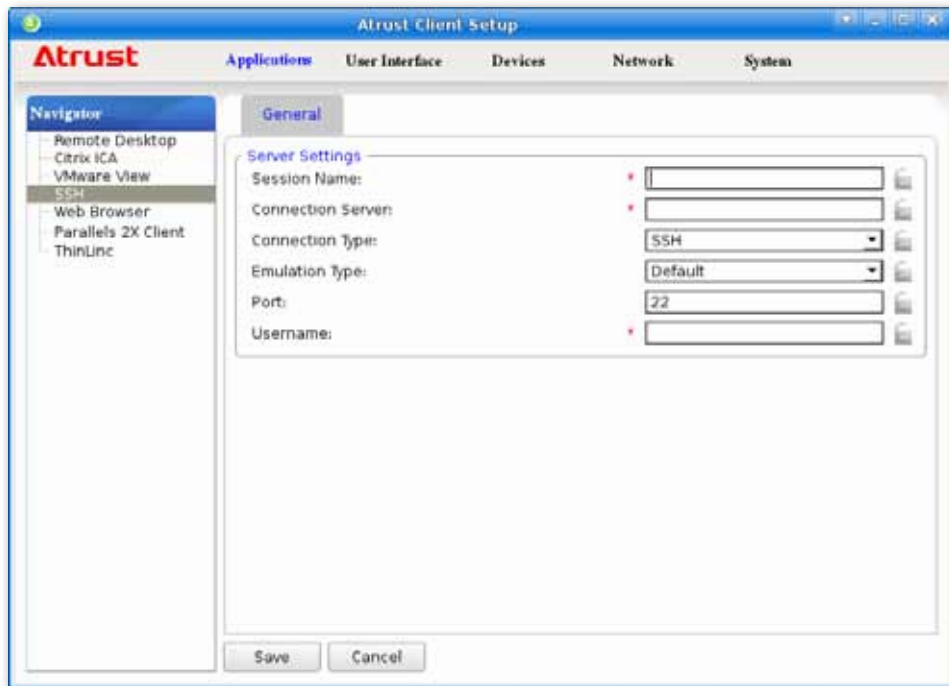
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [SSH]をクリックします。
2. SSH接続リストが[設定]領域に表示されます。



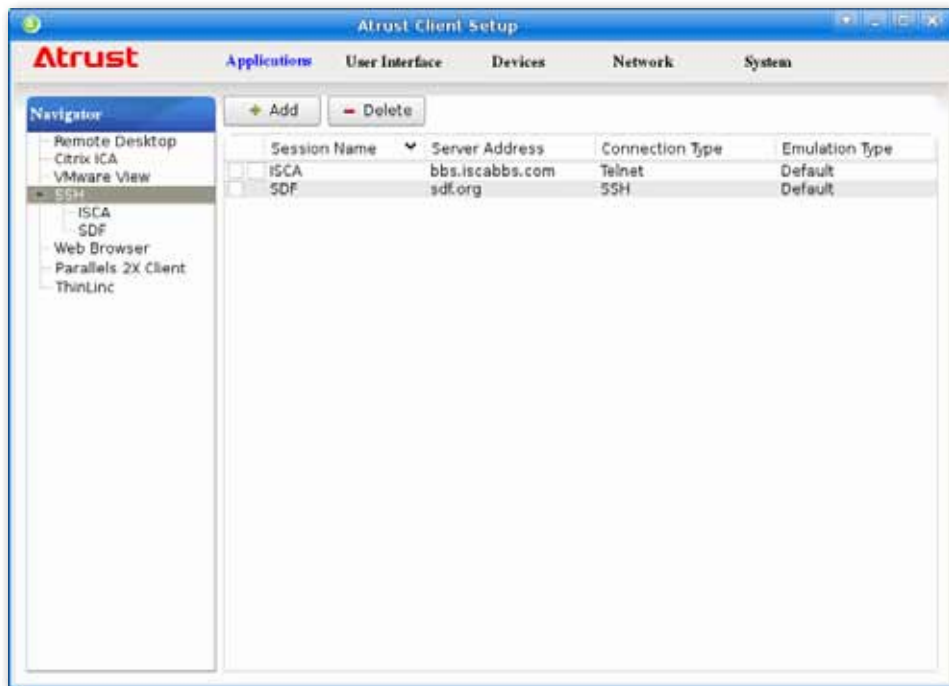
注意

- エントリを作成していない場合、SSH接続リストは空になります。

3. SSH接続リストの上部にある[追加]をクリックして、SSH接続の新しいエントリを追加します。



4. ドロップダウンメニューをクリックして、目的の接続タイプを選択します。SSHとTelnetの2つのタイプを使用できます。
5. 目的のセッション名、リモートサーバーのコンピューター名またはIPアドレス、ユーザー名を入力し、[保存]をクリックして確定します。
6. 新しいエントリがSSH接続リストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。

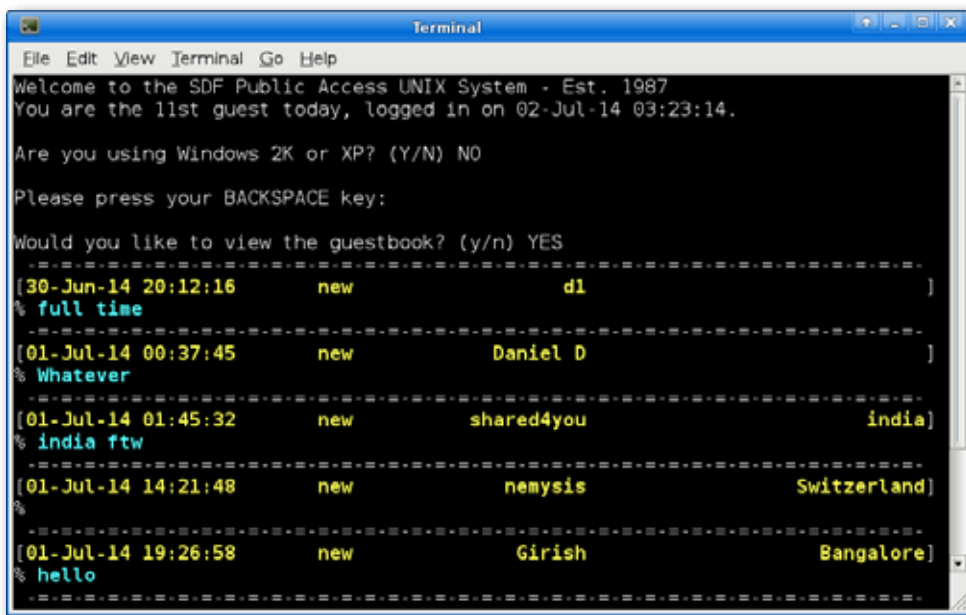


2.6.16 SSHおよびTelnetセッションの起動

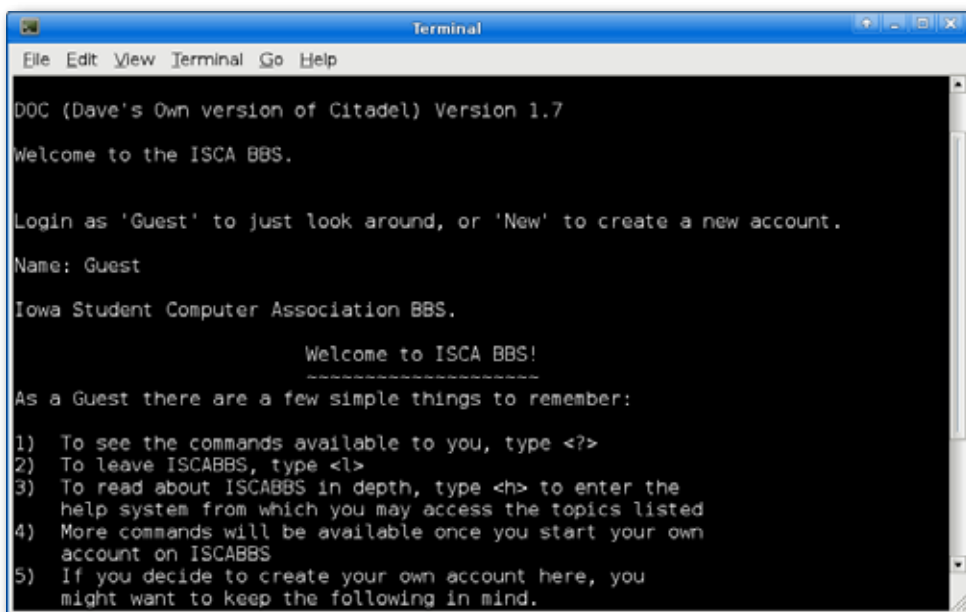
SSHまたはTelnetセッションを起動するには、次の手順を実行してください。

1. ローカルデスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 開いたウィンドウでSSHまたはTelnetセッションが開始します。

例：SSHセッション



例：Telnetセッション



2.6.17 ブラウザセッションの基本設定の構成

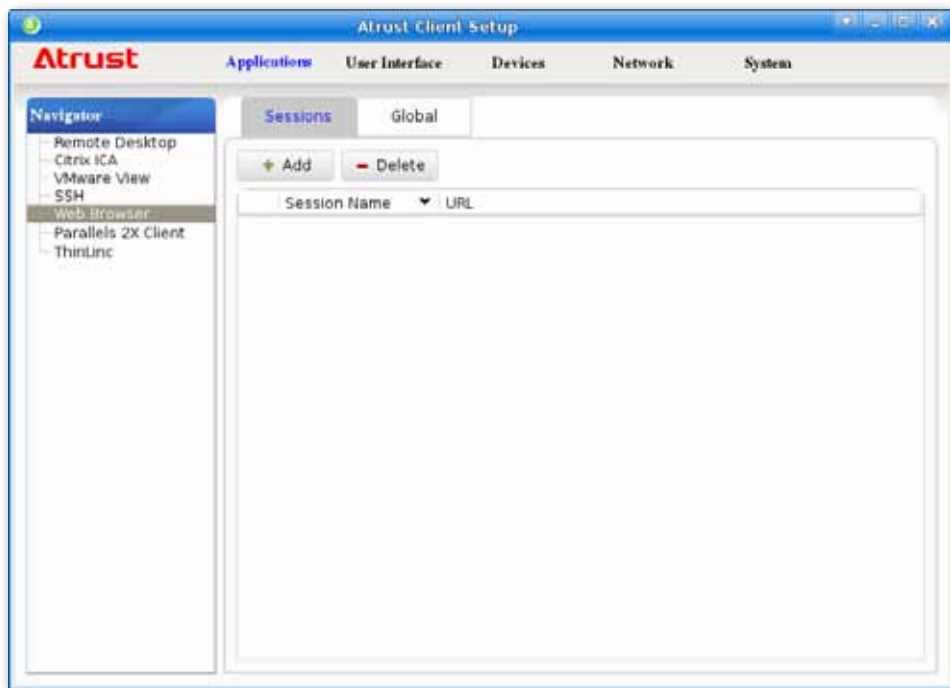
ブラウザセッションの基本設定を構成するには、次の手順を実行します。



注意

- このローカルWebブラウザ機能は、デバイスに2 GB以上のメモリが搭載されている場合にのみ使用できます。

1. Atrust Client Setupで、「アプリケーション」 > 「Webブラウザ」をクリックします。
2. Webページアクセスリストが[設定]領域に表示されます。

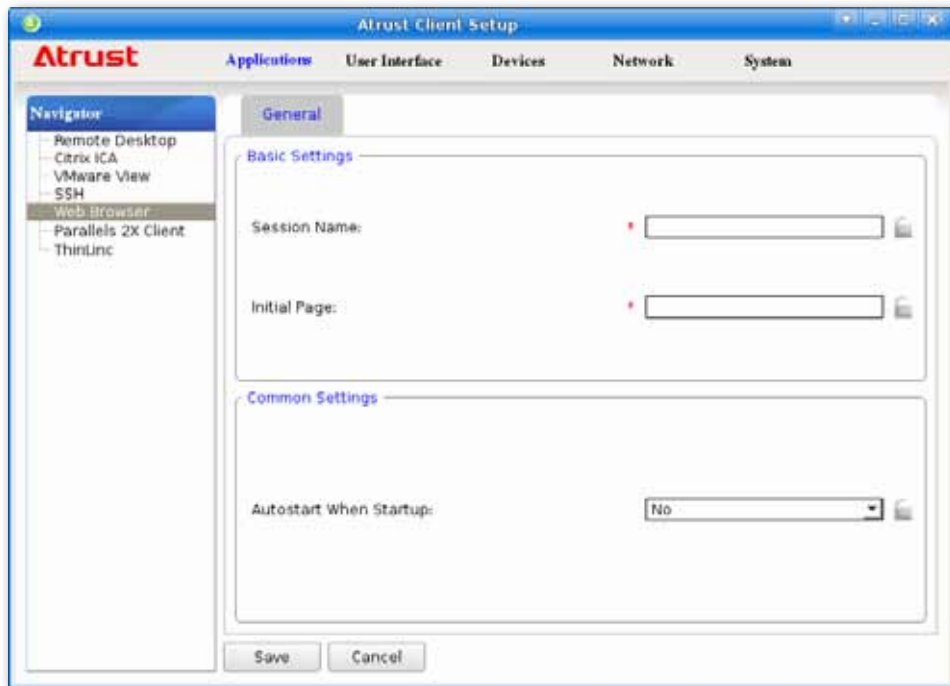


注意

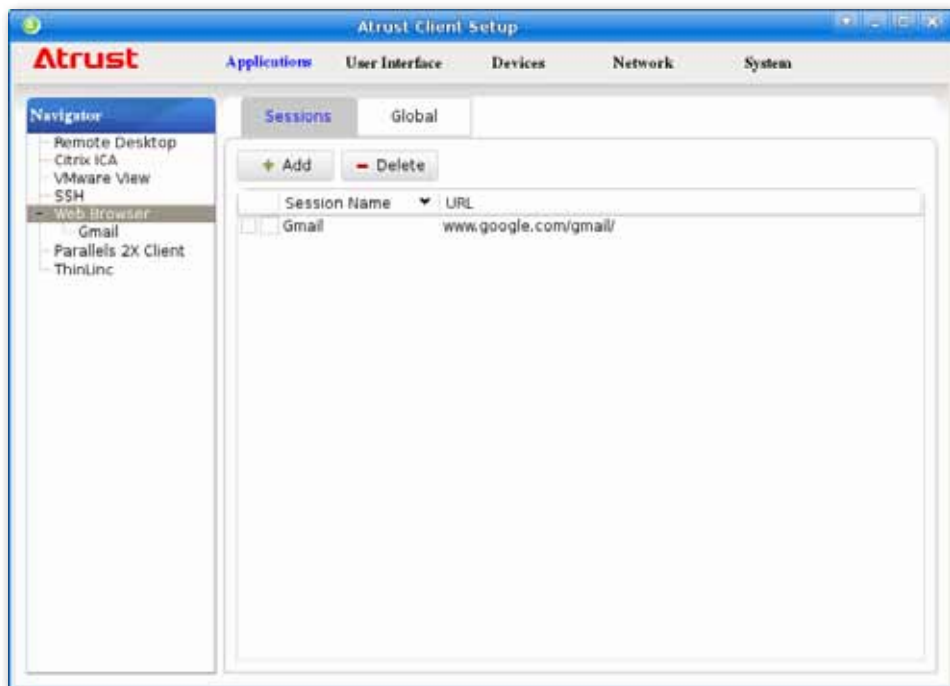
- エントリを作成していない場合、Webページアクセスリストは空になります。

3. Webページアクセスリストの上部にある[追加]をクリックして、新しいエントリを追加します。

4. 目的のセッション名、WebページのURLを入力し、[保存]をクリックして確定します。



5. 新しいエントリがWebページのアクセスリストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。

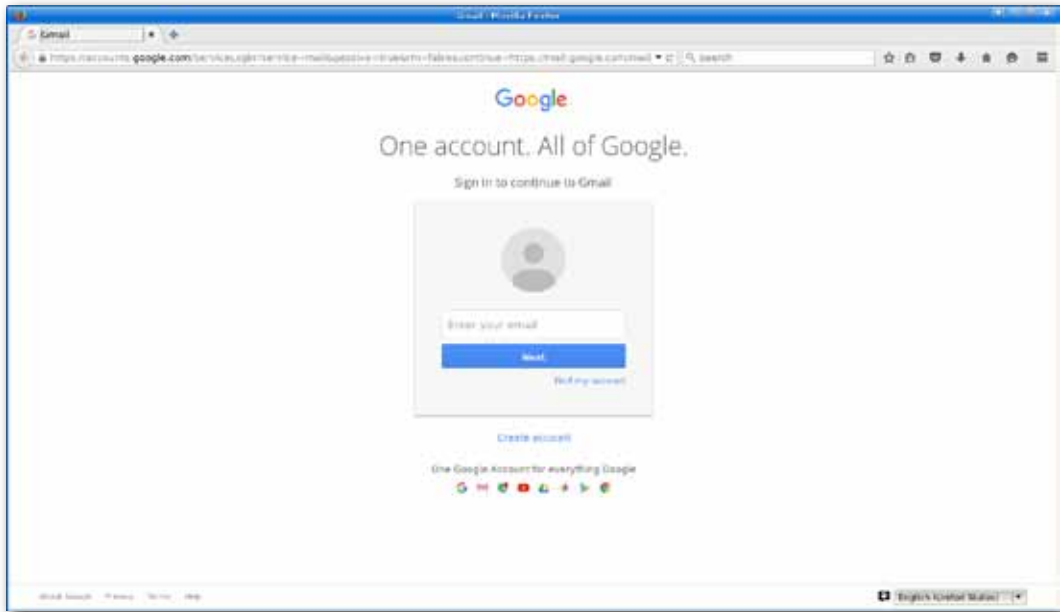


2.6.18 ブラウザセッションの起動

ブラウザセッションを起動するには、次の手順を実行してください。

1. ローカルデスクトップまたは[スタート]メニューで作成したショートカットをダブルクリックします。
2. 開いているブラウザでセッションが開始されます。

例：Gmailログインセッション



2.6.19 ブラウザセッションの詳細設定

次の表は、ブラウザセッションの各設定項目の説明です。これらの表を参照して、詳細設定を構成し、Webアクセス用にカスタマイズしてください。

一般サブタブ

共通設定													
項目	説明文												
セッション名	ブラウザセッションの名前を入力します。												
インシャルページ	WebページのURLを入力します。												
共通設定													
項目	説明文												
起動時自動起動	<p>P2Tシンクライアントの起動時に、VMware ViewまたはHorizon Viewセッションを自動的に開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには同様の異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合は1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。
	No.	モード	説明文										
	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 										
	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 										
3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。											

グローバルサブタブ

共通設定	
項目	説明文
ホームページ	Webブラウザに希望のホームページを設定します。

2.6.20 基本的なRAS / RDP接続設定の構成

Parallels 2X Client設定を使用すると、RAS / RDP接続設定を構成し、サービスアクセス用のローカルデスクトップと[スタート]メニューにショートカットを作成できます。これらのショートカットを使用するだけで、リモートデスクトップまたはアプリケーションにアクセスして作業できます。



注意

- RAS（リモートアプリケーションサーバー）とRDP（リモートデスクトッププロトコル）の詳細については、ParallelsのWebサイト www.parallels.com にアクセスしてください。

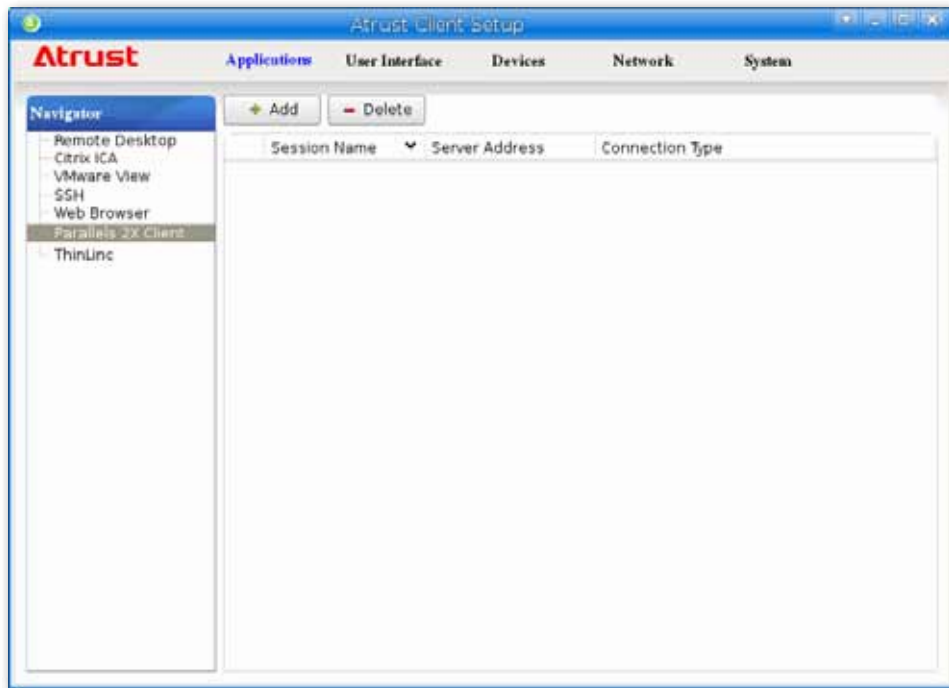
次の2つの接続タイプを使用できます。

接続タイプ	説明文	ページ
Parallelsリモートアプリケーションサーバー	Parallels Remote Application Serverを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。	226
標準RDP	標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。	228

接続タイプ : Parallelsリモートアプリケーションサーバー

この接続タイプのRAS接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。

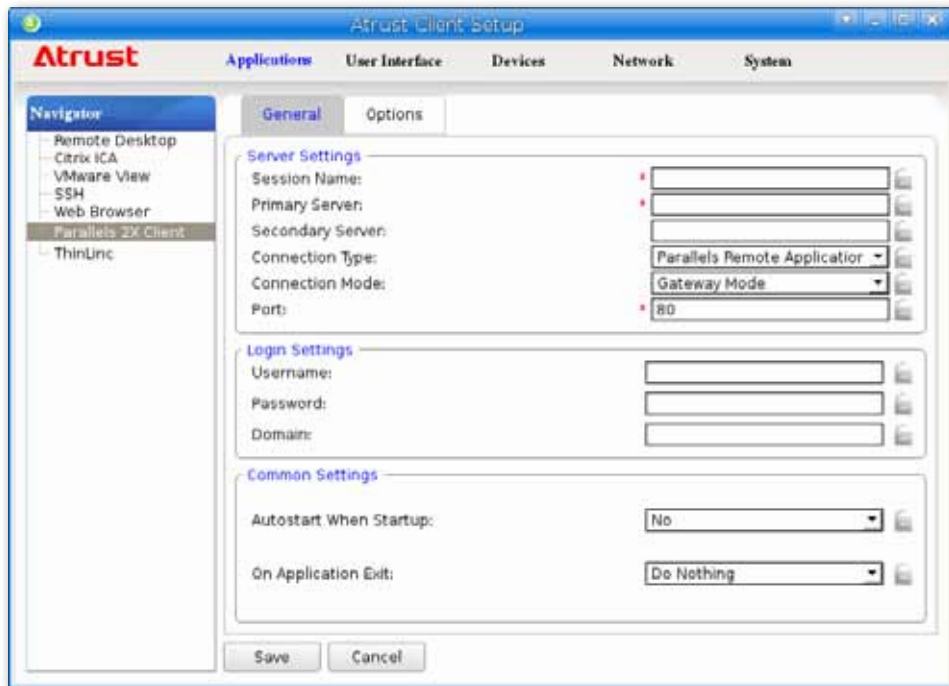
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Parallels 2X Client]をクリックします。
2. [RAS / RDP接続]リストが[構成]領域に表示されます。



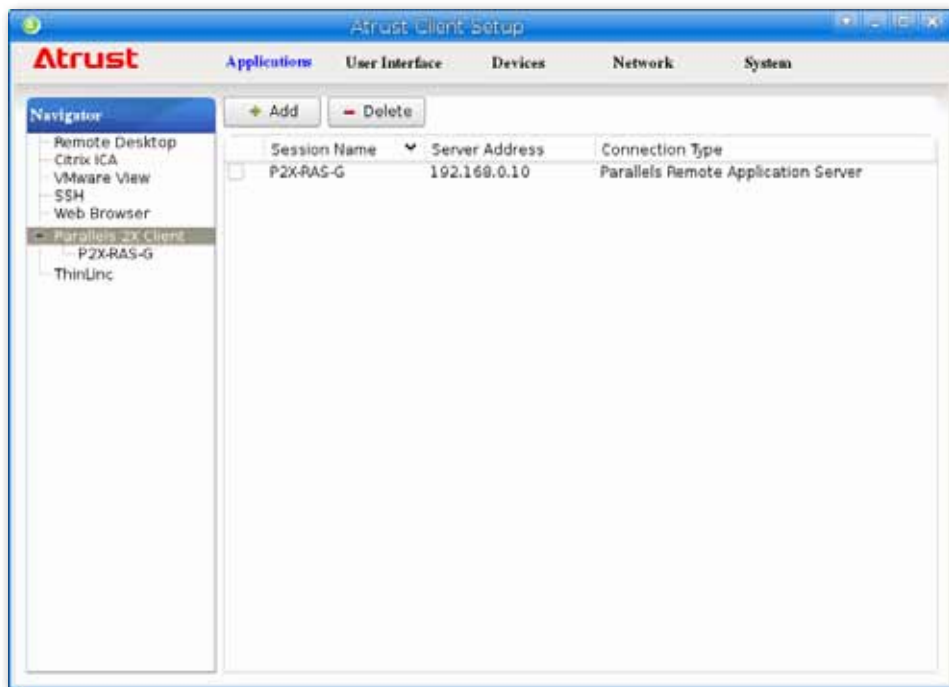
注意

- エントリを作成していない場合、RAS / RDP接続リストは空になります。

3. [RAS / RDP接続]リストの上部にある[追加]をクリックして、RAS接続の新しいエントリを作成します。



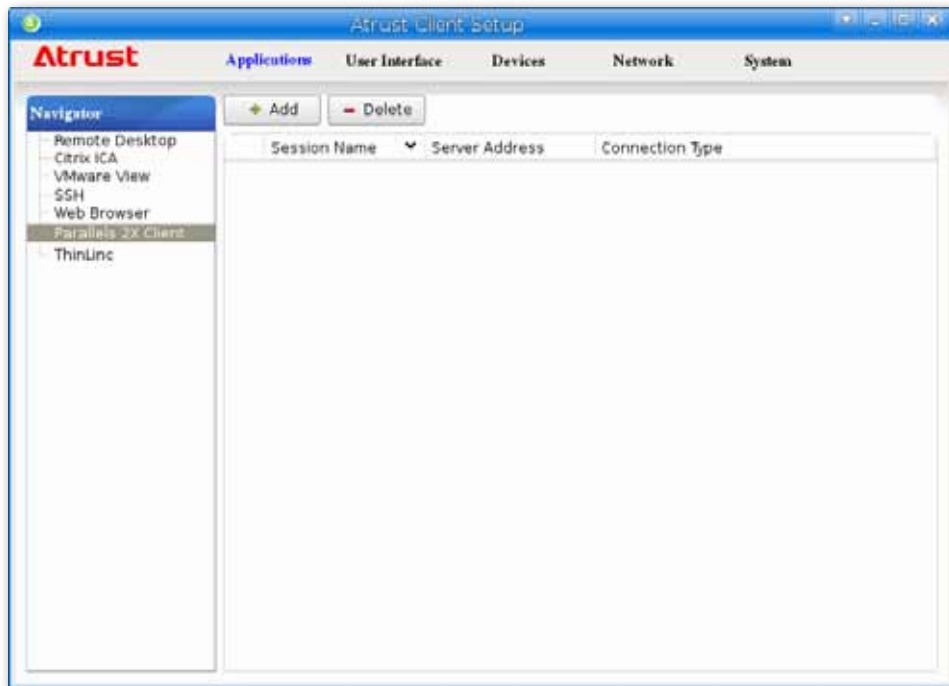
4. [全般]サブタブで、接続タイプとして**Parallelsリモートアプリケーションサーバー**が選択されていることを確認し、[サーバー設定]セクションでセッション名とプライマリサーバーアドレスを入力します。
5. [保存]をクリックして確定します。
6. 新しいエントリが[RAS / RDP接続]リストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



接続タイプ：標準RDP

この接続タイプのRDP接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。

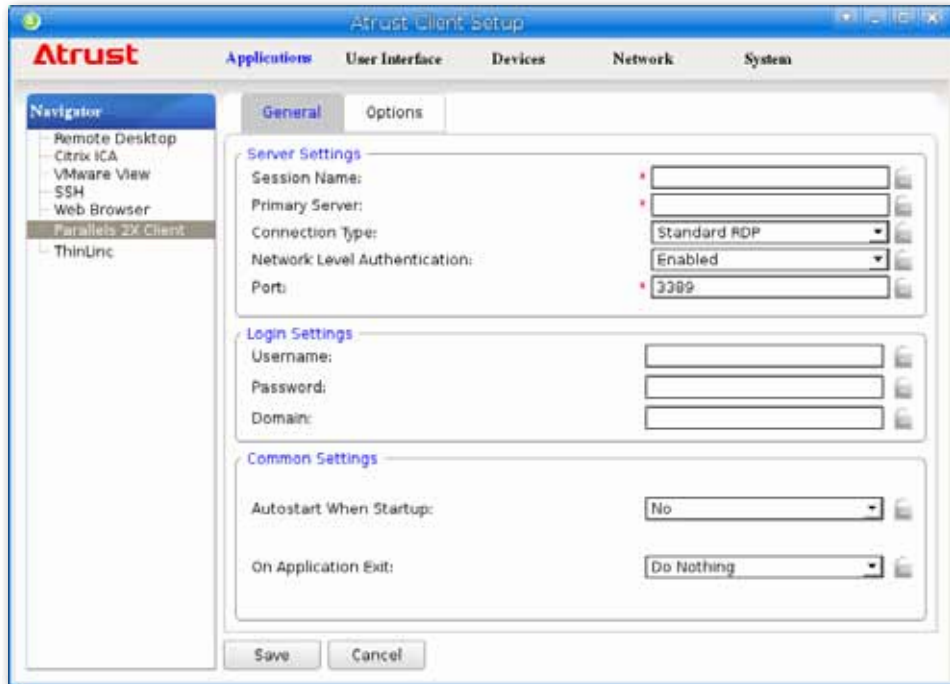
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Parallels 2X Client]をクリックします。
2. [RAS / RDP接続]リストが[構成]領域に表示されます。



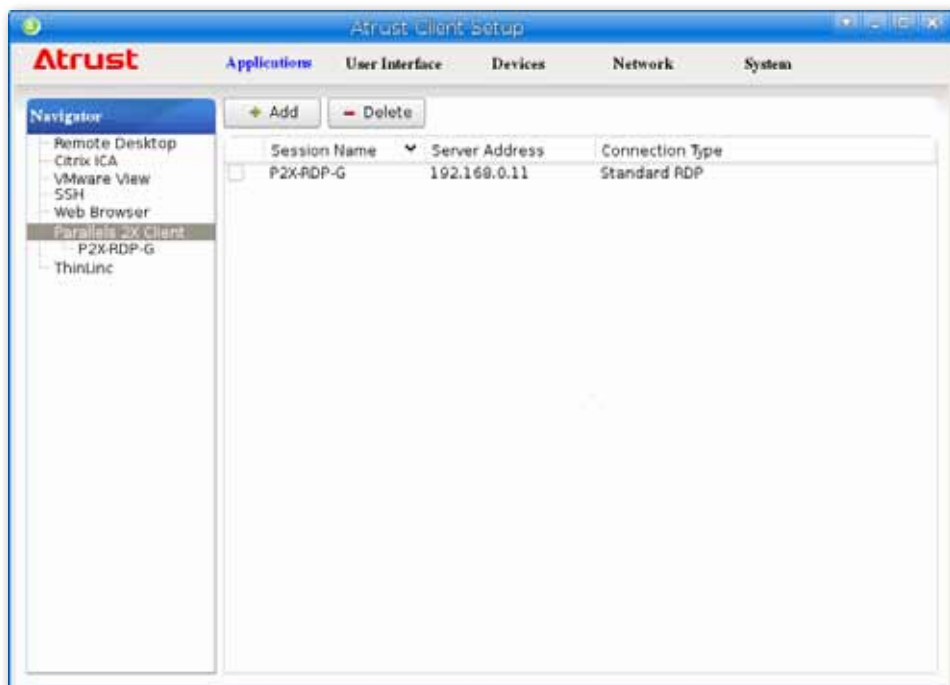
注意

- エントリを作成していない場合、RAS / RDP接続リストは空になります。

3. [RAS / RDP接続]リストの上部にある[追加]をクリックして、RDP接続の新しいエントリを作成します。



4. **[全般]**サブタブで、接続タイプとして**[標準RDP]**が選択されていることを確認し、**[サーバー設定]**セクションでセッション名とプライマリサーバーアドレスを入力します。
5. **[保存]**をクリックして確定します。
6. 新しいエントリが**[RAS / RDP接続]**リストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと**[スタート]**メニューに自動的に作成されます。



2.6.21 リモートデスクトップまたはアプリケーションへのアクセス

接続タイプ : *Parallels*リモートアプリケーションサーバー

リモートデスクトップまたはアプリケーションにアクセスするには、以下を実行してください。

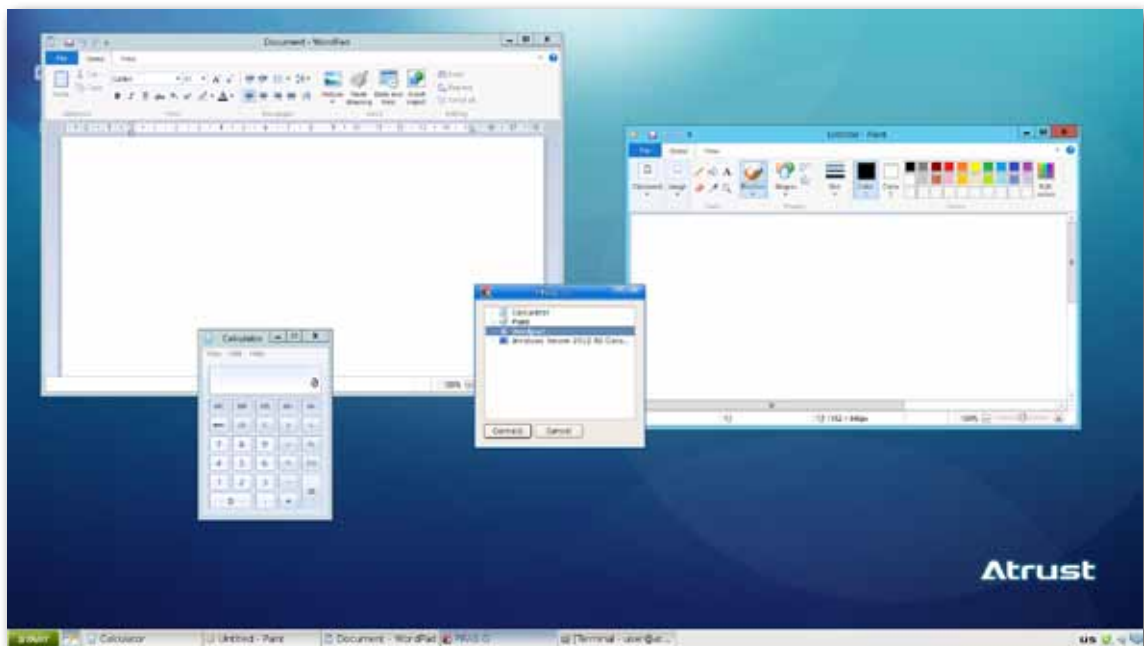
1. デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 開いたウィンドウで、必要に応じて資格情報を入力し、**[OK]**をクリックします。

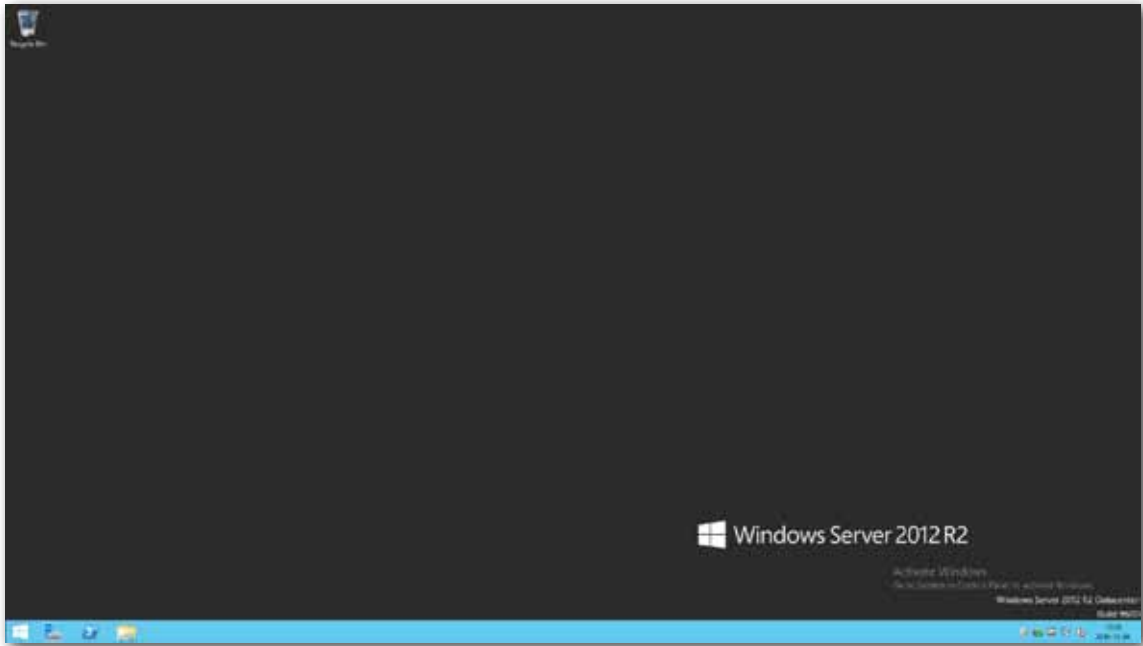



3. 使用可能なアプリケーションとデスクトップがウィンドウに表示されます。



4. 目的のアプリケーションまたはデスクトップをクリックして選択し、**[接続]**をクリックして確認します。
5. アプリケーションまたはデスクトップが画面に表示されます。





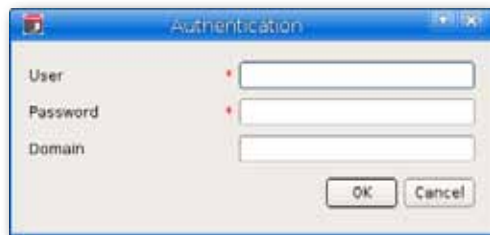
 **注意**

- デスクトップが全画面で表示されます。

接続タイプ：標準RDP

リモートデスクトップにアクセスするには、次の操作を行います。

1. デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 開いたウィンドウで、必要に応じて資格情報を入力し、**[OK]**をクリックします。



3. デスクトップが全画面で表示されます。

2.6.22 高度なRAS / RDP接続設定の構成

以下の表は、RAS / RDP接続の各設定項目の説明です。これらの表を参照して、詳細設定を構成し、ローカルデスクトップのショートカットとサービスアクセスの[スタート]メニューをカスタマイズしてください。



注意

- 使用可能な設定は、選択した接続タイプによって異なることに注意してください。

Parallelsリモートアプリケーションサーバーの接続タイプの設定



注意

- 標準RDPの接続タイプの設定については、“標準RDPの接続タイプの設定 (P.238)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定							
項目	説明文						
セッション名	RAS (リモートアプリケーションサーバー) セッションの名前を入力します。						
プライマリサーバー	RASセッションの配信に使用するサーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。						
セカンダリサーバー	プライマリサーバーがセッションの配信に失敗した場合に備えて、サーバーの2番目のコンピューター名またはIPアドレス (利用可能な場合) を入力します。						
接続タイプ	<p>この表では、Parallelsリモートアプリケーションサーバーが選択されている場合に利用可能な設定についてのみ説明します。</p> <p>次の2つの接続タイプを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Parallelsリモートアプリケーションサーバー</td> <td>Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。</td> </tr> <tr> <td>標準RDP</td> <td>標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	Parallelsリモートアプリケーションサーバー	Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。	標準RDP	標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。
オプション	説明文						
Parallelsリモートアプリケーションサーバー	Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。						
標準RDP	標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。						

接続モード	ドロップダウンメニューをクリックして、目的の接続モードを選択します。4つのオプションが利用可能です。										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゲートウェイモード</td> <td> <p>RAS（リモートアプリケーションサーバー）セキュアクライアントゲートウェイに接続し、最初に利用可能な接続を介してデータをトンネルしました。</p> <p>注意: このモードは、ゲートウェイ経由でのみ到達可能であり、高度なセキュリティを必要としないサーバーに最適です。</p> </td> </tr> <tr> <td>ダイレクトモード</td> <td> <p>最初にRAS（リモートアプリケーションサーバー）のSecure Client Gatewayに接続して最適なサーバーを取得し、次にその特定のサーバーに直接接続します。</p> <p>注意: これは、クライアントとサーバーが同じネットワーク上にある場合に最適です。</p> </td> </tr> <tr> <td>ゲートウェイSSLモード</td> <td> <p>RAS（リモートアプリケーションサーバー）Secure Client Gatewayに安全に接続し、データを暗号化して、最初に利用可能な接続を介してトンネルします。</p> </td> </tr> <tr> <td>ダイレクトSSLモード</td> <td> <p>最初にSSLを使用してRAS（リモートアプリケーションサーバー）Secure Client Gatewayに接続し、最適なサーバーを選択してから、その特定のサーバーに直接接続します。</p> <p>注意: これは、クライアントとサーバーが同じネットワーク上にあり、高度なセキュリティ対策が必要な場合に最適です。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	ゲートウェイモード	<p>RAS（リモートアプリケーションサーバー）セキュアクライアントゲートウェイに接続し、最初に利用可能な接続を介してデータをトンネルしました。</p> <p>注意: このモードは、ゲートウェイ経由でのみ到達可能であり、高度なセキュリティを必要としないサーバーに最適です。</p>	ダイレクトモード	<p>最初にRAS（リモートアプリケーションサーバー）のSecure Client Gatewayに接続して最適なサーバーを取得し、次にその特定のサーバーに直接接続します。</p> <p>注意: これは、クライアントとサーバーが同じネットワーク上にある場合に最適です。</p>	ゲートウェイSSLモード	<p>RAS（リモートアプリケーションサーバー）Secure Client Gatewayに安全に接続し、データを暗号化して、最初に利用可能な接続を介してトンネルします。</p>	ダイレクトSSLモード	<p>最初にSSLを使用してRAS（リモートアプリケーションサーバー）Secure Client Gatewayに接続し、最適なサーバーを選択してから、その特定のサーバーに直接接続します。</p> <p>注意: これは、クライアントとサーバーが同じネットワーク上にあり、高度なセキュリティ対策が必要な場合に最適です。</p>
	オプション	説明文									
	ゲートウェイモード	<p>RAS（リモートアプリケーションサーバー）セキュアクライアントゲートウェイに接続し、最初に利用可能な接続を介してデータをトンネルしました。</p> <p>注意: このモードは、ゲートウェイ経由でのみ到達可能であり、高度なセキュリティを必要としないサーバーに最適です。</p>									
	ダイレクトモード	<p>最初にRAS（リモートアプリケーションサーバー）のSecure Client Gatewayに接続して最適なサーバーを取得し、次にその特定のサーバーに直接接続します。</p> <p>注意: これは、クライアントとサーバーが同じネットワーク上にある場合に最適です。</p>									
ゲートウェイSSLモード	<p>RAS（リモートアプリケーションサーバー）Secure Client Gatewayに安全に接続し、データを暗号化して、最初に利用可能な接続を介してトンネルします。</p>										
ダイレクトSSLモード	<p>最初にSSLを使用してRAS（リモートアプリケーションサーバー）Secure Client Gatewayに接続し、最適なサーバーを選択してから、その特定のサーバーに直接接続します。</p> <p>注意: これは、クライアントとサーバーが同じネットワーク上にあり、高度なセキュリティ対策が必要な場合に最適です。</p>										
ポート	接続タイプとモードを選択すると、デフォルトで使用されるポートが自動的に割り当てられます。必要に応じて別のものを入力します。										
ログイン設定											
項目	説明文										
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。										
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。										
ドメイン	<p>サーバーのドメインを入力します。</p> <p>注意: ドメインは、共通のデータベースとセキュリティポリシーを共有するネットワーク上のコンピューターのコレクションです。サーバーがどのドメインにも属していない場合は、このフィールドを空白のままにします。</p>										

共通設定													
項目	説明文												
起動時自動起動	<p>P2Tシンクライアントの起動時に、VMware ViewまたはHorizon Viewセッションを自動的に開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには同様の異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合は1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td> <p>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	<p>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>
No.	モード	説明文											
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	<p>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>											
アプリケーション終了時	<p>Parallel 2Xセッションが終了したときの動作を選択します。4つのオプションが利用可能です。何もしない, アプリケーションを再起動します, リポートとシャットダウン。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>何もしない</td> <td>何もしないこと。</td> </tr> <tr> <td>アプリケーションを再起動します</td> <td>RASセッションを再度起動します。</td> </tr> <tr> <td>リポート</td> <td>P2Tシンクライアントを再起動します。</td> </tr> <tr> <td>シャットダウン</td> <td>P2Tシンクライアントをオフにします。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	何もしない	何もしないこと。	アプリケーションを再起動します	RASセッションを再度起動します。	リポート	P2Tシンクライアントを再起動します。	シャットダウン	P2Tシンクライアントをオフにします。		
オプション	説明文												
何もしない	何もしないこと。												
アプリケーションを再起動します	RASセッションを再度起動します。												
リポート	P2Tシンクライアントを再起動します。												
シャットダウン	P2Tシンクライアントをオフにします。												

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
色深度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RASセッションに必要な色深度を選択します。5つのオプション、8ビット、15ビット、16ビット、24ビット、32ビットを使用できます。</p> <p>注意: グラフィックスアクセラレーションでRemoteFXが有効になっている場合、ここでは32ビット/ピクセルのみを選択できます。</p> <p>注意: ホストサーバー上のRASセッションの色深度の上限を構成できます。この場合、ここで選択する色深度に関係なく、値は定義された制限を超えることはできません。</p>
グラフィックスアクセラレーション	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、グラフィックスアクセラレーションを設定します。4つのオプション、なし、基本、RemoteFX、RemoteFXアダプティブを使用できます。</p> <p>注意: Windows® RemoteFX™ は、リモートデスクトップユーザーにネットワーク経由でリッチなユーザーエクスペリエンスを提供するテクノロジーです。</p> <p>注意: ここでRemoteFXを選択すると、32ビット/ピクセルの色深度が色深度で自動的に選択されます。</p>
全てのモニターを利用	オンにすると、接続されたモニターとセカンダリモニターを拡張画面として使用できます。
全てのモニターでスパン	オンにすると、起動したデスクトップがすべての接続されたモニターにまたがります。
公開アプリケーション	
項目	説明文
プライマリモニターのみ	オンにすると、起動したアプリケーションがプライマリモニターのみに表示されます。接続されている他のモニターは使用されず、ユーザーはアプリケーションウィンドウをそれらのモニターに移動することもできません。
最適化設定	
項目	説明文
接続品質	<p>ネットワーク接続の品質を最もよく表すオプションを選択します。3つのオプション、LAN (非常に高速)、ブロードバンド (高速)、およびモデム (遅い)。</p> <p>注意: ここで選択すると、このセクションの項目のデフォルトが次のように決定されます。</p>
デスクトップ背景	チェックすると、デスクトップの背景が使用されます。
フォントスムーズ	チェックを入れると、ClearType®テクノロジーを使用して、フォントを明確で滑らかにします。
ドラッグ中のウィンドウ表示	オンにすると、ウィンドウのドラッグ中にウィンドウの内容が表示されます。
メニュー及びウィンドウアニメーション	チェックすると、メニューとウィンドウのアニメーションが表示されます。
テーマ	チェックして、クラシックでないテーマを許可します。

接続設定									
項目	説明文								
USBストレージマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、USBストレージマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効]を選択すると、ユーザーはRASセッションでUSBフラッシュドライブやメモ리카ードリーダーなどのローカルUSBストレージデバイスにアクセスできます。</p> <p>注意: Atrust Client Setupでは、ローカルに接続されたUSBストレージデバイスの使用を有効または無効にすることもできます。ローカルに接続されたUSBストレージデバイスをRASセッションで使用するには、まずそれらを有効にする必要があります。デフォルトは有効です。</p> <p>注意: USBストレージデバイスの使用を設定するには、セクション“2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)”を参照してください。</p>								
プリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、プリンターマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRASセッションでローカルプリンターまたはネットワークプリンターにアクセスできます。</p> <p>注意: 最初にP2Tシンクライアント用のローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加し、次にこの機能を有効にしてRASセッションでそのプリンターを使用する必要があります。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントにローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加する方法の詳細については、“2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)”または“2.4.8 ネットワークプリンターの追加 (P.97)”を参照してください。</p>								
シリアルポートマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、シリアルポートマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRASセッションでバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスにアクセスできます。</p>								
スマートカードマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、スマートカードマッピングを有効または無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRASセッションのスマートカードリーダーを介してスマートカードにアクセスできます。</p>								
クリップボードマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、クリップボードマッピングを有効/無効にします。</p>								
ローカルリソースの設定									
項目	説明文								
リモートオーディオ再生	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RASセッションのオーディオ再生設定を構成します。3つのオプションを使用できます。このコンピューターで再生する、リモートコンピューターで再生するおよび再生しません。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>このコンピューターで再生する</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、RASセッションでのオーディオ再生を許可します。</td> </tr> <tr> <td>再生しません</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したRASセッションでのオーディオ再生を無効にします。</td> </tr> <tr> <td>リモートコンピューターで再生する</td> <td>リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、RASセッションでオーディオを再生できます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	このコンピューターで再生する	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、RASセッションでのオーディオ再生を許可します。	再生しません	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したRASセッションでのオーディオ再生を無効にします。	リモートコンピューターで再生する	リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、RASセッションでオーディオを再生できます。
オプション	説明文								
このコンピューターで再生する	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、RASセッションでのオーディオ再生を許可します。								
再生しません	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したRASセッションでのオーディオ再生を無効にします。								
リモートコンピューターで再生する	リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、RASセッションでオーディオを再生できます。								

<p>リモートオーディオ録音</p>	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、RASセッションのオーディオ再生設定を構成します。2つのオプションを使用できます。このコンピューターからの録音と録音しない。</p> <table border="1" data-bbox="485 344 1422 573"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>このコンピューターからの録音</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、RASセッションでオーディオ録音を許可します。</td> </tr> <tr> <td>録音しない</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、RASセッションでのオーディオ録音を無効にします。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	このコンピューターからの録音	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、RASセッションでオーディオ録音を許可します。	録音しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、RASセッションでのオーディオ録音を無効にします。		
オプション	説明文								
このコンピューターからの録音	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、RASセッションでオーディオ録音を許可します。								
録音しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、RASセッションでのオーディオ録音を無効にします。								
<p>Windowsキー組み合わせ</p>	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。3つのオプションを使用できます。ローカルコンピューター、リモートサーバーとフルスクリーンモードのみ。</p> <table border="1" data-bbox="485 763 1361 976"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ローカルコンピューター</td> <td>ローカルデスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td>リモートサーバー</td> <td>仮想デスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td>フルスクリーンモードのみ</td> <td>デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	ローカルコンピューター	ローカルデスクトップにのみ適用されます。	リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。	フルスクリーンモードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
オプション	説明文								
ローカルコンピューター	ローカルデスクトップにのみ適用されます。								
リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。								
フルスクリーンモードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。								
<p>プロキシ設定</p>									
<p>項目</p>	<p>説明文</p>								
<p>プロキシサーバー</p>	<p>プロキシサーバーを利用する場合はチェックを入れ、詳細を指定してください。</p>								
<p>プロキシタイプ</p>	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、使用するプロトコルに応じてプロキシサーバーのタイプを選択します。</p> <p>4つのオプション、SOCKS 4、SOCKS 4A、SOCKS 5、およびHTTP 1.1を使用できます。</p>								
<p>プロキシホスト</p>	<p>プロキシサーバーのIPアドレスを指定します。</p>								
<p>プロキシポート</p>	<p>プロキシサービスに使用するポートを指定します。</p>								
<p>プロキシ資格情報利用</p>	<p>プロキシサーバーにユーザー認証が必要かどうかを確認し、資格情報を指定します。</p>								
<p>ユーザー名</p>	<p>プロキシサーバーのユーザー/アカウント名を入力します。</p>								
<p>パスワード</p>	<p>ユーザーアカウントのパスワードを入力します。</p>								
<p>追加の設定</p>									
<p>項目</p>	<p>説明文</p>								
<p>圧縮</p>	<p>ド롭メニューをクリックして、データトラフィックの圧縮を有効/無効にします。</p>								

標準RDPの接続タイプの設定



注意

- Parallelsリモートアプリケーションサーバーの接続タイプの設定については、“Parallelsリモートアプリケーションサーバーの接続タイプの設定 (P.232)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定							
項目	説明文						
セッション名	RDPセッションの名前を入力します。						
プライマリサーバー	RDPセッションの配信に使用するサーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。						
接続タイプ	<p>この表は、標準RDPが選択されている場合に使用可能な設定の説明のみを提供しています。 次の2つの接続タイプを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Parallelsリモートアプリケーションサーバー</td> <td>Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。</td> </tr> <tr> <td>標準RDP</td> <td>標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	Parallelsリモートアプリケーションサーバー	Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。	標準RDP	標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。
オプション	説明文						
Parallelsリモートアプリケーションサーバー	Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。						
標準RDP	標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。						
ネットワークレベル認証	<p>ネットワークレベル認証を有効/無効にします。</p> <p>注意: ネットワークレベル認証は、ログオン画面が表示されてセッションが作成される前にユーザーの認証を要求することにより、サーバーのセキュリティを強化するために使用される認証方法です。これは、リモートコンピュータを悪意のあるユーザーやソフトウェアから保護するのに役立つ、より安全な認証方法です。</p>						
ポート	接続タイプとモードを選択すると、デフォルトで使用されるポートが自動的に割り当てられます。必要に応じて別のものを入力します。						
ログイン設定							
項目	説明文						
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。						
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。						
ドメイン	<p>サーバーのドメインを入力します。</p> <p>注意: ドメインは、共通のデータベースとセキュリティポリシーを共有するネットワーク上のコンピューターのコレクションです。サーバーがどのドメインにも属していない場合は、このフィールドを空白のままにします。</p>						

共通設定													
項目	説明文												
起動時自動起動	<p>P2T Thin Clientの起動時に自動でRDPセッションを開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントには同様の異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合は1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>モード</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>アプライアンス</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>自動起動</td> <td> <p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>クイック接続</td> <td>デフォルト有効。システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。
No.	モード	説明文											
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルデスクトップに戻る 新しいセッションを再開する シンクライアントの再起動 シンクライアントをオフにする 											
3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。											
アプリケーション終了時	<p>RDPセッションが終了したときの動作を選択します。4つのオプションが利用可能です。何もしない, アプリケーションを再起動します, リポートとシャットダウン。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>何もしない</td> <td>何もしないこと。</td> </tr> <tr> <td>アプリケーションを再起動します</td> <td>RDPセッションを再度起動します。</td> </tr> <tr> <td>リポート</td> <td>P2Tシンクライアントを再起動します。</td> </tr> <tr> <td>シャットダウン</td> <td>P2Tシンクライアントをオフにします。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	何もしない	何もしないこと。	アプリケーションを再起動します	RDPセッションを再度起動します。	リポート	P2Tシンクライアントを再起動します。	シャットダウン	P2Tシンクライアントをオフにします。		
オプション	説明文												
何もしない	何もしないこと。												
アプリケーションを再起動します	RDPセッションを再度起動します。												
リポート	P2Tシンクライアントを再起動します。												
シャットダウン	P2Tシンクライアントをオフにします。												

オプションサブタブ

ウィンドウ設定											
項目	説明文										
色深度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RDPセッションに必要な色深度を選択します。5つのオプション、8ビット、15ビット、16ビット、24ビット、32ビットを使用できます。</p> <p>注意: グラフィックスアクセラレーションでRemoteFXが有効になっている場合、ここでは32ビット/ピクセルのみを選択できます。</p> <p>注意: ホストサーバー上のRDPセッションの色深度の上限を構成できます。この場合、ここで選択する色深度に関係なく、値は定義された制限を超えることはできません。</p>										
解像度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RDPセッションで目的のディスプレイ解像度を選択します。4つのオプションが利用可能です 全画面表示、大きなウィンドウと小さなウィンドウ。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全画面表示</td> <td>ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でRDPセッションを全画面で開きます。</td> </tr> <tr> <td>大きなウィンドウ</td> <td>大きなディスプレイ解像度でRDPセッションを開きます。</td> </tr> <tr> <td>ミディアムウィンドウ</td> <td>中程度のディスプレイ解像度でRDPセッションを開きます。</td> </tr> <tr> <td>小さなウィンドウ</td> <td>小さなディスプレイ解像度でRDPセッションを開きます。</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意: ローカルデスクトップのディスプレイ解像度を構成するには、セクション“2.3.3 表示設定の構成 (P.74)”を参照してください。</p>	オプション	説明文	全画面表示	ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でRDPセッションを全画面で開きます。	大きなウィンドウ	大きなディスプレイ解像度でRDPセッションを開きます。	ミディアムウィンドウ	中程度のディスプレイ解像度でRDPセッションを開きます。	小さなウィンドウ	小さなディスプレイ解像度でRDPセッションを開きます。
オプション	説明文										
全画面表示	ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でRDPセッションを全画面で開きます。										
大きなウィンドウ	大きなディスプレイ解像度でRDPセッションを開きます。										
ミディアムウィンドウ	中程度のディスプレイ解像度でRDPセッションを開きます。										
小さなウィンドウ	小さなディスプレイ解像度でRDPセッションを開きます。										
グラフィックスアクセラレーション	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、グラフィックスアクセラレーションを設定します。4つのオプションが利用可能です。 None、Basic、RemoteFXとRemoteFX Adaptive。</p> <p>注意: Windows® RemoteFX™ は、リモートデスクトップユーザーにネットワーク経由でリッチなユーザーエクスペリエンスを提供するテクノロジーです。</p> <p>注意: ここでRemoteFXを選択すると、32ビット/ピクセルの色深度が色深度で自動的に選択されます。</p>										
全てのモニターを利用	オンにすると、接続されたモニターとセカンダリモニターを拡張画面として使用できます。										
全てのモニターでスパン	オンにすると、起動したデスクトップがすべての接続されたモニターにまたがります。										
公開アプリケーション											
項目	説明文										
プライマリモニターのみ	オンにすると、起動したアプリケーションがプライマリモニターのみに表示されます。接続されている他のモニターは使用されず、ユーザーはアプリケーションウィンドウをそれらのモニターに移動することもできません。										

最適化設定	
項目	説明文
接続品質	<p>ネットワーク接続の品質を最もよく表すオプションを選択します。3つのオプションを使用できます。LAN (非常に高速)、ブロードバンド (高速)とモデム (遅い)。</p> <p>注意: ここで選択すると、このセクションの項目のデフォルトが次のように決定されます。</p>
デスクトップ背景	チェックすると、デスクトップの背景が使用されます。
フォントスムーズ	チェックを入れると、ClearType®テクノロジーを使用して、フォントを明確で滑らかにします。
ドラッグ中のウィンドウ表示	オンにすると、ウィンドウのドラッグ中にウィンドウの内容が表示されます。
メニュー及びウィンドウアニメーション	チェックすると、メニューとウィンドウのアニメーションが表示されます。
テーマ	チェックして、クラシックでないテーマを許可します。
接続設定	
項目	説明文
USBストレージマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、USBストレージマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRDPセッションでUSBフラッシュドライブやメモリーカードリーダーなどのローカルUSBストレージデバイスにアクセスできます。</p> <p>注意: Atrust Client Setupでは、ローカルに接続されたUSBストレージデバイスの使用を有効または無効にすることもできます。ローカルに接続されたUSBストレージデバイスをRDPセッションで使用するには、まずそれらを有効にする必要があります。デフォルトは有効です。</p> <p>注意: USBストレージデバイスの使用を設定するには、セクション“2.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.90)”を参照してください。</p>
プリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、プリンターマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRDPセッションでローカルプリンターまたはネットワークプリンターにアクセスできます。</p> <p>注意: 最初にP2Tシンクライアント用のローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加し、次にこの機能を有効にして、RDPセッションでそのプリンターを使用する必要があります。</p> <p>注意: P2Tシンクライアントにローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加する方法の詳細については、“2.4.7 ローカルプリンターの追加 (P.94)”または“2.4.8 ネットワークプリンターの追加 (P.97)”を参照してください。</p>
シリアルポートマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、シリアルポートマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRDPセッションでバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスにアクセスできます。</p>
スマートカードマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、スマートカードマッピングを有効または無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRDPセッションでスマートカードリーダーを介してスマートカードにアクセスできます。</p>
クリップボードマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、クリップボードマッピングを有効/無効にします。

ローカルリソースの設定									
項目	説明文								
リモートオーディオ再生	ド롭ダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。3つのオプションを使用できます。このコンピューターで再生する, リモートコンピューターで再生すると再生しません。								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>このコンピューターで再生する</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。</td> </tr> <tr> <td>リモートコンピューターで再生する</td> <td>リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。</td> </tr> <tr> <td>再生しません。</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	このコンピューターで再生する	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。	リモートコンピューターで再生する	リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。	再生しません。	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。
	オプション	説明文							
	このコンピューターで再生する	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。							
リモートコンピューターで再生する	リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。								
再生しません。	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。								
リモートオーディオ録音	ド롭ダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。次の2つのオプションを使用できます。このコンピューターからの録音と録音しない。								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>このコンピューターからの録音</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。</td> </tr> <tr> <td>録音しない</td> <td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	このコンピューターからの録音	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。	録音しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。		
	オプション	説明文							
このコンピューターからの録音	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。								
録音しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。								
Windowsキー組み合わせ	ド롭ダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。3つのオプションを使用できます。ローカルコンピューター, リモートサーバー, と全画面モードのみ。								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明文</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ローカルコンピューター</td> <td>ローカルデスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td>リモートサーバー</td> <td>仮想デスクトップにのみ適用されます。</td> </tr> <tr> <td>全画面モードのみ</td> <td>デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	ローカルコンピューター	ローカルデスクトップにのみ適用されます。	リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
	オプション	説明文							
	ローカルコンピューター	ローカルデスクトップにのみ適用されます。							
リモートサーバー	仮想デスクトップにのみ適用されます。								
全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。								
プロキシ設定									
項目	説明文								
プロキシサーバー	プロキシサーバーを利用する場合はチェックを入れ、詳細を指定してください。								
プロキシタイプ	ド롭ダウンメニューをクリックして、使用するプロトコルに応じてプロキシサーバーのタイプを選択します。 4つのオプションが利用可能です。 SOCKS 4, SOCKS 4A, SOCKS 5 と HTTP 1.1 。								
プロキシホスト	プロキシサーバーのIPアドレスを指定します。								
プロキシポート	プロキシサービスに使用するポートを指定します。								

プロキシ資格情報利用	プロキシサーバーにユーザー認証が必要かどうかを確認し、資格情報を指定します。
ユーザー名	プロキシサーバーのユーザー/アカウント名を入力します。
パスワード	ユーザーアカウントのパスワードを入力します。
追加の設定	
項目	説明文
圧縮	ドロップメニューをクリックして、データトラフィックの圧縮を有効/無効にします。

2.6.23 基本的なThinLinc接続設定の構成

ThinLincクライアント設定を使用すると、リモートセッションのThinLinc接続設定を構成し、ローカルデスクトップおよびショートカットの[スタート]メニューにショートカットを作成してアクセスできます。

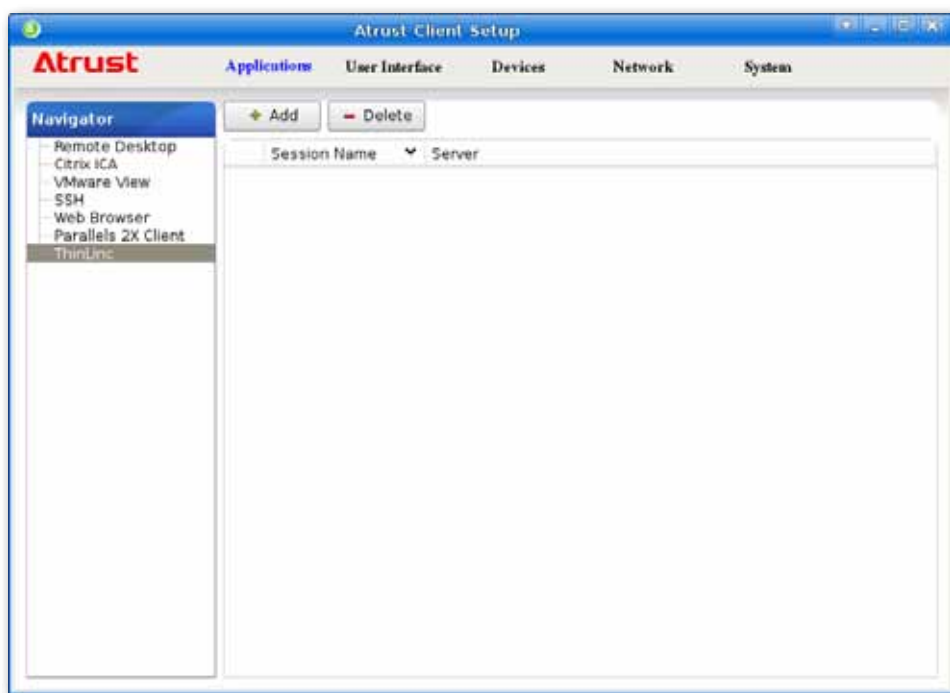


注意

- Cendio ThinLinc仮想化ソリューションの詳細については、Cendioのウェブサイトwww.cendio.comにアクセスしてください。

ThinLinc接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。

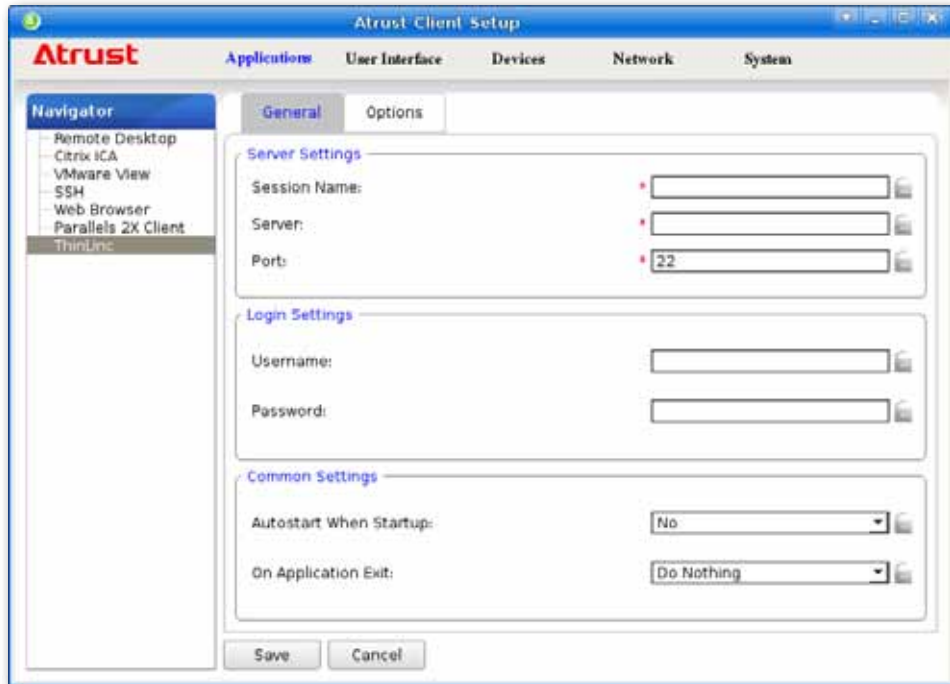
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [ThinLinc]をクリックします。
2. ThinLinc接続リストが構成領域に表示されます。



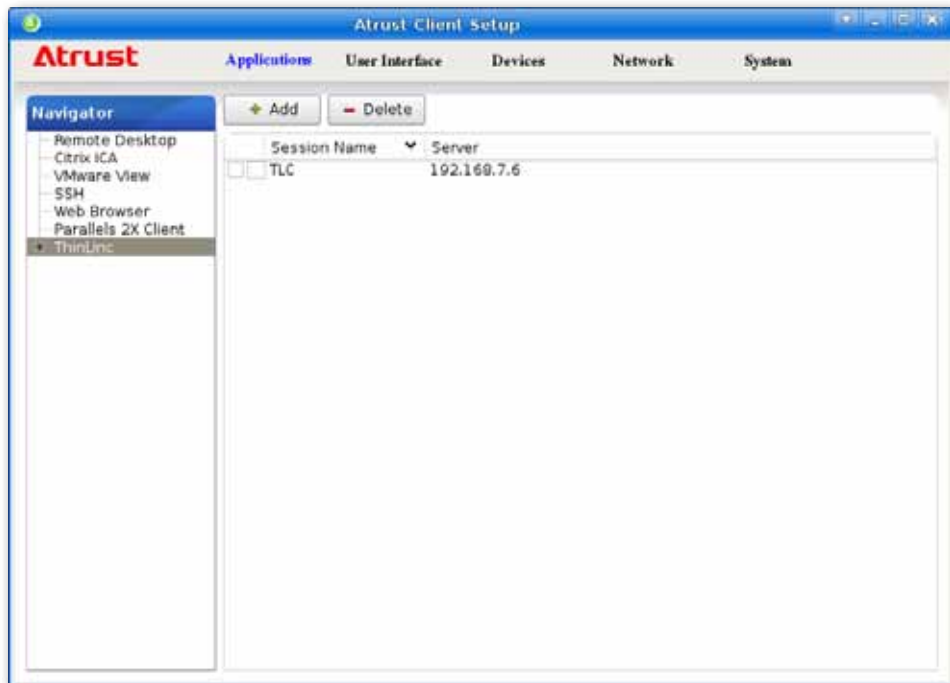
注意

- エントリを作成していない場合、ThinLinc接続リストは空になります。

3. ThinLinc接続リストの上部にある[追加]をクリックして、ThinLinc接続の新しいエントリを作成します。



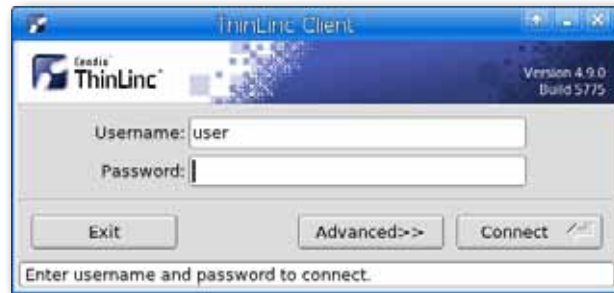
4. **[全般]**サブタブで、セッション名、およびサーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。
5. **[保存]**をクリックして確定します。
6. 新しいエントリがThinLinc接続リストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



2.6.24 リモートデスクトップおよびアプリケーションへのアクセス

リモートデスクトップまたはアプリケーションにアクセスするには、以下を実行してください。

1. デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 開いたウィンドウで、必要に応じて資格情報を入力し、**[接続]**をクリックします。

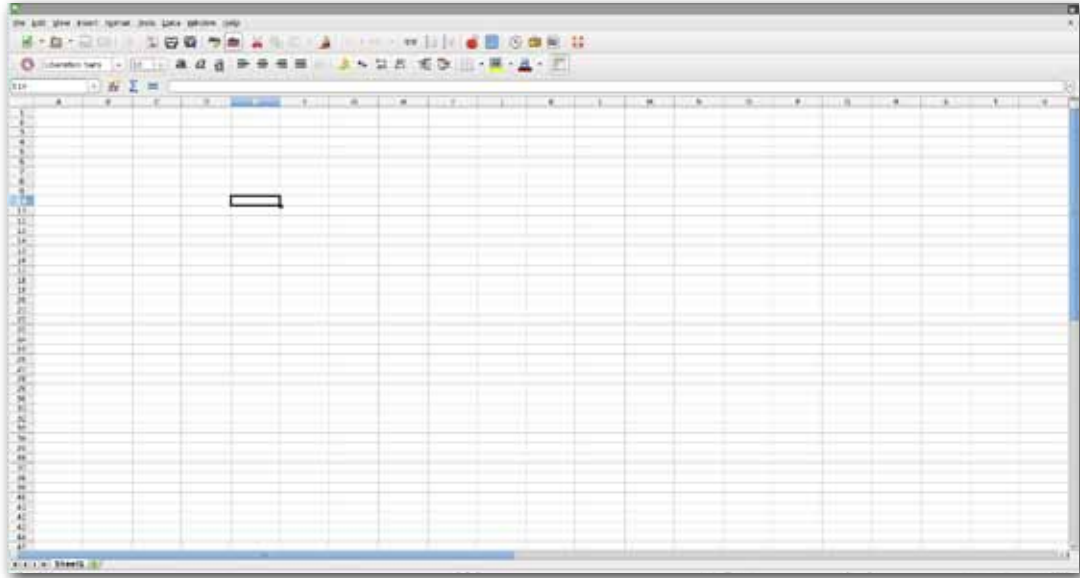


3. ThinLincセッションが画面に表示されます。

リモートデスクトップの例 GNOMEデスクトップ環境



リモートアプリケーションの例 LibreOffice-Calcスプレッドシート



注意

- デフォルトでは、セッションはフルスクリーンで表示されます。

2.6.25 ThinLinc接続の詳細設定

以下の表に、ThinLinc接続の各設定項目の説明を示します。これらの表を参照して、詳細設定を構成し、ローカルデスクトップのショートカットとアクセスの[スタート]メニューをカスタマイズしてください。

一般サブタブ

サーバー設定	
項目	説明文
セッション名	ThinLincセッションの名前を入力します。
サーバー	ThinLincセッションを配信するサーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。
ポート	ThinLincセッションに使用する通信ポートを入力します。
ログイン設定	
項目	説明文
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。



—— ポップアップメニュー

付録

この章では、P2Tシンククライアントの詳細設定、メンテナンス、およびアップグレードについて説明します。

A.1 P2Tシンククライアントのリセット

P2Tシンククライアントの工場出荷時のデフォルト設定を復元する方法 253

A.2 P2Tシンククライアントのファームウェアの更新

P2Tシンククライアントのファームウェアを更新する4つの方法 255

A.3 VMware接続でのSECUREMATRIX認証の使用

SECUREMATRIX認証の有効化 257

SECUREMATRIX認証の使用 259

パスワードパターンの変更 262

A.1 P2Tシンククライアントのリセット

P2Tシンククライアントを工場出荷時のデフォルトにリセットするには、次の手順を実行してください。

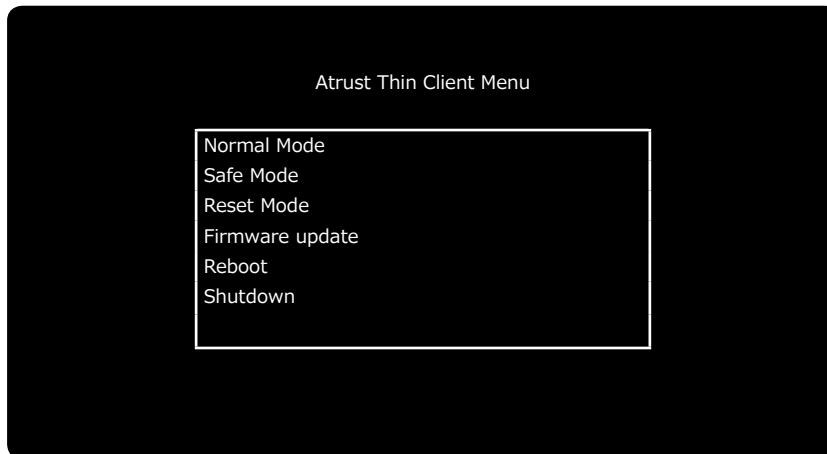


警告

- P2Tシンククライアントを工場出荷時のデフォルトにリセットすると、Atrust Client Setupの現在の設定がすべて消去され、すべての設定がデフォルトに戻ります。

1. P2Tシンククライアントを再起動します。
2. 起動中にキーボードの**Esc**キーを押して、Atrustシンククライアントメニューに入ります。

Atrustシンククライアントメニュー-P2Tコンバーターベースのシンククライアント

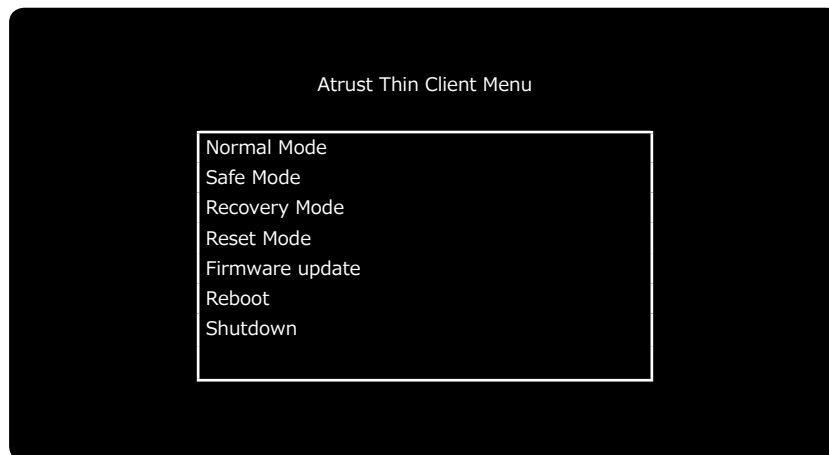


注意

- このメニューが画面に表示されるまで、約15秒かかることがあります。
- メニューの各オプションの説明については、以下の表を参照してください。

オプション	説明文
Normal Mode	P2Tシンククライアントを通常の起動手順として起動します。
Safe Mode	現在の画面解像度設定をクリアしてリセットします。
Reset Mode	P2Tシンククライアントを工場出荷時のデフォルトにリセットします。
Firmware update	ネットワーク経由でP2Tシンククライアントのファームウェアを更新します。
Reboot	P2Tシンククライアントを再起動します。
Shutdown	P2Tシンククライアントをシャットダウンします。

Atrustシンククライアントメニュー-P2T USBベースのシンククライアント



注意

- メニューの各オプションの説明については、以下の表を参照してください。

オプション	説明文
Normal Mode	P2Tシンククライアントを通常の起動手順として起動します。
Safe Mode	現在の画面解像度設定をクリアしてリセットします。
Recovery Mode	P2Tシンククライアントのブートローダーを復元します。
Reset Mode	P2Tシンククライアントを工場出荷時のデフォルトにリセットします。
Firmware update	ネットワーク経由でP2Tシンククライアントのファームウェアを更新します。
Reboot	P2Tシンククライアントを再起動します。
Shutdown	P2Tシンククライアントをシャットダウンします。

3. キーボードの矢印キーを使用して[リセットモード]を選択し、キーボードのEnterキーを押して続行します。
4. 確認を求めるメッセージが表示されます。キーボードのyをクリックして確認します。
5. 完了したら、キーボードのEnterキーを押してシステムを再起動します。

A.2 P2Tシンククライアントのファームウェアの更新

P2Tシンククライアントのファームウェアを更新する方法は4つあります。



注意

- シンククライアントのファームウェアを以前のバージョンに変更するには、ファームウェアの新規インストールのみが許可されています。カスタム構成は保持されません。

方法	説明文
Atrust Thin Client Menu	リモートコンピューターからファームウェアをダウンロードし、シンククライアントのファームウェアを更新します。
USB Flash Drive	Recovery USB Disk Creatorによって作成されたUSBフラッシュドライブでファームウェアを更新します。 (P2T Converterベースのみ)
Atrust Client Setup	Atrust Client Setupを使用して、シンククライアントでローカルにファームウェアの更新を開始します。
Atrust Device Manger	Atrust Device Managerを使用して、リモートコンピューターでリモートからファームウェアの更新を開始します。

Atrustシンククライアントメニューの使用

Atrustシンククライアントメニューを使用してファームウェアを更新するには、次の手順に従ってください。

- シンククライアントをネットワークに接続し、再起動します。
- 起動中にキーボードの**Esc**キーを押して、Atrustシンククライアントメニューに入ります。
- [ファームウェアの更新]**を選択し、画面の指示に従ってタスクを完了します。



注意

- ネットワーク経由でファームウェアサーバーのIPアドレスを指定する必要があります。ファームウェアサーバーは、Atrust Device Managerがインストールされ、クライアントファームウェアファイルがAtrust Device Managerを介してインポートされるサーバーです。
- Atrust Device Managerの詳細については、Atrust Device Managerのユーザーズマニュアルを参照してください。

USBフラッシュドライブの使用

Recovery USB Disk Creatorによって作成されたUSBフラッシュドライブを使用してファームウェアを更新するには、次の手順を実行します。



警告

- ここでの説明は、**P2T USBベース**のシンクライアントではなく、**P2Tコンバーターベース**のシンクライアントにのみ適用されます。



注意

- Recovery USB Disk Creatorを使用してUSBフラッシュドライブを作成する方法については、P2Tコンバーターのユーザーズマニュアルを参照してください。

1. USBフラッシュドライブを接続し、シンクライアントを再起動します。
2. 起動期間中に、Boot / Boot Deviceメニューのアクセスキーを押してメニューに入ります。



注意

- Boot / Boot Deviceメニューは、さまざまなデバイスからコンピュータを起動できるようにするメニューです。メニューにアクセスするためのキーは、コンピュータのBIOSによって異なります。通常、アクセスキーに関する情報は、コンピュータを起動したときに最初に画面に表示されます。コンピュータをチェックして、Boot / Boot Deviceメニューの特定のアクセスキーを見つけます。

3. そのメニューでUSBフラッシュドライブを選択して、Atrust Thin Client Recovery System画面に入ります。
4. 画面の指示に従って、タスクを完了します。

Atrust Client Setupの使用

Atrust Client Setupを使用してファームウェアを更新するには、セクション“2.2.7 管理コンピューターからのファームウェアの更新(P. 47)”を参照してください。

Atrust Device Managerの使用

Atrust Device Managerを使用してファームウェアを更新するには、Atrust Device Managerのユーザーズマニュアルを参照してください。

A.3 VMware接続でのSECUREMATRIX認証の使用

カスタムVMware接続のSECUREMATRIX認証を有効にする

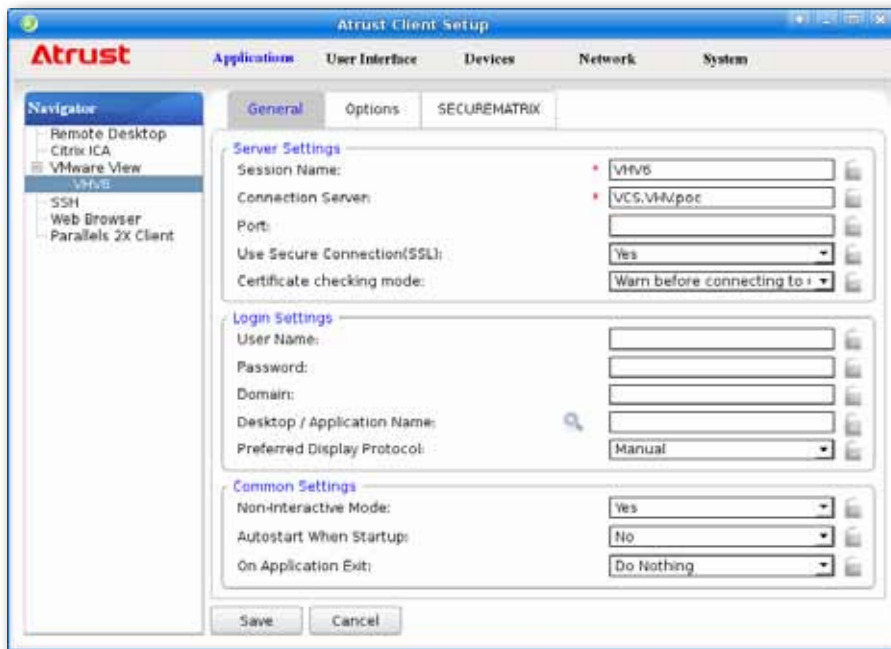
カスタムVMware接続でSECUREMATRIX認証を有効にするには、次の手順を実行してください。



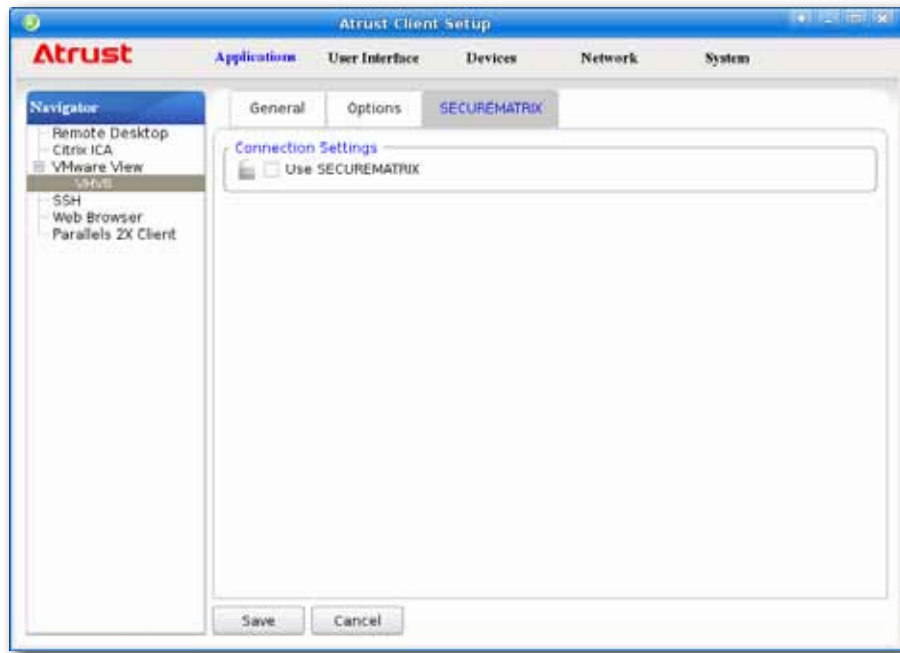
注意

- SECUREMATRIX認証は、クイック接続モードでは使用できません。

- ローカルデスクトップで、[スタート]> [設定]> [Atrustクライアントセットアップ]をクリックして、Atrustクライアントセットアップを起動します。
- [アプリケーション]> [VMware]> [追加]をクリックして、接続設定の新しいエントリを作成します。
- [全般]タブで、目的のセッション名とView接続サーバーのサーバーアドレスを入力します。



- [SECUREMATRIX]タブで、[SECUREMATRIXを使用する]をクリックしてオンにします。



注意

- デフォルトでは、SECUREMATRIX認証は無効になっています。

5. SECUREMATRIX関連情報を入力するための2つのフィールドが表示されます。GSBサーバー（SECUREMATRIX認証サービスのサーバー）のサーバーアドレスを入力します。

Connection Settings

Use SECUREMATRIX

GSB Server Address: *

Username:

6. 必要に応じて他の接続設定を構成し、**[保存]**をクリックして確定します。
7. アクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに作成されます。

VMware接続でのSECUREMATRIX認証の使用

VMware接続でSECUREMATRIXが有効になっている場合、以下の手順と手順に従ってSECUREMATRIX認証を使用します。

1. ローカルデスクトップまたは[スタート]メニューのショートカットをクリックします。
2. SECUREMATRIX認証のログインIDを要求するウィンドウが表示されます。



3. ログインIDを入力し、[OK]をクリックして確認します。



注意

- パスワードパターンを変更するには、[パスワードの変更]をクリックします。詳しくは“SECUREMATRIX認証のパスワードパターンの変更(P. 262)”をご覧ください。

4. SECUREMATRIXウィンドウが表示され、パスワードの入力を求められます。



5. キーボードを使用してパスワードパターンの下に数字を入力するか、ウィンドウで直接数字をクリックし、[OK]をクリックして確定します。



ヒント

- たとえば、パスワードパターンが次のように表示されている場合は、**0、0、4、5、1、3、6、2**の順に番号を入力またはクリックします。



- SECUREMATRIX認証が完了すると、メッセージが表示されます。**[OK]**をクリックして続行します。

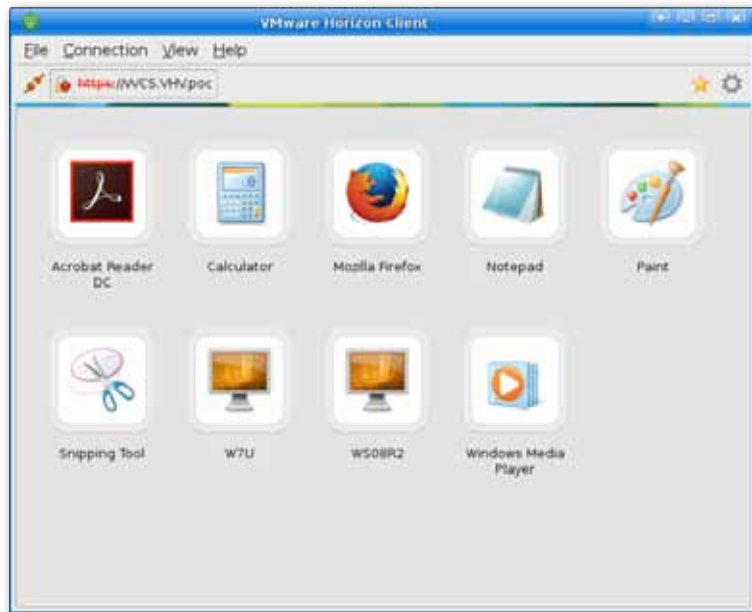


- VMware仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスするための認証情報を提供するように求めるメッセージが表示されます。**[OK]**をクリックして続行します。



- 開いたウィンドウで資格情報を入力し、**[OK]**をクリックして続行します。

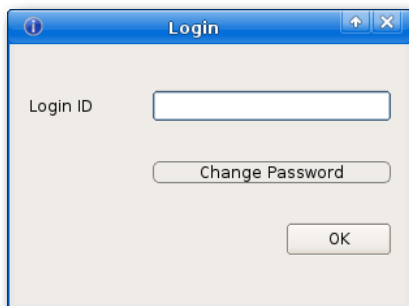
- デスクトップとアプリケーションのリストが表示されます。ダブルクリックして、目的のデスクトップまたはアプリケーションを選択します。



SECUREMATRIX認証のパスワードパターンの変更

SECUREMATRIX認証のパスワードパターンを変更するには、次の手順を実行してください。

1. 表示されるログインIDの入力を求めるウィンドウで、ログインIDを入力し、**[パスワードの変更]**をクリックします。



2. 古いパスワードパターンの下の数字を入力またはクリックし、**[OK]**をクリックして続行します。



3. 新しいパスワードパターンの下の数字を入力またはクリックし、**[OK]**をクリックして続行します。

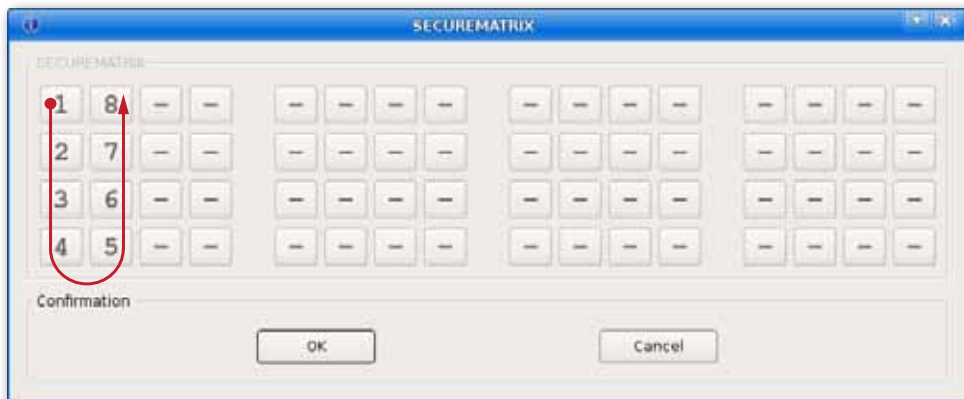
あなたの新しい
パスワードパ
ターン、
例えば



4. 新しいパスワードパターンのある数字をもう一度入力またはクリックし、[OK]をクリックして続行します。



5. 新しいパスワードパターンを番号順に示し、確認をを求めるウィンドウが表示されます。[OK]をクリックして確認します。



Atrust